

中郷田尻遺跡

国道353号(鯉沢バイパス)補助公共道路改築事業(国道・内滑)に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集

第1分冊 Ⅰ～Ⅲ章 本文

2007

群馬県 渋川土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

中郷田尻遺跡

国道353号(鯉沢バイパス)補助公共道路改築事業(国道・円滑)に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集

第1分冊 I～III章 本文

2007

群馬県 渋川土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



Ⅲ区FA上 2・3号平地式建物跡全景(北から)



Ⅳ区FA下 2号遺物集中全景(北東から)



I・II区出土 縄文時代草創期土器

序

中郷田尻遺跡は、平成16年度に国道353号（鯉沢バイパス）補助公共道路改築（改良）事業に伴い、群馬県渋川土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査いたしました。

当遺跡の北には、古墳時代6世紀中頃に噴火した榛名山二ッ岳降下軽石によって覆われている国指定史跡黒井峯遺跡があります。火山災害によって被災した当時の集落の姿が、軽石直下からそのまま発見された、画期的な遺跡です。

中郷田尻遺跡でも、黒井峯遺跡と同時期に存在した水田跡や畠跡を調査いたしました。軽石降下直前の水田耕作方法や土地利用方法が明らかになってまいりました。また、古墳時代6世紀初頭に噴火した榛名山二ッ岳降下火山灰によって被災した掘立柱建物跡や竪穴式住居跡、祭祀跡も見つかりました。当時の火山災害の凄まじさを知ることができるものです。

さらに、古墳時代の集落の中にはこの地域でしか見られない垣に囲まれた平地式建物跡もありました。柱を持つものと持たないものがあり、当時の建築技術の一部をかいま見ることができました。

本報告書はこの貴重な資料を所収し、本事業に伴う報告書の第7冊として刊行されることになりました。

報告書刊行に至るまでには、群馬県県土整備局、渋川土木事務所、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆様に大変なご尽力を賜りました。

心から感謝の意を表すとともに、本書が広く活用され、郷土の歴史の解明に大いに役立つことを願い序とします。

平成19年10月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇 夫

例 言

1. 本書は国道353号（無沢バイパス）補助公共道路改築事業（国道・円滑）に伴って行われた中郷田尻遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡所在地 群馬県渋川市大字中郷字田尻（旧子持村）
3. 事業主体 群馬県（県土整備局道路整備課 渋川土木事務所）
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日
6. 整理期間 平成17年4月1日～平成19年3月31日
7. 発掘調査・整理体制
事務担当
小野字三郎、高橋勇夫、住谷永市、木村裕紀、神保侑史、津金沢吉茂、矢崎俊夫、右島和夫、中東耕志、西田健彦、相京建史、関 晴彦、丸岡道雄、宮前結城雄、笠原秀樹、石井 清、高橋房雄、竹内 宏、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、今泉大作、齋藤恵利子、栗原幸代、清水秀紀、佐藤聖行、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原おかり、狩野真子、田村恭子、吉田笑子、廣津真希子、六本木弘子、今井もと子、松下次男、吉田 茂、武藤秀典
調査担当
（発掘）調査研究部第1課長 中東耕志
調査担当 松村和男、齋藤 聡、山口逸弘、斉藤利昭
（整理）調査研究部資料整理第2課長 相京建史
調査研究部資料整理第2グループリーダー 関 晴彦
整理担当 松村和男
整理補助員 岸トキ子、高橋優子、千代谷和子、萩原光枝、佐藤栄子
遺物写真 佐藤元彦
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、森田智子、津久井桂一、多田ひさ子
土器実測 田中精子、小菅優子、富沢スミ江、田所順子、伊東博子、岸弘子（器械実測班）
8. 発掘調査資料・出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。
9. 発掘調査及び報告書作成には以下の方々にご協力・ご指導を賜った。記して感謝の意を表します。
石井克巳、太田国男、大塚昌彦、小林 正、井上昌美、櫻井和哉、鈴木徳雄、土井道昭、須永薫子、外山政子、日沖剛史、横田美由紀、若狭 徹
10. 分析・委託 自然科学分析（テフラ分析・植物性酸体分析・花粉分析）：（株）古環境研究所
出土種子同定・出土材樹種同定・年代測定：株式会社パレオ・ラボ
（※吹屋三角遺跡報告書所収）
遺構測量・デジタルトレース：技研測量株式会社
出土実測遺物トレース：株式会社調研、有限会社 前橋文化財研究所
電磁波探査 応用地質株式会社
11. 本文執筆及び編集 松村和男
12. なお、付篇として平成16年度に同時調査された吹屋三角遺跡の木器を巻末に所収した。

凡 例

1. 本書挿図中に使用した方位は、座標北を表している。
2. 6図は国土地理院2万5千分の1地形図「金井」「鯉沢」「渋川」「伊香保」を使用した。
3. テフラの呼称として、榛名山二ツ岳渋川テフラ (Hr-S) → Hr-FAあるいはFA、榛名山二ツ岳伊香保テフラ (Hr-I) → Hr-FPあるいはFP、浅間黄褐色軽石→As-YP、浅間C軽石→As-Cを用いた。
4. 遺構・遺物図の縮尺については、下記を基本としたが厳密に統一していない。各挿図中のスケールを参照していただきたい。
《遺構》 竪穴住居跡 1/60 炉・カマド 1/30、水田跡・畠跡 1/400・1/200・1/100・1/60・1/40
《遺物》 土器類 1/2・1/3・1/4、石製品・石器類 1/1・1/2・1/3・1/4
5. 水田跡などの面積は、デジタルプランメーターで3回計測した平均値を採用した。
6. 遺物計測値は、口径・底径・高さ・長さ・幅・厚さは小数点第2位を四捨五入しcm単位で、重量は電磁式はかり等を使用し、g・kg単位で表示した。
7. 遺構計測値は基本的に竪穴住居跡は上端の長軸・短軸を計測した。水田跡は下端を計測した。
8. なお、本報告書Ⅰ～Ⅱ章は、国道353号線関連に伴う調査報告書「吹屋柘屋遺跡」「吹屋三角遺跡」とはは内容が一致する箇所がある。同一事業での刊行であり、加除筆後再録させていただいた。
9. 3章2 遺物概要におけるスクリーントーンは以下の事を示す。



黒変



黒斑・内黒



灰軸



赤変



赤斑

目 次

(第1分冊)

口絵・序・例言・凡例・目次

挿図・表・図版目次

I 調査経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の経過	1
3. 調査の方法	6
II 周辺の環境	7
1. 地理的環境	7
2. 歴史的環境	10
3. 基本土層	13
III 検出された遺構と遺物	14
1. 遺構概要	14
I区	20
II区	41
III区	71
IV区	217
2. 遺物概要	324
(1) 土器概要	324
I区	340
II区	346
III区	364
IV区	426
(2) 石器概要	455
I区	462
II区	467
III区	494
IV区	541

奥付

挿入目次

(第1分冊)

第1図	国道353号線路縮図	2
第2図	中郷田区道路調査区割図	3
第3図	グリッド配置図	6
第4図	道路位置と手持段正分布図	8
第5図	Hr-FAとHr-FPの降下範囲	9
第6図	周辺道路分布図	11
第7図	基本土層図	13
第8図	1面Hr-FP上遺構配置図	15
第9図	2面Hr-FP下遺構配置図	16
第10図	3面Hr-FA上遺構配置図	17
第11図	4面Hr-FA下遺構配置図	18
第12図	5面Hr-FA下黒色土遺構配置図	19
第13図	1区1面Hr-FP上遺構配置図	21
第14図	1区1面Hr-FP上1号住居跡・カマド	22
第15図	1区1面Hr-FP上2号住居跡・カマド、3号住居跡	23
第16図	1区1面Hr-FP上4・5号住居跡	25
第17図	1区1面Hr-FP上1・2号竪立柱建物跡	26
第18図	1区1面Hr-FP上1号竪立柱建物跡	27
第19図	1区1面Hr-FP上2号竪立柱建物跡	28
第20図	1区1面Hr-FP上1～5号土坑・9号土坑	30
第21図	1区2面Hr-FP下・4面FA下水田対比図	32
第22図	1区2面Hr-FP下水田全体図	33
第23図	1区2面Hr-FP下水田部分図	34
第24図	1区2面Hr-FP下水田セクション・エレベーション	35
第25図	1区4面Hr-FA下水田全体図	36
第26図	1区4面Hr-FA下水田部分・足跡アップ	37
第27図	1区4面Hr-FA下水田セクション・エレベーション	38
第28図	1区5面FA下黒色土214・215・217土坑・6周年創期 礫層直上遺物分布図	40
第29図	Ⅱ区1面Hr-FP上遺構配置図	42
第30図	Ⅱ区1面Hr-FP上1号住居跡・カマド	43
第31図	Ⅱ区1面Hr-FP上2・3号住居跡・カマド	44
第32図	Ⅱ区1面Hr-FP上1号竪立柱建物跡・2・3号土坑	46
第33図	Ⅱ区2面Hr-FP下・4面FA下水田対比図	47
第34図	Ⅱ区2面Hr-FP下水田・高全体図	48
第35図	Ⅱ区2面Hr-FP下水田・高アップ	49
第36図	Ⅱ区2面Hr-FP下水田・高アップ	50
第37図	Ⅱ区2面Hr-FP下水田・高セクション・エレベ ーション図	51
第38図	Ⅱ区4面Hr-FA下水田・道路伏違構	52
第39図	Ⅱ区4面Hr-FA下水田アップ	53
第40図	Ⅱ区2面Hr-FA下水田足跡アップ	54
第41図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土グリッド遺構分布図	56
第42図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土遺構分布図	56
第43図	Ⅱ区調査区南端セクション図	57
第44図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土4・5号住居跡	58
第45図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土6号住居跡・7・7号住居 跡	60
第46図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土9号住居跡	62
第47図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土10・11・14号住居跡	64
第48図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土12・13号住居跡	65
第49図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土15号住居跡	66
第50図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土16号住居跡	68
第51図	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土2号竪立柱建物跡・1号竪 列・6周年創期8号遺物集	69
第52図	Ⅱ区1面Hr-FP上遺構配置図	72
第53図	Ⅱ区1面Hr-FP上1号住居跡	73
第54図	Ⅱ区1面Hr-FP上1号住居跡カマド	74

第55図	Ⅱ区1面Hr-FP上2号住居跡	75
第56図	Ⅱ区1面Hr-FP上2号住居跡カマド	77
第57図	Ⅱ区1面Hr-FP上3号住居跡	77
第58図	Ⅱ区1面Hr-FP上4号住居跡カマド	78
第59図	Ⅱ区1面Hr-FP上5号住居跡	79
第60図	Ⅱ区1面Hr-FP上5号住居跡カマド	80
第61図	Ⅱ区1面Hr-FP上6号住居跡	82
第62図	Ⅱ区1面Hr-FP上6号住居跡カマド	83
第63図	Ⅱ区1面Hr-FP上7号住居跡	84
第64図	Ⅱ区1面Hr-FP上7号住居跡カマド	85
第65図	Ⅱ区1面Hr-FP上8号住居跡	87
第66図	Ⅱ区1面Hr-FP上8号住居跡カマド	88
第67図	Ⅱ区1面Hr-FP上8号住居跡床下土坑・9号住居 跡・カマド	90
第68図	Ⅱ区1面Hr-FP上10号住居跡	91
第69図	Ⅱ区1面Hr-FP上10号住居跡カマド	92
第70図	Ⅱ区1面Hr-FP上11号住居跡	94
第71図	Ⅱ区1面Hr-FP上11号住居跡カマド	96
第72図	Ⅱ区1面Hr-FP上12号住居跡	96
第73図	Ⅱ区1面Hr-FP上12号住居跡カマド	97
第74図	Ⅱ区1面Hr-FP上13号住居跡	99
第75図	Ⅱ区1面Hr-FP上13号住居跡カマド・14号住居跡	100
第76図	Ⅱ区1面Hr-FP上15号住居跡	102
第77図	Ⅱ区1面Hr-FP上15号住居跡カマド	103
第78図	Ⅱ区1面Hr-FP上1号竪立柱建物跡	104
第79図	Ⅱ区1面Hr-FP上2号竪立柱建物跡	105
第80図	Ⅱ区1面Hr-FP上3号竪立柱建物跡	106
第81図	Ⅱ区1面Hr-FP上4・5号竪立柱建物跡	108
第82図	Ⅱ区1面Hr-FP上6号竪立柱建物跡	109
第83図	Ⅱ区1面Hr-FP上7号竪立柱建物跡	110
第84図	Ⅱ区1面Hr-FP上2・41・61・64・97・104・ 107・116・118・131・132・136・137・157・161・162・ 165・171号土坑	112
第85図	Ⅱ区1面Hr-FP上178・181・186・194・211・220・ 224・226・226・227・229・230・231・256・259・275・ 284号土坑	113
第86図	Ⅱ区1面Hr-FP上299・300・368・398号土坑	114
第87図	Ⅱ区2面Hr-FP下遺構配置図	115
第88図	Ⅱ区2面Hr-FP下長サク高・短サク高対比	116
第89図	Ⅱ区2面Hr-FP下短サク高アップ	117
第90図	Ⅱ区2面Hr-FP下短サク高セクション・エレベ ーション	118
第91図	Ⅱ区3面Hr-FA上遺構配置図	119
第92図	Ⅱ区3面Hr-FA上高・集落跡配置図東部分	120
第93図	Ⅱ区3面Hr-FA上高・集落跡配置図西部分	121
第94図	Ⅱ区3面Hr-FA上1・7号平地式建物跡・1～4号 イロ伏遺構	123
第95図	Ⅱ区3面Hr-FA上2・3号平地式建物跡	124
第96図	Ⅱ区3面Hr-FA上4・5号平地式建物跡	126
第97図	Ⅱ区3面Hr-FA上6・8号平地式建物跡	127
第98図	Ⅱ区3面Hr-FA上巨大円溝	129
第99図	Ⅱ区3面Hr-FA上8・9竪立柱建物跡	131
第100図	Ⅱ区3面Hr-FA上10・11竪立柱建物跡	132
第101図	Ⅱ区3面Hr-FA上450～452・457～474・476・478号 土坑	134
第102図	Ⅱ区3面Hr-FA上479～492・499・503・507～511・ 541・542号土坑	135
第103図	Ⅱ区4面Hr-FA下遺構配置図	136
第104図	Ⅱ区4面Hr-FA下集落跡遺構配置図中央部分	137
第105図	Ⅱ区4面Hr-FA下集落跡遺構配置図西・西部分	138
第106図	Ⅱ区4面Hr-FA下16号住居跡	140

第107回	Ⅲ区4面Hr-FA下16号住居跡掘り方	141
第108回	Ⅲ区4面Hr-FA下16号住居跡カマド	142
第109回	Ⅲ区4面Hr-FA下17号住居跡	143
第110回	Ⅲ区4面Hr-FA下17号住居跡掘り方	144
第111回	Ⅲ区4面Hr-FA下17号住居跡カマド	145
第112回	Ⅲ区4面Hr-FA下18号住居跡	147
第113回	Ⅲ区4面Hr-FA下18号住居跡掘り方	148
第114回	Ⅲ区4面Hr-FA下12号掘立柱建物跡	149
第115回	Ⅲ区4面Hr-FA中～下1～4号遺物集中、岡下1～5号掘セクション	150
第116回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色遺構配置区	151
第117回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色19号住居跡	153
第118回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色19号住居跡掘り方	154
第119回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色19号住居跡カマド	155
第120回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色20号住居跡	157
第121回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土20号住居跡カマド	158
第122回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土21号住居跡	160
第123回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土21号住居跡カマド	161
第124回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土22号住居跡	161
第125回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土23号住居跡	163
第126回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土23号住居跡掘り方	164
第127回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土23号住居跡カマド	165
第128回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土24号住居跡	166
第129回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土25号住居跡	166
第130回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土26号住居跡	168
第131回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土26号住居跡掘り方	169
第132回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土28号住居跡	171
第133回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土28号住居跡カマド	171
第134回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土28号住居跡カマド	172
第135回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土29号住居跡	173
第136回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土30号住居跡	175
第137回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土30号住居跡掘り方	176
第138回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土31・32号住居跡カマド	177
第139回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土33号住居跡	179
第140回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土34号住居跡	180
第141回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土34号住居跡掘り方・伊勢	181
第142回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土35号住居跡	183
第143回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土37号住居跡	184
第144回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土38号住居跡	186
第145回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土38号住居跡掘り方・カマド	187
第146回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土39号住居跡	188
第147回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土40号住居跡	190
第148回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土41号住居跡	191
第149回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土42号住居跡	192
第150回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土42号住居跡掘り方	193
第151回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土43号住居跡	195
第152回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土44号住居跡	196
第153回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土44号住居跡掘り方	197
第154回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土44号住居跡カマド	198
第155回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土45号住居跡・カマド	200
第156回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土46号住居跡	201
第157回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土46号住居跡掘り方	202
第158回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土47号住居跡	203
第159回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土48・52号住居跡	204
第160回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土49号住居跡	205
第161回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土50号住居跡	206
第162回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土50号住居跡・伊勢	208
第163回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土51号住居跡・伊勢	209
第164回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土51号住居跡掘り方	210
第165回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土53号住居跡	211
第166回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土53号住居跡掘り方・伊勢	212
第167回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土1号伊勢、564～566号土坑	214

第168回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土623～625土坑	216
第169回	Ⅲ区5面Hr-FA下遺構配置区	217
第170回	Ⅲ区1面Hr-FA下遺構配置区南端部分	218
第171回	Ⅲ区1面Hr-FA上1号住居跡	220
第172回	Ⅲ区1面Hr-FA上2号住居跡	220
第173回	Ⅲ区1面Hr-FA上2号住居跡カマド	221
第174回	Ⅲ区1面Hr-FA上2号住居跡カマド掘り方	222
第175回	Ⅲ区1面Hr-FA上3号住居跡	222
第176回	Ⅲ区1面Hr-FA上1・2号掘立柱建物跡	224
第177回	Ⅲ区1面Hr-FA上3号掘立柱建物跡、40-41号土坑	225
第178回	Ⅲ区2面Hr-FA下遺構配置区	226
第179回	Ⅲ区2面Hr-FA下遺構配置区南端部分	227
第180回	Ⅲ区2面Hr-FA上1号道路遺構、9号溝	228
第181回	Ⅲ区2面Hr-FA下遺構配置区東部分	229
第182回	Ⅲ区3面Hr-FA上遺構配置区	231
第183回	Ⅲ区3面Hr-FA上遺構配置区西高部分	232
第184回	Ⅲ区3面Hr-FA上遺構配置区1号垣以東	233
第185回	Ⅲ区3面Hr-FA上1・2号平地建物跡	234
第186回	Ⅲ区3面Hr-FA上3号平地建物跡	235
第187回	Ⅲ区3面Hr-FA上掘立柱建物跡群	237
第188回	Ⅲ区3面Hr-FA上4号掘立柱建物跡	238
第189回	Ⅲ区3面Hr-FA上5号掘立柱建物跡	239
第190回	Ⅲ区3面Hr-FA上6号掘立柱建物跡	240
第191回	Ⅲ区3面Hr-FA上10号掘立柱建物跡、1・2・3・7・8・9号サイロ状遺構	242
第192回	Ⅲ区4面Hr-FA下遺構配置区	244
第193回	Ⅲ区4面Hr-FA下遺構配置区西8号垣周辺	245
第194回	Ⅲ区4面Hr-FA下遺構配置区東部分	246
第195回	Ⅲ区4面Hr-FA下掘立柱建物跡群	248
第196回	Ⅲ区4面Hr-FA下4～6号サイロ状遺構、85・98号土坑	249
第197回	Ⅲ区4面Hr-FA下7号掘立柱建物跡	250
第198回	Ⅲ区4面Hr-FA下8号掘立柱建物跡	251
第199回	Ⅲ区4面Hr-FA下9号掘立柱建物跡	253
第200回	Ⅲ区4面Hr-FA下2号遺物集中	254
第201回	Ⅲ区4面Hr-FA下2号遺物集中	255
第202回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土遺構配置区	256
第203回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土遺構配置区(土坑)	257
第204回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土遺構配置区(土坑)	258
第205回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡周境	259
第206回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡セクション・エペレーション	260
第207回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡	261
第208回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡掘り方周境	262
第209回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡掘り方	263
第210回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡カマド	264
第211回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土5号住居跡周境	265
第212回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土5号住居跡・伊勢1～3	267
第213回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土5号住居跡掘り方周境	268
第214回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土5号住居跡カマド	269
第215回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土6号住居跡周境・掘り方	271
第216回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土7号住居跡周境	272
第217回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土7号住居跡	273
第218回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土7号住居跡掘り方周境・エペレーション	274
第219回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土7号住居跡掘り方	275
第220回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土8号住居跡	276
第221回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土8号住居跡掘り方	277
第222回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土9号住居跡・掘り方	278
第223回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土10号住居跡・掘り方	280
第224回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土10号住居跡カマド	281
第225回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土11号住居跡・掘り方	282
第226回	Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土11号住居跡カマド	283

第227回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土12号住居跡	284
第228回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土12号住居跡掘り方	285
第229回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土13・14号住居跡	287
第230回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土15・16号住居跡	287
第231回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土17号住居跡	289
第232回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土17号住居跡掘り方	290
第233回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土18号住居跡	290
第234回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土20号住居跡	292
第235回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土20号住居跡掘り方・エレベーション	293
第236回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土20号住居跡カマド	294
第237回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土21号住居跡	295
第238回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土22号住居跡	296
第239回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土22号住居跡掘り方	297
第240回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土22号住居跡	299
第241回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土25号住居跡	299
第242回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土24号住居跡	301
第243回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土24号住居跡掘り方	302
第244回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土26号住居跡	304
第245回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土26号住居跡掘り方	305
第246回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土27号住居跡	306
第247回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土28号住居跡	308
第248回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土29号住居跡セクション・エレベーション	309
第249回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土29号住居跡	310
第250回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土29号住居跡掘り方ピットセクション・エレベーション	311
第251回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土29号住居跡掘り方	312
第252回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土30号住居跡・カマド	314
第253回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土31・32号住居跡	316
第254回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土33号住居跡	316
第255回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土1・3・4号遺物集中	318
第256回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土5号遺物集中	319
第257回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土11・12号掘立柱建物跡・111号土坑	321
第258回	Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土100・104・108・112・114・329-333・532号土坑	322
第259回	Ⅰ区FP上1・2号住居跡出土土器	341
第260回	Ⅰ区FP上2号住居跡出土土器	342
第261回	Ⅰ区FP上2・3・5号住居跡、3号土坑跡出土土器	343
第262回	Ⅰ区FAT黒麻生・縄文グリッド出土土器	344
第263回	Ⅰ区FAD黒縄文グリッド出土土器	345
第264回	Ⅰ区縄文早期グリッド出土土器	346
第265回	Ⅱ区FP上1号住居跡出土土器	347
第266回	Ⅱ区FP上2・3号住居跡、3・15号土坑跡、FP下2号溝、FA上3号溝、FAT1号遺物集中出土土器	348
第267回	Ⅱ区FAD1号遺物集中、FAD黒5号住居跡出土土器	349
第268回	Ⅱ区FAD黒5号住居跡出土土器	350
第269回	Ⅱ区FAD黒5号住居跡、3号遺物集中出土土器	351
第270回	Ⅱ区FAD黒3号遺物集中出土土器	352
第271回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	353
第272回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	354
第273回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	355
第274回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	356
第275回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	357
第276回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	358
第277回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	359
第278回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	360
第279回	Ⅱ区FAD黒グリッド出土土器	361
第280回	Ⅱ区FAD黒縄文グリッド出土土器	362
第281回	Ⅱ区FAD黒縄文グリッド出土土器	363
第282回	Ⅱ区縄文早期グリッド出土土器	364

第283回	Ⅱ区FP上1・2号住居跡出土土器	365
第284回	Ⅱ区FP上2・3号住居跡出土土器	366
第285回	Ⅱ区FP上3・4号住居跡出土土器	367
第286回	Ⅱ区FP上4・5号住居跡出土土器	368
第287回	Ⅱ区FP上5号住居跡出土土器	369
第288回	Ⅱ区FP上5・6号住居跡出土土器	370
第289回	Ⅱ区FP上6・7号住居跡出土土器	371
第290回	Ⅱ区FP上7・8号住居跡出土土器	372
第291回	Ⅱ区FP上8号住居跡出土土器	373
第292回	Ⅱ区FP上8号住居跡出土土器	374
第293回	Ⅱ区FP上9-11号住居跡出土土器	375
第294回	Ⅱ区FP上11・12号住居跡出土土器	376
第295回	Ⅱ区FP上12号住居跡出土土器	377
第296回	Ⅱ区FP上13-15号住居跡、60号土坑跡出土土器	378
第297回	Ⅱ区FP上60・116・157・165・178・179・206・231・299・404号土坑跡出土土器	379
第298回	Ⅱ区FP上1-3号掘立土器	380
第299回	Ⅱ区FP上3号掘立土器	381
第300回	Ⅱ区FA上5号平地建物跡、巨大周溝43・476・486・508・509・517・518号土坑跡、5・6・9号重、1号落ち込み出土土器	382
第301回	Ⅱ区FA上2・3号落ち込み、グリッド出土土器	383
第302回	Ⅱ区FAD16・17号住居跡出土土器	384
第303回	Ⅱ区FAD18号住居跡、1号遺物集中出土土器	385
第304回	Ⅱ区FAD1-3号遺物集中出土土器	386
第305回	Ⅱ区FAD4号遺物集中、5・8号落ち込み、グリッド出土土器	387
第306回	Ⅱ区FAD黒19号住居跡出土土器	388
第307回	Ⅱ区FAD黒19・20号住居跡出土土器	389
第308回	Ⅱ区FAD黒20・21号住居跡出土土器	390
第309回	Ⅱ区FAD黒21号住居跡出土土器	391
第310回	Ⅱ区FAD黒21号住居跡出土土器	392
第311回	Ⅱ区FAD黒22・23号住居跡出土土器	393
第312回	Ⅱ区FAD黒23号住居跡出土土器	394
第313回	Ⅱ区FAD黒23-26号住居跡出土土器	395
第314回	Ⅱ区FAD黒26-28号住居跡出土土器	396
第315回	Ⅱ区FAD黒28・30号住居跡出土土器	397
第316回	Ⅱ区FAD黒30号住居跡出土土器	398
第317回	Ⅱ区FAD黒30・31号住居跡出土土器	399
第318回	Ⅱ区FAD黒32-34号住居跡出土土器	400
第319回	Ⅱ区FAD黒34号住居跡出土土器	401
第320回	Ⅱ区FAD黒34・35号住居跡出土土器	402
第321回	Ⅱ区FAD黒35・37号住居跡出土土器	403
第322回	Ⅱ区FAD黒37・38号住居跡出土土器	404
第323回	Ⅱ区FAD黒38・39号住居跡出土土器	405
第324回	Ⅱ区FAD黒39号住居跡出土土器	406
第325回	Ⅱ区FAD黒39-41号住居跡出土土器	407
第326回	Ⅱ区FAD黒42号住居跡出土土器	408
第327回	Ⅱ区FAD黒42・43号住居跡出土土器	409
第328回	Ⅱ区FAD黒44・45号住居跡出土土器	410
第329回	Ⅱ区FAD黒46号住居跡出土土器	411
第330回	Ⅱ区FAD黒46-48号住居跡出土土器	412
第331回	Ⅱ区FAD黒48号住居跡出土土器	413
第332回	Ⅱ区FAD黒48号住居跡出土土器	414
第333回	Ⅱ区FAD黒48-50号住居跡出土土器	415
第334回	Ⅱ区FAD黒51号住居跡出土土器	416
第335回	Ⅱ区FAD黒51・53号住居跡出土土器	417
第336回	Ⅱ区FAD黒53号住居跡出土土器	418
第337回	Ⅱ区FAD黒53号住居跡、1号叩破出土土器	419
第338回	Ⅱ区FAD黒1号伊勢、564号土坑跡出土土器	420
第339回	Ⅱ区FAD黒565号土坑跡出土土器	421
第340回	Ⅱ区FAD黒565・566・569・607号土坑跡、5号遺物集中出土土器	421

第341回	Ⅲ区FA下黒6号遺物集中、グリッド出土石器	423
第342回	Ⅲ区FA下黒グリッド出土石器	424
第343回	Ⅲ区FA下黒596・597・620・621・622・623・624・625号土坑跡横文出土石器	425
第344回	Ⅲ区下黒縄文625・630号土坑跡、グリッド、表層出土石器	426
第345回	Ⅱ区FP上1・2号住居跡、10・32・33・41・60号土坑跡出土石器	427
第346回	Ⅱ区FP下1号焼土遺構、4号掘立柱建物跡、9・10号溝、5号畦、1号溝、1号高まり、グリッド出土石器	428
第347回	Ⅱ区FA上1～3号平地式建物跡、3号サイロ状遺構、1・2号塚跡、グリッド出土石器	429
第348回	Ⅱ区FA下7～9号掘立柱建物跡、85・89・96・98号土坑跡出土石器	430
第349回	Ⅱ区FA下98号土坑、2号遺物集中出土石器	431
第350回	Ⅱ区FA下2号遺物集中出土石器	432
第351回	Ⅱ区FA下2号遺物集中出土石器	433
第352回	Ⅱ区FA下2号遺物集中出土石器	434
第353回	Ⅱ区FA下2号遺物集中、2号落ち込み、グリッド出土石器	435
第354回	Ⅱ区FA下黒4・5号住居跡出土石器	436
第355回	Ⅱ区FA下黒5号住居跡出土石器	437
第356回	Ⅱ区FA下黒5～7号住居跡出土石器	438
第357回	Ⅱ区FA下黒7号住居跡出土石器	439
第358回	Ⅱ区FA下黒7号住居跡出土石器	440
第359回	Ⅱ区FA下黒7号住居跡出土石器	441
第360回	Ⅱ区FA下黒7～10号住居跡出土石器	442
第361回	Ⅱ区FA下黒10・11号住居跡出土石器	443
第362回	Ⅱ区FA下黒12～16号住居跡出土石器	444
第363回	Ⅱ区FA下黒16～18、20～22号住居跡出土石器	445
第364回	Ⅱ区FA下黒22～24号住居跡出土石器	446
第365回	Ⅱ区FA下黒24～26号住居跡出土石器	447
第366回	Ⅱ区FA下黒26・27号住居跡出土石器	448
第367回	Ⅱ区FA下黒27号住居跡出土石器	449
第368回	Ⅱ区FA下黒27～31号住居跡出土石器	450
第369回	Ⅱ区FA下黒100・111号土坑跡出土石器	451
第370回	Ⅱ区FA下黒111・211・300号土坑跡、1号遺物集中出土石器	452
第371回	Ⅱ区FA下黒3～5号遺物集中出土石器	453
第372回	Ⅱ区FA下黒5号遺物集中出土石器	454
第373回	Ⅱ区FA下黒101・128・145・150・154・157・174・218・221・235・240・246・329・421・482・532号土坑跡出土石器	455
第374回	Ⅰ区FA下黒2号溝、215号土坑跡出土石器	463
第375回	Ⅰ区FA下黒グリッド出土石器	464
第376回	Ⅰ区FA下黒グリッド出土石器	465
第377回	Ⅰ区FA下黒グリッド出土石器	466
第378回	Ⅰ区縄文草創期グリッド出土石器	467
第379回	Ⅱ区FP上2号住居跡、29号土坑跡出土石器	468
第380回	Ⅱ区FA下黒5号住居跡出土石器	469
第381回	Ⅱ区FA下黒12号住居跡、74、76号土坑、グリッド出土石器	470
第382回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	471
第383回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	472
第384回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	473
第385回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	474
第386回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	475
第387回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	476
第388回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	477
第389回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	478
第390回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	479
第391回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	480

第392回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	481
第393回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	482
第394回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	483
第395回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	484
第396回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	485
第397回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	486
第398回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	487
第399回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	488
第400回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	489
第401回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	490
第402回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	491
第403回	Ⅱ区FA下黒グリッド出土石器	492
第404回	Ⅱ区縄文草創期8号遺物集中出土石器	493
第405回	Ⅱ区縄文草創期8号遺物集中出土石器	494
第406回	Ⅱ区FP上1号住居跡出土石器	495
第407回	Ⅱ区FP上2・3号住居跡出土石器	496
第408回	Ⅱ区FP上4・5号住居跡出土石器	497
第409回	Ⅱ区FP上5・7・8号住居跡出土石器	498
第410回	Ⅱ区FP上8・12号住居跡出土石器	499
第411回	Ⅱ区FP上13～15号住居跡出土石器	500
第412回	Ⅱ区FP上15号住居跡、60・178号土坑跡、グリッド出土石器	501
第413回	Ⅱ区FP上1・4号畦出土石器	502
第414回	Ⅱ区FA上4・5号平地式建物跡、巨大周溝出土石器	503
第415回	Ⅱ区FA上16号住居跡出土石器	504
第416回	Ⅱ区FA上16・17号住居跡出土石器	505
第417回	Ⅱ区FA上17号住居跡出土石器	506
第418回	Ⅱ区FA上17号住居跡出土石器	507
第419回	Ⅱ区FA上18号住居跡出土石器	508
第420回	Ⅱ区FA上18号住居跡出土石器	509
第421回	Ⅱ区FA上18号住居跡出土石器	510
第422回	Ⅱ区FA上18号住居跡出土石器	511
第423回	Ⅱ区FA上18号住居跡出土石器	512
第424回	Ⅱ区FA上18号住居跡、2・3号遺物集中出土石器	513
第425回	Ⅱ区FA上19号住居跡出土石器	514
第426回	Ⅱ区FA上19・20号住居跡出土石器	515
第427回	Ⅱ区FA上20・21号住居跡出土石器	516
第428回	Ⅱ区FA上21・23号住居跡出土石器	517
第429回	Ⅱ区FA上23号住居跡出土石器	518
第430回	Ⅱ区FA上23・24号住居跡出土石器	519
第431回	Ⅱ区FA上25・26号住居跡出土石器	520
第432回	Ⅱ区FA上26号住居跡出土石器	521
第433回	Ⅱ区FA上27・30号住居跡出土石器	522
第434回	Ⅱ区FA上30号住居跡出土石器	523
第435回	Ⅱ区FA上31～33号住居跡出土石器	524
第436回	Ⅱ区FA上33・34号住居跡出土石器	525
第437回	Ⅱ区FA上34号住居跡出土石器	526
第438回	Ⅱ区FA上35・37号住居跡出土石器	527
第439回	Ⅱ区FA上38号住居跡出土石器	528
第440回	Ⅱ区FA上38・39号住居跡出土石器	529
第441回	Ⅱ区FA上39号住居跡出土石器	530
第442回	Ⅱ区FA上40・42号住居跡出土石器	531
第443回	Ⅱ区FA上42～44号住居跡出土石器	532
第444回	Ⅱ区FA上44・46号住居跡出土石器	533
第445回	Ⅱ区FA上46号住居跡出土石器	534
第446回	Ⅱ区FA上47号住居跡出土石器	535
第447回	Ⅱ区FA上50・51・53号住居跡出土石器	536
第448回	Ⅱ区FA上53号住居跡、564号土坑跡出土石器	537
第449回	Ⅱ区FA上566・574・576号土坑跡、6号遺物集中出土石器	538
第450回	Ⅱ区FA上黒6号遺物集中出土石器	539
第451回	Ⅱ区FA上黒6号遺物集中出土石器	540
第452回	Ⅱ区FA上黒グリッド出土石器	541

第453回	N区FP上2号住居跡出土石器	542
第454回	N区FA下98号土坑、2号遺物集中出土石器	543
第455回	N区FA下黒4号住居跡出土石器	544
第456回	N区FA下黒4・5号住居跡出土石器	545
第457回	N区FA下黒5号住居跡出土石器	546
第458回	N区FA下黒5号住居跡出土石器	547
第459回	N区FA下黒5号住居跡出土石器	548
第460回	N区FA下黒7号住居跡出土石器	549
第461回	N区FA下黒7・8号住居跡出土石器	550
第462回	N区FA下黒8・10号住居跡出土石器	551
第463回	N区FA下黒10・11号住居跡出土石器	552
第464回	N区FA下黒12号住居跡出土石器	553
第465回	N区FA下黒12号住居跡出土石器	554
第466回	N区FA下黒12・13・15号住居跡出土石器	555
第467回	N区FA下黒17号住居跡出土石器	556
第468回	N区FA下黒18・21・23号住居跡出土石器	557
第469回	N区FA下黒23・24号住居跡出土石器	558
第470回	N区FA下黒24号住居跡出土石器	559
第471回	N区FA下黒26号住居跡出土石器	560
第472回	N区FA下黒27・29号住居跡出土石器	561
第473回	N区FA下黒111号土坑跡、1・3号遺物集中出土石器	562
第474回	N区FA下黒3号住居跡遺物集中出土石器	563
第475回	N区FA下黒5号遺物集中、グリッド出土石器	564
第476回	N区FA下黒グリッド出土石器	565
第477回	N区FA下黒グリッド、表探出土石器	566
第478回	Ⅱ区FA下黒グリッド、Ⅲ区FA上2号平地式建物跡、FA下黒23・38・40・44号住居跡出土玉類	567

第479回	Ⅱ区FA下黒564号土坑跡、6号遺物集中、グリッド、表探出土玉類	568
第480回	N区FA下黒4・5・7・8号住居跡出土玉類	569
第481回	N区FA下黒10・12・21・26号住居跡、1号高まり、2号遺物集中出土玉類	570
第482回	N区FA下黒2号遺物集中出土玉類	571
第483回	N区FA下黒2号遺物集中出土玉類	572
第484回	N区FA下黒グリッド出土玉類573	
第485回	I区FP上4号土坑跡、Ⅱ区FP上1号住居跡、17号土坑跡、Ⅲ区FP上1・2号住居跡出土鉄器	574
第486回	Ⅲ区FP上2・3・5号住居跡出土鉄器	575
第487回	Ⅲ区FP上6・7号住居跡出土鉄器	576
第488回	Ⅲ区FP上8・9・11・12号住居跡出土鉄器	577
第489回	Ⅲ区FP上13号住居跡、255号土坑、FA上グリッド、FA下黒30・39・53号住居跡、6号遺物集中、N区FP上1号住居跡、1・39号土坑出土鉄器	578
第490回	N区FP上1・42号土坑、FA上グリッド、FA下黒5・17号住居跡出土鉄器	579
第491回	I区FP上1号掘立柱建物跡、1・2・4号土坑跡出土古銭	580
第492回	I区FP上3・5・9号土坑跡出土古銭、鏡	581

表目次

第1表	主な周辺遺跡一覧表	14
-----	-----------	----

I 調査経過

1. 調査に至る経過

国道353号線豊沢バイパスは、渋川市内を走る一般国道17号及び国道353号線の交通渋滞の緩和を図るため、国道17号の豊沢バイパスと合わせて計画された延長2.2km・2車線の道路で、建設区間は渋川市白井から渋川市北牧である。平成8年度にはその一部0.8kmが供用開始された。この部分に関しては、白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡として、平成3年～平成6年に(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行い、報告書を刊行している。

国道353号線豊沢バイパスの残りの区間1.4kmの建設について、平成10年度に群馬県道路建設課から県教育委員会文化財保護課に対し、建設予定区域内の遺跡の存否についての事業照会があった。これを受けて文化財保護課では、工事対象地域が榛名山ニッ岳の火山性噴出物による、古墳時代文化層の良好な遺存で知られる場所であることから、用地上問題の少ない北牧地区(北牧大境遺跡)で試掘を実施したところ、ニッ岳降下軽石上から平安時代の住居跡、軽石下から古墳時代の水田跡を発見したため、本調査に向けて協議を開始した。

平成11年度前半、地元子持村教育委員会の協力を得て、当該地域における周知の遺跡の存否および範囲を詳細に検討し、道路予定区域全体に遺跡が存在することが判明したため、11年度後半に全面本調査を実施する方向で協議を進めた。路線内の調査対象遺跡に対して、村教育委員会との協議により小字毎に各遺跡を分別し、大字と小字を併記して、遺跡名を呼称する方法をとった。すなわち、東から中郷恵久保遺跡・吹屋三角遺跡・中郷田尻遺跡(本遺跡)・吹屋桃屋遺跡・北牧大境遺跡・北牧岩町ヶ坪遺跡・北牧沖田遺跡を対象遺跡とし、平成11年11月から本格的な発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業

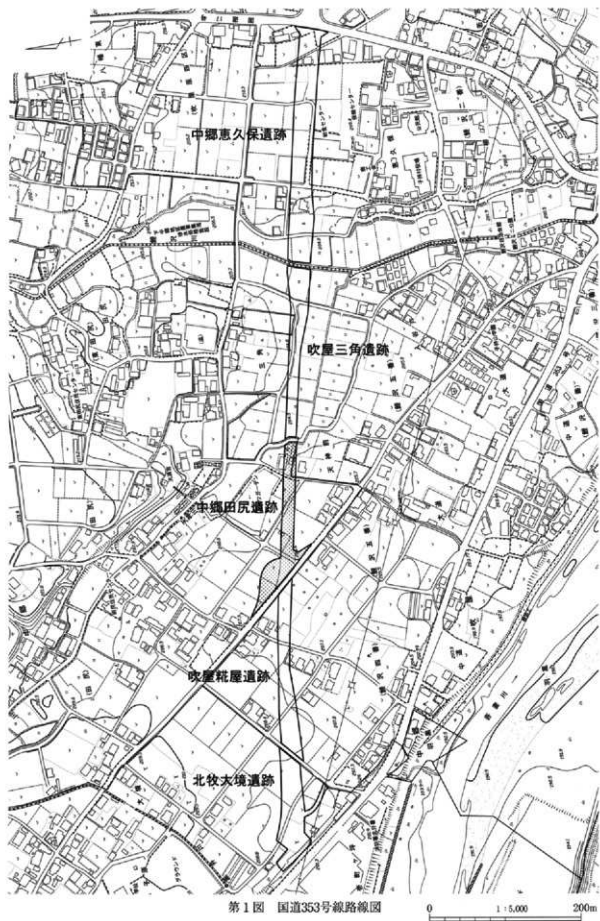
団によって開始されることになった(第1図)。尚、当初調査予定であった、北牧岩町ヶ坪遺跡及び北牧沖田遺跡に関しては、平成13年1月に、事業団の協力の下、文化財保護課による試掘が行われたが、遺構・遺物を検出し得ず、ニッ岳降下軽石(Hr-FP)も二次堆積層を見ることから、本調査の対象から除外することになった。

2. 調査の経過

国道353号線(豊沢バイパス)の発掘調査は、平成11年11月に中郷恵久保遺跡Ⅱ区と吹屋三角遺跡Ⅰ区～Ⅲ区の一部から着手した。これは路線内に存在する未収地と工事工程の関連であり、平成12年度は中郷恵久保遺跡Ⅱ区・Ⅲ区、北牧大境遺跡の発掘調査を行い、平成13年度は吹屋桃屋遺跡、中郷恵久保遺跡Ⅰ区・Ⅲ区の調査を完了させた。それまで未収地と工事行程の関係から調査未着手であった、吹屋三角遺跡Ⅲ区西と中郷田尻遺跡は平成16年度に行われた。

中郷田尻遺跡がある旧子持村内の殆どの遺跡では、古墳時代に降下したニッ岳降下軽石(Hr-FP)に厚く覆われており、本遺跡も1.5m以上のHr-FPの堆積が確認されている。また、このF P下にも降下火山灰(Hr-FA)が堆積しており、その間にも集落や高の痕跡が検出された。各々その直下が、古墳時代の地表面であり重要な文化層一調査面となる。さらに下位層では縄文時代や弥生時代の文化層が存在しており、そのため、調査は場所にもよるが第1面F P上・第2面F P下・第3面F A上・第4面F A下・第5面F A下黒色土・第6面基盤礫層直上といった4～6面の調査面が存在したのである。

中郷田尻遺跡の調査でもこの6面の調査にあたり、調査区を分断する町道を境に東からⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳ区と分けて、その都度、各区毎に4～6面の文化層を調査面として、各面の調査記録を執り行う調査方法を行った。



第1図 国道353号線路線図

0 1:5,000 200m

平成16年4月、調査事務所を吹屋籠屋遺跡部分に設置し、調査着手をⅣ区F P上面から行った。

本来ならば、全調査区を同時に調査を進めるべきであったかもしれないが、排土置き場の関係から、Ⅱ区第1面F P上面及びⅣ区第1面F P上面より調査を行った。

Ⅰ区調査前、Ⅰ区を残土置き場とし、Ⅱ区の調査にあたった。

Ⅱ区第1面F P上面では、平安時代の住居跡3軒を中心に掘立柱建物遺構1棟など、小規模ながら該期の集落跡を検出した。Ⅰ区に連続する集落と考えられる。

Ⅱ区第2面F P下面ではⅠ区に連続する極小区画水田跡と畝、畝の東側で畝にはほぼ平行する道路状遺構を検出した。台地東縁の土地利用の変換点を確認することが出来た。

Ⅱ区第4面F A下面では、小区画水田跡を調査した。Ⅰ区F P下面の極小区画水田跡と比して、やや区画が大きいが、Ⅰ区よりもその幅や区画も類似していた。また、水田面には多くの馬蹄痕跡を見ることができた。畦は低く遺存状態は決して良いとは言えないが、貴重な調査例と言えよう。

なお、第2面と第4面の土地利用は連続するものであったが、第3面F A上面では溝の掘り返しや畝の痕跡が確認出来た。

Ⅱ区第5面F A下黒色土では古墳時代中葉以前の住居跡を調査した。水田と畝を作る際に土地の改変を大規模に行っており、そのことが確認を困難にした。この古墳時代の集落はⅢ区に連続するものと思われ、Ⅰには連続しないことからⅡ区が東限と考えられる。なお、第5面下層からは縄文時代の前期から後期の遺物と土坑・ピット類を確認した。

Ⅱ区第6面基盤礫層直上では、縄文時代草創期の土器片や石器類を検出することが出来た。Ⅱ区では極硬質の暗～黄褐色砂質土が堆積していた。土器はⅠ区同様隆起線文系土器であるが、石器は自然礫を用いた敲石・磨石類のみであった。砂質土の途中に礫が纏まる部分があった。

Ⅳ区は既に調査が終了している吹屋籠屋遺跡部分とⅢ区を残土置き場とし、Ⅳ区の調査にあたった。

Ⅳ区第1面F P上面では、平安時代住居跡3軒・掘立柱建物跡3棟・墓坑・溝等が検出されたが、遺構量は少ない。当時の集落の中心からは離れていることが考えられる。

Ⅳ区第2面F P下面では、東側で柱痕にF Pが入った掘立柱建物跡3棟、その西に周りに踏み跡のある落ち込み、西側では大区画の水田等が検出された。

Ⅳ区第3面F A上面では、東側で垣に囲まれた平地式建物跡3棟・サイロ状遺構・畝耕作痕等が確認された。

Ⅳ区第4面F A下面では、西側の一カ所で短サク畝、東側では柱痕の中にF Aの火砕流が厚く堆積する掘立柱建物跡が3棟検出された。柱痕はいずれも榛名山と反対側に大きく傾いており、噴火の勢いを伺い知ることが出来る貴重な資料となった。

Ⅳ区第5面F A下黒色土では、多くの古墳時代中葉から弥生時代後期の堅穴住居跡、掘立柱建物跡2棟・墓坑等が検出された。堅穴住居跡の中には29号住居跡のように一辺が11mを超える大形のものもあった。同下層では、約470基近い土坑が検出されたが、その内縄文時代前期の土坑は数基確認できた。

Ⅳ区第6面基盤礫層直上まで試掘坑を入れ、確認を行ったが、遺構・遺物は確認出来なかった。

Ⅰ区第1面F P上面では、平安時代の住居跡5軒を中心に掘立柱建物遺構2棟、中世の墓坑など、小規模ながら該期の集落跡・墓地等を検出した。途中で排土置き場が確保出来たことと吹屋三角遺跡Ⅲ区西地区同時調査のため、通路を確保しつつⅠ区調査を本格化した。

第1面F P上面では、平安時代住居跡5軒を調査することができたが、遺構の密度は薄く、地形的にも吹屋三角遺跡に向けて傾斜して下がって行くので該期集落の東限と見做すことができた。

Ⅰ区第2面F P下面では、台地東側の整然とした極小区画水田跡を検出した。低地部の吹屋三角遺跡Ⅲ区西地区では大区画であったのと対照的である。

I 調査経過

I区第4面FA下面では、小区画水田跡を調査した。I区FP下面の極小区画水田跡と比して、やや区画が大きく、畦も低く遺存状態は決して良いとは言えない。また、水田面には多くのヒビ割れと馬蹄痕跡を見ることができた。

なお、第2面と第4面の水田としての土地利用は連続するものであり、FA上面では第3面としては検出することは出来なかった。

I区第5面FA下黒色土では、縄文時代の中期から後期の遺物と土坑数基を確認した。冬季の湧水期であったにも関わらず、湧水があり、調査は困難であった。

I区第6面基盤礫層直上では、縄文時代草創期の土器片や石器類を検出することが出来た。基盤礫上の粘土層中から出土したものであり、土器は表面が粘土化しているものもあった。出土土器は隆起線文系土器であるが、無文のものも多くあった。石器には剥片類と槍先形尖頭器があった。多くの湧水があり、土も粘土ということで調査は非常に困難であった。しかし、当時の人々が水場の近くで生活していたことが分かる貴重な資料となった。

Ⅲ区は、調査工程上最後の調査区となった。表土及びFPは吹屋三角遺跡部分に置き、Ⅱ区部分を調査の際の排土置き場として調査を進めた。

第1面FP上面は、Ⅰ・Ⅱ区に比して遺構密度が高く、平安時代住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝等が複雑に重複する様相で検出された。これは集落の中心であったことを物語っているものと思われる。

Ⅲ区第2面FP下面では、東側に長サク島、西側に短サク島が検出された。その間にはかすかに以前の短サク島の痕跡が認められる部分もあった。

Ⅲ区第3面FA上面では、島の耕作痕に切られる頃に囲まれた平地式建物跡やサイロ状遺構等の集落が検出された。Ⅳ区では島→集落にしており、Ⅲ区では逆に集落→島にしているなど逆の土地利用変化が把握できた。島と集落がセットで一定の場所を動いている可能性が考えられる。

Ⅲ区第4面FA下面では、古墳時代の堅穴住居跡

3軒と垣に囲まれた掘立柱建物跡等を検出した。住居跡の床面東側にはFA火砕砕の吹き溜まりがあり、爆風の大きさを知ることが出来る。僅かではあるが、柱も東側に傾いていた。また、掘立柱建物跡の柱穴全体にFAが厚く堆積しており、柱や上物が無かったことが分かる。これらは火山災害を示す貴重な資料となった。

Ⅲ区第5面FA下黒色土では、古墳時代中～弥生時代の堅穴住居跡・土坑等を含む集落跡が検出された。軒数も多く、複雑に重複していた。古墳時代の住居跡にはカマドを持つ物とそうでないものがあり、移行期の様相を知ることが出来る貴重な資料となった。同面下層では縄文時代前期の土坑数基が検出された。円形の貯蔵穴状のものと楕円形で底面に小ピットが開く陥穴と考えられるものがあった。

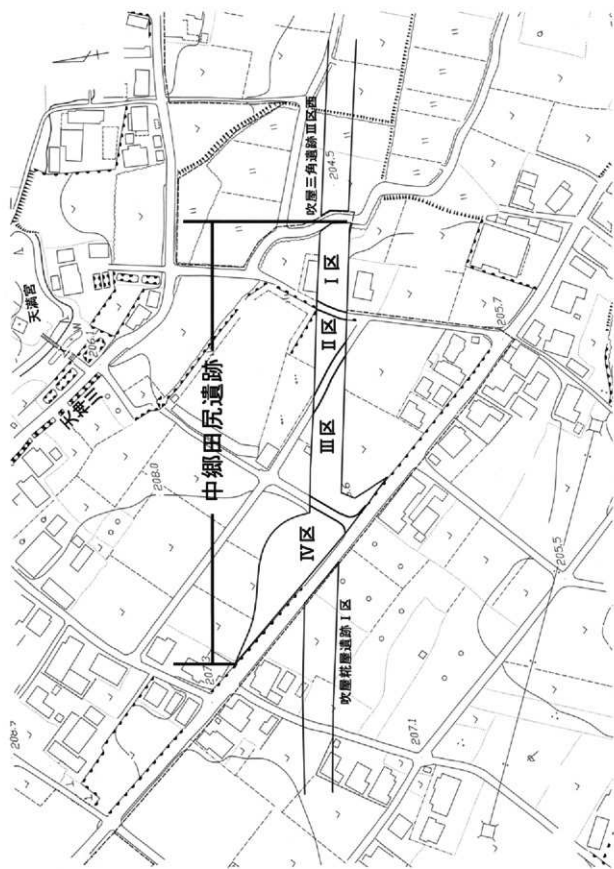
Ⅲ区第6面基盤礫層直上まで試掘を入れて確認調査を行ったが、遺構・遺物は検出出来なかった。

調査は試行錯誤の繰り返しを重ねた。また、遺物集中カ所や馬骨も確認され、集落跡の内容を濃いものとしている。

整理作業は、平成17年4月に着手したが、出土遺物が多量であり、平成18年度まで継続した。

調査日誌抄

- 4月1～21日 事前準備・打ち合わせ
- 4月22日～10月28日 Ⅳ区調査
- 5月12日 Ⅳ区第1面FP上全景写真
- 6月9日 Ⅳ区第2面FP下全景写真
- 6月16日 Ⅱ区第4面FA下・Ⅳ区第3面FA上全景写真
- 6月25日 Ⅳ区第4面FA下全景写真
- 9月17日 Ⅳ区第5面FA下黒全景写真
- 10月19～28日 Ⅳ区第6面試掘確認調査
- 4月27日～8月31日 Ⅱ区調査
- 5月19日 Ⅱ区第1面FP上全景写真
- 5月25日 Ⅱ区第2面FP下全景写真
- 6月17日～8月19日 Ⅱ区第4～5面FA下～下黒調査
- 8月20～31日 Ⅱ区6面調査
- 9月10日～3月18日 Ⅲ区調査
- 10月14日 Ⅲ区第1面FP上全景写真
- 10月29日 Ⅰ区・Ⅲ区第2面FP下全景写真
- 11月16日 Ⅰ区第4面FA下・Ⅲ区第3面FA上全景写真
- 11月30日 Ⅲ区第4面FA下全景写真
- 12月16日 Ⅲ区第4面FA下・第5面FA下黒全景写真
- 2月15日 Ⅲ区第5面FA下黒全景写真
- 3月7～18日 Ⅲ区6面試掘確認調査
- 10月13日～2月25日 Ⅰ区調査
- 10月27日 Ⅰ区第1面FP上全景写真
- 11月22日～1月11日 Ⅰ区第5面FA下黒調査
- 1月12日～2月25日 Ⅱ区6面調査
- 3月22日～3月31日 遺物・図面整理・環境整備



第2図 中郷田尻遺跡調査区地図

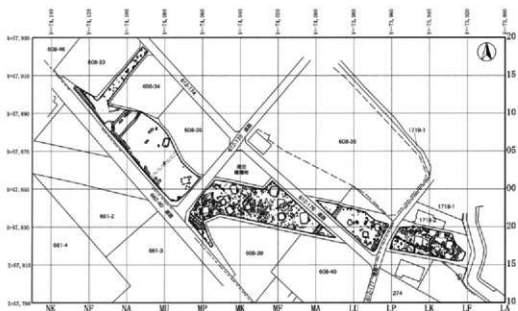
3. 調査の方法

本遺跡の調査区については、便宜的に現道を境にし東よりⅠ～Ⅳ区と大別した。グリッドは国家座標に一致させた1辺4mの方眼を設定し、南北方向に算用数字二桁を、東西方向にはアルファベット25文字を2つ組み合わせさせたものをあてはめた。国家座標は、国道353号線調査区を全て網羅するようにし、グリッド呼称も東端の遺跡である中郷恵久保遺跡から順次増えるようにした(第3図)。

遺構の平面測量は上記グリッド杭を基準として、第1面Hr-FP上面の平安時代～中・近世遺構群は航空写真測量と電子平板測量、平板測量を併用し、1/40・1/20・1/10縮尺を基本とした。航空写真測量と電子平板測量は業務委託した。また、第2面Hr-FP下～第4面Hr-FA下水田・高及び集落は、全て航空写真測量と電子平板測量で1/40図を基準として業務委託した。FA下黒色土面で確認された古墳時代の集落跡は、電子平板測量と平板測量を併用し、包含層出土遺物についても、特殊な出土状態を想起させる例については、出土地点の記録化に努めた。

写真記録は、基本的に6×7・35mmの白黒フィルムと35mmリバーサルフィルムを使用した。また、全景写真などに際しては、高所作業車及びリモコンヘリコプターによる撮影を行っている。

掘削方法であるが、表土及びHr-FPは重機による掘削除去を行い、それ以下のFAや黒色土包含層は人力による掘削を基準とした。無論各調査面の精査や掘削は人力によるものである。特に、Hr-FP下面の調査では、従来の当地域での事業団調査では、通常移植ゴテなどのHr-FP除去作業後、馬蹄痕の検出を目的とした、より詳細な除去方法として刷毛によるFP除去作業が行われてきた。しかしながら本遺跡の場合、刷毛は使用せず、移植ゴテと竹笥などによる除去作業に止めた。これは、Hr-FP直下面の新鮮な生活面をより当時のまま記録化するという、村教育委員会の調査指針を参考にしており、実際に刷毛によるHr-FP除去作業よりも多くの情報を得ることができた。



遺構配置はFP上面を便宜的に配した

第3図 グリッド配置図(S=1:2000)

II 周辺の環境

1. 地理的環境

中郷田尻遺跡が所在する渋川市中郷は、東を利根川で、南西を吾妻川で囲まれ、さらに北は子持山山麓斜面が控える。河岸段丘と山麓台地によって構成されている。視野を広げれば、当地域は榛名山・赤城山に挟まれ、利根川が流れ出す谷を眺め、関東平野を南に望む地点である。いわば関東平野の北西端に位置する要に位置するといえよう。

本遺跡の周辺地域は、古墳時代の2度にわたる榛名山による火山災害を受けている。最初の噴火が6世紀初頭といわれる火砕流を伴う火山灰の降下で、2度目が6世紀中葉に起こった大規模な軽石降下による災害である。特に本遺跡や黒井峯遺跡は、この軽石降下の軸線上にあり、軽石災害により壊滅的な打撃を受けた地域内に位置すると言えよう(第5図)。

さて、前述の利根川と吾妻川による河岸段丘は、当時からの段丘面として捉え得るものと考えられており、各段丘面における古墳時代当時の土地利用傾向も重要な研究視点として注意されている。ここで各段丘面の地形的な様相を確認しておく(第4図)。

浅田面：利根川・吾妻川の最下位段丘面である。利根川・吾妻川との比高差は数mで、ローム層は形成されておらず沖積地が主体を占める。古墳時代の遺跡分布としては、浅田古墳や伊熊・有瀬古墳群などが知られており、墓域あるいは水田等の生産域と考えられる。

白井面：利根川・吾妻川に沿うように形成された、第2位の段丘面である。標高は約200m前後で、吾妻川沿いには段丘崖が見られ、洪積台地状の景観を見せる。事実これまでの発掘調査では、利根川右岸の白井地区で礫層上位に未発達なローム層が確認されており、台地的な様相を示している。一方吾妻川左岸側の発掘調査では、台地と埋没谷が調査されており、一部沖積地を含む様相を示す。これは、雙林

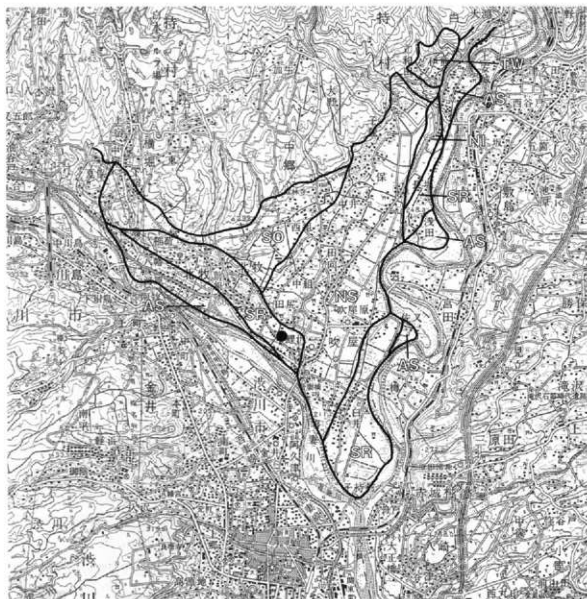
寺面の境にある湧水点を中核とした小河川による低地形成によるものと考えられ、利根川右岸の白井地区とは対照的な様相を見せている。段丘面形状は北から南へ僅かな傾斜を見せるものの、ほぼ平坦面に近く、居住地として最適な様相を呈するが、古墳時代中葉に関しては、水田・畠・放牧地等の生産域に供された例も多い。後葉に至ってはF P上に群集墳などが見られる。

西伊熊面：利根川右岸の西伊熊周辺のみで見られる。白井面の上位に形成された小規模な段丘面で、段丘幅も150m程度でしかない。標高は230m前後で、ボーリング調査では上部ローム層が確認されており、段丘形成は2万2千年前と見られている。

立和田面：渋川市北部の立和田周辺の規模の小さい段丘である。詳細は不明である。

長坂面：南北に長く、また広く子持村の主要な部分を占める段丘面である。中部ローム層が確認されており、6~7万年前の形成といわれる。北から南へ緩やかな傾斜を示し、同様に段丘面の中央を雙沢川が流れ、兩岸に沖積地を形成する。また、湧水点も雙林寺面にかけて見られることから、台地と低地が群在する微地形が予想されよう。標高の高い台地遺跡、すなわち田尻遺跡や館野遺跡などでは集落跡が、標高の低い台地遺跡中郷久保遺跡等では畠や放牧地が調査されている。また、鯉沢川が形成した低地帯では水田跡が確認されている。

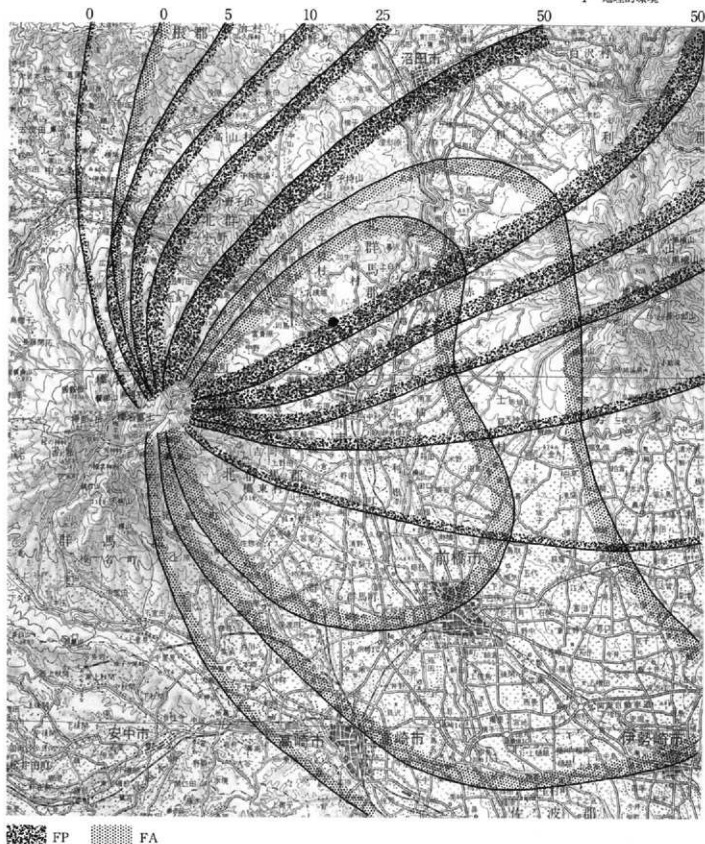
雙林寺面：子持山南麓~東南麓に形成された段丘である。標高250m以上の最上位段丘とみてよく、旧子持村市街地を眺望する高さにある。長坂面と同様にローム層の発達が著しい面であり、中部ローム層が確認されている。北側に広がる子持火山層状地の裾野と一体化した地形傾斜を示すが、南端あるいは東端に至ると、一際聳える段丘崖を形成する。換言すれば古墳時代中葉においても、眼下の生産域を望む高さであり、黒井峯遺跡や西組遺跡にみるように中核的な集落域が形成されていたものと考えられよう。無論、中ノ峯古墳や水田跡や畠跡の検出状況から、墓域・生産域としても供されていたようだ。



子持火山噴出物 = KK	6. 雙林寺面 = SO	5. 長坂面 = NS	4. 立和田面 = TW
3. 西伊熊面 = NI	2. 白井面 = SR	1. 浅田面 = AS	

第4図 遺跡位置と子持村段丘分布図 (S = 1: 50,000)

(国土地理院5万分の1「中之条」「沼田」「前橋」「榛名山」使用)
 (『子持村誌上巻』1987を参照)



(S = 1 : 200,000)

第5図 Hr-FAとHr-FPの降下範囲(国土地理院20万分の1地勢図「日光」「高田」「宇都宮」「長野」使用)

2. 歴史的環境

旧子持村及びその周辺（現渋川市）は、古墳時代に榛名山の2度の噴火による火山災害を受けた地域であり、そのため、遺構の遺存度が極めて良好であり、降下当時の瞬時の姿をとどめていると言って良い。特に降下軽石（F P）の堆積は厚く、降下軸線上にある調査遺跡では2mを誇る層厚を示している。このことは、F P直下の面-6世紀中葉の生活面そのものを検出できるという特性を持つ。同様にその下層に見られる降下火山灰（F A）直下層もそれを除去することで当時-6世紀初頭の生活面が出現する。前者-F P直下の集落跡として黒井峯遺跡、F A直下の例として渋川市中筋遺跡はあまりにも著名である。旧子持村とその周辺地域は、古墳時代集落・墳墓・生産跡研究に具体的なデータが包蔵されているのであり、極めて重要な地域である。ここでは、周辺地域の古墳時代遺跡の分布を概観してみよう。

集落跡

黒井峯遺跡(14)は旧子持村の上位段丘面である雙林寺面に位置する。F P直下の古墳時代集落遺跡として知られ、当時の集落内施設が複数単位として捉えられる極めて重要な集落跡である。また、周辺にも同時期の集落跡が見られており、西組遺跡(12)・押出遺跡(13)・田尻遺跡(7)が知られる。集落内施設として、竪穴住居跡以外に平地式建物跡・垣・畝・水田・樹木跡・水場などが調査されており、総合的な集落様相の把握が可能な地域でもある。最近では、吹屋久保遺跡で、F P直下の竪穴住居跡が1軒ながら調査されており、新たなデータを加えることになった。

これらの集落跡は澗沢川流域・長坂面・雙林寺面に集中して確認されており、当時の居住中心地域が想定できよう。

古墳時代前葉の集落跡としては中郷恵久保遺跡(5)に北接する八幡神社遺跡(6)や赤城町榎舟戸遺跡(33)等が挙げられるが、F PとF Aの堆積が厚く、調査例は少ない。

生産跡

生産跡も上記の段丘面上の埋没谷に水田が、台地上には畠が検出されている。さらに下位段丘の白井面では、北牧相野田遺跡(16)や、北牧大境遺跡(1)、中郷恵久保遺跡、吹屋籠屋遺跡(2)、中郷田尻遺跡(3本遺跡)、吹屋三角遺跡(4)、舞沢瓜田遺跡・吹屋瓜田遺跡(21)などでF P下やF A下で水田跡が調査されている。いずれも良好な水田跡を検出しており、一地域の水田耕作様相の把握に欠かせない遺跡群であろう。

利根川白井面の様相

一方、利根川右岸の白井面では村教委、事業団で白井遺跡群など多くの発掘調査が行われているが(22)、F P下集落跡を検出した例は無い。畠跡・放牧地跡が主体であり、水田の検出も見られない。利根川に注ぐ小河川や広範囲の埋没谷も見られないことから、水利上の理由で水田開発あるいは集落設営が敬遠された地域と想定されよう。また、放牧地跡としての多数の馬蹄痕跡の存在は、当時の馬の管理形態を考える上で参考になるものではあるが、本遺跡では頭骨を始めとする馬の骨が出土しており、これまで追いかけて来た幻の本体を検出することができた事は今後の白井馬を考える上で極めて意義深い。

墳墓

白井面の下位段丘の浅田面では、浅田古墳(26)が著名である。葺石、埴輪列を当時のまま確認できた例として、注目されている。さらに近接する有瀬古墳群(27)は積石塚を主体としており、これもF P下より当時の姿を顕在化した例で、調査を重ねる度に、新事実が明らかになる重要な遺跡である。その他では、黒井峯遺跡などに近接して中ノ峯古墳(19)が調査されている。

祭祀跡

黒井峯遺跡などF P下やF A下の集落跡では、祭祀跡が恒常的に検出されるが、利根川対岸の赤城町諏訪原Ⅰ・Ⅱ遺跡(28)では乳文鏡や鉄製品が豊富な土器類と白玉類と伴出しており、集落内の祭祀跡とは少なからず差が認められ、注目されよう。



第6圖 周辺遺跡分布図(S=1:25000)

II 周辺の環境

第1表 主な周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要
1	北牧大塚遺跡	事業団調査。FA・FPP下水田。平安時代集落など
2	吹屋根屋遺跡	事業団調査。5c集落、FA・FPP下水田・畠、平安時代集落など
3	中郷田尻遺跡	事業団調査。弥生時代集落。FA下集落。FA上で確認された平地住居跡や垣など。
4	吹屋三角遺跡	事業団調査。FA・FPP下水田。北接地点を村教委調査。FPP下古墳・水田
5	中郷恵久保遺跡	事業団調査。4c～5c集落、FA・FPP下水田・畠跡等。南に庚申塚古墳(長尾村11号墳)がある
	(吹屋恵久保遺跡)	村教委調査。中郷恵久保遺跡に北接する。FPP直下の竪穴住居跡1・垣・畠跡などが調査されている。長坂面におけるFPP下集落跡の検出は極めて貴重である
6	八幡神社遺跡	村教委調査。古墳時代前期集落・土壘墓、FPP下集落・畠跡など
7	田尻遺跡	村教委調査。弥生集落・墳墓。FPP下集落・畠・道等。平安時代集落
8		村%75。古墳時代と縄文時代の包蔵地とされる
9	中組遺跡	村教委調査。FPP下盛土跡(境界)・耕起面。平安時代集落
10	池田沢東遺跡	村教委調査。FPP下道・畠・境界・耕起面を検出。花塚古墳(FPP下古墳)を含む
11	館野遺跡	1962年群大調査。FPP下集落。村教委調査では畠跡
12	西組遺跡	村教委調査。FPP下集落、黒井峯遺跡の周辺集落か?。平安時代集落
13	押出遺跡	村教委調査。弥生時代再葬墓・方形周溝墓、FPP下集落、平安時代集落
14	黒井峯遺跡	村教委調査。国指定史跡。FPP下集落としてあまりに著名。竪穴住居、平地建物・家畜小屋・道・水堀・水田などが調査・確認されている。古墳時代後期の集落単位が把握でき、また住居の上層構造等地上構造物を示唆する資料など情報量は多い
15	丸子山遺跡	村教委調査。弥生時代～古墳時代方形周溝墓、FPP上・FPP下古墳。丸子山古墳等
16	北牧相野田遺跡	村教委調査。FA下・FPP下水田。FPP下水田面は耕起中を呈す。
17	畑中遺跡	村教委調査。FPP下水田
18	後田遺跡	FPP下水田
19	中ノ塚古墳	1979年調査。県指定史跡。FPP下古墳。輪無型横穴式石室を持つ円墳
20	吹屋中道遺跡	村教委調査。FPP下水田・畠
21	鱒川瓜田遺跡 (吹屋瓜田遺跡)	村教委調査。事業団調査。FA下・FPP下水田。FPP下水田は耕起中を示す。
22	白井遺跡群 白井北中道・白井丸岩 白井南中道・渡屋	白井北中道等の事業団調査ではFPP下放牧地、平安時代集落、中世墓塚群等を調査。村教委調査ではFPP下畠、放牧地、平安時代集落を見ている。白井古墳群は金比羅塚・加藤塚等は、FPP上と目される。渡屋遺跡はFA下集落の可能性が高い
23	滝空寺裏遺跡	村教委調査。FPP下放牧地跡・境界
24	吹屋中原遺跡	事業団調査。FPP下畠・放牧地跡
25	吹屋大子塚遺跡	事業団調査。FA下水田・FPP下放牧地跡村調査では畠の痕跡を検出
26	浅田古墳群	村教委調査。FPP下の円墳6基を調査。輪輪列・葺石の保存状態も極めて良好な当地域屈指の古墳。その他に道・境界・水田跡等を調査
27	宇津野・有瀬古墳群	村教委調査。FPP下の群集墳調査例。積石塚で保存状態も極めて良い
28	宮田諏訪原遺跡	赤城村教委調査。FA直下とFPP直下から祭祀跡群を検出。変形孔文鏡と石製模造品・鉄製品・豊富な土器群等が伴出している
29	宮田愛宕遺跡	FPP下祭祀跡。古墳時代集落内の樹木祭祀跡1基
30	宮田幅ノ木遺跡	FPP直下の竪穴住居跡1軒、祭祀跡3基。破砕土器集中遺構等を検出
31	宮田不動古墳	5世紀代のB種横穴を持つ墳輪を出土する古墳
32	宮田畔野遺跡	群大調査。FPP下水田跡を調査している
33	樽舟戸遺跡	古墳時代前期の集落跡(住居跡8軒・祭祀跡1基等)を調査している
34	樽遺跡	弥生時代集落。樽式土器標識遺跡
35	田尻遺跡	弥生時代後期集落。鉄剣出土
36	東町古墳	FA下古墳
37	坂下町古墳群	FA下古墳群。1962群大調査
38	坂之下遺跡	市教委調査。FA下水田、平安時代集落、坂之下館跡

参考文献

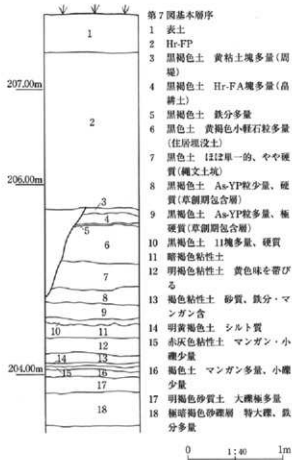
- 尾崎喜左衛 1938 『上毛古墳総覧』群馬県史蹟天然記念物調査報告 第5輯 群馬県
- 杉原庄介 1939 『上野雑遺跡調査概報』『考古学』第10巻第10号
- 尾崎喜左衛 1962 『群馬県沼田川下古墳群』『日本考古学協会 年報15号』日本考古学協会
- 尾崎喜左衛 1971 『北群馬・渋川の歴史』北群馬・渋川の歴史編集委員会
- 山崎 一 1972 『群馬県古城遺跡の研究』
- 松本浩一 1970 『群馬県水田地域古墳文化財発掘調査報告書』昭和44年調査概報 県教委
- 松本浩一 1978 『丸山古墳発掘調査報告書』沼田市教委
- 松本浩一他 1980 『中ノ塚古墳発掘調査報告書』子持村教委
- 石井克巳 1985 『西組遺跡発掘調査報告書』子持村教委
- 山本良知 1986 『宮田遺跡』『群馬県史資料編2 原始・古代2 弥生・土師』群馬県史編さん委員会

11	石井克巳	1987	『押手遺跡発掘調査概報』 子持村教委
12	小林貞光	1988	『取之下遺跡』 浜川市教委
13	石井克巳	1989	『都市周辺の軽石堆積地における遺跡保存方法の検討』 昭和62年度実施報告 文化庁
14	石井克巳	1990	『黒井基遺跡発掘調査報告書』 子持村教委
15	長谷川福次	1991	『八崎の寺居・田尻遺跡』 北橘村教委
16	麻生敏隆	1993	『白井大宮遺跡』 群裡文
17	南雲芳昭	1993	『家形埴輪からみた馬蹄跡』『白井大宮遺跡』 群裡文
18	黒田 晃	1993	『白井遺跡群-中世編-』 群裡文
19	黒田 晃	1994	『白井遺跡群-集落編-』 群裡文
20	南雲芳昭他	1994	『白井遺跡群-古墳時代編-』 群裡文
21	小林 修	1995	『清水・新井古墳・芥塚古墳』『南城村内遺跡1』 概報
22	小林 修	1995	『宮田塚ノ木遺跡』 赤城村教委
23	遠藤敬爾	1996	『吹屋瓜田遺跡』 群裡文
24	高井佳弘	1997	『白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋大子塚遺跡・吹屋中草遺跡 古代中世編』 群裡文
25	石井克巳	1998	『発掘された埋没古墳群-子持村・浅田遺跡-』『群馬文化』第25号 群馬県地域文化研究協議会
26	小林 修	1998	『宮田愛宕遺跡』 赤城村教委
27	小林 修	1999	『柳舟戸遺跡』 赤城村教委
28	石井克巳	2000	『北牧相ノ田遺跡』 子持村教委
29	石井克巳	2000	『新沢瓜田遺跡』 子持村教育委員会
30	井野修二	2000	『白井北中道遺跡(道の駅地点)』 群裡文
31	小林 修	2001	『埋没古墳出土埴輪の基礎考察 - 宮田不動出土のB様ヨコハケ埴輪 -』『群馬考古学手帳』11 群馬大学考古学会
32	根津 仁他	2002	『白井大宮遺跡Ⅱ』 群裡文
33	山口逸弘他	2004	『北牧大塚遺跡』 群裡文
34	小林 修	2004	『宮田諏訪Ⅱ期・巖持久保遺跡』 赤城村教委
35	小林 修他	2005	『宮田諏訪Ⅰ期・Ⅱ』 赤城村教委
36	1956	『群馬県勢多郡 横野村誌』 群馬県勢多郡横野村誌編纂委員会	
37	1963	『群馬県の遺跡』 群馬県遺跡台帳作成委員会	
38	1971	『群馬県遺跡台帳Ⅰ 東七編』 群馬県教委	
39	1981	『群馬県史 資料編3』-原始古代3 古墳- 群馬県史編さん委員会	
40	1986	『群馬県史資料編2』原始古代2 弥生・土師 群馬県史編さん委員会	
41	1987	『子持村誌 上巻』 子持村誌編纂委員会	
42	1983-2004	『付属 県内埋蔵文化財発掘調査一覧表』『年報』2-23 群裡文	

3. 基本土層

これまで述べてきたとおり、本遺跡のある浜川市北部は古墳時代後半の2度に渡る火山災害を受けた地域の一つである。火山性噴出物Hr-FA(火山灰)とHr-FP(軽石)直下面は、そのまま古墳時代後葉の地表面であり、発掘調査に際しては、多くの情報を我々に提供する文化層である。また、この他にもF P上面では古代集落跡やF A下黒色土面では古墳時代前葉～中葉の集落跡及び弥生時代や縄文時代の遺構・遺物が検出されている。さらに、基盤礫層上では縄文時代草創期の土器や石器が検出されている。

本遺跡の調査では、各地区の基本柱状図は記録化してきたが、巨視的に各遺跡の基本土層を比較する必要性もある。最も広い調査区のVI区土層柱状図を提示し、基本土層としたい。なお、詳細については各区の土層断面を参照していただきたい。また、ローム層に相当する層位としては、段丘を形成する基盤礫層がある。その上の黄褐色粘土(黄粘土塊)は見た目ローム層に似るがローム層ではない。



第7図 基本土層図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

1 遺構概要

第1面F P上

Ⅲ区が最も住居跡・掘立柱建物跡・土坑等の遺構の集中が見られた。Ⅱ区・Ⅲ区は極端にこの時期の遺構が少なくなる。Ⅰ区も極端に増えるわけではないので、中心はⅢ区と考えられる。その周辺が地形的にも一番平らで安定している。

第2面F P下

居住域と生産域を調査した。Ⅰ～Ⅱ区にかけて水田が、Ⅱ～Ⅲ区では長サク畝、Ⅲ区では短サク畝も確認された。Ⅳ区では東側で垣に囲まれた掘立柱建物跡、西側で大区画水田も検出された。

第3面F A上

Ⅲ・Ⅳ区を中心として一部Ⅱ区西側で畝耕作痕が、Ⅲ区～Ⅳ区東側にかけて垣に囲まれた平地式建物跡・サイロ状遺構・掘立柱建物跡などが確認された。Ⅲ区では集落→畝、Ⅳ区では畝→集落、という土地利用の変化が看取された。

第4面F A下

Ⅰ～Ⅱ区にかけて水田、Ⅱ区西側では道跡、Ⅲ区では竪穴住居跡・垣に囲まれた掘立柱建物跡、垣に囲まれた掘立柱建物跡・祭祀跡等が確認された。火山災害の大きさを知る貴重な資料となった。

第5面F A下黒色土

Ⅰ区では土坑のみであり、住居跡は無かったが、Ⅱ～Ⅳ区にかけては土坑と共に多くの竪穴住居跡が検出された。東限はⅡ区と考えられる。

第6面礫層直上

縄文時代草創期遺物包含層はⅠ・Ⅱ区でのみ検出された。Ⅰ区では土器と共に尖頭器が、Ⅱ区では礫が纏まる部分も確認された。基盤礫層が安定した時期に当時の人々の営みがあったことを示す貴重な資料となった。Ⅲ区・Ⅳ区では該期遺物の出土は見なかった。

Ⅰ区第1面F P上 集落(竪穴住居跡5・掘立柱建

物跡2・土坑212内墓坑6等)

第2面F P下 小区画水田

第3面F A上 面としては確認出来なかった。

第4面F A下 小区画水田

第5面F A下黒色土 縄文土坑4・遺物包含層

第6面礫層直上 草創期遺物包含層

Ⅱ区第1面F P上 集落(竪穴住居跡3・掘立柱建物跡1・土坑63・墓1・溝1等)

第2面F P下 小区画水田・溝1・畝・道跡2

第3面F A上 溝1・畝跡

第4面F A下 小区画水田・溝(道跡?2)

第5面F A下黒～黒褐色土 集落(竪穴跡13・掘立柱建物跡1・土坑57)・遺物包含層

第6面黄褐色砂礫層直上 草創期遺物包含層

Ⅲ区第1面F P上 集落(竪穴住居跡15・掘立柱建物跡7・土坑446・溝1等)

第2面F P下 畝等

第3面F A上 集落(平地式建物跡8・サイロ状遺構4・掘立柱建物跡4・垣跡17・土坑109)

第4面F A下 集落(竪穴住居跡3・掘立柱建物跡1・垣跡2・土坑7等)

第5面F A下黒～黒褐色土 集落(弥生～古墳住居跡33・土坑54等)縄文土坑41

※36・52号住居跡欠番 精査の結果住居跡ではないと判断した。

Ⅳ区第1面F P上 集落(竪穴住居跡3・掘立柱建物跡3・土坑77内墓坑1・溝8等)

第2面F P下 小区画水田・溝2・道跡2・掘立柱建物跡3土痕のみ・落ち込み5

第3面F A上 集落(平地式建物跡3・サイロ状遺構6・掘立柱建物跡3・垣3・道跡1・土坑7)畝

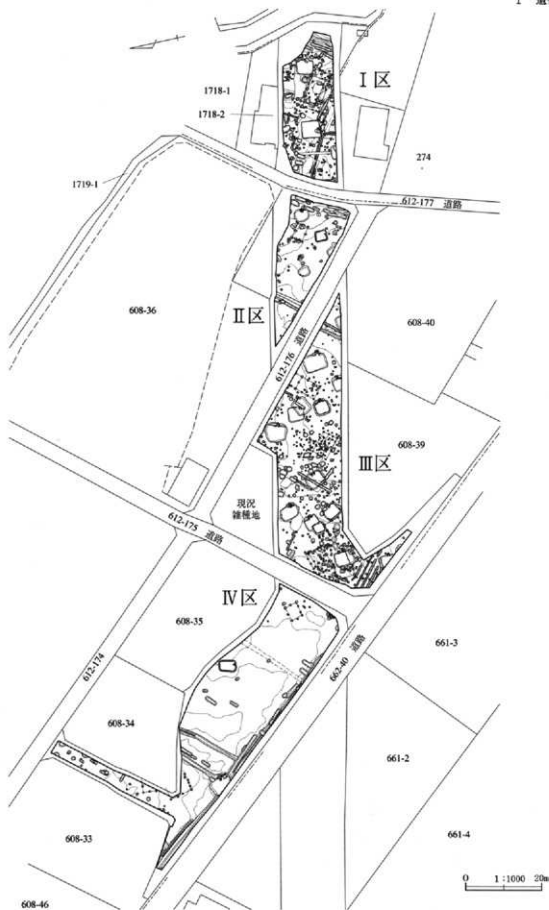
第4面F A下集落(掘立柱建物跡3・サイロ状遺構3・垣3・土坑14・道跡4)

第5面F A下黒～黒褐色土 集落(竪穴住居跡29・掘立柱建物跡2・土坑468)縄文土坑6

※19号住居跡欠番

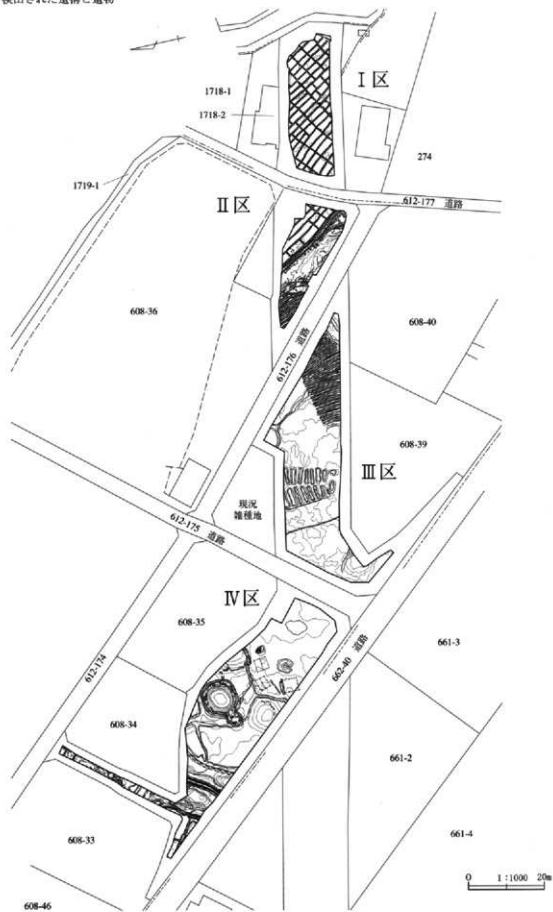
※MY-8遺物集中→5号遺物集中へ変更

※110号土坑欠番、土坑は他に欠番有り

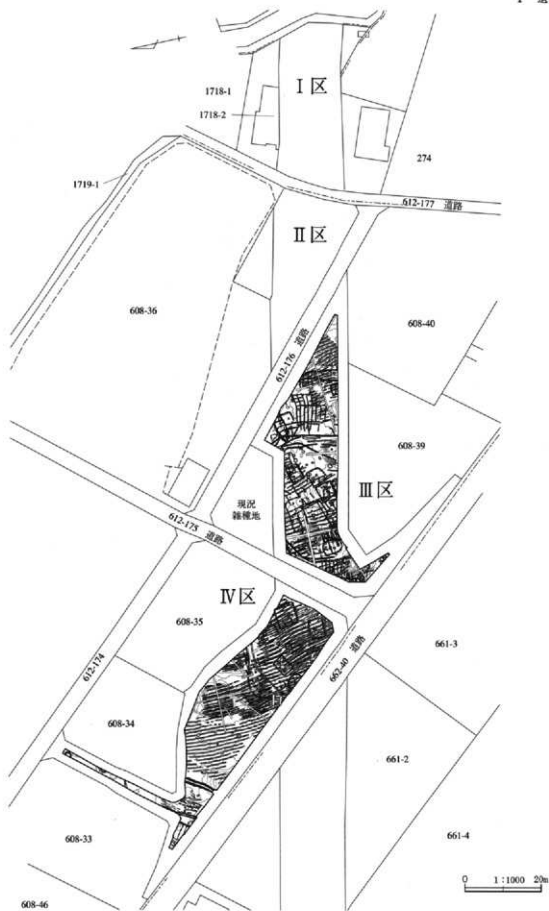


第8図 1面Hr-FP上遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

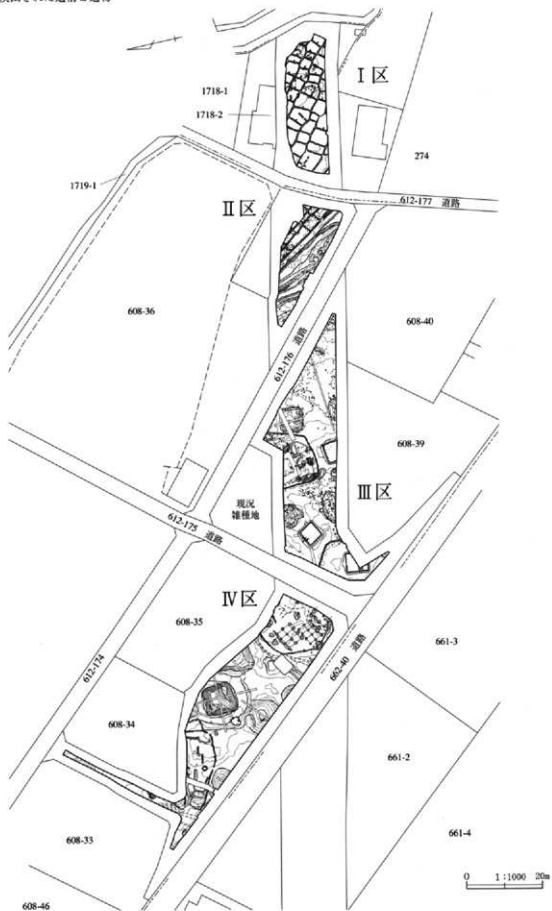


第9図 2面Hr-FP下遺構配置図

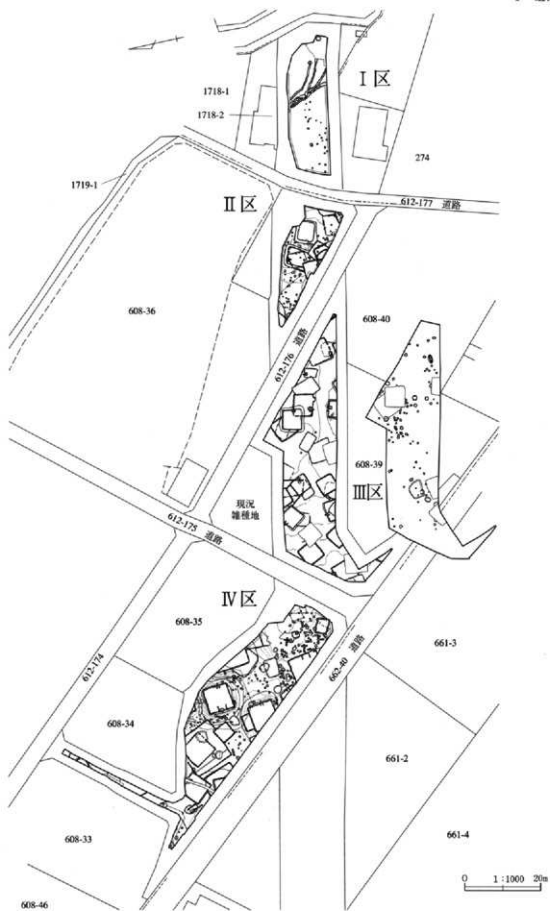


第10図 3面Hr-FA上遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第11図 4面HR-FA下遺構配置図



第12图 5面Hr-FA下黑色土遺構配置图

Ⅲ 検出された遺構と遺物

I 区で検出された遺構 (第13回)

第1面F P上

1号住居跡 (第14回)

位置 LG-17-18, LH-17-18 主軸方向 N98°E

重複 1号住居→193号土坑

規模 縦3.80m×横4.50m×深さ0.30m

形状 隅丸長方形、やや南北に長い。

埋没土 F Pを多量に含むにぶい黄褐色土により埋没していた。単一的で短期間に埋まったものと考えられる。

掘り方 細粒軽石・粘土ブロック含む暗褐色土により埋められていた。北東部2/3程度部分が5cm前後床面より凹む。

床面 北東部2/3程度粘土混じりの土により埋められ、比較的良くしまった貼り床がなされていたが、西壁～南壁手前はF P面そのままが床面となっていた。

貯蔵穴 カマド右側住居北東コーナー長径(55)cm×短径(44)cm×深さ24cmの穴有り。遺物は出土しなかった。

周溝 無し。

柱穴 4本柱。p1長径50cm×短径43cm×深さ58cm, p2長径45cm×短径43cm×深さ45cm, p3長径70cm×短径67cm×深さ35cm, p4長径44cm×短径37cm×深さ31cm, p5長径43cm×短径37cm×深さ20cm

遺物出土状態 p5の東側と貯蔵穴東側で若干の礫の出土があったが、ほとんどの遺物はカマド内部からの出土であった。

遺存状態 東側に193号土坑や攪乱などがあったが、比較的良好であった。

カマド 位置 東壁中央より南寄り

規模 全長140cm 最大幅120cm 焚き口幅67cm

袖 遺物取り上げ後袖の痕跡を確認、左袖は1/2以上攪乱により壊されていた。

煙道 壁を切り込んで40cm程東側に伸びる。

埋没土 使用面上に約10cm前後天井崩落土と考えられる黄灰色粘性土・焼土粒・炭化物粒を含む層が堆

積していた。その上はF P混じりの暗褐色土が堆積していた。

遺物出土状態 ほとんどの遺物がカマド内部燃焼部分よりまとまって使用面上より出土した。

遺存状態 カマドは黄褐色粘性土により構築されていたが、左袖側は攪乱により壊されていた。燃焼部～右袖部分はかろうじて残っていた。左右両壁は比較的良く焼けていた。

2号住居跡

位置 LH-18-19, LI-18-19 主軸方向 N100°E

重複 無し。

規模 縦3.60m×横(3.15)m×深さ0.25m

形状 長方形?

埋没土 F Pを多量に含むにぶい黄褐色土により埋没していた。

掘り方 貼床部分を除去したところ、特に土坑・ピット等は検出されなかった。

床面 北東部1/2強がシルト質の黄褐色土により貼床がなされていた。

貯蔵穴 カマド右前北東コーナー長径107cm×短径(60)cm×深さ20cm。多くの土器片とともに鉄器や比較的大形の礫が出土した。

周溝 無し。

柱穴 p1長径32cm×短径26cm×深さ11cm, p2長径32cm×短径27cm×深さ13cm, p3長径31cm×短径27cm×深さ13cm, p4長径37cm×短径35cm×深さ19cm

遺物出土状態 北西部を除きほぼ全面から分散して出土した。カマド左袖端のものと南西部のものか接合したりと比較的離れたものも接合している。ほぼ中央部に炭化物が、南西部に焼土及び炭化物が検出された。

遺存状態 南側は攪乱により壊され、北側は調査区外のため全体のプランは確認できなかった。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り?

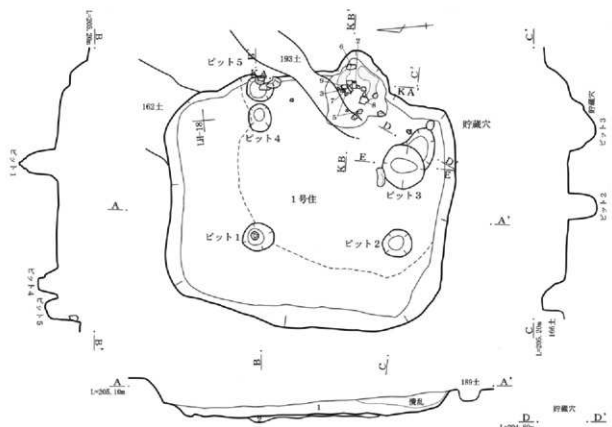
規模 全長(85cm) 最大幅105cm 焚き口幅61cm

袖 左袖の方がやや残りは良く、構築材には礫が使用されていた。



第13図 I区1面Hr-F P上遺構配置図

III 検出された遺構と遺物

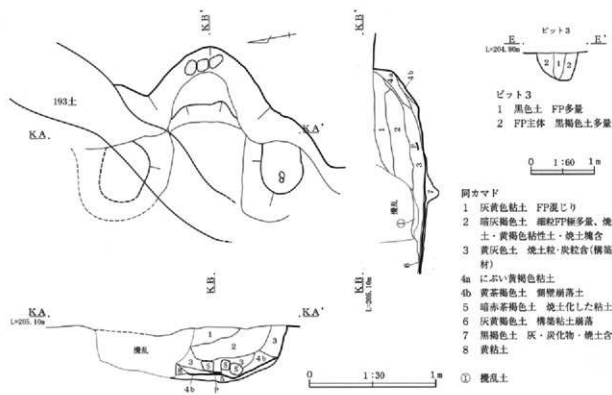


1号住居跡

- 1 におい黄褐色土 FP多量
- 2 暗褐色土 細粒FP・粘土塊混じり

貯蔵穴

- 1 黒褐色土 FP極多量、炭化物少量



ピット3

- 1 黒色土 FP多量
- 2 FP主体 黒褐色土多量

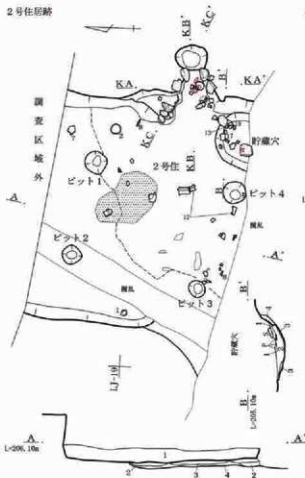
同カマド

- 1 灰黄色粘土 FP混じり
- 2 暗灰褐色土 細粒FP極多量、焼土・黄褐色粘性土・焼土塊含
- 3 黄灰色土 焼土粒・炭粒含(構築材)
- 4a におい黄褐色粘土
- 4b 黄茶褐色土 網壁崩落土
- 5 暗赤茶褐色土 焼土化した粘土
- 6 灰黄色土 構築粘土崩落
- 7 黒褐色土 灰・炭化物・焼土含
- 8 黄粘土

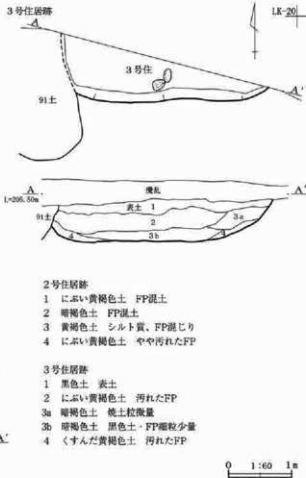
① 機瓦土

第14図 I区1面Hr-FP上1号住居跡・カマド

2号住居跡



3号住居跡



2号住居跡

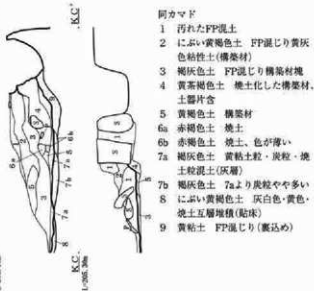
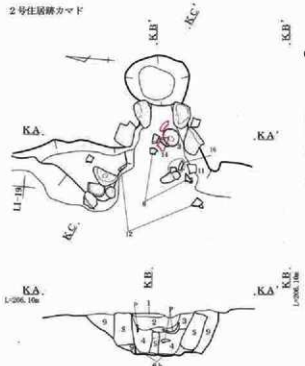
- 1 にぶい黄褐色土 FP混土
- 2 暗褐色土 FP混土
- 3 黄褐色土 シルト質、FP混じり
- 4 にぶい黄褐色土 やや汚れたFP

3号住居跡

- 1 黒色土 表土
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたFP
- 3a 暗褐色土 焼土粒微量
- 3b 暗褐色土 黒色土・FP細粒少量
- 4 くすんだ黄褐色土 汚れたFP

0 1:60 1m

2号住居跡カマド



同カマド

- 1 汚れたFP混土
- 2 にぶい黄褐色土 FP混じり黄灰色結性土(構築材)
- 3 褐色土 FP混じり構築材塊
- 4 黄褐色土 焼土化した構築材、土器片含
- 5 黄褐色土 構築材
- 6a 赤褐色土 焼土
- 6b 赤褐色土 焼土、色が薄い
- 7a 褐色土 黄粘土粒・炭粒・焼土粒混土(灰層)
- 7b 褐色土 7aより炭粒やや多い
- 8 にぶい黄褐色土 灰白色・黄色・焼土互層堆積(粘床)
- 9 黄粘土 FP混じり(裏込め)

0 1:30 1m

第15図 I区1面Hr-FP上2号住居跡・カマド、3号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

煙道 住居壁を切り込んで35cm外へ伸びる。
埋没土 上部にF P含む暗褐色土、それ以外はカマド天井等の構架材により埋没していた。
遺物出土状態 燃焼部中央より坩が、甕や羽釜破片がカマド壁付近から出土した。
遺存状態 煙道先端部は長径50cm×短径40cm×深さ28cmの小ピットに切られていたがI区の中では比較的残りは良い方であった。

3号住居跡

位置 LK-19 主軸方向 N89°E
重複 3号住居→91号土坑
規模 縦(3.2)m×横(1.10)m×深さ0.55m
形状 隅丸方形？
埋没土 F P含む暗褐色土により埋没していた。周縁部はやや黄色味を帯びる暗褐色土。自然堆積土。
掘り方 特に無し。
床面 調査部分に貼床無し。
貯蔵穴 不明。
周溝 無し。
柱穴 不明。
遺物出土状態 南壁中央部より竈2点出土。須恵器坩破片及び羽釜小破片出土。
遺存状態 西側を91号土坑に壊され、北側は調査区外でわずかな壁～西壁の一部を確認したのみであった。
カマド 不明。

4号住居跡

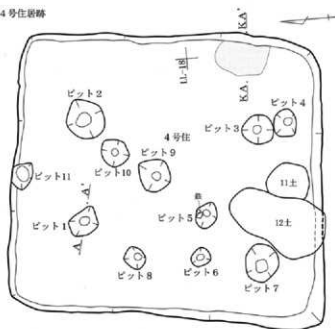
位置 LK-17・18、LL-17・18、LM-17 主軸方向 N95°E
重複 4号住居→11・12号土坑
規模 縦4.60m×横5.00m×深さ0.03m
形状 方形
埋没土 不明。ほぼ全面もしくはそれよりも下位面で確認したものであり、埋没土はなかった。
掘り方 11基の小ピットが確認された。
床面 貼り床は無く、F P層が直接床面となっていた。
貯蔵穴 カマド右脇に貯蔵穴はなく、不明。

周溝 無し。
柱穴 11基の小ピットのうちその位置・深さから、p1長径45cm×短径35cm×深さ24cm、p2長径67cm×短径60cm×深さ26cm、p3長径50cm×短径45cm×深さ22cm、p7長径60cm×短径52cm×深さ21cmと考えられる。
遺物出土状態 無し。
遺存状態 非常に残りは悪く痕跡のみ確認。11・12号土坑により切られている。
カマド 位置 東壁中央より南寄り。
規模 54cm×80cmの範囲に焼土確認。
袖 不明。 煙道 不明。
埋没土 焼土・炭化物を含むF P混じりの黒褐色～暗褐色土。

5号住居

位置 LM-16・17、LN-16・17 主軸方向 N90°E
重複 無し。
規模 縦3.65m×横(1.63)m×深さ0.23m
形状 隅丸方形。
埋没土 上層はF P含む褐色土、下層は炭化物を含むF P混じり暗褐色土により埋没していた。火災住居跡の可能性有り。
掘り方 特に無し。
床面 貼床無し、床面は直接F P層となっていた。
貯蔵穴 不明。
周溝 無し。
柱穴 p1長径38cm×短径34cm×深さ23cmが東壁寄りにあったが、柱穴か否かは確定はできなかった。
遺物出土状態 p1部分より小形環(5住-1)が出土した。
遺存状態 南側は調査区外で北側約1/3程確認。
カマド 不明。
1号掘立柱建物跡
位置 LH-16・17、LI-16・17、LJ-16・17・18、LK-17 主軸方向 N58°W
重複 2号掘立柱と重複する位置にあるが、柱穴同士の切り合いがないため不明。

4号住居跡



KΔ 1 KΔ'
L=200.50m

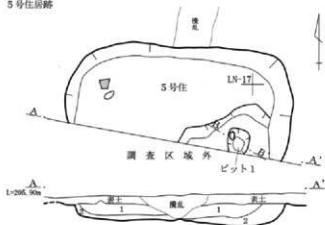
4号住居跡カマド

- 1 黒褐色土 FP多く、炭化物・焼土塊少量
- 2 暗褐色土 FP多く、焼土塊少量、粘性有
- 3 黒褐色土 FP多く含

ピット1
L=200.10m

- 同ピット1
1 黒色土 FP多く含

5号住居跡



ピット1
L=200.50m

- 同ピット1
1 黒色土 FP多く含

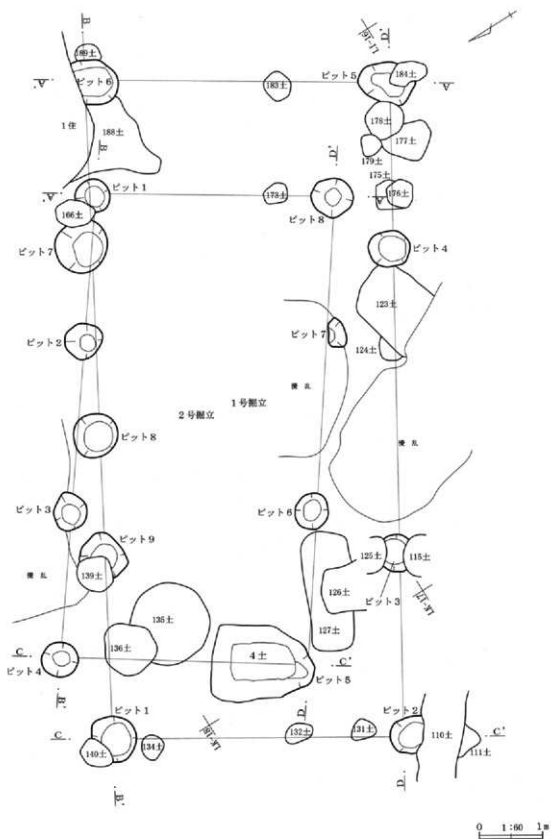
5号住居跡

- 1 くすんだ褐色土 やや汚れたFP2との間に灰層、燃やした痕跡有
- 2 暗褐色土 汚れたFP、炭化物含

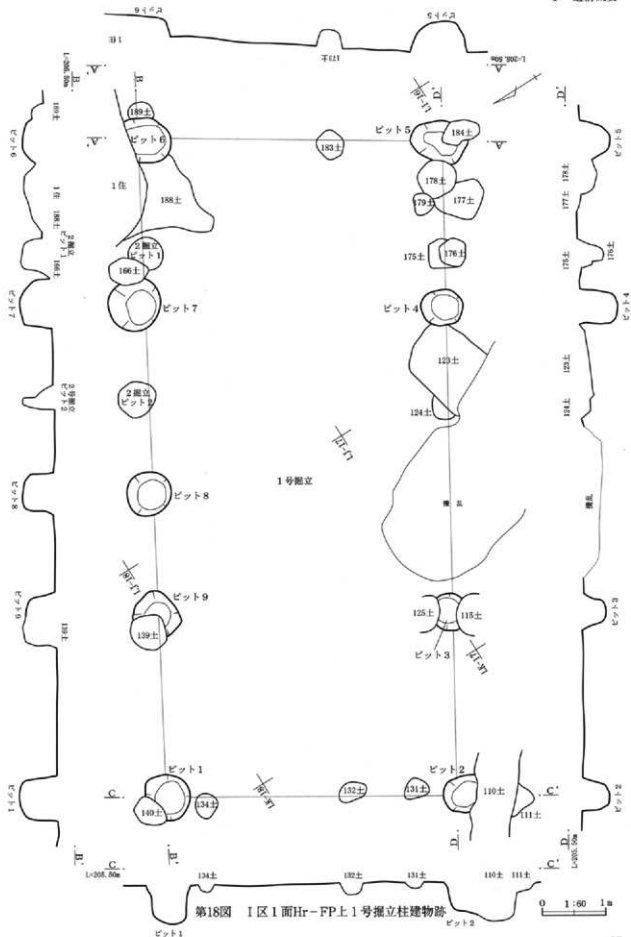
0 1:60 1m

第16図 I区1面Hr-FP上4・5号住居跡

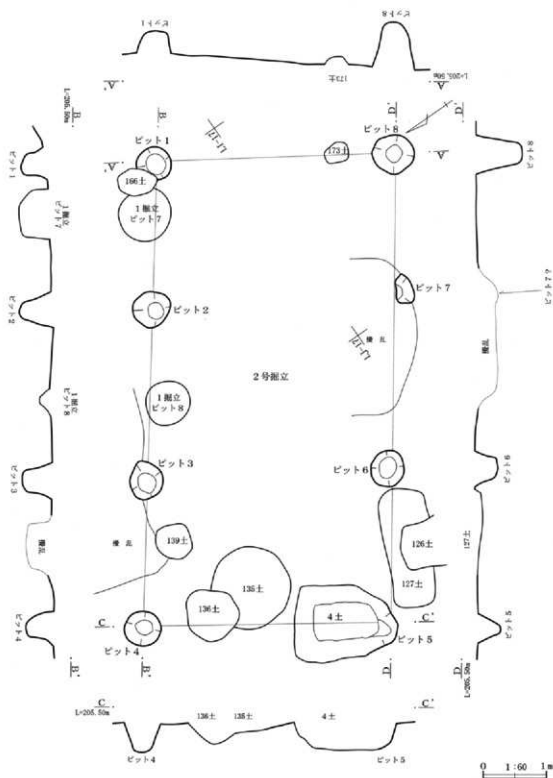
III 検出された遺構と遺物



第17図 I区1面Hr-FP土1・2号掘立柱建物跡



III 検出された遺構と遺物



第19図 I区1面Hr-FP上2号掘立柱建物跡

規模 4間(10.40m)×1間(4.75m)

形状 東西に長い長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 底部がやや丸味をもつ円形または楕円形。
他のピットは円形、四隅のp1・2・5・6は楕円形を呈する。

柱穴 p1長径75cm×短径70cm×深さ61cm、p2長径(60)cm×短径57cm×深さ45cm、p3長径58cm×短径(27)cm×深さ36cm、p4長径65cm×短径56cm×深さ57cm、p5長径91cm×短径61cm×深さ48cm、p6長径(70)cm×短径70cm×深さ31cm、p7長径85cm×短径80cm×深さ49cm、p8長径74cm×短径71cm×深さ50cm、p9長径72cm×短径63cm×深さ43cm

遺物出土状態 p1中より淨化元宝出土。

遺存状態 比較的良好。南側のp3とp4の間が攪乱により不明。それ以外は他のピットや土坑等に一部壊されていたが、検出することができた。

2号掘立柱建物跡

位置 LI-16・17、LJ-17・18 主軸方向 N55°W
重複 1号掘立柱と重複する位置にあるが、柱穴同士の切り合いがないため不明。

規模 3間(7.35m)×1間(3.82m)、西側の小ピット部分を入れると長軸8.50m。

形状 東西に長い長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 上面が広く、底面が丸味を持つ「V」字状。ほぼ円形のものが多いが、西側の小ピット3基はややゆがむ楕円形。

柱穴 p1長径65cm×短径52cm×深さ35cm、p2長径60cm×短径58cm×深さ52cm、p3長径60cm×短径52cm×深さ48cm、p4長径55cm×短径55cm×深さ46cm、p5長径60cm×短径(37)cm×深さ38cm、p6長径57cm×短径53cm×深さ37cm、p7長径(47)cm×短径(27)cm×深さ(31)cm、p8長径68cm×短径63cm×深さ73cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好。南側のp5・7を除き検出することができた。

1号土坑

位置 LM-19・20 主軸方向 N18°E

重複 86号土坑と重複するが新旧不明。

規模 長径100cm×短径81cm×深さ24cm

形状 南北に長い隅丸長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色土。

掘り方 浅い皿状。

遺物出土状態 人骨は頭を北にして顔は西側を向き、膝を折った状態で出土した。埋没土中より黒家元宝1点が出土した。

遺存状態 比較的良好ではあったが西側には、1号土坑に先行するFPを含む埋没土のφ60cm、深さ35cmの円形の土坑があった。

2号土坑

位置 LL-19 主軸方向 N35°E

重複 東側に92号土坑があるが、重複はなかった。

規模 長径110cm×短径80cm×深さ27cm

形状 南北に長い隅丸長方形。

埋没土 FPを多く含む暗褐色土

掘り方 浅い鍋底状。底面は比較的水平。

遺物出土状態 人骨は頭を北にして顔は西側を向き、膝を折った状態で出土した。首と肩付近から洪武通宝2点、政和通宝2点の計4点が出土した。

遺存状態 比較的良好。頭や足などの骨は比較的残りは良かったが、背骨や腕はほとんど残っていないかった。

3号土坑

位置 LK-18 主軸方向 N46°E

重複 北側に長径45cm×短径40cm程の小ピットが底面から検出された。

規模 長径164cm×短径120cm×深さ24cm

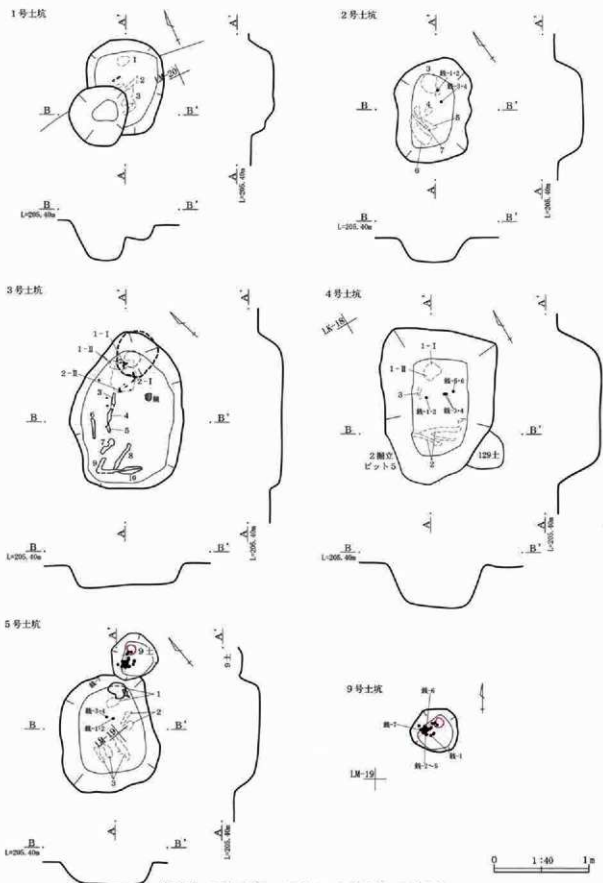
形状 南北に長い隅丸長方形。北側の小ピットの影響でその部分はゆがむ。

埋没土 FPを多く含む暗褐色土。

掘り方 浅い鍋底状。底面は比較的水平。

埋没土 FPを多く含む暗褐色土。

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第20図 I区1面Hr-FP上1~5号土坑・9号土坑

掘り方 浅い鍋底状。底面は比較的平坦。

遺物出土状態 人骨2体検出。1体は頭を北にし、顔は西側を向き、膝を折った状態で。もう1体はその西側で検出されたが、うつぶせの可能性もあるが、もう1体を入れるために動かされた可能性も否定できない。屈葬の人骨の胸に近い付近から竈に包まれた状態で鶴亀文のある小形青銅鏡が検出された。

遺存状態 比較的良好。人骨の体部は非常に残りは悪かった。

4号土坑

位置 LJ-17、LK-17 **主軸方向** N27°E

重複 129号土坑→4号土坑

規模 長径162cm×短径122cm×深さ45cm

形状 南北に長い隅丸長方形。

埋没土 FPを多く含む暗褐色土。

掘り方 やや浅めの鍋底状。底面は比較的平坦。

遺物出土状態 人骨は頭を北にし、顔は西側を向き、膝を折った状態で出土した。体部の残りは悪く、ほとんど検出できなかった。胸付近から永樂通宝、皇宋通宝、洪武通宝、元祐通宝、祥符通宝、不明銭各1点の計6点出土した。

遺存状態 比較的良好。南側はやや崩れたため変形しているが、底面は比較的しっかりした隅丸方形となっている。

5号土坑

位置 LL-18-19、LM-18-19 **主軸方向** N23°E

重複 5号土坑→9号土坑 ほぼ同時期?

規模 長径123cm×短径103cm×深さ25cm

形状 南北に長い隅丸長方形。

埋没土 FPを多く含む暗褐色土。

掘り方 浅い鍋底状。底面は比較的平坦。

遺物出土状態 人骨は頭を北にし、顔は西側を向き、膝を折った状態で検出された。胸の付近より永樂通宝3点、洪武通宝1点の計4点が出土した。

遺存状態 比較的良好。まわりは多少崩れており、その分長方形がやや変形しているものと思われる。

人骨体部は残りは悪く、ほとんど検出できなかった。

9号土坑

位置 LL-19 **主軸方向** N2°E

重複 5号土坑→9号土坑 ほぼ同時期?

規模 長径50cm×短径48cm×深さ11cm

形状 ほぼ円形。

埋没土 FPを多く含む暗褐色土。

掘り方 浅い鍋底状。底面は比較的平坦。

遺物出土状態 人骨は5号土坑よりも残りは悪いが、やはり頭を北にし、顔を西側に向け、膝を折った状態で検出された。胸の付近より聖宋元宝、永樂通宝、太平通宝、祥符通宝、至和元宝各1点及び破片2点の計7点が出土した。

遺存状態 比較的良好。南側の5号土坑を切る形で検出されたが、本土坑の人骨は小さく、子供の可能性がある。9号土坑は銭の種類が多く、古いものが多いが、両土坑とも永樂通宝が出土しており、2つの土坑はほぼ同時期の可能性も考えられる。

第2面F P下

F P下水田

東側の白地傾斜地部分、吹屋三角遺跡寄りで確認された。東西の軸長1m前後の極小区画水田跡であった。整った方形・長方形区画が連続し、当時の当該地域の水田風景を想像することができるものである。

極めて良好な遺存状態であり、畦畔は10cm前後の明瞭な高まりとして認識でき、工具痕が残っていた。水田区画、水口の特定、田面の観察等も行うことができた。

畦畔は縦畦・横畦からなる。大畦は本調査区では確認できなかった。縦畦はN38°Wの傾きを持った南北の走好方向で確認された。この傾きは地形傾斜に沿ったものと考えられる。横畦は、縦畦間を繋ぐ小規模な畦であり、多少その場所により傾きがあるものの、ほぼ直行するものであった。縦畦よりもやや低く、中間に水口が設けられていた。水口は畦の中央よりもやや西寄り設けられているものが多かった。畦には工具痕が良く残っていたことからクロヅリはしていないことが伺える。水田面に明瞭な土塊

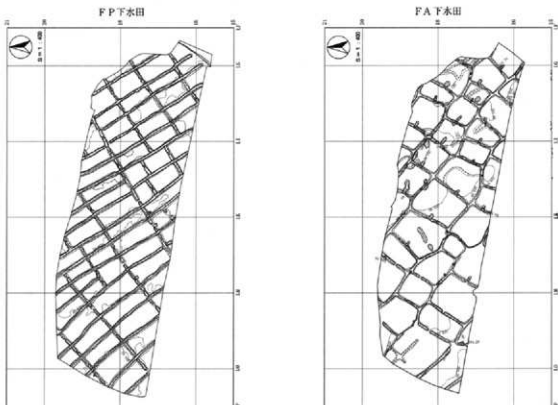
はなく、やや凹凸のある程度であり、耕起が終了し、水を掛けたと考えられる。

第4面F A下

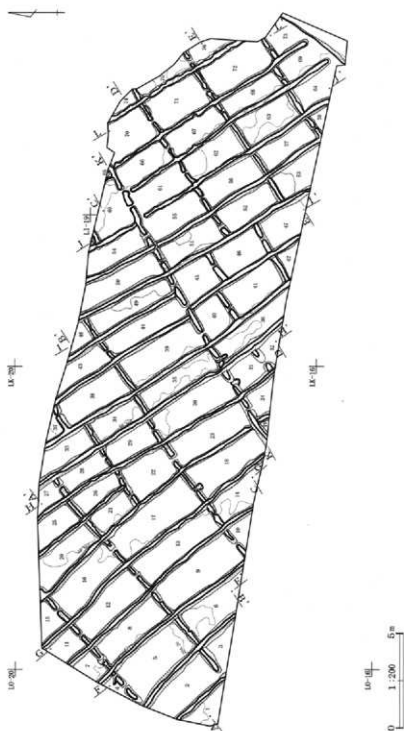
F A下水田

F P下水田の下から検出された。東西の軸長約4～7mの方形もしくは長方形の小区画水田跡であった。F P下が整った方形・長方形であったのと対象的で、規模がひとまわり大きく、ややゆがむものが多かった。この間約30年間と言われているが、その間にこれだけの変化があることは農業技術の進歩とともに行政的な大きな力が働いたことが伺える。

また、遺存状態もF P下に比べるとあまり良好とは言えず、畦畔は数cm～2・3cm程度の高まりとして認識でき、全体に平坦につぶれた感じで表面に工具痕はなく、畦畔を作ってから時間が経過しているものと思われる。また、水田面には無数のヒビ割れがあり、そのヒビの中にF Aが落ち込んでおり、堆積時点でヒビ割れがあった状態であったと考えられる。水田面のヒビ割れは水が入った後に一時的に水

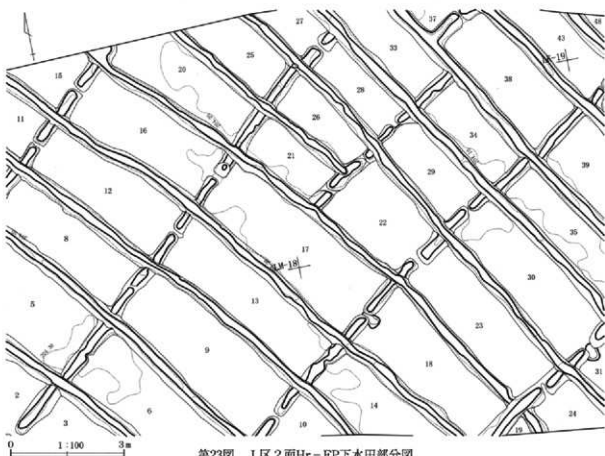
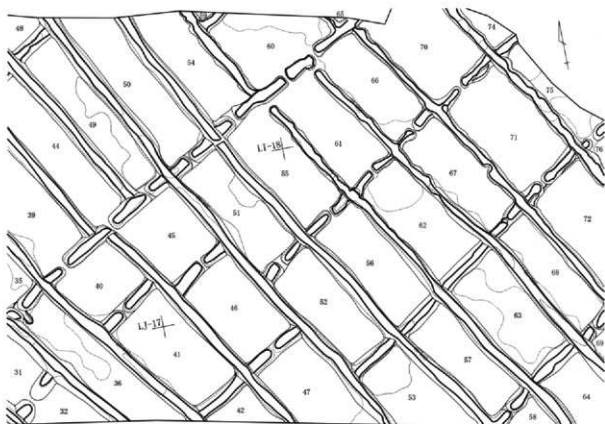


第21図 I区2面Hr-F P下・4面F A下水田対比図

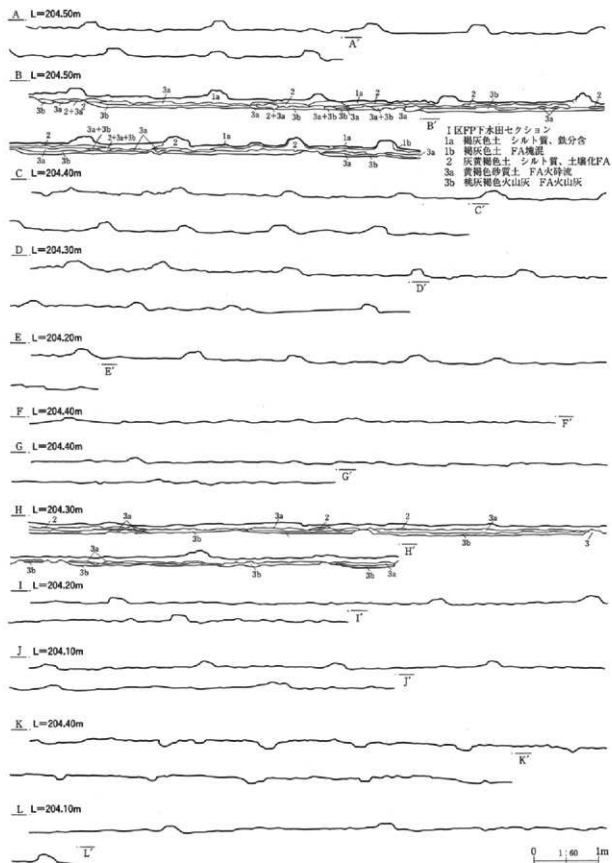


第22図 1区2面Hr-PP下水田全体図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

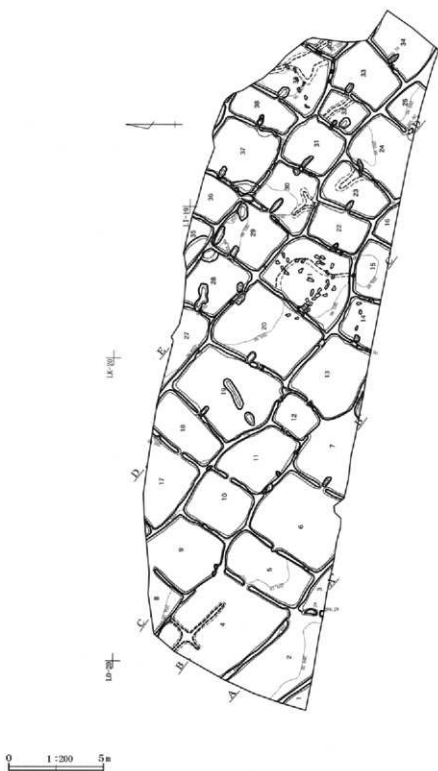


第23图 1区2面Hr-FPP下水田部分图

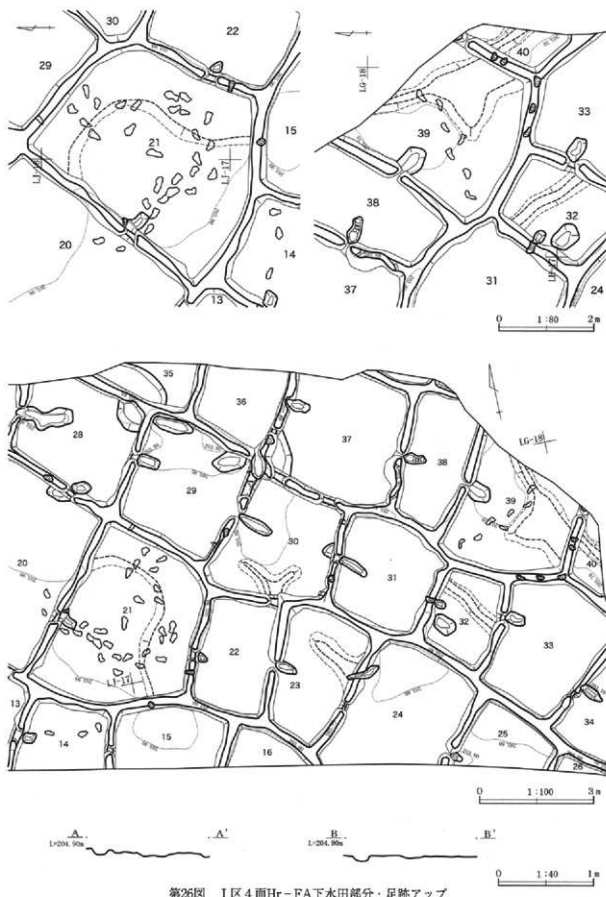


第24図 I区2面Hr-PP下水田セクション・エレベーション図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

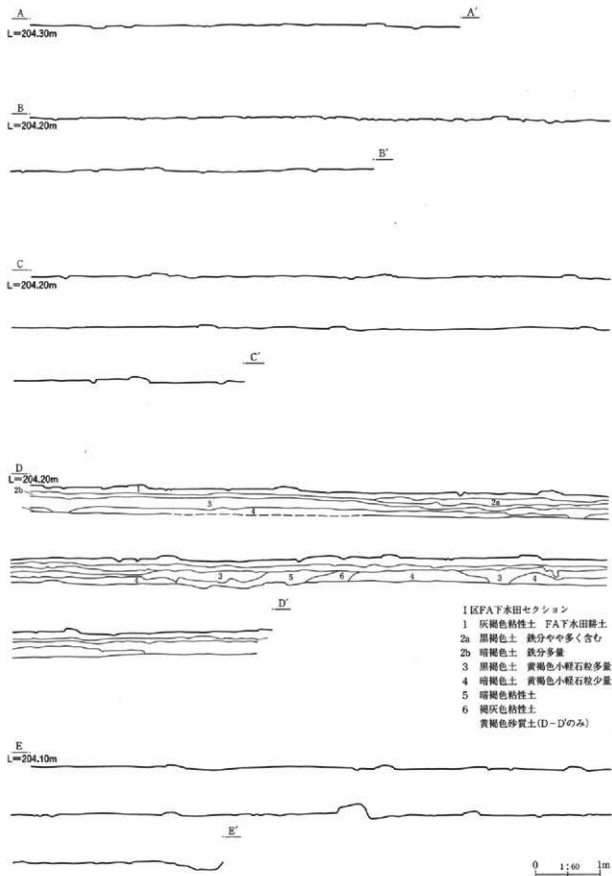


第25图 1区4面Hr-FA下水田全体图



第26図 I区4面Hr-FA下水田部分・足跡アップ

III 検出された遺構と遺物



第27図 I区4面Hr-FA下水田セクション・エレベーション図

がひいて乾いたからと想定される。

畦畔は縦畦・横畦からなり、大畦は本調査区では確認できなかった。縦畦はN51°Wの傾きを持った南北の走行方向で検出された。この傾きは地形傾斜に沿ったものと考えられ、地形に沿わせるためカーブする部分もあった。横畦は、縦畦間を繋ぐ低いものであり、多少傾きのある場所もあるがほぼ直交するものであった。水口は横畦のほぼ中央に設置されていた。このようにF P下とF A下では両者とも小区画であり、走行方向などが類似するものの1枚の水田の面積や形状、水口の位置などで違いが見受けられた。

第5面F A下黒

214号土坑

位置 LK・LJ-19 主軸方向 N6°W

重複 無し。

規模 長径(100)cm×短径(40)cm×深さ76cm

形状 ややゆがむ円形？

埋没土 炭化物及び円礫を含む黒褐色土、周辺部はやや色調が明るい。炭化物や円礫が多く人為的な埋め戻しが行われた可能性がある。

掘り方 深い鍋底状、東側側縁はオーバーハングする。

遺物出土状態 多くの円礫が出土したが、使用痕のある石器は出土しなかった。土器の出土もなかったが、埋没土層より縄文時代のもので推定した。

遺存状態 比較的良好。北側は調査区外で1/2程度調査したが、全体の形状は確認できなかった。

215号土坑

位置 LF-16 主軸方向 N42°E

重複 無し。

規模 長径130cm×短径118cm×深さ65cm

形状 南東部がやや張り出す円形。

埋没土 円礫を多量に含む黒褐色土、周辺部は色調が明るい。円礫が多く含まれ、人為的な埋め戻しが行われた可能性がある。

掘り方 やや深い鍋底状。南側一部がわずかにオーバーハングする。

遺物出土状態 埋没土より多量の円礫が出土したが、磨面や敲打痕を有するものは第386図215土S-1及びS-2の2点のみであった。土器の出土はなかったが、埋没土の状況から縄文時代のもので想定される。

遺存状態 比較的良好。底面には礫層が顔をのぞかせており、礫層部分で掘るのを止めたものと思われる。

217号土坑

位置 LH-17 主軸方向 N84°W

重複 無し。

規模 長径95cm×短径85cm×深さ45cm

形状 ほぼ円形。一部南側がオーバーハングする部分で平面形もゆがむ。

埋没土 小礫を含む黒色土、周辺部は褐色土小ブロックを含む黒褐色土。215・216号土坑に比べ全体にやや色調は暗い。

掘り方 鍋底状。一部南側がオーバーハングする。

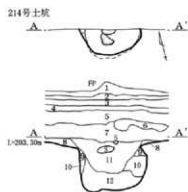
遺物出土状態 埋没土中より礫は出土したが、使用痕のある石器は確認できなかった。土器は出土しなかったが、埋没土の状況から縄文時代のもので想定した。

遺存状態 比較的良好。

第6面 草創期礫層直上

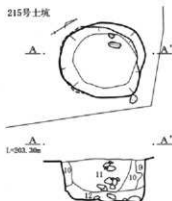
石器1点を除き18ラインより北側からすべての遺物が出土した。いずれも基盤の礫層直上の灰黄褐色粘性土中より出土した。LI-18、LJ-18、LK-18の3グリッドにややまとまりがみられるものの、それ以外のグリッドからも出土しており、特別な集中箇所等は認められなかった。しかし、北側には西→東に走行する旧河道があり、その縁に沿って点々と分布しているようである。これは当時の人々の生業と深い関わりがあるものと考えられる。例えば秋のサケの収穫期などに一時的に集まって魚撈を行うようなことも考慮する必要がある。

III 検出された遺構と遺物



214号土坑

- 1 赤灰色土 鉄分多く含(FP下水田耕土)
- 2 FA細粒灰・火砕流純層
- 3 黒色土 黄褐色小粒石粒子少量、粘性有(FP下水田耕土)
- 4 黒色土 鉄分多く、黄褐色小粒石粒子や多く含 しまりは弱い
- 5 黒色土 黄褐色小粒石粒子多量、炭化物少量、しまりは弱い
- 6 黒褐色土 褐色砂多く、黒色土塊少量、しまりは悪い
- 7 黒褐色土 焼土粒少量、炭化物粒子微量
- 8 黒褐色土 単一的 しまりは良い。
- 9 褐色土 暗褐色土少量、粘性有
- 10 暗褐色土 褐色土塊多量、粘性有
- 11 黒褐色土 礫・炭化物片含
- 12 黒褐色土 褐色土塊・炭化物片や多く、粘性有(湧水層)



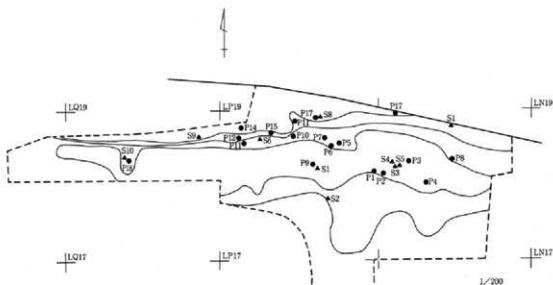
215号土坑

- 9 214土坑9に類似 暗褐色土やや多い
- 10 214土坑10に類似
- 11 214土坑11に類似 10~20cm礫多く含
- 12 214土坑12に類似 10~20cm礫少量



217号土坑

- 1 黒色土 白色微細粒子微量、単一的
- 2 黒色土 礫、褐色土塊僅か含
- 3 黒褐色土 褐色土小塊少量、粘性有
- 4 黒褐色土 褐色土塊滑湿を多く、黄色味を帯びる、粘性有
- 5 黒褐色土 3よりも黒味が濃、粘性あり



第28図 I区5面FA下黒色土214・215・217土坑・6面草創期礫層直上遺物分布図

II 区で検出された遺構

第1面F P上

1号住居跡

位置 LQ-19・20, LR-19・20 主軸方向 N87°E

重複 56号土坑→1号住居→59号土坑

規模 縦3.37m×横4.00m×深さ0.50m

形状 隅丸方形。

埋没土 F Pを多量に含む黒褐色土、下層の方がF Pの量は多い。

掘り方 カマド右袖側に長径60cm×短径45cm×深さ8cmの浅い凹みがあるが、他にはカマド前の貼床部分がわずかに下がっただけである。

床面 カマド手前から西壁側にかけて厚さ1.2～5cm程焼土・炭化物及び黄褐色粘性土を含む黒褐色土により埋めかためられており、硬くしまっていた。

貯蔵穴 北東部に長径73cm×短径64cm×深さ27cmのp1があり、貯蔵穴の可能性はある。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド周辺、カマド手前の貼床部分及び南東部付近より須恵器の破片が散在する形で出土した。貼床西側部分では炭化材が出土した。

遺存状態 南東コーナーを59号土坑に切られていたが、比較的良好。

カマド 位置 東壁中央

規模 全長102cm 最大幅80cm 焚き口幅38cm

袖 手前に明確に張り出す袖はなかったが、自然礫が使用されていた。

煙道 住居壁を切り込んで東側に15cm程延びるが、外に大きく張り出すものではなかった。

埋没土 焼土を多量に含む黒褐色土により埋没しており、その土には天井部分の崩落土が多く含まれているものと思われる。

遺物出土状態 カマドの構築材には自然礫と須恵器の破片などが使用されていたものと思われ、カマド右後側、手前、燃焼部などから多くの破片が出土している。

遺存状態 天井は崩落しており残っていなかったが、燃焼部側壁と奥壁側の石は残っており、焼けていた。礫を取り除いた下がわずかに凹むが、特別な掘り方等はなかった。

2号住居跡

位置 LS-18・19 主軸方向 N93°E

重複 無し。

規模 縦2.85m×横3.15m×深さ0.30m

形状 方形？

埋没土 自然堆積土。F Pを多量に含む黒色土。

掘り方 無し。

床面 貼床無し。中央から南西部にかけて小ピット有り。新旧の切り合いは不明。

貯蔵穴 不明。カマド手前南壁前に長径59cm×短径54cm×深さ8cmの小ピット有り。

周溝 有り。幅20cm、深さ2～4cmで東壁中央～南壁中央まで巡る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 埋没土中より須恵器破片と羽釜口縁部破片が出土した。

遺存状態 不良。非常に浅い。

カマド 位置 東壁南コーナー

規模 全長(140)cm 最大幅(175)cm 焚き口幅(115)cm

袖 左袖部分に64cm×50cmの平坦な礫があったが、右袖部分は不明。

煙道 住居壁を切り込んで29cm外へ延びる。

埋没土 炭化物を多く含む黒色土により埋没していたが、底面に約5cm程貼り付いていた程度であった。

遺物出土状態 無し。左袖の平坦礫のみ。

遺存状態 非常に悪く、ほとんど残っていなかった。痕跡を確認したのみであった。

3号住居跡

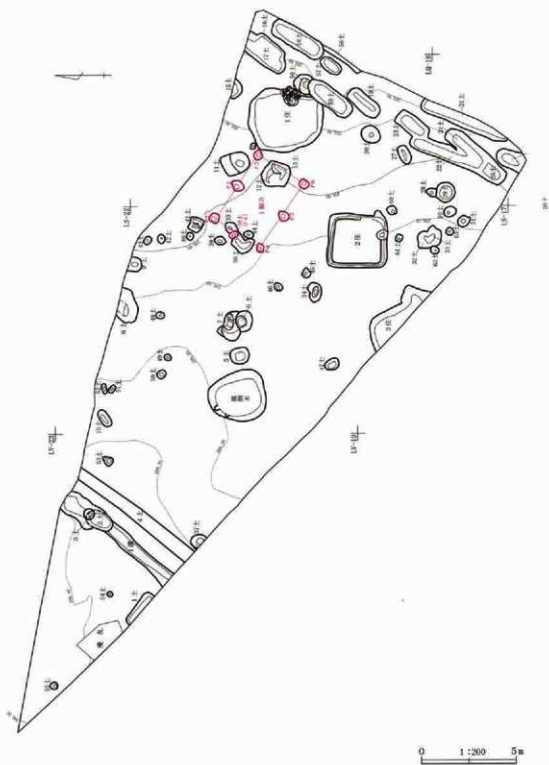
位置 LT-18 主軸方向 N66°E

重複 無し。

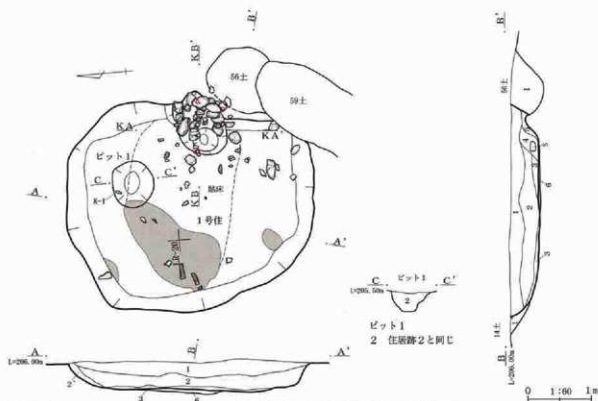
規模 縦(1.45)m×横(3.75)m×深さ0.76m

形状 方形？

III 検出された遺構と遺物



第29図 II区1面Hr-FP上遺構配置図



1号住居跡

1 黒褐色土 FPI/2含、しまりは悪い

1' 黒色土 1よりもやや暗い

2 黒褐色土 FP2/3含、しまりは悪い

2' 黒褐色土 1よりもやや暗い、1よりもFPは少ない

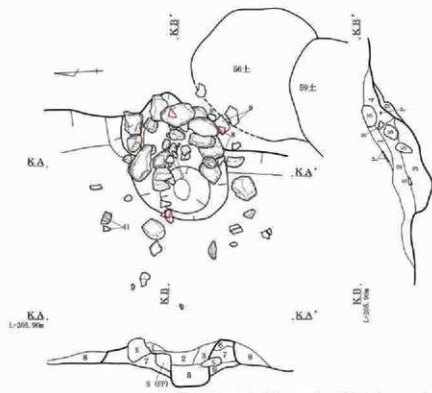
3 黒褐色土 FPI/3含、炭化物多量、1よりも黒い

4 黒褐色土 1よりもやや明るい、炭化物少量

5 暗褐色土 4よりも赤味が強、焼土含

6 黒褐色土 黄粘土及び焼土塊・砂子多量、しまりは良い(貼床)

1 黒褐色土 1よりもFPはやや少ない、1より暗く、3よりも明るい、しまりは悪い



カマド

1 黒色土 FP・焼土少量、しまりは弱いは弱い

2 黒褐色土 焼土多量、FP少量、1よりしまりは良い

3 黒色土 FPI/2弱含、焼土少量、底面赤変

4 黒色土 FP少量、しまりは弱い(煙道部分)

5 黒褐色土 2よりも多くの焼土含、やや粘性有

6 暗赤褐色土 粘性土の焼土塊、しまりは良い

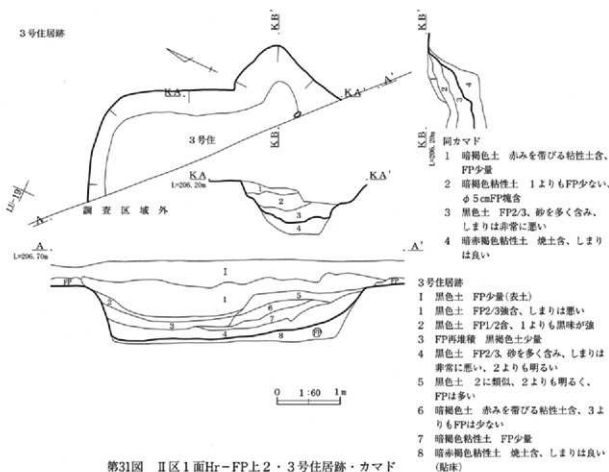
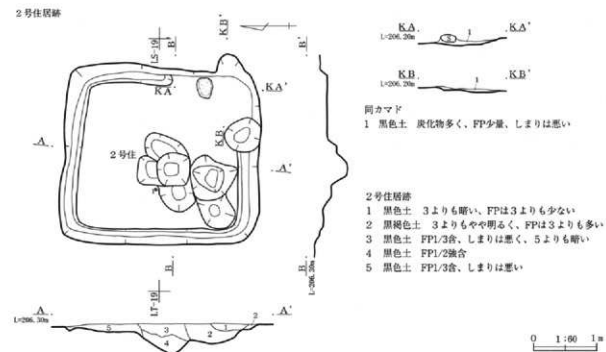
7 暗褐色土 φ3cmFP少量、やや粘性有、6よりしまりは弱い

8 黒色土 1に類似、焼土粒少量、しまりは悪い

9 暗赤褐色土 焼けた粘性土

第30図 Ⅱ区1面Hr-FP上1号住居跡・カマド

III 検出された遺構と遺物



第31図 II区1面Hr-FP上2・3号住居跡・カマド

埋没土 FPを多く含む黒色土により埋没していたが、下層には砂が含まれていた。

掘り方 床下土坑・ピット類は無く、貼床部分が5～15cm程度下がっただけであった。

床面 貼床有り。暗赤褐色粘性土。確認した部分はほぼすべて硬くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 カマド周辺より土師器破片等がわずかに出土した。

遺存状態 カマド周辺から北壁の一部を確認したのみであり、2/3以上が調査区外であった。

カマド 位置 東壁南寄り

規模 全長(115)cm最大幅(160)cm、焚き口幅(54)cm
袖 右袖は粘性土により構築されていたが、左袖はほとんど残っていなかった。

煙道 住居壁を切り込んで55cm外へ延びる。

埋没土 上層は暗赤褐色粘性土を含む暗褐色土、下層はFP及び砂を含む黒色土。

遺物出土状態 土師器製小破片等がわずかに出土した。

遺存状態 比較的良好。1号住居跡カマドのように石は使用されず、粘性土により構築されていた。

1号掘立柱建物跡

位置 LR-19・20, LS-19・20 主軸方向 N55°W

重複 p7は35・36号土坑と、p8は12・13号土坑と重複、新旧不明。

規模 2間(4.20m)×2間(2.90m)

形状 東西に長い長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 平面形は方形もしくは楕円形、断面は底面丸底。p7とp8は浅く、重複もあり不明瞭。

柱穴 p1長径50cm×短径50cm×深さ47cm方形、p2長径75cm×短径54cm×深さ49cm楕円形、p3長径45cm×短径45cm×深さ41cm方形、p4長径40cm×短径37cm×深さ42cm方形、p5長径50cm×短径50cm×深

さ50cm楕円形、p6長径50cm×短径45cm×深さ42cm方形、p7長径47cm×短径30cm×深さ44cm楕円形、p8長径75cm×短径60cm×深さ35cm楕円形

遺物出土状態 無し。p7上面より礫2点出土。

遺存状態 p7・8以外は比較的良好。それぞれの柱穴は地山がFPのため多少の崩れはあるものの、本来はほぼ方形もしくは隅丸方形を呈するものと思われる。

2号土坑

位置 LW-22 主軸方向 N35°E

重複 2号土坑→3号土坑

規模 長径(111)cm×短径(101)cm×深さ36cm

形状 南北に長い楕円形。

埋没土 FPを多く含む黒色～黒褐色土、下層の方がFPの量は多く、しまりは悪い。

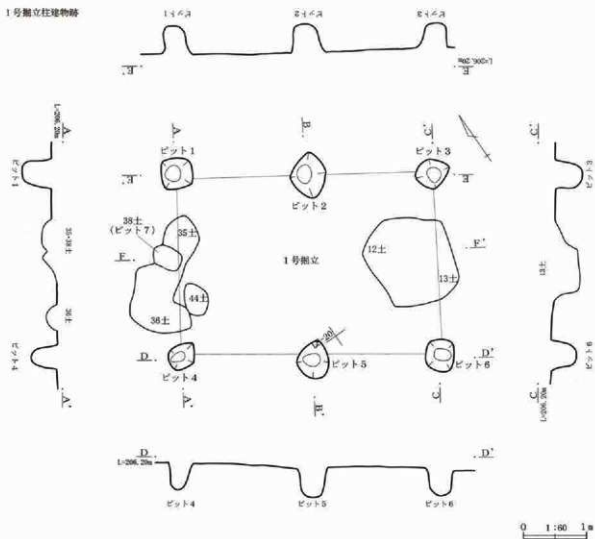
掘り方 底面は比較的水平で鍋底状。

遺物出土状態 人骨は頭を北にして、顔は西側を向き、膝を折った状態で出土した。体部の骨はほとんど残っていなかった。埋没土中より銭の出土はなかった。

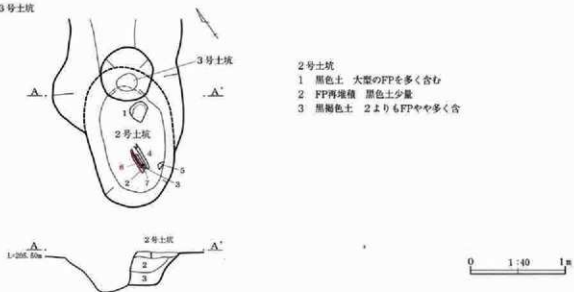
遺存状態 北側を3号土坑に切られていたが、比較的良好。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

1号掘立柱建物跡



2・3号土坑



第32図 Ⅱ区1面Hr-FP上1号掘立柱建物跡、2・3号土坑

第2面FPP

FPP下水田

Ⅱ区東側のⅠ区に連続する部分で検出された。Ⅱ区では水田の西限が確認された。東西の軸長1~1.5m前後の極小区画水田跡であった。比較的整った長方形区画が連続し、正方形区画はなく、ややⅠ区とは違った様相を呈する。

極めて良好な遺存状態であり、畦畔は10cm前後の明瞭な高まりとして認識できた。Ⅰ区ほどではないが、工具痕は比較的明瞭に残っていた。

畦畔は縦畦・横畦からなる。大畦は畠との境の2号溝西側で高い盛土が確認されただけで、水田内を区画するものはなかった。縦畦はN34°Wの傾きを持った南北の走行方向で確認された。この傾きはほぼ地形の傾斜に沿ったものであるが、水田側を削り、西の畠側に盛ったこともわかった。東西方向の横畦は、縦畦間を繋ぐ小規模な畦であり、ほぼ直交する。縦畦よりもやや低く、水口は西側の畦寄りに設けられていた。横畦がない部分もあった。北から南に行くに従って、区画の区切りが短くなる傾向が見受け

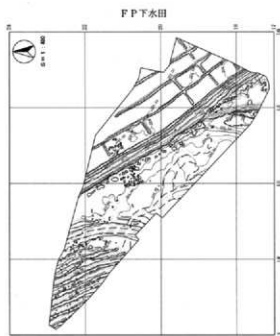
られた。畦には工具痕が残っており、クロ塗りはしていないことが伺える。水田面に明瞭な土塊はなくやや凹凸のある程度であり、耕起が終了し水を掛けたと考えられる。

2号溝

水田西限に沿って検出された。水田の取排水用と考えられるが、直接水田に連続する水口はⅡ区では確認できなかった。底面には薄く砂が堆積していた部分もあり、水が流れたことがわかる。また、底をさらった土を西側に返したようで、非常に柔らかい土塊が連続していた。指で押すと指が差し込まれる程の柔らかさを持っており、まだ盛り上げて間もない感じが見て取れた。水田に水を掛けるために水路の底をさらったばかりの状況が伺える。

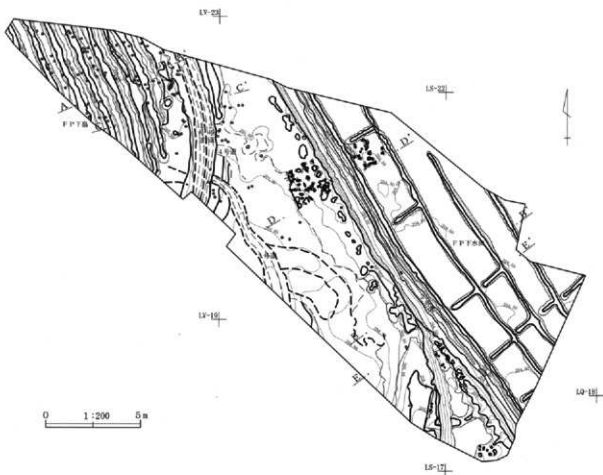
FPP下畠跡

Ⅱ区西端で1・2号遺状遺構に近接して調査した「長サク状畠跡」である。同じ353号線「中郷恵久保遺跡」にならない、サクが長い長サク状畠跡と呼



第33図 Ⅱ区2面Hr-FPP・4面FA下水田対比図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



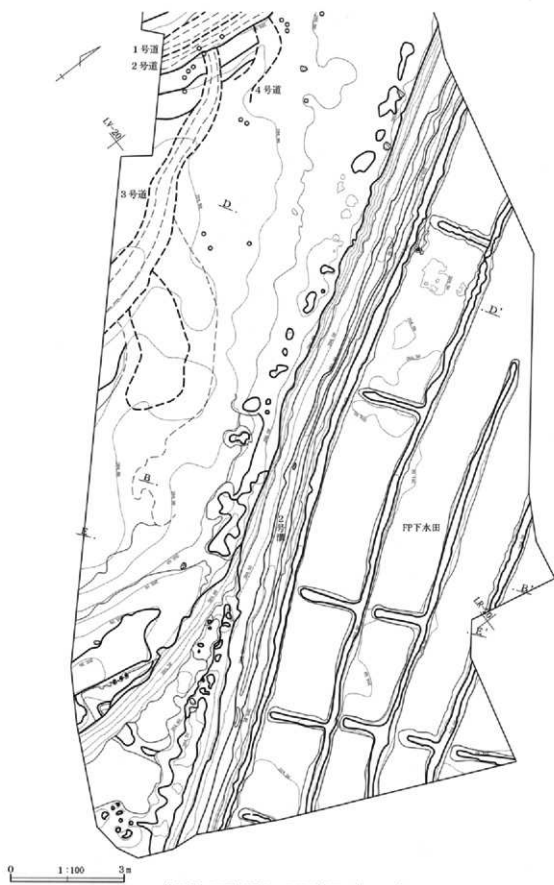
第34図 Ⅱ区2画Hr-PP下水田・畠全体図

称することとした。田面よりも一段高い部分に営まれた畠跡である。Ⅲ区東側で検出された畠跡に連続するものと考えられる。サク間の距離は約1m前後であり、F A上で確認した状況では畠の下と畠間に50cm間隔で痕跡が確認された。馬の足跡が多く検出され、畠の上を馬が歩いているので、当時作物は植えていなかったと考えられる。

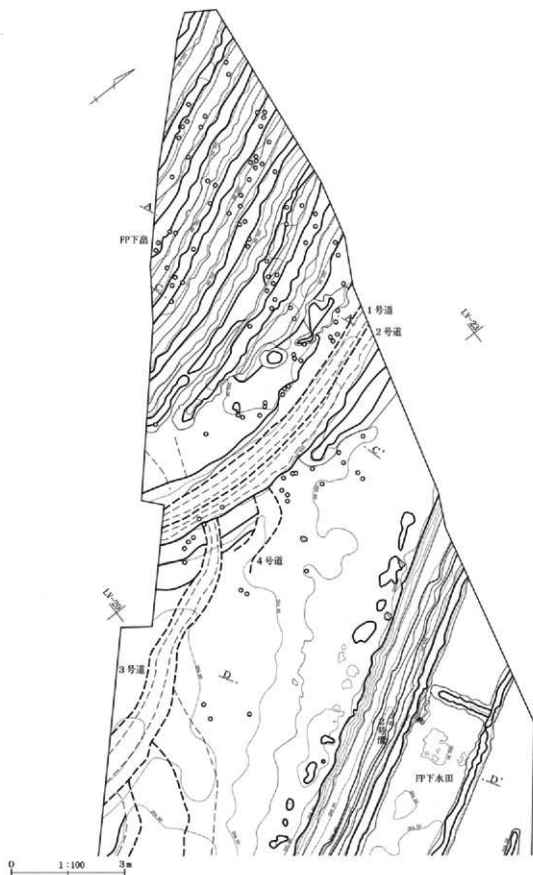
1号・2号道状遺構

長サク状畠の東側で南北の走行を持って検出された。直線的と言うよりもややカーブしており、畠東側を取り巻くような位置に連続するものと思われる。1号道状遺構は幅約1m、2号道状遺構は幅0.5mで両者は平行しており、一体のものとして捉えること

ができる。浅い溝状に僅かな窪みを有し、まわりに比べて鉄分が多く茶褐色を呈し、底面は硬くしまっていた。



第35図 II区2面Hr-FP下水田・畠アップ

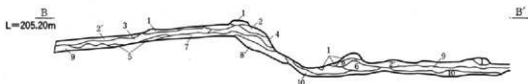


第36図 II区2面Hr-FP下水田・高アツプ



FPP下下部 東西セクション

- 1 暗褐色土 FPP下晶粘土 FP細粒混在、しまり悪い
- 2 暗褐色土 晶粘土下面、耕作機確認、FA塊少量含、軟質
- 3 黄灰色土 FA純層、凹に堆積
- 4 黒褐色土 FPP下晶粘土、粘性強



FPP下下部 南北セクション

- 1 暗褐色土 土塊、水田畦畔は灰褐色土、FP細粒混在、しまり悪い
- 2 暗褐色土 FPP直下面、炭化物含、しまり有、粘性強
- 2' 灰褐色土 水田面
- 3 黒褐色土 やや明るい、黒色土塊主体、炭化物含、しまりやや有、粘性強
- 4 黒褐色土 黒色土塊・FA小塊主体、炭化物少量、しまりやや有、粘性強
- 5 暗褐色土 FA小塊多く、粘性弱く、しまり悪い
- 6 褐灰色土 FA塊多く、粘性弱く、しまり悪い
- 7 黒褐色土 FA粒少量、粘性強
- 8 黒褐色土 比較的均質、地山に近似
- 9 黄灰色土 FA純層 砂質
- 10 黄灰色土 FA純層 シルト質



第37図 II区2面Hr-FPP下水田・晶セクション・エレベーション図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

第4面F A下

FA下水田

Ⅱ区東側のⅠ区に連続する部分で検出された。Ⅱ区では水田の西限が確認された。東西の軸長1~2.5m前後の小区画水田跡であった。比較的整った長方形区画が連続し、正方形区画や不定形区画はなく、ややⅠ区とは違った様相を呈する。

比較的良好的な遺存状態であり、畦畔はF Pに比べると丸味を帯びて低い。工具痕はまったく確認できなかった。

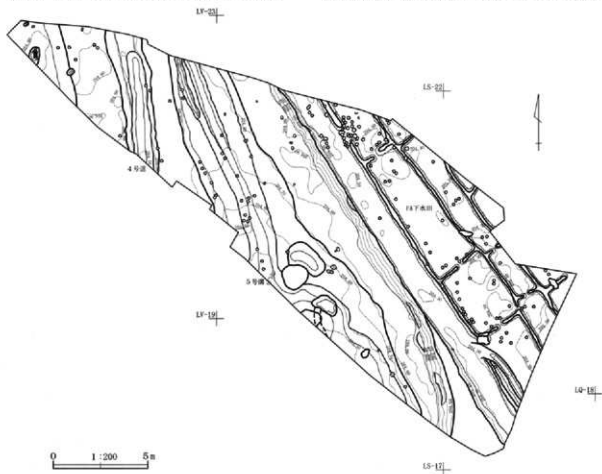
畦畔は縦畦・横畦からなり、大畦は水田内を区画するものはなかった。縦畦はN31°Wの傾きを持った南北の走行方向で確認された。この傾きはほぼ地形の傾斜に沿ったものであるが、水田側を割り西側に盛ったこともわかった。東西方向の横畦は、縦畦間を繋ぐ小規模な畦であり、ほぼ直交する。縦畦よりも低く、F P下と違い水口はほぼ中央に設けられて

いた。南東側では区画の幅や長さが短いものが見受けられた。畦はF P下とほぼ重なる部分もあるが、必ずしもそうでない部分もあった。F P下のように畦に工具痕はなく、田面もかなり平坦であり、畦畔を作ってからかなり時間が経過しているものと思われる。また馬の足跡も多数確認できたことから、水田に稲は植えられていなかったものと考えられる。

水田西脇には幅120cm程の細長い区画があり、横畦による区切りはなく、北西端では縦畦が切れている部分があり、取排水溝と考えられる。

5・6号道状遺構

水田西側の高台部分で南北の走行方向で2条検出された。調査時には4号溝、5号溝としたものである。浅い溝状ではあるが、底面はやや茶色味を帯び、まわりに比べてやや硬くしまっており溝とするよりも道状遺構とした方がよいであろう。5号道状遺構

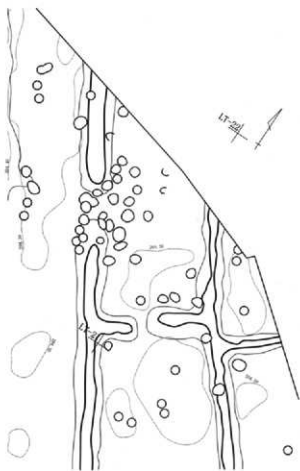


第38図 Ⅱ区4面Hr-FA下水田・道路状遺構



第39図 II区4面Hr-FA下水田アップ

Ⅲ 検出された道構と遺物



第40図 Ⅱ区2面Hr-FA下水田足跡アップ

は幅約1.5m、6号道状遺構は3.5mで、前者は畝の下で検出されたものであるが、後者はF P下の1・2号道状遺構と重複する部分があった。数は多くはないが、馬の足跡が確認された。

水田と道状遺構の間の一段高い部分にはF P下と同様に特に何も無い空白部分があり、LT-18・19グリッド部分でまわりに比べて凹んでいた。



Ⅱ区Hr-FPF作業風景

第5面FA下黒

FA下黒グリッド出土遺物分布状況

II区では、FAより下の黒色～黒褐色土において多量の石器・土器等が出土した。縄文時代から古墳時代5世紀代まで長い時間幅を持つ遺物が混在して検出された。調査区東側の水田部分は、元々あった土が開田時点で削平されて西側部分に盛り上げられており、本来の地形に改変を加えた際に遺物もかなり動いているものと思われる。例外的にLR-18グリッドの北東部の集中箇所を除けば、実際に水田下部分からの遺物量は圧倒的に少ない。多くの遺物の出土した西半部分の中でもいくつかのグリッドに集中箇所がある。LS-18、LT-19、LU-20、LT-21～LU-21、LW-21・22グリッドである。下に5号住居跡が確認できたLU-19・20グリッドは必ずしもグリッド上げた遺物は多くなかった。LS-18、LT-18・19グリッドからは弥生土器が多く、特にLS-18グリッドからは小形の勾玉やガラス玉も出土しておりその下で確認した6号住居跡との関連がある可能性が考えられるが、それ以外に土坑等があった可能性も否定できない。LR-19杭西の3号遺物集中だけは弥生土器が出土したが、他の場所はすべて古墳時代5世紀代のものであった。

4号住居跡

位置 LW-22、LX-22 主軸方向 N53°E

重複 11号住居→4号住居、14号住居→4号住居

規模 縦(3.40)m×横(2.10)m×深さ0.15m

形状 不明。隅丸方形?

埋没土 黄褐色小軽石粒を含む黒色土、地山に比べしまりはやや弱い。

掘り方 床下土坑・ピット等は特に無し。

床面 厚さ1～2cm程度の極めて薄い貼床がなされていたが、周辺にはなかった。

貯蔵穴 特に無し。

周溝 幅11cm、深さ6cmで東壁部分に巡る。

柱穴 p1長径25cm×短径23cm×深さ43cm。正方形。主柱穴の一つ。p2長径18cm×短径13cm×深さ9cm。

p3長径40cm×短径25cm×深さ8cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。北東コーナー付近から東壁の一部を確認したのみであった。底面までも非常に浅く、周溝を追いかけることでプランを確認した。

5号住居跡

位置 LT-19・20、LV-19・20 主軸方向 N2°W

重複 7・8・9・15号住居→5号住居

規模 縦5.30m×横4.54m×深さ0.09m

形状 方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒を多量に含む黒色土、地山に比べしまりは悪い。

掘り方 東壁～p1～p2～東壁に「コ」の字状間仕切り溝有り。p3・p4とともに掘り方で確認したものであるが、本来生活面に入れるべきものかもしれない。

床面 ほぼ全面白色粘土と黄褐色粘性土を含む黒色土により貼床がなされており、硬くしまっていた。特に北壁中央から東壁中央にかけては白色粘土の割合が多かった。

貯蔵穴 北東コーナーに長径72cm×短径62cm×深さ34cmの楕円形土坑、北壁中央に長径60cm×短径50cm×深さ16cmの楕円形土坑あり。

周溝 幅10cm、深さ約5cmで東壁～北壁に巡る。

柱穴p1長径38cm×短径38cm×深さ30cm、p2長径33cm×短径20cm×深さ26cm、p3長径41cm×短径32cm×深さ45cm、p4長径28cm×短径26cm×深さ36cm

遺物出土状態 ほぼ全体から多量の遺物が出土した。特に北東コーナー、東壁南寄り部分、炉跡周辺にまとまりがみられた。炉跡周辺からは多くの焼骨片が出土した。

遺存状態 北東部1/2弱を調査のみであったが、比較的良好であった。

炉 位置 住居中心よりやや北寄り

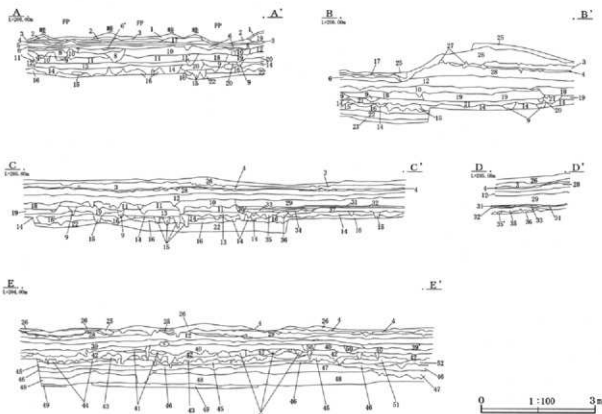
規模 長径63cm×短径57cm×深さ7cm

形状 楕円形。

埋没土 上層は黄褐色粘性土ブロックを含まない黒

Ⅲ 検出された遺構と遺物





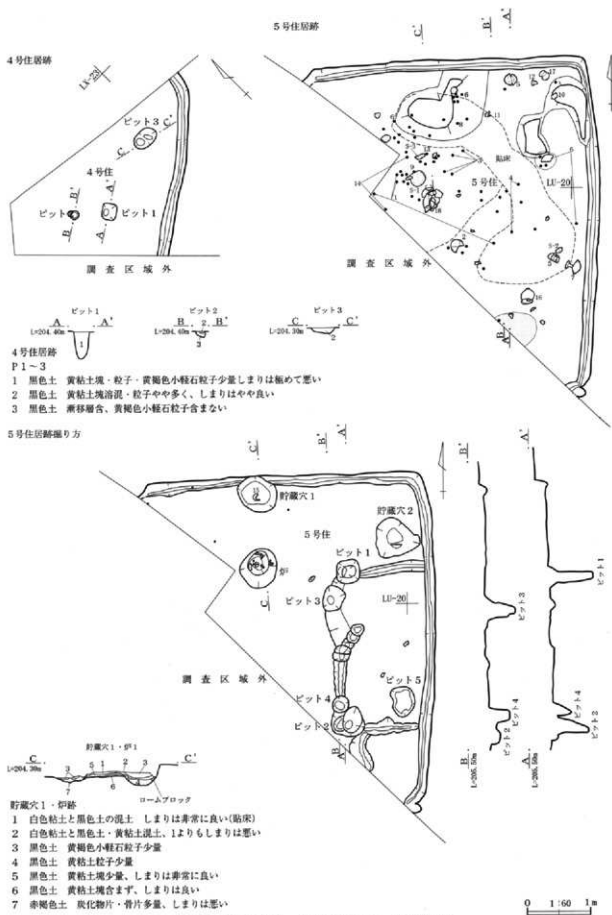
II区調査区壁セクション

- 1 灰色土 やや砂質、鉄分やや多く含(FP下水田耕土)
- 2 灰褐色土 1よりも明るく、鉄分も少ない(同味盛土)
- 3 FA純層 砂質
- 4 FA純層 灰質
- 5 暗青灰色土 粘性有、しまりは良い(FA下水田耕土)
- 6 黒色土 粘性有、鉄分多く、炭化物片少量(FA下水田耕土)
- 7 黒色土 黄褐色小軽石粒子・砂多量(自然流跡底砂)
- 8 黒色土 6よりもややしまりは弱い、黄褐色小軽石粒子やや多く含
- 9 黒色土 黄褐色小軽石粒子多量、しまりは悪い
- 10 黒色土 黄褐色小軽石粒子6よりも少ない、しまりは弱い
- 9' 黒色土 9に類似、9よりもしまりは悪い
- 10 黒色土 黄褐色小軽石粒子多量、しまりやや良い
- 11 黒色土 黄褐色小軽石粒子10よりもやや少なく、10よりしまりは良い
- 11' 黒色土 11類似、11よりしまりは弱い(10住場溝埋没土)
- 12 黒色土 11類似、11より黄褐色小軽石粒子少なく、しまりも良い
- 12' 黒色土 12類似、12よりしまりは悪い
- 13 黒色土 黄褐色小軽石粒子微量、11よりもしまりは良い
- 14 黒色土 黄褐色小軽石粒子微量、YP少量、しまりは非常に良い
- 15 黒褐色土 14類似、14より黄色味が強
- 16 黒褐色土 14より黄色味が強く、しまりも弱く、やや粘性有
- 17 褐色土 シルト質、φ2cm軽石少量、(FA上溝埋没土)
- 18 黒色土 11類似、11よりやや明るく、黄褐色小軽石粒子少なく、11よりしまりは良い
- 19 黒色土 18類似、18より僅か明るい
- 20 黒色土 14類似、14より僅か明るい
- 21 黒色土 12より明るく、黄褐色小軽石粒子少なく、しまりは弱い
- 22 黄褐色土 やや単一的(ローム状水溶性粘結性土)
- 23 黄褐色土 マンガンや多い粘結性土、しまりは良い
- 24 黄褐色土 マンガン多く、25よりもシルト質、しまりは特に良い
- 25 暗褐色土 やや砂質、鉄分やや多く、1よりしまりは弱い(FP下高耕土)
- 26 褐色土 FA及び28塊の互層(FP下高耕土)
- 27 褐色土 28塊の割合が26よりも多い(FP下高盛土)
- 28 黒色土 12類似、12より僅か明るく、黄褐色小軽石粒子僅か少ない(FA下高耕土)

- 29 黒色土 黄褐色小軽石粒子多く、炭化物粒子多量、しまりは悪い(5住埋没土)
- 30 黒色土 29類似、29よりもしまりは悪い(5住埋没溝埋没土)
- 31 暗灰色土 灰白色粘土多く含、硬質土(5住貼床)
- 32 黒色土 黄褐色土塊・粒子多く含、硬質土(5住貼床)
- 33 黒色土 単一的、32に比べややしまりは弱い(5住貼床)
- 34 黒色土 32類似、32に比べややしまりは悪い(5住貼床)
- 35 黒色土 16塊をやや多く含、しまりは悪い(5住床下)
- 36 黒色土 22塊を含、35よりも更にしまりは悪い(5住掘り方)
- 37 黒色土 35に類似、やや明るい(5住床下)
- 38 黒色土 32より黒味が強、黄褐色小軽石粒子・白色小粒子少量、しまりは良い
- 38 黒色土 焼土塊及び粒子・炭化物・黄褐色土塊多量、しまりは良い
- 39 黒色土 黄褐色小軽石粒子多く含が、12より少ない、しまりは弱い
- 39 黒色土 39より黒味が強、黄褐色土塊・粒子多く含
- 40 黒色土 黄褐色小軽石粒子少量、しまりは弱い
- 41 黒褐色土 黄褐色小軽石粒子微量、40よりもやや明るい、しまりは弱い
- 42 黒褐色土 黒色土塊・43塊を多く、43よりもやや弱い
- 43 暗褐色土 YP・白色小粒子少量
- 44 に近い黄褐色土 白色微細粒子多く、やや砂質、非常に硬質(草創期遺物包含層)
- 45 に近い黄褐色土 YP少量、44よりも砂質、やや明るい、非常に硬質(草創期遺物包含層)
- 46 に近い黄褐色土 45より黄色味が強、白色微細粒子多量、45より砂質、非常に硬質(草創期遺物包含層)
- 47 褐色砂質土 薄く鉄分含み46より黄色味が強、白色微細粒子多く、小礫・YP含所有、硬質
- 48 暗灰黄砂 YP少量、小礫含、しまりは良い
- 49 明褐色砂 マンガン・鉄分多く含、しまりは良い
- 50 黒色土 39に比べ黒味が強
- 51 に近い黄褐色土 小礫僅か含、やや粘性有、しまりは良い
- 52 灰黄褐色土 51よりやや暗い、やや粘性有、しまりは良い
- 53 黒色土 白色小粒子・黄褐色小軽石粒子多量、炭化物粒子少量
- 54 暗褐色土 白色小粒子・黄褐色小軽石粒子多く、46塊多量、しまりは良い

第43図 II区調査区南壁セクション図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第44図 Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土4・5号住居跡

色土、下層は炭化物片及び骨片を多量に含む赤褐色土。

遺物出土状態 周辺を含め、多くの骨片が散乱した状態で出土した。いずれも焼けて微細に割れており、灰で焼いて食べた動物や鳥類などの骨と考えられる。

遺存状態 比較的良好ではあったが、非常に浅く、底面は焼けていた。

6号住居跡

位置 LR-17・18, LS-17・18 主軸方向 N92°E

重複 10号住居→6号住居

規模 縦5.50m×横4.30m×深さ0.25m

形状 南西コーナーがややゆがむ長方形。

埋没土 上層は黄褐色軽石粒子を多く含む黒色土、下層は上層に比べ同軽石粒子は少なく、黄褐色粘性土ブロックをわずかに含む黒色土。

掘り方 床下土坑等はなかった。

床面 貼床は特に無し。全体的に地山部分よりもしまっていたが、特に硬化している部分はなかった。南側には谷地が入っており、谷地部では床面もいくぶん傾斜していた。

貯蔵穴 不明。西壁中央部に長径46cm×短径37cm×深さ8cmの楕円形の土坑があった。

周溝 幅約10cm、深さ1～2cmで、北壁中央よりやや東寄りの一部と東壁～南壁に巡る。

柱穴 柱穴はいずれも極めてしまりの悪い土で埋没していた。p1長径16cm×短径16cm×深さ22cm、p2長径22cm×短径17cm×深さ17cm、p3長径25cm×短径17cm×深さ25cm、p4長径20cm×短径18cm×深さ12cm
遺物出土状態 南東コーナー部分で礫出土。プラン確認する前の遺物包含層中より多量の弥生土器や石器類が出土したが、本住居跡に伴うものが多くあるものと考えられる。

遺存状態 不良。浅い痕跡を確認したものであり、周溝も一部検出したのみであった。柱穴以外にいくつかの小ピットを検出したが、住居に伴うものか否かは確認できなかった。

炉 不明。

7号住居跡

位置 LT-18・19 主軸方向 N92°E

重複 13号住居→8号住居→7号住居→5号住居

規模 縦(3.95)m×横(3.5)m×深さ(0.04)m

形状 隅丸長方形?

埋没土 黄褐色小軽石粒子・炭化物粒子を少量含む黒色土。

掘り方 床下土坑等は特になかった。

床面 貼床無し。特別な硬化面等はなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅10～15cm、深さ2～3cmで、北壁～東壁に巡る。

柱穴 長径25cm×短径22cm×深さ15cmの小ピットが1基あった。

遺物出土状態 無し。上位の遺物包含層として取り上げた中に本住居跡に伴うものが含まれていた可能性は否定できない。

遺存状態 不良。ほとんど立ち上がりか確認できなかったことと、調査区内では住居跡の北東部を調査したのみであり、全体の様相は不明。

炉 不明。

8号住居跡

位置 LS-18・19, LT-18・19・20 主軸方向 N50°E

重複 13号住居→8号住居→7号住居→5号住居

規模 縦(4.13)m×横(4.75)m×深さ0.06m

形状 方形又は長方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子少量、炭化物粒子・焼土粒子僅かに含む黒色土。

掘り方 床下土坑等特別な遺構無し。

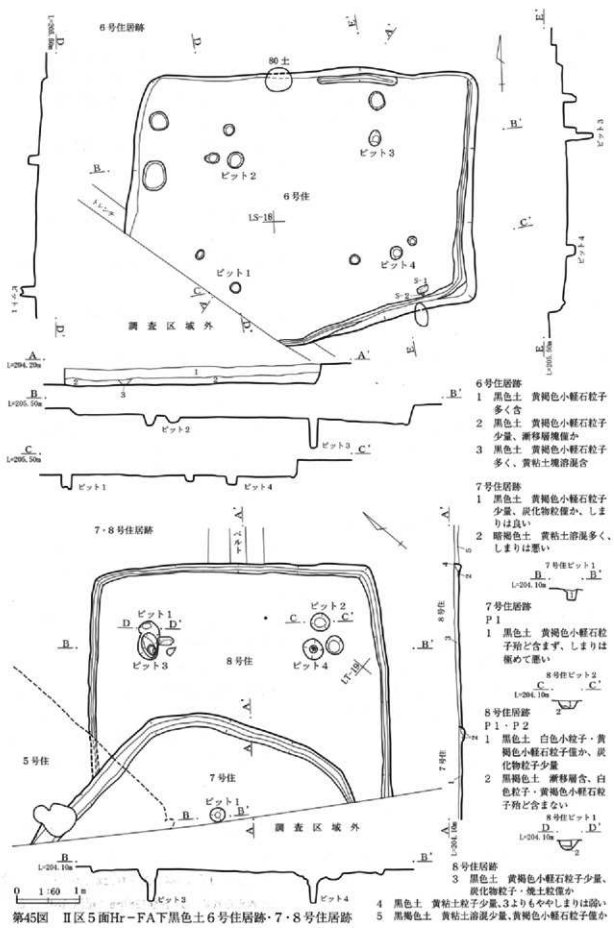
床面 貼床無し。周溝に近い部分を除き比較的しまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅10～12cm、深さ2～3cmで、西壁・北壁・東壁を巡る。

柱穴 p1～4まで4本確認されたが、p3・4が主柱穴と考えられる。p1長径(28)cm×短径(18)cm×深さ

III 検出された遺構と遺物



第45図 II区5面Hr-FA下黒色土6号住居跡・7・8号住居跡

14cm, p2長径30cm×短径28cm×深さ10cm, p3長径47cm×短径30cm×深さ45cm, p4長径34cm×短径29cm×深さ43cm

遺物出土状態 p3東側で角礫が床面より2点出土した。上位の黒色～黒褐色土遺物包含層より多くの土器・石器類が出土したが、その一部が本住居跡に伴う可能性も否定できない。

遺存状態 不良。非常に浅く、周溝でプラン確認を行った。南側は7号住居に切られていた。

炉 不明。

9号住居跡

位置 LT-20・21, LU-20・21 **主軸方向** N2°E

重複 15号住居→9号住居→5号住居

規模 縦4.45m×横4.00m×深さ0.23m

形状 方形。北東部がやや張り出す。

埋没土 白色小粒子含む黒色土。

掘り方 特に無し。床下土坑等はなかった。

床面 明確な貼床無し。周辺部を除き比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 無し。適切な大きさの土坑は検出できなかった。

周溝 無し。

柱穴 p1長径25cm×短径15cm×深さ46cm, p2長径30cm×短径25cm×深さ65cm, p3長径40cm×短径33cm×深さ30cm, p4長径36cm×短径24cm×深さ30cm, p5長径20cm×短径18cm×深さ22cm, p6長径35cm×短径30cm×深さ30cm, それ以外にも同規模の小ピットがいくつかあったが、深さが浅く柱穴からは除外した。

遺物出土状態 ほとんど無し。上層には遺物を多く含む黒褐色土があったが、間層を置いたその上であり、本住居跡に伴うものか否かは判断できなかった。

遺存状態 南西コーナーを5号住居に切られる。

炉 不明。

10号住居跡

位置 LR-17・18, LS-17・18 **主軸方向** N100°E

重複 10号住居→6号住居

規模 縦(1.50)m×横(4.45)m×深さ(0.04)m

形状 隅丸長方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子を多く含む黒色土。

掘り方 黄褐色小軽石粒子を微量含むしまりの良い黒色土により埋められていた。特に床下土坑等無し。

床面 貼床無し。特別に硬化していたわけではないが、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 不明。調査区外の可能性有り。

周溝 幅10～15cm, 深さ3cmで、南壁・西壁・北壁に巡る。

柱穴 3基確認。いずれも浅い。p1長径21cm×短径18cm×深さ18cm, p2長径30cm×短径22cm×深さ22cm, p3長径47cm×短径23cm×深さ16cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。周溝でプランを確認したが、主たる部分は調査区外であった。

炉 不明。

11号住居跡

位置 LW-22, LX-22 **主軸方向** N93°E

重複 11号住居→4号住居

規模 縦(6.68)m×横(1.80)m×深さ(0.08)m

形状 楕円形?

埋没土 白色小粒子・黄褐色小軽石粒子多量, 炭化物粒子少量含む黒色土。

掘り方 床下土坑等は特になし。

床面 貼床無し。

貯蔵穴 不明。東寄りに長径58cm×短径56cm×深さ22cmの土坑があったが、貯蔵穴か否か不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 無し。

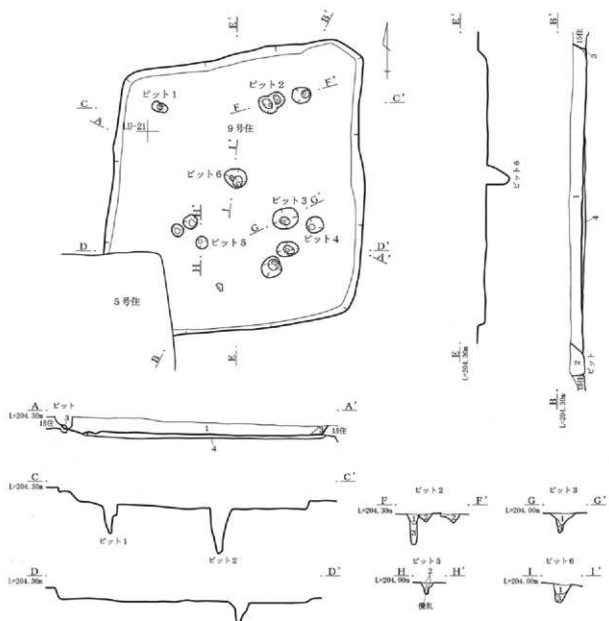
遺存状態 不良。西側は4号住居に壊され、北側は調査区外であり、南壁の一部を検出したのみであった。

炉 不明。

12号住居跡

位置 LR-19・20, LS-19・20 **主軸方向** N112°E

Ⅲ 検出された遺構と遺物



5・9・15号住跡跡

- 1 黒色土 白色小粒子少量、しまりは良い
- 2 黒色土 1よりも黒味が強(ピット)
- 3 黒褐色土 薪移層埋合、しまりは弱い
- 4 黒褐色土 薪移層埋合・黄粘土粒子少量、しまりは良い
- 5 黒色土 白色小粒子少量
- 5' 5よりもやや明るい
- 6 黒色土 白色小粒子少量、YP少量
- 7 黒褐色土 黄粘土塊・粒子多く、しまりは弱い
- 7' 7よりも黄粘土塊多く含
- 8 黒褐色土 薪移層埋合多量
- 9 黒色土 薪移層と黒色土塊の混合土(5住床下)
- 10 黒色土 白色小粒子少量、炭化物粒子少量

P2~6

- 1 黒色土 黄粘土混泥・白色小粒子少量、しまりは弱い
- 2 黒褐色土 黄粘土混泥多量、白色小粒子1よりもやや多く、しまりは良い
- 3 暗褐色土 黄粘土再堆積、若干の黒色土含、しまりは悪い

第46図 II区5面Hr-FA下黒色土9号住居跡

重複 16号住居→12号住居**規模** 縦5.16m×横4.31m×深さ0.22m**形状** 隅丸長方形。**埋没土** 黄褐色小軽石粒子・白色小粒子少量、炭化物粒子微量含む黒褐色土。**掘り方** 床下土坑等特別なものは、特に無し。**床面** 貼床無し。比較的平坦であるが、特別硬化している部分はなかった。**貯蔵穴** 不明。**周溝** 無し。

柱穴 9基の小ピットを確認したが、いずれも比較的浅かった。p1長径38cm×短径28cm×深さ7cm、p2長径50cm×短径40cm×深さ15cm、p3長径37cm×短径33cm×深さ22cm、p4長径25cm×短径23cm×深さ24cm、p5長径32cm×短径28cm×深さ18cm、p6長径23cm×短径18cm×深さ16cm、p7長径32cm×短径25cm×深さ15cm、p8長径27cm×短径24cm×深さ21cm、p9長径36cm×短径35cm×深さ7cm

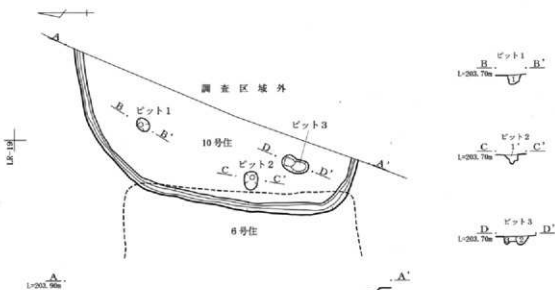
遺物出土状態 無し。上層の遺物包含層で取り上げた中に本住居跡に伴うものがある可能性は否定できない。**遺存状態** 不良。北東コーナーが一部調査できなかった以外ほぼ全面確認したが、比較的浅く、残存状況も決して良好とは言えるものではなかった。**炉** 不明。**13号住居跡****位置** LS-18、LT-18・19 主軸方向 N80°E**重複** 13号住居→8号住居→7号住居→5号住居**規模** 縦(3.75)m×横(5.55)m×深さ0.06m**形状** 長方形？**埋没土** 黄褐色小軽石粒子を少量含む黒褐色土。**掘り方** 特に無し。**床面** 貼床無し。特別に硬化している部分はなかったが、縁辺の周溝周辺はややしまりが悪い。**貯蔵穴** 不明。**周溝** 幅10～15cm、深さ約4cmで、北壁～西壁にかけて壁手前10～15cm程の部分に巡る。

柱穴 4本検出したが、p3は東壁のライン上～東側であり、必ずしも本住居跡に伴うものとは言えない。p1長径48cm×短径43cm×深さ17cm、p1長径22cm×短径19cm×深さ20cm、p1長径33cm×短径24cm×深さ15cm、p1長径50cm×短径42cm×深さ11cm

遺物出土状態 無し。**遺存状態** 不良。北東部を調査したのみであり、全体は不明。北西側重複部分は特に残りは悪く、一部プランは確認できなかった。**炉** 不明。**14号住居跡****位置** LW-22、LX-22 主軸方向 N68°W**重複** 14号住居→4号住居**規模** 縦(2.05)m×横(0.80)m×深さ(0.12)m**形状** 隅丸方形？**埋没土** 黄褐色小軽石粒子を微量含む黒褐色土。**掘り方** 特に無し。**床面** 貼床無し。調査区内に特に硬くしまっている部分はなかった。**貯蔵穴** 不明。**周溝** 無し。**柱穴** 不明。**遺物出土状態** 無し。**遺存状態** 不良。北東部の極一部を検出したのみであり、ほとんどが調査区外。**炉** 不明。**15号住居跡****位置** LS-20・21、LT-19・20・21、LU-20・21**主軸方向** N27°E**重複** 15号住居→9号住居→5号住居、15号住居→8号住居→5号住居**規模** 縦7.90m×横5.70m×深さ0.02m**形状** ややゆがむ隅丸長方形。**埋没土** 白色小粒子少量含む黒色土。**掘り方** 特に無し。床下土坑等も検出できなかった。**床面** 貼床無し。特に硬化している部分はなかった

III 検出された遺構と遺物

10号住居跡

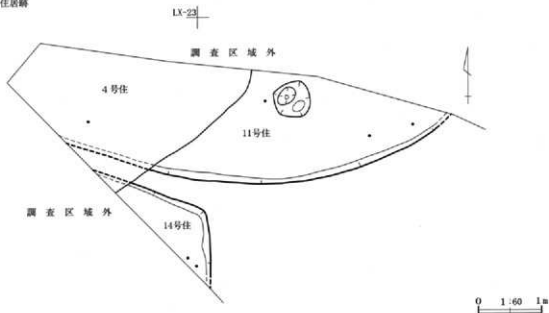


10号住居跡

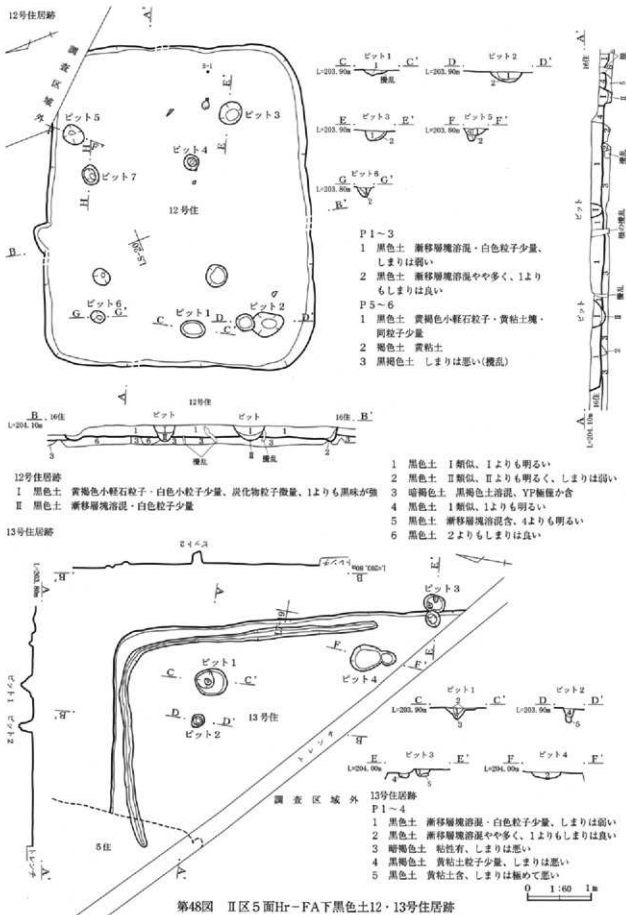
P1-3

- 1 黒色土 漸移層境溶混少量、しまりは弱い
- 1' 黒色土 1よりも漸移層境溶混多い
- 2 暗褐色土 黒褐色土境溶混少量、しまりは悪い
- 3 褐色土 2よりもしまりは良い

11・14号住居跡

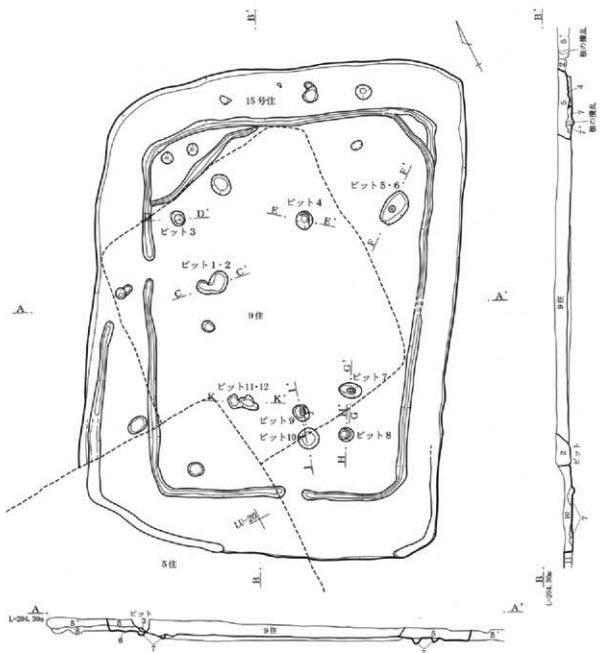


第47図 II区5面Hr-FA下黒色土10・11・14号住居跡



第48図 II区5面Hr-FA下黒色土12・13号住居跡

III 検出された遺構と遺物

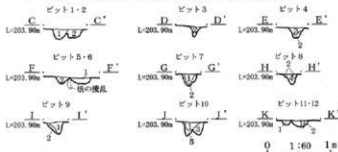


5・9・15号住居跡

- 1 黒色土 白色小粒子少量、しまりは良い
- 2 黒色土 1よりも黒味が強(ピット)
- 3 黒褐色土 漸移層境合、しまりは弱い
- 4 黒褐色土 漸移層境・黄粘土粒子少量、しまりは良い
- 5 黒色土 白色小粒子少量
- 5' 5よりもやや明るい
- 6 黒色土 白色小粒子少量、YP少量
- 7 黒褐色土 黄粘土境・粒子多く、しまりは弱い
- 7' 7よりも黄粘土境多く含
- 8 黒褐色土 漸移層境多量
- 9 黒色土 漸移層と黒色土境の混合土(5住床下)
- 10 黒色土 白色小粒子少量、炭化物粒子少量

P1-12

- 1 黒褐色土 白色小粒子少量、黄粘土境溶混多く含
- 2 黒色土 白色小粒子少量、黄粘土境溶混1よりも多量
- 3 黒色土 黄粘土境溶混多く、炭化物粒子少量、しまりは良い
- 4 黒色土 黄粘土粒子・境溶混多く、炭化物粒子少量、しまりは悪い
- 5 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒石粒子・漸移層境溶混少量



第49図 II区5面Hr-FA下黒色土15号住居跡

が、内側の周溝と壁の間はややしまりは弱い。

貯蔵穴 無し。p5・6は2つのピットを同時調査したため、見だ目貯蔵穴様となってしまうものである。周溝 幅10～15cm、深さ3cm以下で、西壁南半～東壁南東部に巡るが浅く不明瞭。内側を長方形に巡るものは規模的にはほぼ同じであるが、やや深く比較的明瞭。

柱穴 12基検出したが、いずれも比較的規模が小さく、浅いものであった。p1長径20cm×短径19cm×深さ17cm、p2長径35cm×短径28cm×深さ16cm、p3長径25cm×短径20cm×深さ12cm、p4長径30cm×短径28cm×深さ16cm、p5長径30cm×短径20cm×深さ10cm、p6長径34cm×短径30cm×深さ10cm、p7長径36cm×短径24cm×深さ19cm、p8長径24cm×短径22cm×深さ20cm、p9長径26cm×短径25cm×深さ17cm、p10長径35cm×短径33cm×深さ25cm、p11長径23cm×短径17cm×深さ7cm、p12長径30cm×短径22cm×深さ10cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。南側は浅くプランは不明瞭。土層断面では区切れる部分が認められず、内周を巡る周溝で区切られた部分は何らかの生活空間を区分するものか、もしくは拡張する前の痕跡が残ったものと考えられる。

炉 不明。

16号住居跡

位置 LR-19・20, LS-19・20 主軸方向 N16°E

重複 16号住居→12号住居

規模 縦6.13m×横6.15m×深さ0.11m

形状 南西部がやや張り出す正方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子・白色粒子少量、炭化物粒子微量含む黒色土。

掘り方 特に無し。

床面 貼床無し。特に硬化している部分はなかったが、若干壁に近い部分の方はしまりが悪かった。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 良好なものとは言えないが、住居内から12基の小ピットが検出された。p1長径22cm×短径20cm×深さ9cm、p2長径30cm×短径22cm×深さ9cm、p3長径30cm×短径20cm×深さ13cm、p4長径29cm×短径25cm×深さ12cm、p5長径20cm×短径18cm×深さ11cm、p6長径25cm×短径23cm×深さ16cm、p7長径37cm×短径23cm×深さ14cm、p8長径20cm×短径18cm×深さ7cm、p9長径26cm×短径23cm×深さ11cm、p10長径40cm×短径28cm×深さ11cm、p11長径26cm×短径26cm×深さ14cm、p12長径28cm×短径18cm×深さ14cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。北東コーナーが一部確認できなかった。水田の下であり、なおかつ12号住居に壊されていることもあり、非常に浅く残りは悪かった。

炉 不明。

2号掘立柱建物跡

位置 LR-17 主軸方向 N22°W

重複 6号住居→2号掘立柱建物跡

規模 1間(1.25m)×1間(1.50m)

形状 東側に開く方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子を多量に含む非常にしまりの悪い黒色土。

柱穴 4本検出した。p1長径35cm×短径27cm×深さ14cm、p2長径30cm×短径23cm×深さ15cm、p3長径33cm×短径32cm×深さ18cm、p4長径33cm×短径30cm×深さ20cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。水田の切土が盛土されていた地点で遺物包含層調査時に検出されたものであり、住居跡の柱穴のみを検出した可能性も否定できない。

1号欄列

位置 LU-20・21, LV-21・22 主軸方向 N29°W

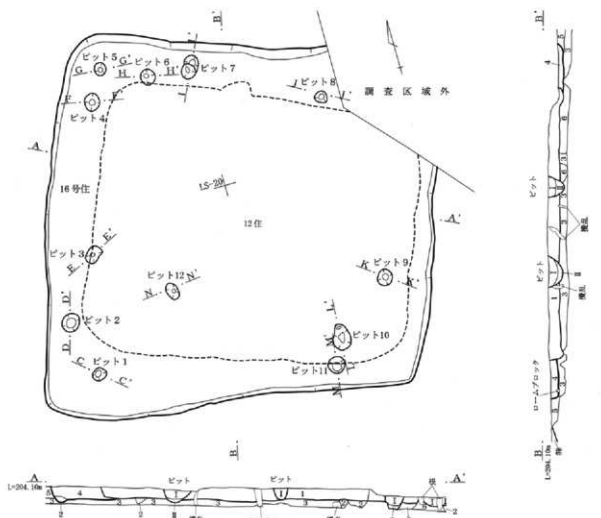
重複 無し。

規模 3間(6.20m)

形状 円形小ピットが一列に並ぶ。

埋没土 ピットごとに多少の違いはあるものの、概

III 検出された遺構と遺物

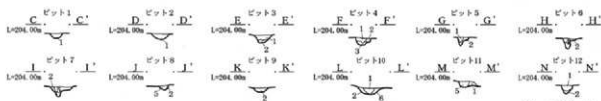


12・16号住居跡

- I 黒色土 黄褐色小軽石粒子・白色小粒子少量、炭化物粒子微量、1よりも黒味が強(ピット)
- II 黒色土 漸移層塊滑混・白色粒子少量(ピット)
- 1 黒色土 I類似、Iよりも明るい
- 2 黒色土 II類似、IIよりも明るく、しまりは弱い
- 3 暗褐色土 黒褐色土滑混、YP極僅か含
- 4 黒色土 I類似、1よりも明るい
- 5 黒色土 漸移層塊滑混、4よりも明るい
- 6 黒色土 2よりもしまりは良い

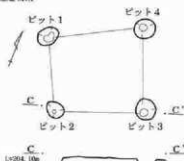
P1~12

- 1 黒色土 漸移層塊滑混・粒子やや多く、白色粒子・黄褐色小軽石粒子微量、しまりはやや良い
- 2 暗褐色土 漸移層塊滑混多量
- 3 褐色土 はは黄粘土、しまりは悪い
- 4 黒色土 白色小粒子・黄褐色小軽石粒子少量、粘性強く、しまりは極めて悪い
- 5 黒色土 白色小粒子・黄褐色小軽石粒子少量
- 6 黒色土 白色小粒子・黄褐色小軽石粒子微量



第50図 Ⅱ区5面Hr-FA下黒色土16号住居跡

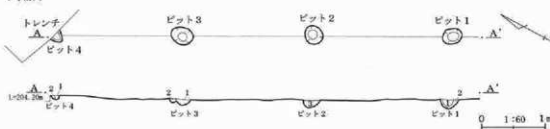
2号掘立柱建物跡



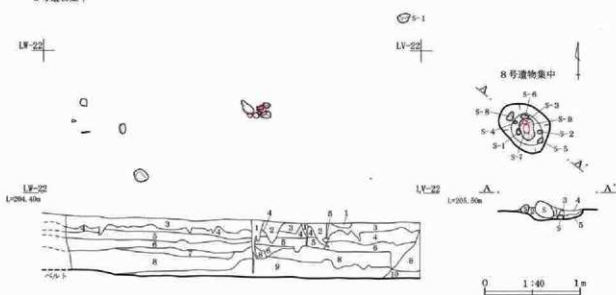
1号横列

- 1 黒色土 白色小粒子・漸移層塊溶混少量、しまりは弱い
- 2 黒色土 漸移層塊溶混多量
- 3 黒色土 白色小粒子・黄褐色小粒石粒子・漸移層塊溶混少量、1よりもやや弱い

1号横列



8号遺物集中



LW-22～LV-22

- 1 黒色土 黄褐色小粒子・白色小粒子少量、しまりは悪い
- 2 黒褐色土 黄褐色小粒子・白色小粒子微量、しまりは弱い、1よりもやや明るい
- 3 暗褐色土 YP少量、しまりはやや良い、黄褐色塊溶混所あり
- 4 暗褐色土 YP少量、若干の砂含、非常に硬質、白色小粒子少量、炭化物粒子微量
- 5 暗褐色土 4類似、4よりも硬質
- 6 にぶい黄褐色土 YP微量、砂質
- 7 にぶい黄褐色土 6類似、やや明るい、ほぼ砂質、かなり硬質
- 8 褐色土 YP場所によりやや多く、ほぼ砂質、かなり硬質
- 9 明褐色砂層 マンガンを多く、しまりは極めて悪い
- 10 にぶい黄褐色砂層 φ1～2cm小礫多量、しまりは悪い

8号遺物集中

- 1 橙色粘性土 単一的
- 2 にぶい褐色土 シルト質、鉄分少量
- 3 橙色粘性土 1類似、やや灰色
- 4 橙色土 3類似、3よりもやや黄色味を帯びる
- 5 にぶい褐色土 2類似、2よりも黄色味を帯びる、鉄分微量

第51図 II区5面Hr-FA下黒色土2号掘立柱建物跡・1号横列・6面草創期8号遺物集中

Ⅲ 検出された遺構と遺物

ね白色小粒子・黄褐色小軽石粒子・黄褐色粘性土ブロック含む黒色土。

掘り方 平面形は円形又は楕円形、底部丸底又は尖底。

柱穴 p1 長径(15)cm×短径(22)cm×深さ9cm, p2 長径36cm×短径25cm×深さ11cm, p3 長径30cm×短径28cm×深さ11cm, p4 長径32cm×短径23cm×深さ15cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。一列に並ぶ小ピット4基を確認した。本来はもう少し深さがあったものと思われるが、遺物包含層の下で検出したので残りの悪いものとなってしまった。

第6面縄文草創期

8号遺物集中

位置 LU-21・LV-21

住居跡・土坑等調査終了後、グリッド杭に平行して試掘杭を入れたところ、下位層において土器・石器が分布する面と石が2ヶ所でまとまる面の2面が確認された。上位の面では、縄文時代草創期の土器片3点と石器3点があったが、土器は3点が接合した(第294図草創-1)。石器は剥片石器は1点もなく、自然礫そのものか、礫素材の磨石・敲石類であった。これらの遺物は黒褐色土よりも下位のYPを少量含む非常に硬い暗褐色砂質土中からの出土であった。

この土層はスコップや鋤の刃が立たないほど硬質であり、この場所特有のものであった。下位のものとはそれよりもさらに40cm程下の明褐色砂層中より出土したものであり、礫のまとまりとして2ヶ所確認された。そのうち1ヶ所はLV-21グリッドからであり、礫がまとまっていたものの、まわりとの土層の差はなく、掘り込み等も確認できなかった。砂が堆積していく途中で礫をまとめた感じで、まわりからは同様な礫は出土しなかった。自然のなかでこのような状態になることはまったくないとは言えないが、非常に不自然であり、人為的な可能性があるのではないかと考えた。もう1ヶ所は隣のLU-21グリッド

で確認されたものであり、長径58cm×短径44cm×深さ16cm、主軸方向N53°Wの楕円形、浅い鍋底状の掘り方を持つものであった。自然の営力でこのようなものができないことはないと思われるが、まわりには礫はなく、掘って調査したが他に同様な遺構は検出できなかったため、人為的な可能性があるのではないかと考えた。

Ⅲ区で検出された遺構

第1面F P上

1号住居跡

位置 MP-18-19, MO-18-19 主軸方向 N87°E

重複 1号住居→4号土坑

規模 縦(3.10)m×横3.60m×深さ0.30m

形状 方形又は長方形。

埋没土 F Pを多量に含む黒褐色土～暗褐色土。上位・中心部の方が黒味が強い。

掘り方 F Pを多く含む粘性を有する暗褐色土で埋められていた。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 やや粘性を有する暗褐色土を貼ってあったが、硬くしまつてはなかった。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 カマド手前の床面より骨が検出された。30cmほどの礫が北壁手前に一列に40cm程の間隔で配置されていた。カマド手前にも同程度の礫が配置されていた。

遺存状態 南西部は調査区外。北壁は4号土坑に浅く埋されていたものの比較的残りは良かった。

カマド 位置 東壁南寄り。

規模 全長93cm 最大幅97cm 焚き口幅50cm

袖 右袖には円礫が使われていたが、左袖には10cm程の礫があった。

煙道 壁を切り込んで50cm外へ延びる。

埋没土 上層は黄褐色粘性土ブロック含むFA混土層、下層は焼土を含むすんだ茶褐色土。しまりは弱い(天井崩落土)。

遺物出土状態 燃焼部分から左右の袖周辺にかけて多くの埴や坏類、甕・羽釜などの破片が出土した。カマド構架材の一部として使用されていた可能性もある。

遺存状態 比較的良好であり、礫を組んで粘土で構築されていた。燃焼部左右の礫は良く焼けていた。掘り方では手前に45cm×37cm、深さ11cm程のピットがあり、中に炭・灰・焼土等が詰まっていた。

備考 10世紀中頃

2号住居跡

位置 MO-21-22, MP-21-22 主軸方向 N75°E

重複 2号住居→15号住居

規模 縦3.95m×横3.70m×深さ0.70m

形状 北西コーナーがやや丸くなる方形。

埋没土 F Pを極多量に含む黒色～暗褐色土。上層は炭化物を少量含むが、下層には多くの炭化物が含まれる。

掘り方 F Pをやや多く含む粘性を有する暗褐色土で埋められていた。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 南東部1/2強には貼床が見られたがあまり硬くしまつてはなかった。北西部1/2弱はF P面が直接床面となっていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 無し。

遺物出土状態 ほぼ全面より炭化材が出土した。焼土は壁付近から見つかった。土器もほぼ全面より散在して検出された。中心からやや南西寄りから鉄器が出土した。

遺存状態 全体を調査したが、比較的良好な遺存状態であった。

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長76cm 最大幅60cm 焚き口幅42cm

袖 両袖に石が用いられていたが、住居側にせり出すものではなかった。

煙道 住居壁を切り込んで、66cm程外へ延びる。

埋没土 土層は炭化物を含むF P混土層、下層は天井が崩落した黄赤褐色土。

遺物出土状態 使用面では遺物はなかったが、掘り方で1点土器が出土している。

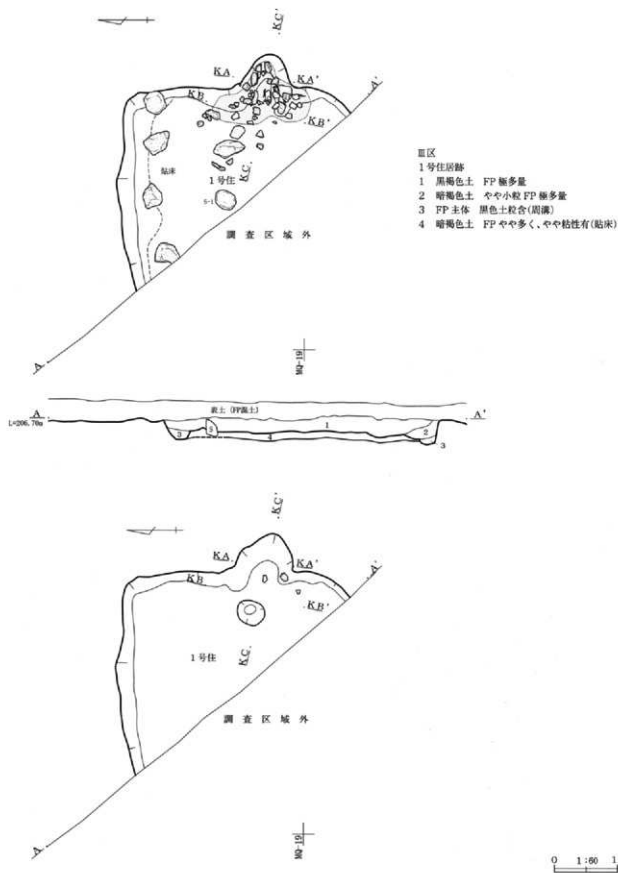
遺存状態 燃焼部中央やや左寄りにF Pを用いた支脚が粘土で据えられていた。両壁はよく焼けていた。掘り方では、燃焼部の窪みから埴底部が出土した。

備考 10世紀後半

Ⅲ 検出された遺構と遺物

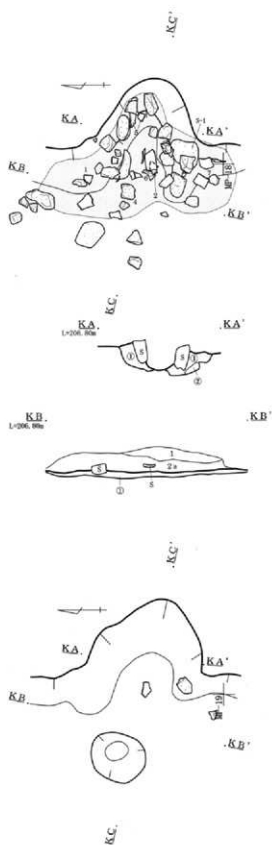


第52図 Ⅲ区1面Hr-FP上遺構配置図



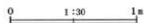
第533图 III区1面Hr-FP上1号住居跡

III 検出された遺構と遺物

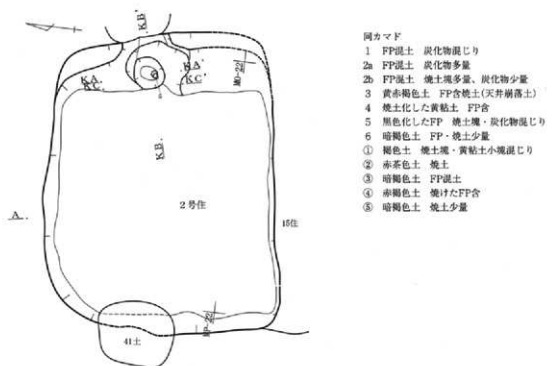
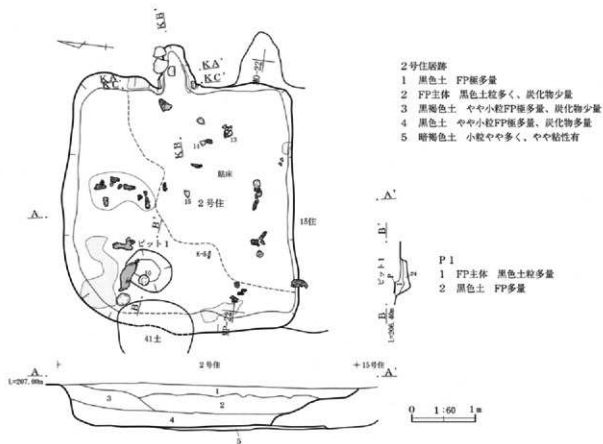


同カマド

- 1 FP混土 黄粘土混じり
- 2a くすんだ茶褐色土 FP焼土(天井崩落土)
- 2b くすんだ茶褐色土 しまりは悪い
- ① 暗茶褐色土 FP・炭化物粒・焼土粒混じり(焼土化構築材)
- ② 暗茶褐色土 FP・炭化物粒含



第54図 III区1面Hr-FP上1号住居跡カマド



第56図 Ⅲ区1面Hr-FP上2号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

3号住居跡

位置 MM-22・23, ML-22・23 主軸方向 N73°E

重複 4号住居→3号住居

規模 縦2.95m×横3.45m×深さ0.45m

形状 隅丸方形

埋没土 FPを非常に多く含む黒色土。下部は炭化物をやや多く含む層。

掘り方 やや粘性を有する暗褐色土で埋められていた。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 周溝部分を除きほぼ全面に貼床がなされていたが、中央部分は比較的しっかりと貼られていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅約18cm, 深さ約5cmでカマドの両側を除きほぼ全周する。

柱穴 不明。北壁中央付近に径40cm, 深さ30cm程の小ピットが検出された。

遺物出土状態 南半部から多くの土器が出土したが、特にカマド手前からの出土が多かった。カマド左東壁寄り部分から鉄器が出土した。

遺存状態 ほぼ全面を調査したが比較的良好な遺残状態であった。

カマド 位置 東壁ほぼ中央

規模 全長53cm 最大幅37cm 焚き口幅32cm

袖 粘土によるもので、右袖の方が内側に張り出していた。

煙道 住居壁を切り込んで、わずか7cm程外へ延びる。

埋没土 粘土及び焼土ブロックを含む暗褐色土。底面に炭化物と灰を含む黒褐色土堆積。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 左袖前に炭化物及び灰が多く分布。カマド内壁は良く焼けていた。

4号住居跡

位置 ML-23・24, MM-23・24 主軸方向 N62°E

重複 4号住居→3号住居

規模 縦3.24m×横3.83m×深さ0.40m

形状 隅丸方形

埋没土 FP主体で黒色土を含む。

掘り方 やや粘性を有する暗褐色土で埋められていた。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 南側を主体に床が貼られていたが、北側はFPのままだった。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 不明。南壁西寄り部分に長径40cm×短径35cm×深さ15cm程の小ピットが検出された。

遺物出土状態 南東コーナー及び南壁西寄り部分から土器片及び礫が検出された。

遺存状態 西壁は一部3号住居に切り込まれていた。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長81cm 最大幅92cm 焚き口幅46cm

袖 左右とも袖には礫が用いられていたが、右袖のみ角礫が使用されていた。

煙道 住居壁を切り込んで60cm程外へ延びる。

埋没土 焼土ブロックを含むFP混土層。

遺物出土状態 無し。

遺存状態掘り方 カマドは礫を用いた粘土で固定され構築されていたが、煙道部分には礫は使用されていなかった。掘り方で熱部で礫を据えた小ピットが3基程検出された。

5号住居跡

位置 MK-24・0, ML-24・0 主軸方向 N79°E

重複 5号住居→436・440号土坑

規模 縦3.55m×横5.08m×深さ0.65m

形状 隅丸方形。

埋没土 上層はFPを非常に多く含む黒色土。下層は黒色土を多く含むFP層。

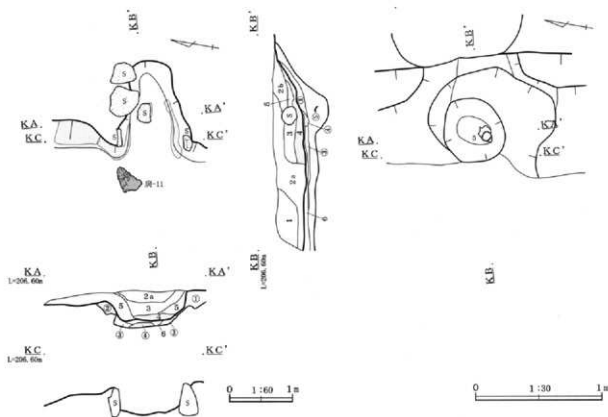
掘り方 FPを少量含むやや粘性の有る暗褐色土で埋められていた。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 南側2/3は貼床がなされていたが、北側1/3はFPのままであった。

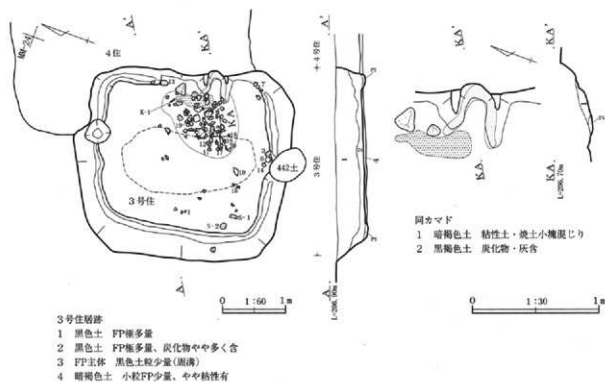
貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 中央より北寄りに長径50cm×短径45cm×深さ



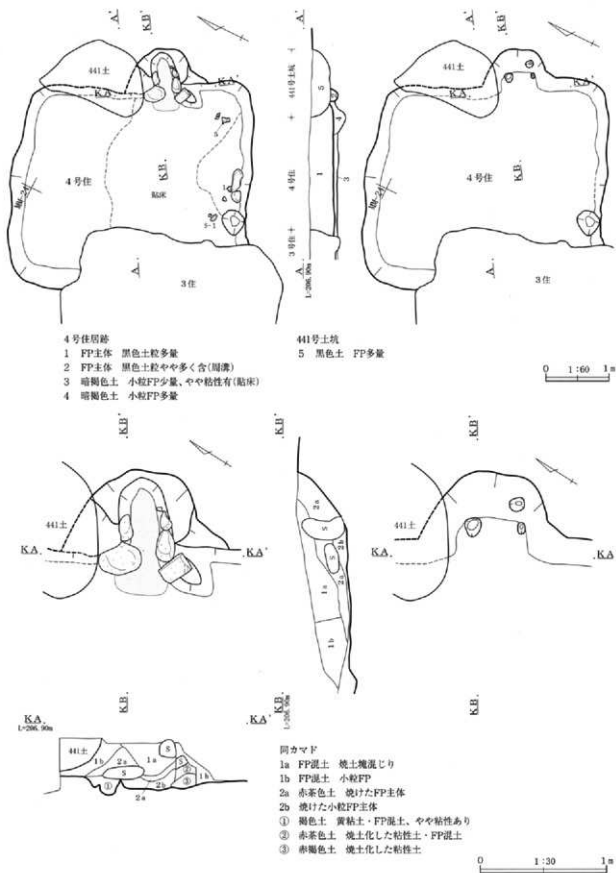
第56図 Ⅲ区1面Hr-FP上2号住居跡カマド



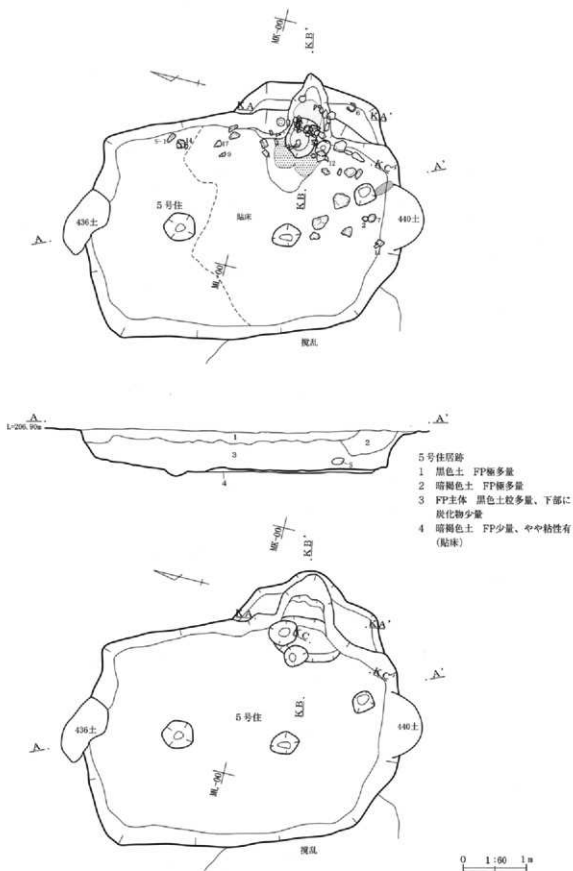
- 3号住居跡
- 1 黒色土 FP極多量
 - 2 黒色土 FP極多量、炭化物やや多く含
 - 3 FP主体 黒色土粒少量(黒溝)
 - 4 暗褐色土 小粒FP少量、やや粘性有

第57図 Ⅲ区1面Hr-FP上3号住居跡

III 検出された遺構と遺物

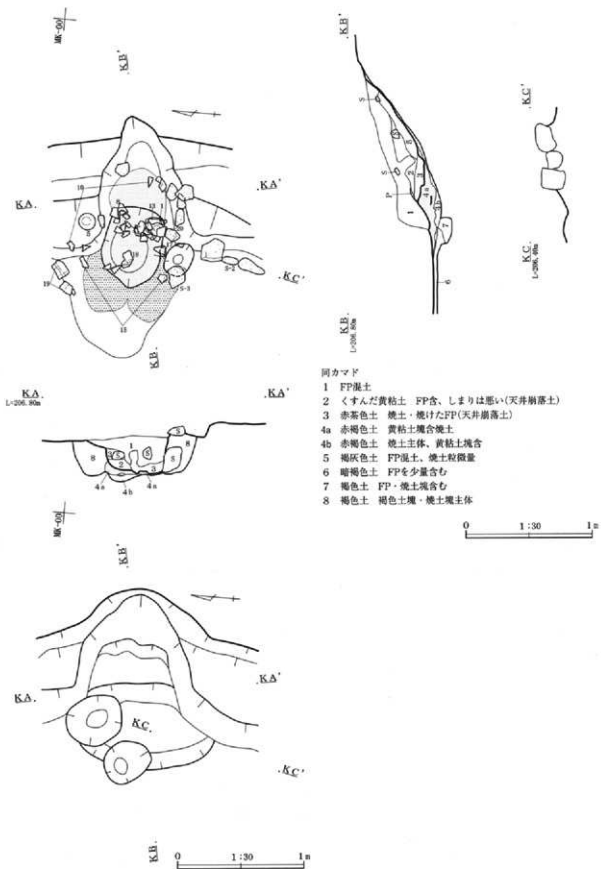


第58図 III区1面Hr-FP上4号住居跡・カマド



第59図 III区1面Hr-FP上5号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第60図 Ⅲ区1面Hr-FP上5号住居跡コマド

16cmのもの、南寄りに長径45cm×短径37cm×深さ17cmのものがあるが、南壁中央寄りに長径40cm×短径35cm×深さ28cmの小ピットがある。

遺物出土状態 東壁寄りに土器及び礫が多く出土した。東壁カマド右側は壁面が礫によって押さえられていた。

遺存状態 全体を調査したが、南壁はかなり丸味をもつ。東壁カマド側は20～30cm程下がる。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長110cm 最大幅80cm 焚き口幅67cm

袖 左袖には土器が、右袖には石が用いられていた。

煙道 壁を切り込んで98cm程外へ延びる。

埋没土 上層はF Pを含むすんだ黄褐色粘性土。下層は焼土及び焼けたF Pを含む赤茶褐色土（天井崩落土）。

遺物出土状態 カマド燃焼部より多くの土器片と共に数点の羽口破片が出土した。

遺存状態 カマド燃焼部はよく焼けていた。カマド手前には炭化物と灰層があった。掘り方では左袖側に長径45cm×短径40cm×深さ12cmと長径38cm×短径32cm×深さ25cmのピットがある。

6号住居跡

位置 ML-21・22, MK-21・22 主軸方向 N69°E

重複 6号住居→193・194・201号土坑

規模 縦4.00m×横4.50m×深さ0.50m

形状 隅丸方形

埋没土 上位中心部はF Pを多く含む黒色土、下位はF Pを主体とする黒色土で、炭化物を多く含む。

掘り方 F Pを少量含むにびい黄褐色土で埋められていた。シルト質で軟質の土。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 カマド手前から中心部は貼床がなされていたが、一部焼けており赤く変色していた。周辺部はF P面が床面となっていた。

貯蔵穴 南東コーナー。長径70cm×短径60cm×深さ17cm。

周溝 幅15～20cm、深さ2～5cmで南東部貯蔵穴脇

から北西部にかけて一部北壁まで廻る。

柱穴 中央よりやや北西寄りに長径35cm×短径30cm×深さ27cm、南壁中央よりやや西寄りに長径70cm×短径50cm×深さ36cmのピット有り。

遺物出土状態 西部のピット周辺に炭化材が多く分布するが、南半部全体に分布する。西部のピット東壁には長さ40cm×幅20cm×厚さ12.5cmの大形礫と長さ15cm×幅5cm×厚さ3.4cmの礫があった。また、その周辺から多くの鉄滓及び鉄器類が出土した。その東側からカマド左右手前部分にかけて壺や環の破片が出土した。

遺存状態 北東コーナーと南壁中央よりやや西寄り部分は土坑に切られていた。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り。壁に直交せず、やや南に向く。

規模 全長128cm 最大幅70cm 焚き口幅55cm

袖 右袖はロームを主体とする黄褐色土でしっかりと作られていたが、左袖はやや残りが悪かった。

煙道 壁を切り込んで50cm程外へ延びる。

埋没土 上部はロームを主体とするF P・焼土ブロック・炭を含むすんだ黄褐色土、下部は焼土化したF Pとロームの混合土で、天井崩落土と考えられる。

遺物出土状態 燃焼部より土器器破片が若干出土した。

遺存状態 煙道部には礫が使用されていた。天井崩落土の焼土は確認されたが、あまり良く焼けてはいなかった。燃焼部とその手前には灰層があった。

7号住居跡

位置 MJ-22・23, MI-22・23 主軸方向 N67°E

重複 7号住居→220・221・233・258号土坑

規模 縦3.90m×横5.15m×深さ0.46m

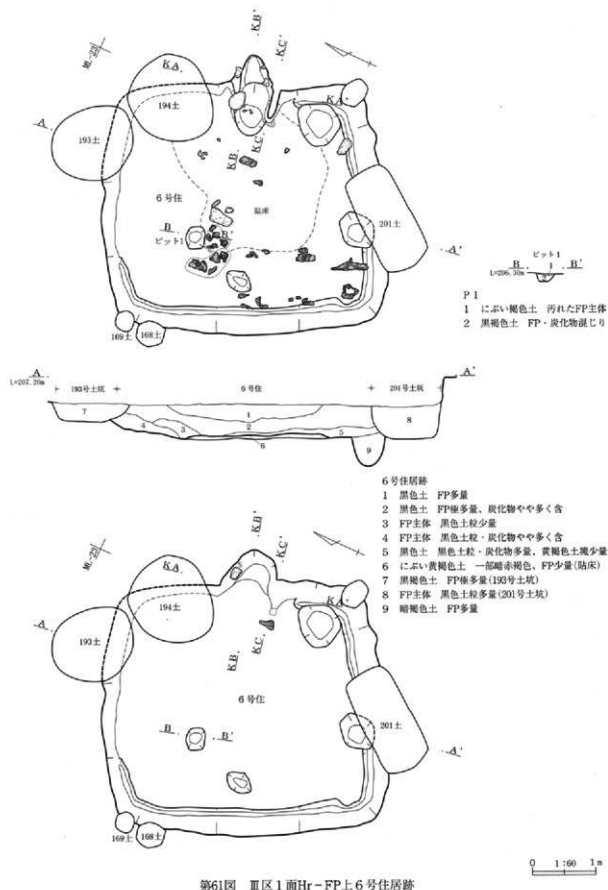
形状 隅丸方形、横軸の方が長い。

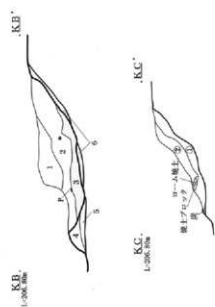
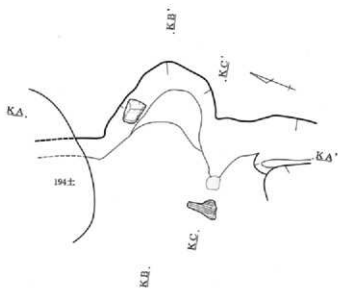
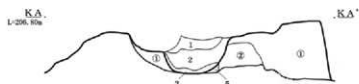
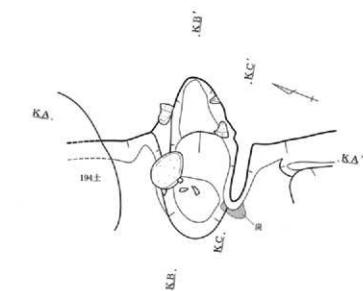
埋没土 F Pを多量に含む黒色土であり、南寄りの下層には炭化物が少量含まれていた。

掘り方 F Pを少量含むやや粘性の有る暗褐色土で埋められていた。特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 カマド手前から南側1/2強は貼床がなされて

Ⅲ 検出された遺構と遺物





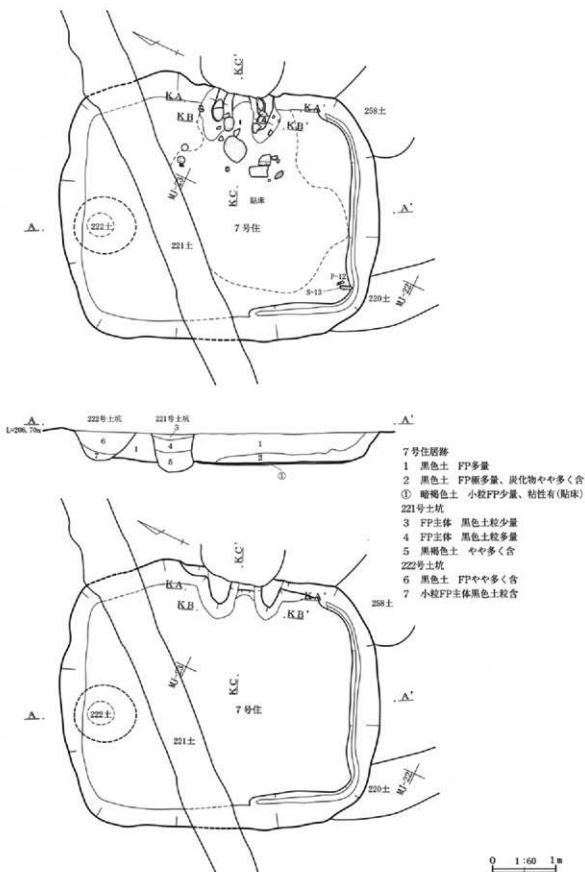
同カマド

- 1 FP混土
- 2 くすんだ黄粘土 FP・焼土塊・炭合、しまりが悪い(天井崩落土)
- 3 くすんだ赤茶色土 焼土・焼けたFP(天井崩落土)
- 4 FP混土 炭化物・焼土粒合
- 5 炭化物で黒色化したFP(灰面)
- 6 褐色色土 くすんだFP、黄粘土塊混じり
- ① 黄褐色土 黄粘土、FP混じり、焼土粒合
- ② 黄褐色土 黄粘土主体、FP含(構築材)

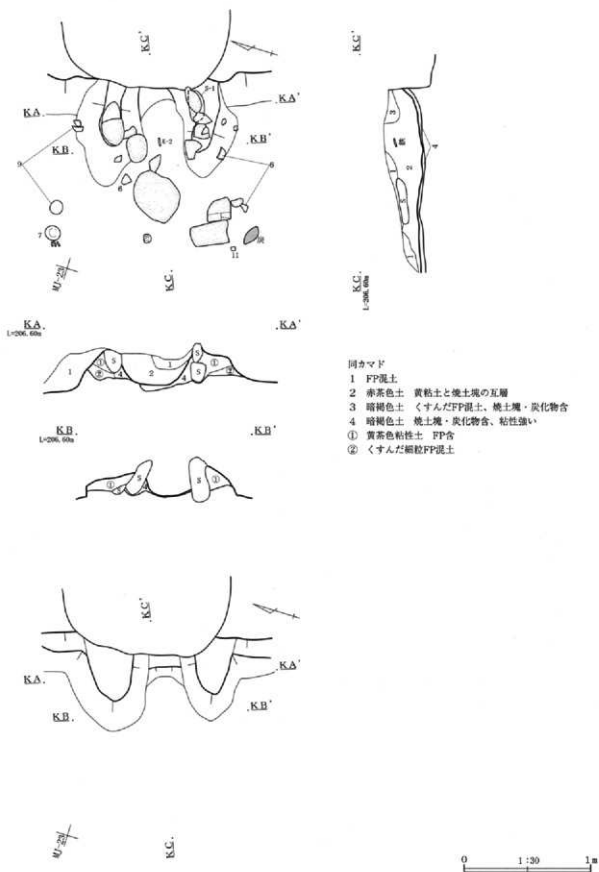
0 1:30 1m

第62図 Ⅲ区1面Hr-FP上6号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第63図 Ⅲ区1面Hr-FP上7号住居跡



第64図 III区1面Hr-FP上7号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物

いたが、北側1/2弱はF Pのままであった。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅10～20cm、深さ1～5cmで西壁南半から南壁まで廻る。

柱穴 無し。

遺物出土状態 カマド周辺から多くの遺物が出土したが、南西コーナーから土器片と長さ20cm、幅6cm、厚さ4cm程の棒状礫が出土した。

遺存状態 北東から南西方向に221号土坑により切られていた。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り。

規模 全長(80)cm 最大幅128cm 焚き口幅70cm

袖 左右とも円礫が用いられていた。

煙道 不明。

埋没土 上層はF Pを多量に含む暗褐色土。下層はローム及びロームが焼土化した赤褐色土が互層に堆積していた。

遺物出土状態 燃焼部に鉄器が、左右袖周辺には土器破片が、カマド手前から左袖前には坏完形品が分布していた。

遺存状態 258号土坑により煙道部分は切られていた。礫を組んで粘土で固定され構築されていた。底面はあまり良く焼けていなかった。また、灰層もほとんどなかった。

8号住居跡

位置 MF-23・24・00、MG-24・00、ME-24・00

主軸方向 N106°E

重複 8号住居→240号土坑

規模 縦5.05m×横5.90m×深さ0.60m

形状 隅丸長方形。西壁と南壁がやや短く、東壁と北壁が長い。

埋没土 上層はF Pを多量に含む黒色～黒褐色土。下層は炭化物を多く含む黒色土。炭化物を含む層は北寄りに分布していた。

掘り方 床下では南東部に住居プランよりも一回り小さい縦3.4m×横3.8mの範囲内に3～5cm程度落ち込みが認められた。その中で多くの土坑が検出さ

れたが、長径180cm×短径120cm×深さ30cm程の床下土坑3、長径115cm×短径85cm×深さ23cm程の床下土坑1、長径90cm×短径70cm×深さ11cmの床下土坑2の中からは多量の炭化物が検出された。中でも床下土坑3からは多くの鉄滓及び銅滓が出土した。

床面 ほほ全面に貼土がなされていたが、床下土坑1の上には粘性のある黒褐色土が貼られていた。

貯蔵穴 床下調査時にカマド右前から南東コーナーにかけて、やや不定形の長径160cm×短径120cm×深さ23cmの土坑が検出された。

周溝 無し。

柱穴 カマド左に長径50cm×短径45cm×深さ42cm、

北西部に長径53cm×短径40cm×深さ32cm、南西部に長径35cm×短径28cm×深さ29cmのピットが、西壁に長径35cm×短径20cm×深さ17cmのピットがある。

遺物出土状態 東半部に多く分布するが、特にカマド周辺が多い。住居中央部西側には炭化物集中部がある。カマド手前炭化物集中部南には骨片も出土した。

遺存状態 東壁は40～20cm程の段が付く。東壁カマド左側は石組みて壁を突きさしていた。

カマド 位置 東壁中央。

規模 全長90cm 最大幅60cm 焚き口幅30cm

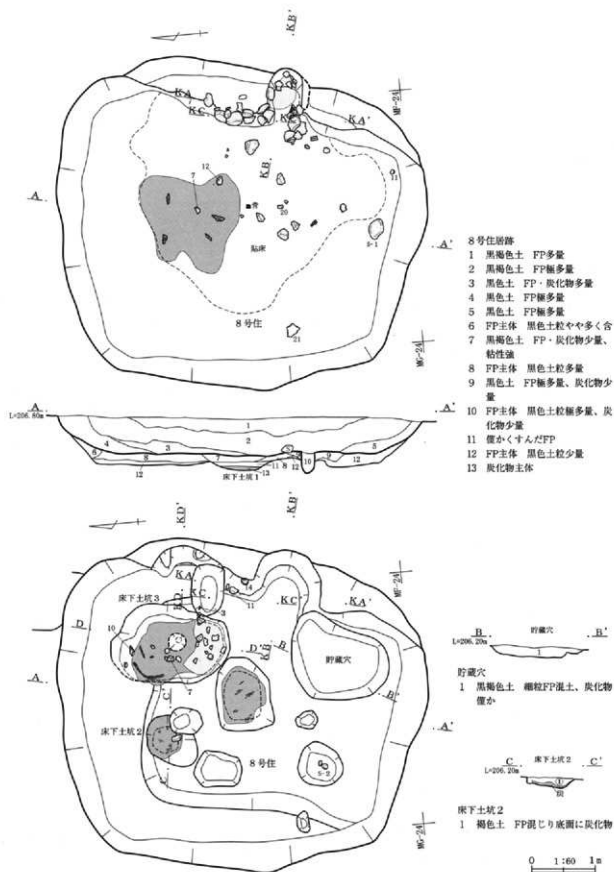
袖 住居内部にはほとんど張り出さない。左右両袖とも礫で組まれていた。

煙道 住居壁を切り込んで、70cm程外へ延びる。外壁からは15cm程外へ延びる。

埋没土 上層はF Pを含む暗褐色土層、ローム及び焼土化したロームブロック・F Pの混土層。

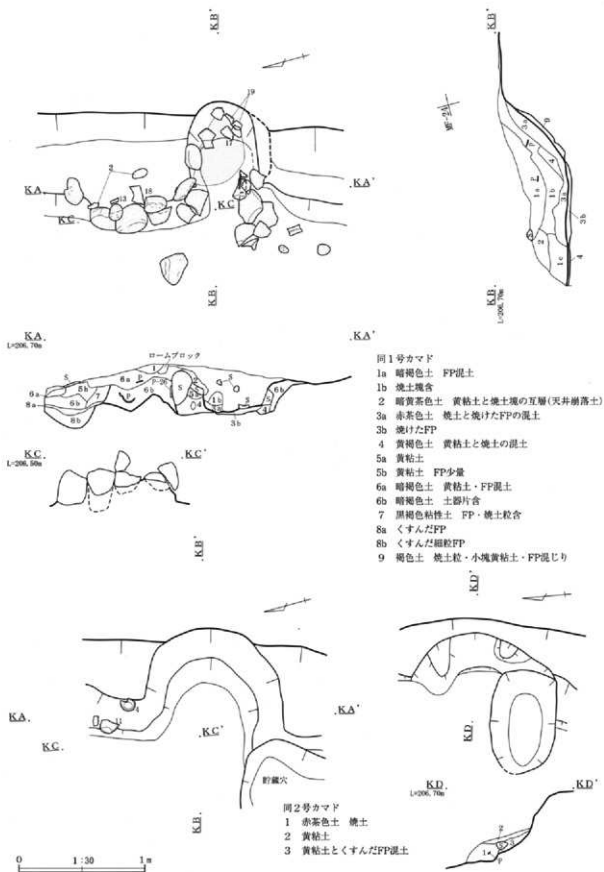
遺物出土状態 奥壁と燃焼部右壁部分から須恵器・土器破片が出土した。カマド構築材の一部として使用されていたものと思われる。

遺存状態 比較的良好で、燃焼部分は良く焼けていた。天井崩落土は確認された。燃焼部とその手前には灰は確認されなかった。



第65図 III区1面Hr-FP上8号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第66図 Ⅲ区1面Hr-FP上8号住居跡カマド

9号住居跡

位置 ME-22・23.MF-22・23 主軸方向 N98°E

重複 10号住居→9号住居→439号土坑

規模 縦3.85m×横4.20m×深さ0.47m

形状 隅丸方形。

埋没土 F Pを多量に含む黒色～黒褐色土。上層中心部はF Pの粒子がやや大きい。床上の部分には、炭化物が少量含まれる黒色土があった。

掘り方 特に目立った床下土坑等ピット類はなかった。

床面 南2/3部分には炭化物を含む黒色土が分布し一部焼けた部分もあったが、北1/3部分はF P層がそのまま床面となっている。

貯蔵穴 南西コーナーに長径56cm×短径54cm×深さ19cmの穴があった。南東コーナーには相当するような穴はないので、遺物は検出されなかったものの貯蔵穴の可能性はある。

周溝 有り。断面調査時には一部認められる部分もあったが、平面的には良く確認できなかった。

柱穴 無し。

遺物出土状態 中心部では、焼土があったがその部分を中心として礫が分布していた。中心より北東寄りの部分には長さ50cm×幅30cm×厚さ20cm程の大形礫があった。埋没土内より若干の鉄滓が出土した。

遺存状態 南東部は439号土坑に切られており、残りは悪かった。下に10号住居があり、確認が難しかった。

カマド 位置 東壁南東コーナー寄り

規模 全長83cm 最大幅100cm 焚き口幅20cm

袖 両袖とも一部角礫が使用されていた。

煙道 住居壁を切り込んで18cm程外へ延びる。

埋没土 上層はF P及び黄色粘性土ブロックを含む暗褐色土。中層は焼土ブロック及び焼けたF P層(天井崩落土)。下層は焼土粒子・炭化物粒子を含む黒褐色土。

遺物出土状態 燃焼部右壁からは土器片が1点出土した。他にも若干の小破片が出土したものの、実測に足るものはなかった。

遺存状態 比較的良好。黄褐色粘性土によりF Pが崩落しないように押さえられていたが、あまり強く焼けてはいなかった。天井は崩落していた。下部には炭化物が混じる灰層が10cm程あった。

10号住居跡

位置 ME-22・23.MD-22・23 主軸方向 N64°E

重複 10号住居→9号住居→439号土坑

規模 縦4.90m×横4.05m×深さ0.50m

形状 隅丸方形。

埋没土 上層はF Pを非常に多く含む黒色土。下層はF P主体で黒色土が混じる土。

掘り方 粘性を有する暗褐色土～黄褐色土により埋められていたが、特に目立った床下土坑等はなかった。

床面 カマド手前から南東部1/3くらいには、粘性を有する暗褐色土により貼床がなされていた。それ以外の2/3はF Pのまま床面となっていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 無し。

柱穴 北東部に長径35cm×短径30cm×深さ26cm。北西部に長径35cm×短径35cm×深さ26cm、南西部に長径35cm×短径30cm×深さ21cmのピットがある。南東部は貼床を剥がして調査したが、ピットは見つけられなかった。

遺物出土状態 北東部ピット東側に、長さ25cm×幅20cm×厚さ19cm程の礫があった。他に埋没土中より土師器・須恵器片が若干出土した。

遺存状態 北半は439号土坑と9号住居により切られていたが、比較的良く残っていた。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り。

規模 全長130cm 最大幅90cm 焚き口幅42cm

袖 ほとんどない。

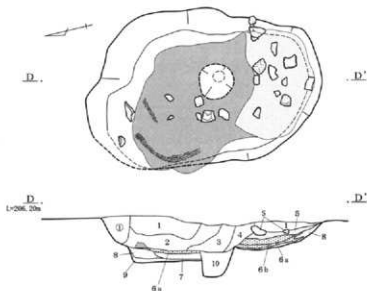
煙道 住居壁を切り込んで60cm程外へ延びる。

埋没土 上層はF Pを多量に含む黒褐色土、下層はF Pを少量含む粘性を有する暗褐色土。

遺物出土状態 埋没土内より須恵器や土師器破片等が出土した。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

8号住居跡床下土坑3



床下土坑3

- 1 黒褐色土 FP多量
- 2 黒褐色土 FP極多量
- 3 黒色土 FP・炭化物多量
- 4 黒色土 FP極多量
- 5 赤茶色土 褐色粘性土の焼土化したもの、焼土塊・FP塊混じり
- 6a 灰褐色土 下に灰白色灰層(裏灰?)
- 6b 黒色灰 FP含
- 7 くすんだFP混土
- 8 FP主体 灰・炭化物含
- 9 灰・炭化物により汚れたFP
- 10 黒褐色土 FP多量

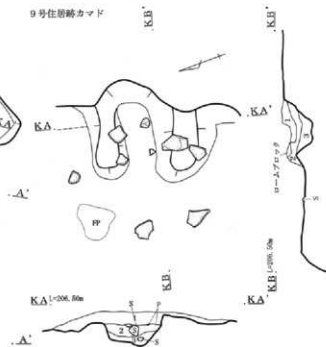
9号住居跡



9号住居跡

- 1 黒褐色土 FP極多量
- 2 黒褐色土 FP極多量、褐色土塊少量
- 3 FP主体 黒褐色土粒多量
- 4 黒色土 FP極多量、炭化物少量
- 5 黒色土 FPやや多く含
- 6 FP主体 黒褐色土粒少量(周溝)

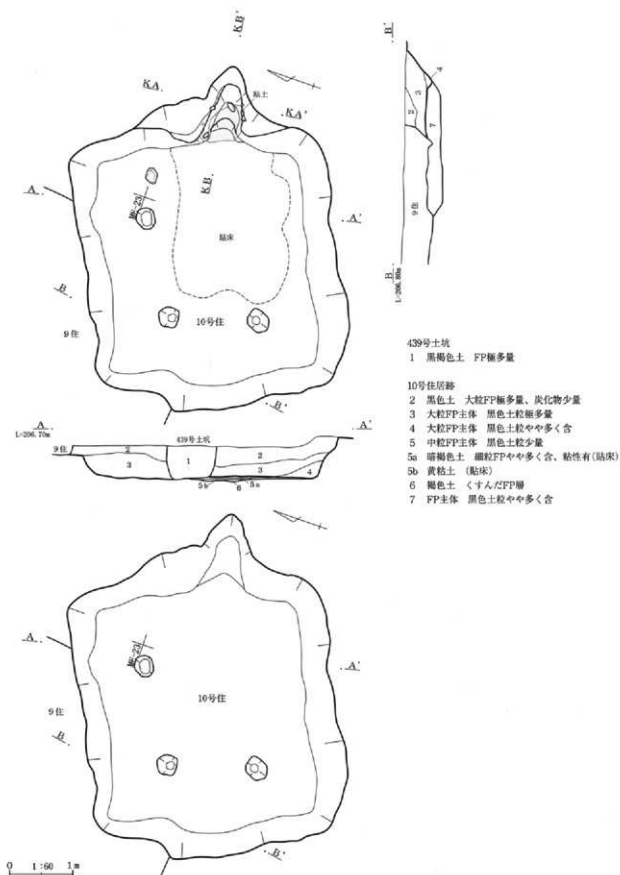
9号住居跡カマド



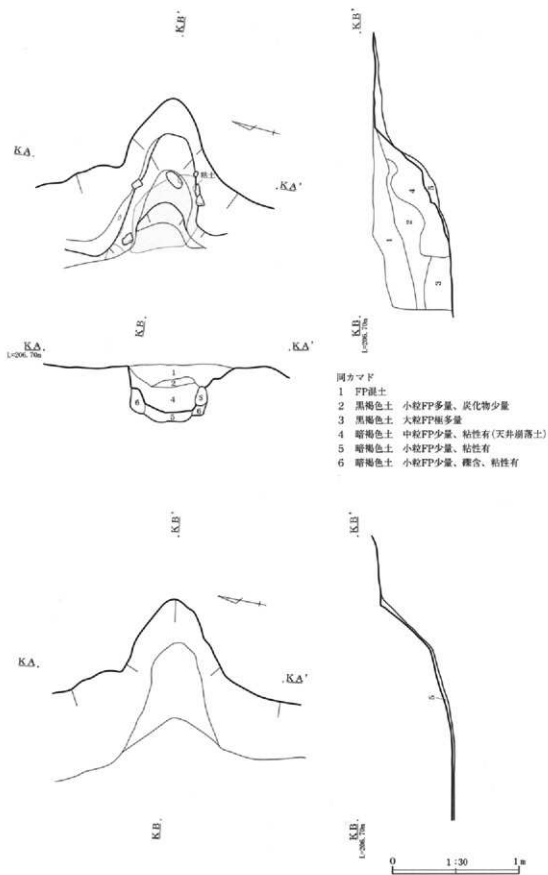
同カマド

- 1 FP混土 黄粒土塊含
- 2 くすんだ茶褐色土 焼土と焼土塊混土
- 3 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒含

第67図 Ⅲ区1面Hr-FP上8号住居跡床下土坑3・9号住居跡・カマド



Ⅲ 検出された遺構と遺物



第69図 Ⅲ区1面Hr-FP上10号住居跡カマド

遺存状態 比較的良好であったが、天井は崩落していた。内側全体は暗褐色粘性土により貼られていた。焼部は良く焼けていた。掘り方では手前にビット等はなかった。

11号住居跡

位置 ME-20・21, MF-21, MD-21 **主軸方向** N80°E

重複 無し。

規模 縦4.80m×横4.25m×深さ0.75m

形状 隅丸方形。

埋没土 FPを非常に多く含む黒色～黒褐色土。下層の方がFPがより多く、FPに黒色土が混じり一部少量の炭化物を含む部分もある。

掘り方 貼床を剥がして確認したが、さほど目立った床下土坑等はなかった。

床面 カマド手前2cm程の部分まで、粘性のある黒褐色土により貼床がなされていたが、あまり硬くしまってはなかった。カマド右前には貼床の上に粘土が分布していた。北壁～南壁にかけては、FPのまま床面となっていた。

貯蔵穴 無し。

周溝 有り。幅10～20cm、深さ1～4cmで、東壁カマド左から南東コーナーまで巡る。西壁下は深さ1cm以下の部分もあり、浅い。

柱穴 カマド左北側に長径45cm×短径40cm×深さ26cm、カマド右前南壁寄りに長径53cm×短径37cm×深さ29cmのやや不整形のビット有り。

遺物出土状態 北側のビットの南側に礫と土器片が、南側のビットの北側にも亜角礫と須恵器破片が出土した。その亜角礫の北側には鉄器も出土した。カマド右前の粘土部分からは羽釜破片等が多く出土した。

遺存状態 比較的良好であり、東側は36cm～24cmの段差が付く。

カマド **位置** 東壁中央やや南寄り

規模 全長115cm 最大幅65cm 焚き口幅50cm

袖 住居内側には張り出さない。

煙道 住居敷を切り込んで、95cm程外へ延びる。

埋没土 上層はFPを多く含む暗褐色土、下層はFPを含む焼土層（天井崩落土）。

遺物出土状態 焼部から右袖にかけて、羽釜破片、須恵器破片、灰釉陶器片等多量の遺物が出土した。

遺存状態 礫を構築材として、間を粘土で押さえて作られていた。天井は崩落していたものの、焼部から煙道にかけては焼けていた。カマド手前には、3cm程の灰と粘土の互層があった。

12号住居跡

位置 MD-19・20, MC-19・20 **主軸方向** N83°E

重複 12号住居→422号土坑

規模 縦4.30m×横(2.70)m×深さ0.70m

形状 隅丸方形。

埋没土 FPを多量に含む黒褐色～黒色土。下層の方がFPの割合は多く、黒味も強い。

掘り方 貼床の下から住居中心部でビットが確認されたが、それ以外は特に目立ったものはなかった。

床面 カマド手前部分1/2の範囲に厚さ1～7cm程度の貼床がなされていたが、差程硬くしまってはなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 カマド手前住居中央に長径48cm×短径48cm×深さ27cmのやや不整形のビットがあった。

遺物出土状態 北東コーナーから須恵器破片が、その1m程西側から金銅製帯金具蛇尾がやや離れて出土した。

遺存状態 比較的良好であったが、南半部は調査区外のため調査できなかった。東壁は23cmほどの段が付く。

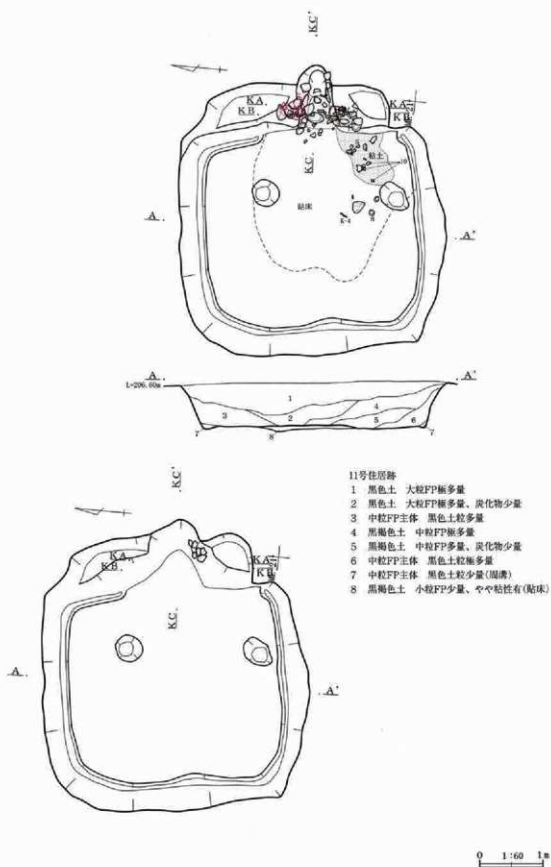
カマド **位置** 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長141cm 最大幅80cm 焚き口幅70cm

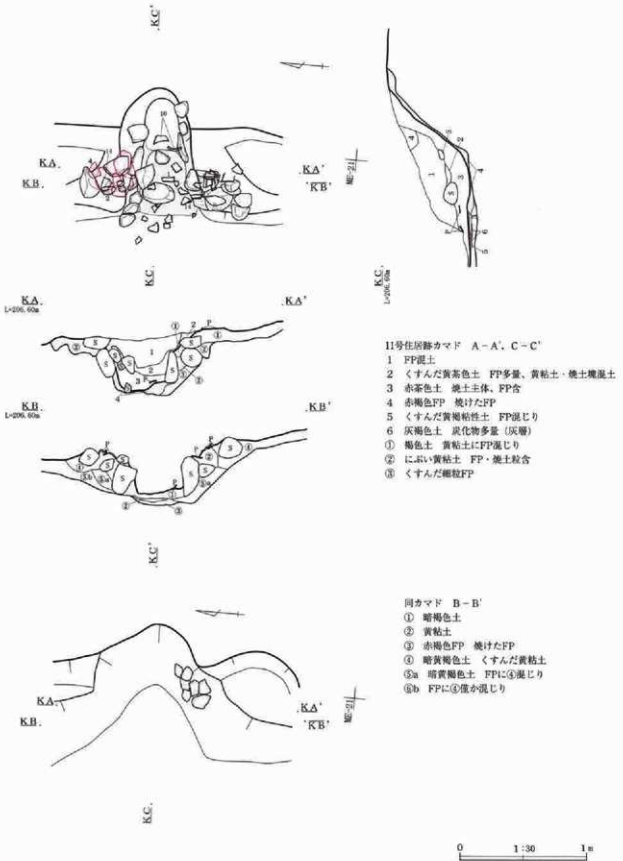
袖 内側にはほとんど張り出さない。礫を用いた粘土で構築されていた。

煙道 長さ35cm×幅25cm×厚さ16cmの大形礫の外側に28cm程出る。住居壁からは135cm程外へ延びる。

III 検出された遺構と遺物

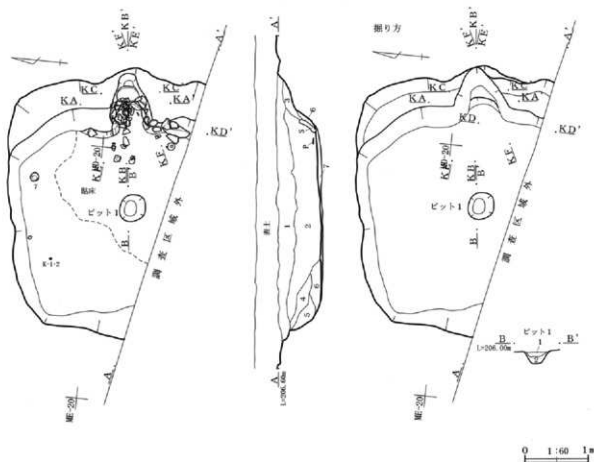


第70図 III区1面Hr-FP上11号住居跡



第71図 Ⅲ区1面Hr-FP上11号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物



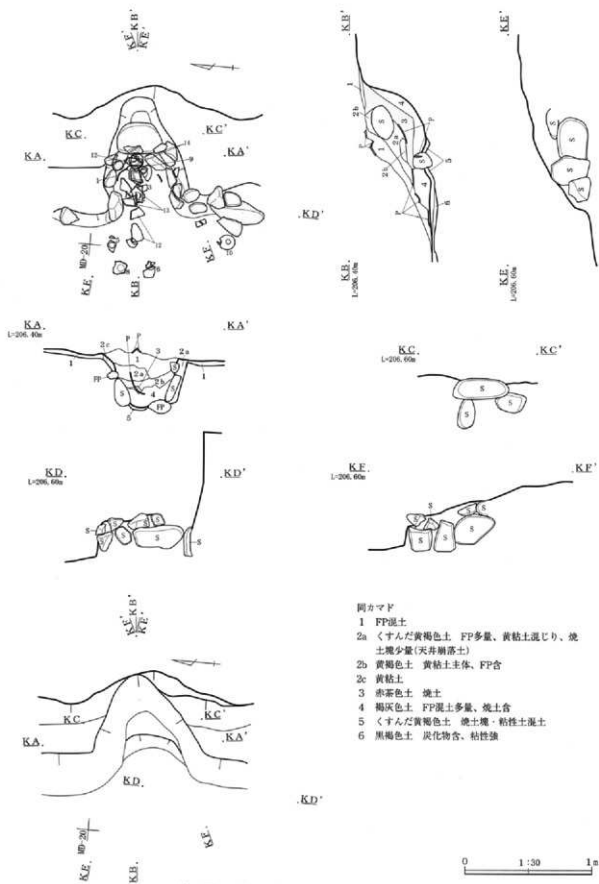
12号住居跡

- 1 黒褐色土 中粒FP多量
- 2 黒色土 中粒FP極多量
- 3 暗褐色土 中粒FP多量、粘性有
- 4 黒色土 中粒FP多量
- 5 中粒FP主体 黒色土粒少量
- 6 黒色土 中粒FP多量
- 7 黒色土 炭化物僅か、粘性有(粘床)

P 1

- 1 暗褐色土 焼土塊含
- 2 黒褐色土 細粒FPと炭化物の混土

第72図 Ⅲ区1面Hr-FP上12号住居跡



第73図 III区1面Hr-FP上12号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物

埋没土 上層は黄褐色～赤褐色の粘性土（天井崩落土）。下層はF P及び焼土粒子を含む褐色土。

遺物出土状態 多量の埴及び羽釜の破片が出土した。カマド両袖先端にも埴が裏返して出土した。その一部は、カマドの構築材として使用されていたものと思われる。

遺存状態 燃焼部の天井は崩落していたが、良好であった。礫を粘土で押さえて構築されていた。燃焼部両壁は良く焼けていた。

13号住居跡

位置 MB-20・21, MC-20・21, MA-20・21

主軸方向 N88°E

重複 無し。

規模 縦4.72m×横6.20m×深さ0.85m

形状 隅丸方形。

埋没土 F Pを多量に含む黒褐色～黒色土。壁近くの三角堆積部分には炭化物が少量含まれる。

掘り方(床下) 貼床下は4～17cm程下がり、その中に長径95cm×短径75cm×深さ11cm程の楕円形土坑と長径100cm×短径85cm×深さ22cmの炭化物と灰が詰まった楕円形土坑があり、中から灰釉陶器出土。

床面 カマド手前から中央部分にかけて、黄褐色粘性土により貼床がされていた。部分的に炭化物を含む黒褐色土も認められた。

貯蔵穴 カマド右前南東コーナーに床下調査時に確認された長径93cm×短径90cm×深さ31cmの不定形の土坑があった。中から須恵器の坏や埴破片が多く出土した。

周溝 無し。

柱穴 カマド左前東壁下に長径65cm×短径40cm×深さ32cm、カマド前1.5m程のところに長径40cm×短径30cm×深さ48cm、南壁西寄りに長径47cm×短径43cm×深さ49cmのピットがあった。

遺物出土状態 南西コーナーからは笹又はカヤ状の炭化材が出土した。貼床及びその東側からは炭化材が多く検出された。東半部から須恵器や灰釉の埴等の破片が出土した。東壁中央では焼けた亜角礫のま

とまりが確認された。

遺存状態 比較的良好。北東コーナーの一部は調査区にかかり調査できなかった。東壁カマド左側は33～43cm程の段差が認められた。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長137cm 最大幅130cm 焚き口幅75cm

袖 住居内側にはほとんど張り出さない。右袖には一部礫が用いられていた。

煙道 住居壁を切り込んで103cm程外へ延びる。

埋没土 上層はF Pを含む暗褐色土。下層は黄褐色粘性土及びF Pの焼けた層、下面に灰及び炭化物を含む。

遺物出土状態 埋没土中より若干の土器片が出土したが、ほとんど目立った遺物はなかった。

遺存状態 比較的良好。カマドの構築材には円礫及び角礫が使用されていた。天井には凝灰岩の切石が使用されており、その部分は落ちずに残っていた。カマド手前は、厚さ3cm程の灰層が残されていた。

14号住居跡

位置 LY-18・19, LX-18・19 主軸方向 N75°E

重複 14号住居→1号溝

規模 縦(4.00)m×横(2.00)m×深さ0.62m

形状 隅丸方形。

埋没土 F Pを多く含む黒色土。上層よりも下層の方がF Pの割合が多い。

掘り方(床下) 東寄りに長径125cm×短径(80)cm×深さ21cmのやや不整形の床下土坑がある。

床面 貼床は認められず、F Pが床面となっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

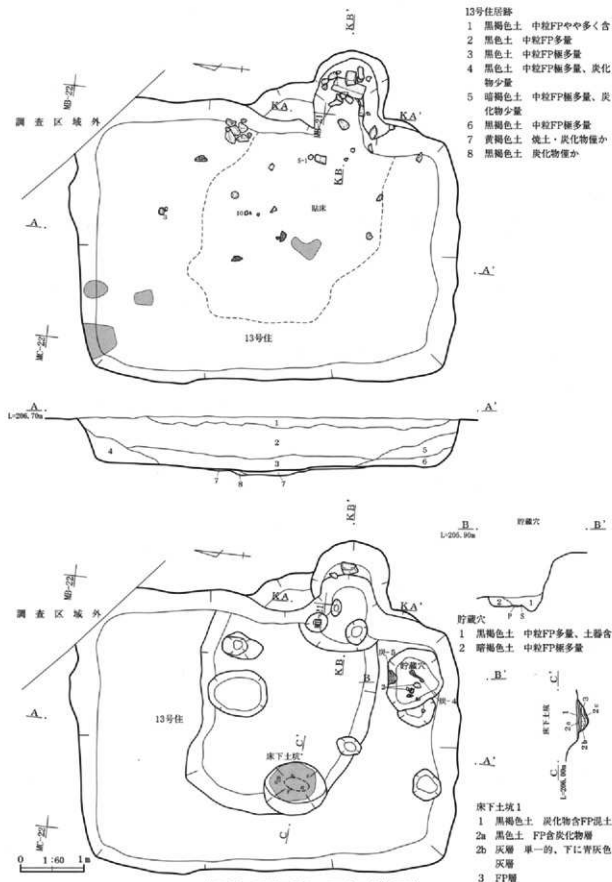
柱穴 不明。

遺物出土状態 埋没土中より須恵器埴等が出土した。

遺存状態 南側の多くが調査区外であり、北側の一部のみを調査しただけであった。

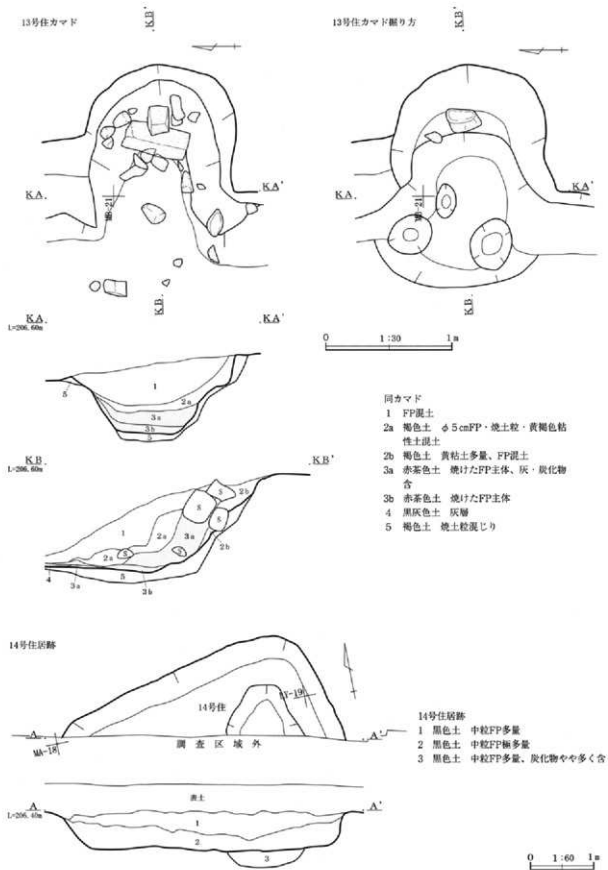
カマド 不明。

備考 10世紀後半



第74図 III区1面Hr-FP上13号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第75図 Ⅲ区1面Hr-FP上13号住居跡カマド・14号住居跡

15号住居跡

位置 MO-21・22, MP-21 主軸方向 N81°E

重複 15号住居→2号住居→38・97・104号土坑

規模 縦4.30m×横5.30m×深さ0.70m

形状 隅丸方形。

埋没土 上層はFPを非常に多く含む暗褐色土。下層はFPを主体とする褐色土で、少量の炭化物を含む。

掘り方(床下) 北西部に長径76cm×短径65cm×深さ23cmのp1と、長径65cm×短径55cm×深さ37cmの床下土坑がある。

床面 南東部2/3程は粘性のある暗褐色土で貼床がなされていたが、あまり硬くしてはいなかった。北壁～西壁にかけてはFPのままであった。

貯蔵穴 南東コーナーに長径70cm×短径67cm×深さ18cmの土坑有り。住居を切り込むように長径76cm×短径70cm×深さ108cmの土坑があるが、深さが極端に深く、貯蔵穴とは別のものと考えた。

周溝 無し。

柱穴 ①長径55cm×短径45cm×深さ39cm炭化物有り、

②長径40cm×短径38cm×深さ32cm, ③長径42cm×短径40cm×深さ29cm, ④長径43cm×短径40cm×深さ32cm, ⑤長径45cm×短径35cm×深さ48cm

遺物出土状態 南半部の貼床がある部分から須恵器塚等が出土した。南壁寄りから多くの角礫及び歪角礫が出土した。焼土も南壁寄りから多く出土した。

遺存状態 北側を2号住居に切られていたが、15号住居の方が掘り方が深いため北壁も残っていた。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長(115)cm 最大幅80cm 狭き口幅45cm

袖 住居内へはほとんど張り出さない。

煙道 住居壁を切り込んで、50cm程外へ延びる。

埋没土 上層はFPを多く含む黒褐色土、下層は粘性を有する暗赤褐色～褐色土。

遺物出土状態 燃焼部手前から若干の土器片が出土した。燃焼部の大形礫下から骨片が出土した。カマド両脇壁手前からは炭化物片が出土した。

遺存状態 煙道の先端部は104号土坑により切られていたが、比較的残りは良かった。燃焼部から煙道にかけては良く焼けていた。

15号住居跡

1-3 (2号住居跡)

- 1 暗褐色土 中粒FP極多量、炭化物少量
- 2 中粒FP主体 褐色土粒多量、炭化物少量
- 3 黒褐色土 中粒FP極多量、粘性有
- 4 暗褐色土 小粒FPやや多く、粘性有(貼床)

貯蔵穴

- 1 黄褐色シルト
- 2 暗黄褐色土 黒色土・FP混土、炭化物含
- 3 黄褐色土 FP・黄粘土混土

同カマド A-A'、B-B'

- 1 FP混土
 - 2 黒褐色土 中粒FP・黄粘土塊・焼土塊多量
 - 3 黒褐色土 中粒FP多量、炭化物粒少量
 - 4 黒褐色土 中粒FP多量、炭化物片多量
 - 5 褐色土 シルト質、やや粘性有、一部焼土化(天井崩落土)
 - 6 暗赤褐色土 小粒FP少量(天井崩落土)
 - 7 暗褐色土 小粒FP少量、焼土化
 - 8 赤茶色土 シルト質、焼土
- ①赤茶色土 FP・黄粘土塊混じり
②黄粘土 (構築材)
③汚れたFP

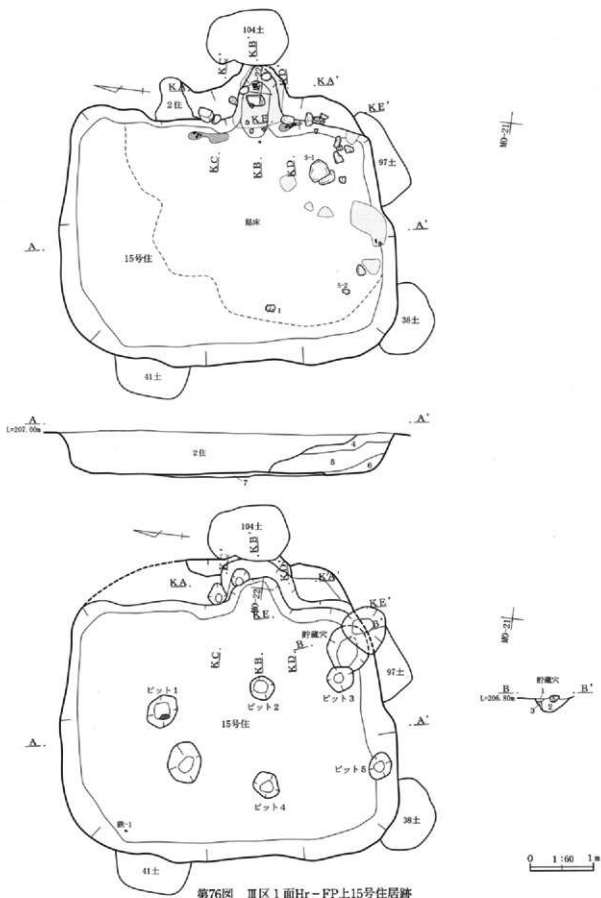
カマド床下 C-C'、D-D'

- ①炭化物主体 FP混じり
- ②a黄粘土
- ②b黄粘土 FP混土
- ②c黄粘土 黄色味を帯びるFP混じり
- ③褐色土 焼土粒・炭化物含(貼床)
- ④汚れたFP 炭化物・焼土粒僅か

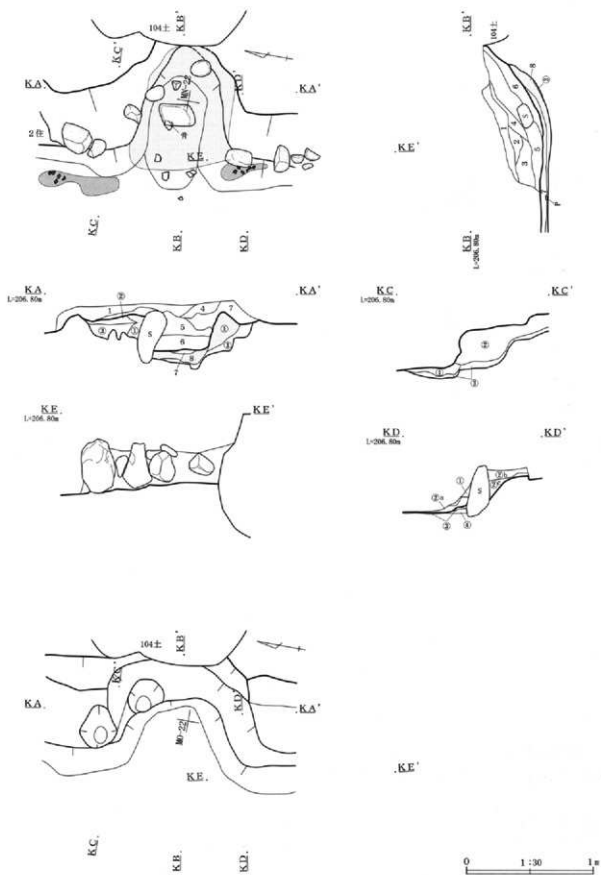
土坑

- 1 黒色土 中粒FP多量
- 2 黒褐色土 中粒細FP多量
- 3 中粒FP主体 黒色土粒多量
- 4 中粒FP主体 黒色土粒極多量

III 検出された遺構と遺物

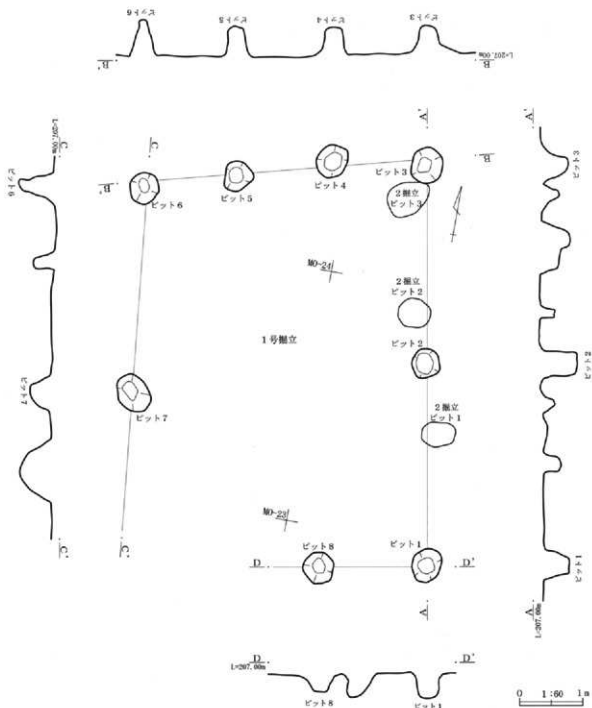


第76図 III区1面Hr-FP上15号住居跡



第77図 III区1面Hr-FP上15号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第78図 Ⅲ区1面Hr-FP上1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

位置 MN-22・23・24, MO-23・24 主軸方向 N10°

E

重複 2号住居・2号掘立柱建物跡と重複する位置にあるが、新旧関係不明。

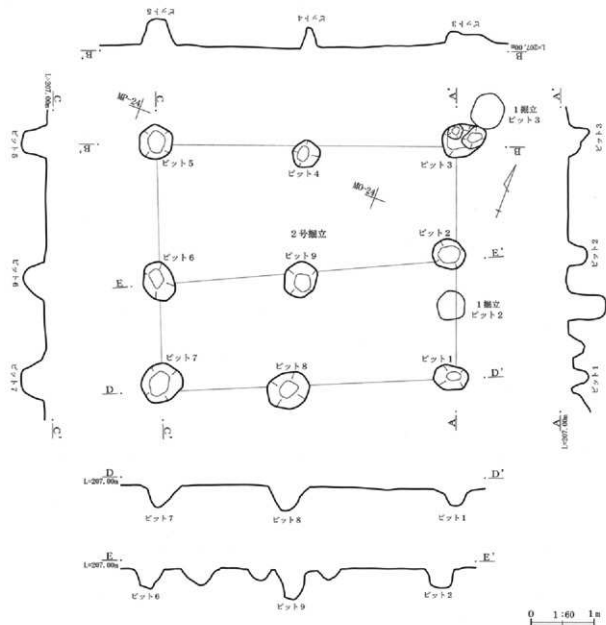
規模 2間(6.35m)×3間(4.55m)

形状 南北に長い長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形であるが、やや角張るものもあった。底面は平坦もしくは尖底。

柱穴 8本検出。p1長径53cm×短径45cm×深さ37cm, p2長径45cm×短径44cm×深さ56cm, p3長径57cm×短径50cm×深さ42cm, p4長径50cm×短径45cm×深



第79図 Ⅲ区 1面Hr-FP上2号掘立柱建物跡

さ40cm, p5長径48cm×短径45cm×深さ45cm, p6長径50cm×短径45cm×深さ56cm, p7長径60cm×短径48cm×深さ35cm, 2号掘立柱建物跡p6と重複, p8長径50cm×短径48cm×深さ37cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好であったが、南西コーナーは2号住居内であり確認できなかった。地山が軽石であり崩れ易かったこともあり、掘り方が丸味を持っていたが、やや角張るものもあり、本来は方形に近かったのではないかと考えられる。

2号掘立柱建物跡

位置 MN-23・24, MO-23・24 主軸方向 N65°E
重複 1号掘立柱建物跡と重複する位置にあるが、新旧関係不明。

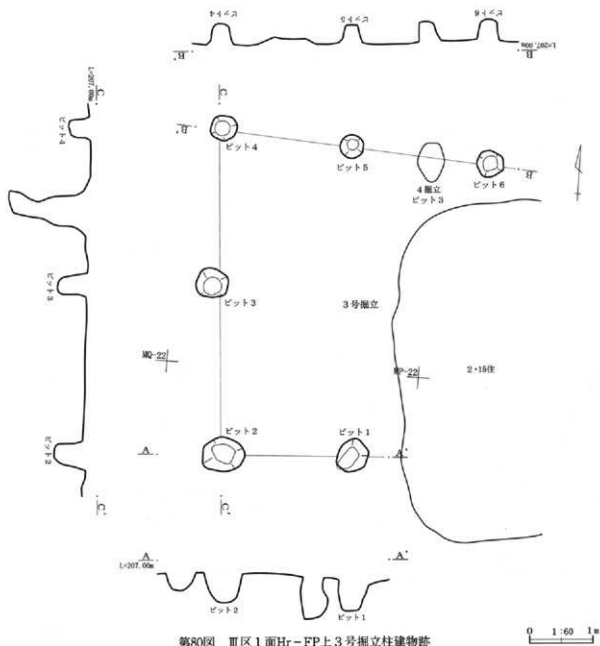
規模 1間(4.75m)×1間(3.90m)

形状 東西にやや長い長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形であるが、やや角張るものもあった。底面は平坦もしくは尖底。

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第80図 Ⅲ区1面Hr-FP上3号掘立柱建物跡

柱穴 8本検出。p1長径55cm×短径48cm×深さ27cm、
 p2長径52cm×短径45cm×深さ30cm、p3長径65cm×
 短径53cm×深さ32cm、p4長径45cm×短径43cm×深
 さ28cm、p5長径55cm×短径55cm×深さ40cm、p6長
 径60cm×短径47cm×深さ35cm 1号掘立柱建物跡p
 7と重複、p7長径63cm×短径58cm×深さ37cm、p8
 長径68cm×短径57cm×深さ45cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 地山が軽石であり、崩れ易かったことも
 あり、掘り方が丸味を持っていたが、やや角張るも

のもあり、本来は方形に近かったのではないかと考
 えられる。

3号掘立柱建物跡

位置 MO-22、MP-21・22 主軸方向 N4°W
 重複 2・5号住居及び4号掘立柱建物跡と重複す
 る位置にあるが、新旧関係不明。

規模 2間(4.95m)×2間(4.40m)

形状 北西コーナーがやや張り出す長方形？

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形であるが、やや角張るものもあった。底面は平坦もしくは尖底。

柱穴 6本検出。p1 長径53cm×短径50cm×深さ50cm, p2 長径65cm×短径53cm×深さ46cm, p3 長径52cm×短径45cm×深さ46cm, p4 長径40cm×短径40cm×深さ33cm, p5 長径36cm×短径36cm×深さ26cm, p6 長径43cm×短径40cm×深さ32cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 東側に2・15号住居があり、東辺が検出できなかった。北辺もゆがみがあった。柱穴は地山が軽石であり、崩れ易かったこともあり、掘り方が丸味を持っていたが、やや角張るものもあり、本来は方形に近かったのではないかと考えられる。

4号掘立柱建物跡

位置 MP-22・23 **軸方向** N10°W

重複 3号掘立柱建物跡と重複する位置にあるが新旧関係は不明。

規模 3間(4.45m)×2間(3.80m)?

形状 南東コーナーが張り出す長方形?

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形であるが、やや角張るものもあった。底面は比較的平坦であり、やや丸味を持つものもあった。

柱穴 4本検出。p1 長径60cm×短径47cm×深さ38cm, p2 長径41cm×短径42cm×深さ25cm, p3 長径62cm×短径42cm×深さ34cm, p4 長径38cm×短径35cm×深さ22cm, p5 長径53cm×短径53cm×深さ33cm, p6 長径54cm×短径46cm×深さ28cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。北西側は調査区外であり、全体の規模は不明。南東部に張り出す。p4は内側にぶれる。地山が軽石であり崩れ易かったこともあり、掘り方が丸味を持っていたが、やや角張るものもあり、本来は方形に近かったのではないかと考えられる。

5号掘立柱建物跡

位置 ML-21・22, MW-21・22 **軸方向** N16°W

重複 3・6号住居→5号掘立柱

規模 2間(4.20m)×2間(3.10m)?

形状 西側に若干開く長方形もしくは方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形であるが、やや角張るものもあった。底面は比較的平坦であり、やや丸味を持つものもあった。

柱穴 6本検出。p1 長径45cm×短径41cm×深さ54cm, p2 長径44cm×短径42cm×深さ48cm, p3 長径62cm×短径45cm×深さ53cm, p4 長径43cm×短径43cm×深さ45cm, p5 長径61cm×短径55cm×深さ36cm, p6 長径37cm×短径35cm×深さ37cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。西側は他の土坑・ピット類と重複があり、検出できなかったので全体規模は不明。やや西側に開く。地山が軽石であり、崩れ易かったこともあり、掘り方が丸味を持っていたが、やや角張るものもあり、本来は方形に近かったのではないかと考えられる。

6号掘立柱建物跡

位置 MG-20・21・22, MH-21・22 **軸方向** N48°W

重複 275・280・316号土坑→6号掘立柱

規模 3間(6.10m)×3間(4.10m)

形状 東西に長い長方形。南側一列は3間のところが2間、入口か?

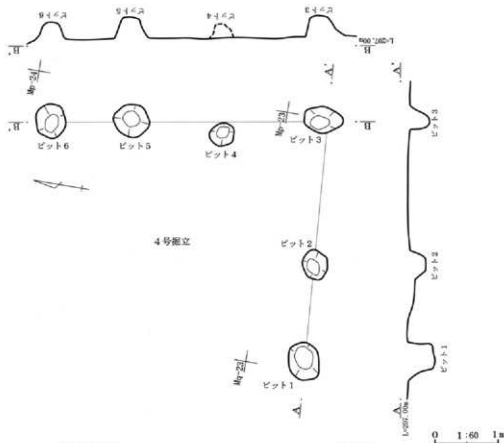
埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 小形、円形のものが多い。底面は丸底。

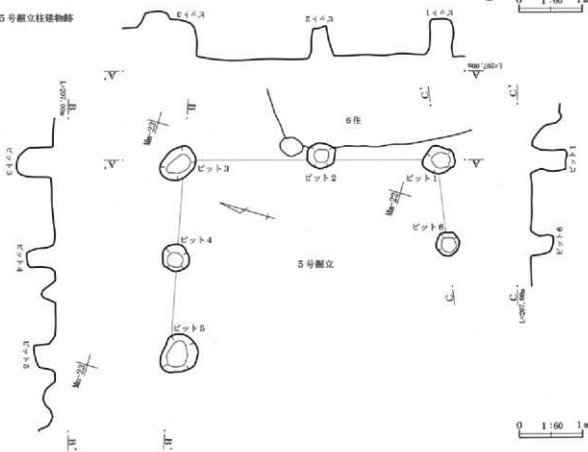
柱穴 15本検出。p1 長径42cm×短径40cm×深さ22cm, p2 長径29cm×短径30cm×深さ22cm, p3 長径45cm×短径39cm×深さ28cm, p4 長径44cm×短径35cm×深さ25cm, p5 長径36cm×短径35cm×深さ16cm, p6 長径36cm×短径34cm×深さ30cm, p7 長径35cm×短径35cm×深さ31cm, p8 長径48cm×短径35cm×深さ25cm, p9 長径53cm×短径47cm×深さ25cm, p10 長径37cm×

III 検出された遺構と遺物

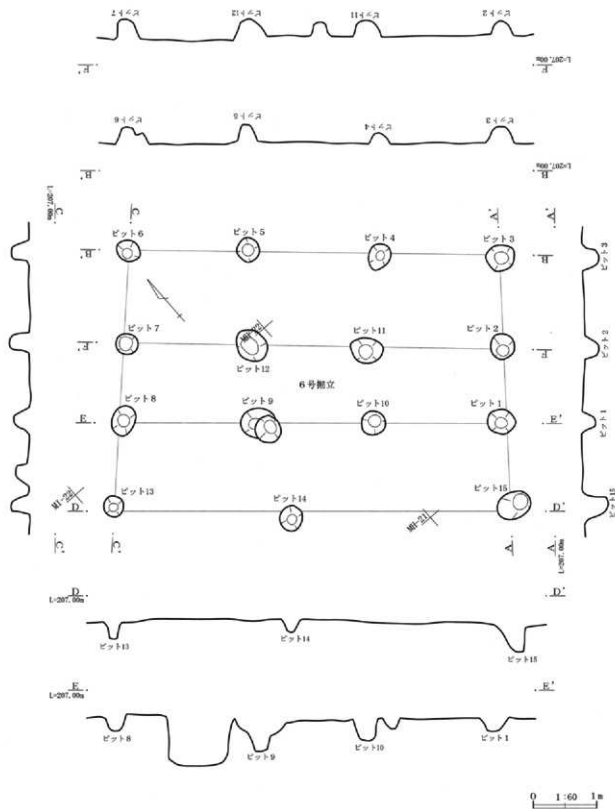
4号掘立柱建物跡



5号掘立柱建物跡

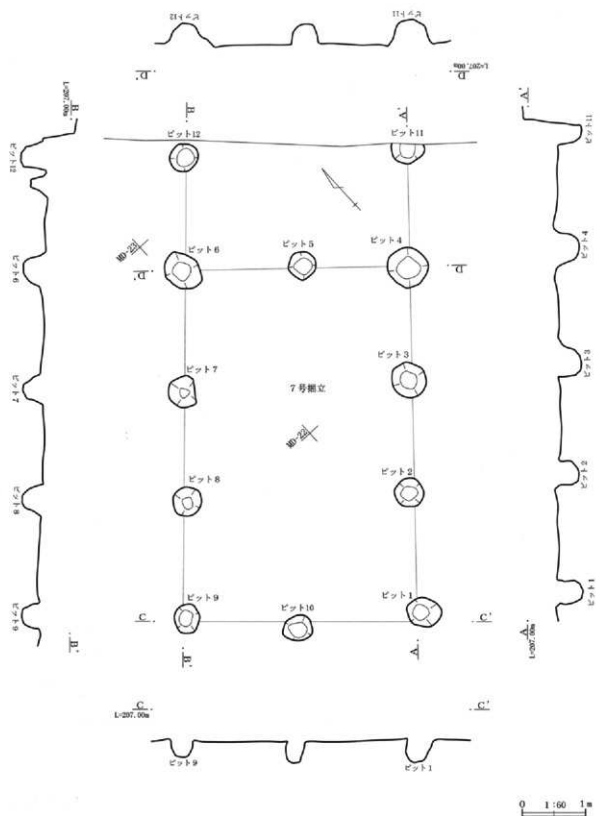


第81図 III区1面Hr-FP上4・5号掘立柱建物跡



第82図 III区1面Hr-FP上6号掘立柱建物跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第83図 Ⅲ区1面Hr-FP上7号掘立柱建物跡

短径36cm×深さ20cm, p11長径53cm×短径40cm×深さ28cm, p12長径55cm×短径46cm×深さ25cm, p13長径32cm×短径31cm×深さ26cm, p14長径41cm×短径35cm×深さ18cm, p15長径53cm×短径43cm×深さ41cm
遺物出土状態 無し。

遺存状態 良好。北側3列は総柱であり、間に2本の柱穴が開くが、南側は1本しかなく特に東半はやや間隔が広く、入口かもしくは庇の可能性も考えられる。柱穴掘り方で角張るものではなく、元々円形の掘り方であったと思われる。

7号掘立柱建物跡

位置 MC-21・22・23, MD-21・22 主軸方向 N42°E

重複 411号土坑→7号掘立

規模 4間(7.4m)×2間(3.75m)?

形状 南北に長い長方形。

埋没土 FPを多く含む黒褐色～暗褐色土。

掘り方 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形であるが、やや角張るものもあった。底面は平坦なものは少なく、丸底のものが多かった。

柱穴 12本検出。p1長径50cm×短径45cm×深さ43cm, p2長径46cm×短径45cm×深さ33cm, p3長径56cm×短径53cm×深さ39cm, p4長径60cm×短径60cm×深さ43cm, p5長径43cm×短径42cm×深さ33cm, p6長径65cm×短径53cm×深さ40cm, p7長径49cm×短径42cm×深さ32cm, p8長径46cm×短径46cm×深さ31cm, p9長径45cm×短径40cm×深さ30cm, p10長径48cm×短径41cm×深さ33cm, p11長径52cm×短径(31)cm×深さ30cm, p12長径46cm×短径42cm×深さ39cm

遺物出土状態 無し。

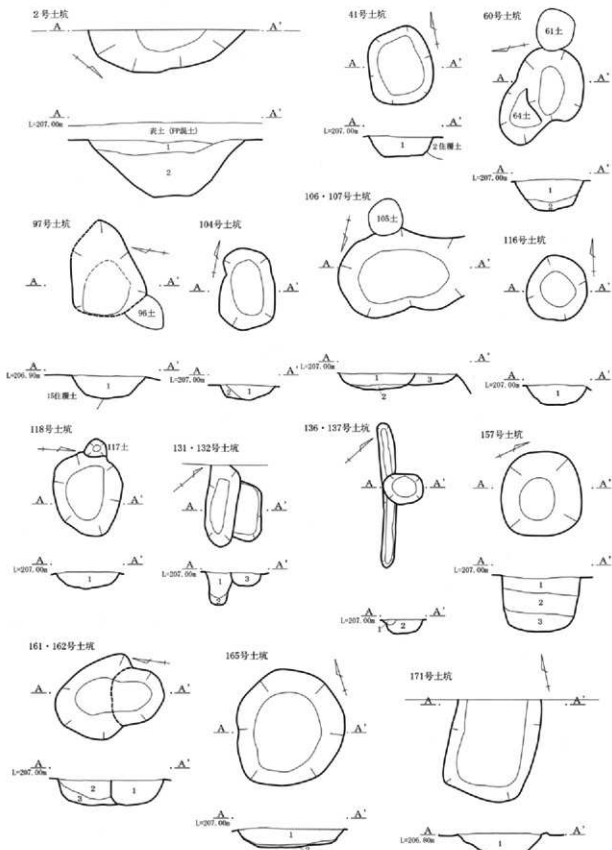
遺存状態 良好。北側は調査区外であり、まだ北に延びる可能性は否定できない。南側の中央のp10はやや南に張り出すものの、全体に比較的整った配置となっていた。地山が軽石であり、崩れ易かったこともあり、掘り方が丸味を持ったものが多かったが、本来は方形に近かったのではないかと考えられる。

土坑群

いくつかのまとまりが認められた。一つは2号住居と3号住居の間及びその周辺であり、1mを超える大形の土坑とφ40～50cm程の小ピット群がまとまる。そのうち並びの良いもの5つが掘立柱建物跡として捉えることができた。もう一つは3～8号住居の間周辺であり、比較的大きめの土坑が分布する。南北に長い土坑もいくつか認められた。さらに7～11号住居の間の部分で小ピットが集中する部分である。そのうちの並びの良いものが6号掘立柱建物跡として抽出することができたが、他にも掘立柱建物跡があった可能性は否定できない。10～13号住居の間では土坑分布は少なく、大形のものほとんどなかった。小形のものの中で7号掘立柱建物跡が認識された。それよりも東側は土坑・ピット類は散漫で急激に数は少なくなる。Ⅱ区は比較的少なかったため、その状況が現況道路下にも続くものと思われる。

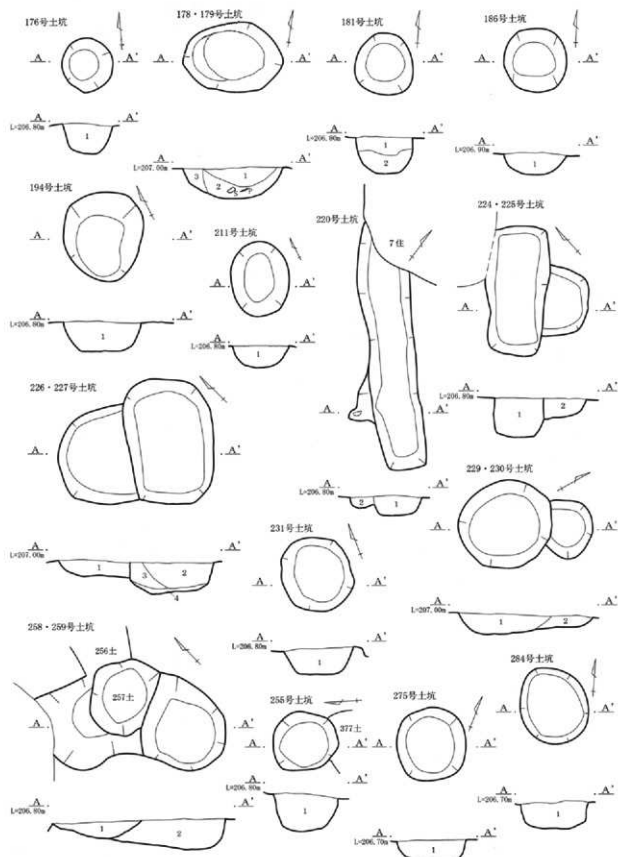
土坑の形態は、ほぼ円形を呈するもの、隅丸長方形を呈するもの、長い長方形を呈するものがあつた。60号土坑からは灰軸陶器破片及び須恵器破片、羽釜破片等が、116号土坑から坏や埴底部破片、157号土坑から須恵器破片、165号土坑から須恵器の埴や破片、206号土坑から須恵器破片、231号土坑から須恵器埴底部、299号土坑から須恵器破片、404号土坑から須恵器埴底部が出土した。いずれも小破片であり、多量の遺物がまぎらって出土したものはない。これらの中のいくつかは墓坑になる可能性はあるが、確認できなかった。

III 検出された遺構と遺物



第84图 III区1面Hr-FP上2・41・60・61・64・97・104~107・116~118・
131・132・136・137・157・161・162・165・171号土坑

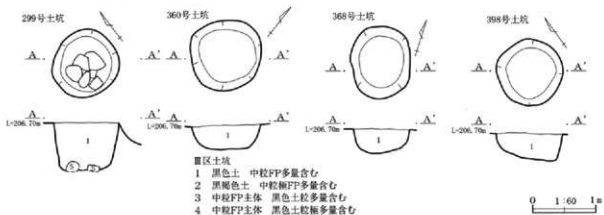
0 1:60 1m



第85图 Ⅲ区1面Hr-FP上176・178・181・186・194・211・220・224~227・
229・230・231・255~259・275・284号土坑

0 1:60 1m

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第86図 Ⅲ区1面Hr-FP上299・360・368・398号土坑



上) Ⅲ区東側Hr-FP遠景
(北東から)



下) 1~4号掘立柱建物跡
(東から)

第2面F P下

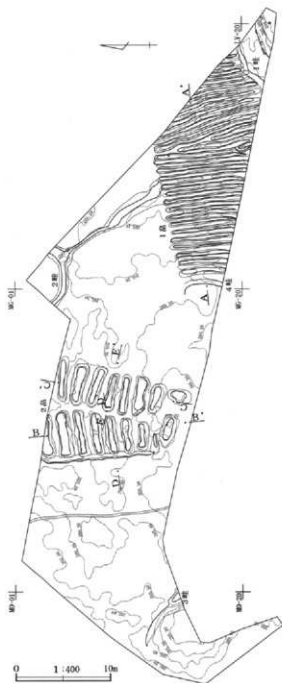
F P下畠

F P下では畠の畝と遺状遺構、畦状遺構が検出された。畠は長サク状のものと短サク状の2つのタイプがあった。長サク状のものは東側のⅡ区寄りで確認されたものであり、長さ12mで幅23mの範囲で、ほぼ南北の走向を持ち、約1m間隔に平行していた。畝は約10cm前後の高まりとして認識できるもので表面には弱い凹凸があった。途中で走向方向が2又に分かれる部分があり、耕作者が違うのか、作物が違うのか何らかの違いがあったのではないかと考えられる。ちなみに調査時には南側はコンニャク畑であったが、耕作者によって耕作方向に差があるのが見受けられた。畠の畝や畝間に差がないことからすると耕作者が違う可能性が想定できようか？しかし、畦等で明確に区切られていないことから、その耕作者は比較的親しい間柄であったことも推定される。Ⅱ区西側で検出された長サク状畠に連続するものと考えられる。

短サク状畠は調査区のはほぼ中央部で確認されたものであり、東西方向の長さ1.5~4.5cmで8本、2単位平行して南北に並ぶ。南側が狭く、北側が広く扇形に開く形態となっていた。10cm以上の高まりとして認識され、耕作具による痕跡が1列に並んで検出された部分もあり、作物を植えるために畠を作った直後にF Pが降下した可能性がある。酸体分析では高まりの部分でも低い部分でもイネが検出されており、特に低い部分が多かった。しかし苗は検出できなかった。一般的に陸苗代ではないと言われることが多いが、それを証明するような分析結果とはならなかった。畠西縁に付着する踏み痕は弱いものであり、MMライン上に南北にみられる細い遺状遺構とは違うタイプのものであった。畠耕作のためのものと考えられよう。この短サク状畠の西側と東側には浅く不明瞭な短サク畠の痕跡があり、地表面には低い凹凸が残っている部分が多かった。近い過去に短サク状畠を作った後耕作は行っていたが、まだ盛り上げて整った畠にする前の段階のものとする

とができよう。長サク状畠と短サク状畠とで一つのセットを構成していたことは分かるものであった。

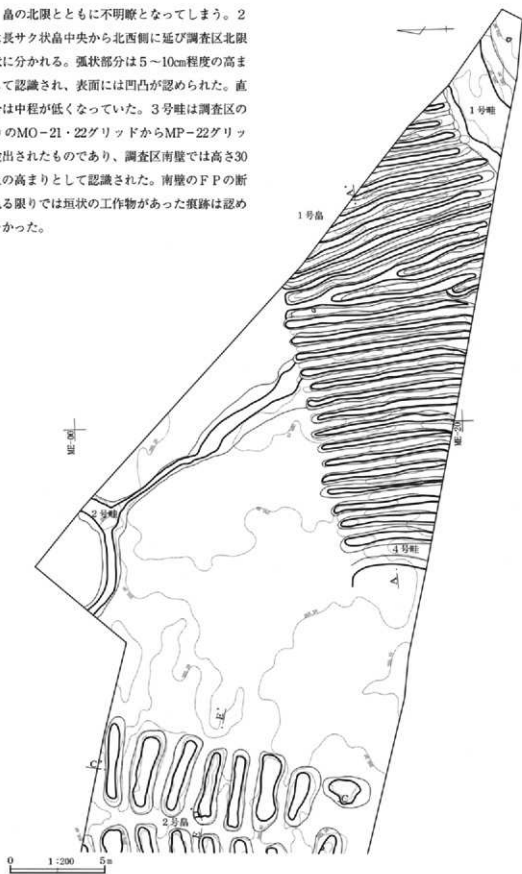
それ以外に1~4号までの畦も検出された。長サク状畠の南側は一段高くなっておりその部分を1号畦とした。幅約2mであり、比較的良くしまっていた。南側を回り、西側の4号畦につながるものと思われる。4号畦は長サク状畠の西縁を区切るもので



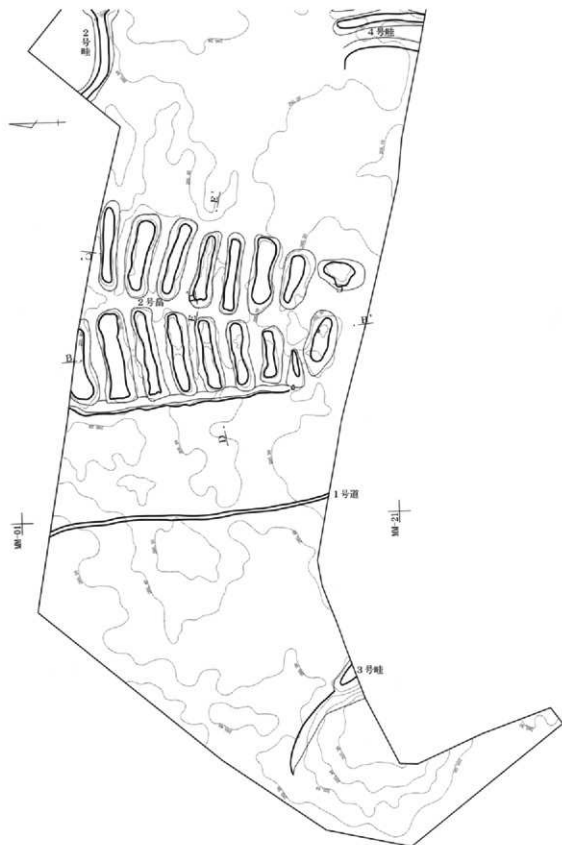
第87図 Ⅱ区2面Hr-FP下遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

あり、畚の北限とともに不明瞭となってしまう。2号畦は長サク状畚中央から北西側に延び調査区北限で弧状に分かれる。弧状部分は5~10cm程度の高まりとして認識され、表面には凹凸が認められた。直線部分は中程が低くなっていた。3号畦は調査区の西寄りのMO-21・22グリッドからMP-22グリッドで検出されたものであり、調査区南壁では高さ30cm以上の高まりとして認識された。南壁のFPの断面で見ると限りでは弧状の工作物があった痕跡は認められなかった。

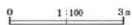
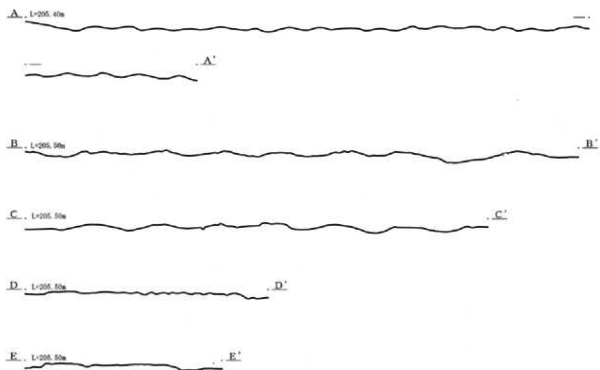
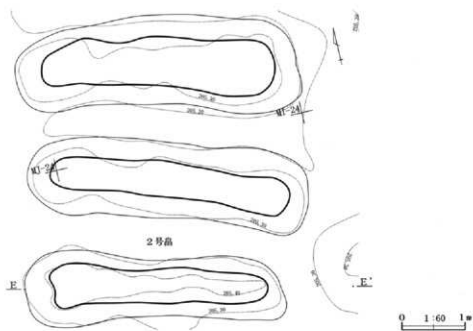


第88図 Ⅲ区2面Hr-FP下長サク畚・短サク畚対比



第89図 III区2面Hr-FP下短サケ晶アブ

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第90図 Ⅲ区2面Hr-FP下短サク晶セクション・エレベーション

第3面FA上

畠・垣・平地式建物跡・巨大周溝・サイロ状遺構・掘立柱建物跡

3面FA上では、畠・垣痕・平地式建物跡・巨大周溝・サイロ状遺構・掘立柱建物跡が検出された。畠はいずれも長サク状のものであったが、南北方向の走向を持つものと東西方向の走向を持つものが多かった。一部西側においては斜め方向の走向を持つものも確認された。西半においては、およそ東西→南北→斜めという順に耕作が行われていたようであるが、東半では、一部南北→東西という順になる部分があった。東端のF P下畠で確認された長サク状のもの下位では畝の下と畝間にサクの痕跡が検出された。間隔はサクの中心から中心まで約1mであり、それはほとんどすべての畠で共通していた。

畠と平地式建物などの構築物の前後関係はⅢ区においては畠が切っており、建物を作った後に畠にしていることが分かった。Ⅳ区のように畠を平地式建物の周溝が切っているものとはまったく逆のことが伺えた。畠と集落は一つのセット関係をなしており、Ⅲ区の畠を耕作していたのはⅣ区に住んでいた人たちで、Ⅳ区の畠を耕作していたのがⅢ区に住んでいた人たちかもしれない。ということで、集落だけ考えるとⅢ区→Ⅳ区という移動が考えられる。

垣は1～11号まで確認されたが、1号垣は西壁付近で検出されており、西側に曲がり込むことから、Ⅳ区側につながるものと考えられる。西側の2・3号垣と4・5号垣で囲まれる範囲が、本調査区では主たる部分であり、幅およそ25mの範囲となる。2号垣と3号垣は途中で一緒になるが、その断面から西側から徐々に東側に移っていることがわかった。

1号平地式建物跡と8・9号掘立柱建物跡では切り合いが認められ、1号平地式建物跡は8・9号掘立柱建物跡に切られており、又、7号平地式建物跡は1号平地式建物跡に切られており、平地式建物跡と掘立柱建物跡の間には時期差があり、さらに平地式建物跡同士でも時期差があることがわかった。8号平地式建物跡と10号掘立柱建物跡でも同様なこと

と言える。サイロ状遺構は1・2号の場合は平地式建物跡の外で確認されたが、3・4号の場合は平地式建物跡の内部で確認された。内部のものは平地式建物跡に伴う一施設と捉えることもできるが、外部にあるものと大差無く、別時期のものと考えた方がよいであろう。

中央部北壁部分で溝幅1～1.5m、深さ30～50cm程の周溝で囲まれた部分が検出された。その内側の

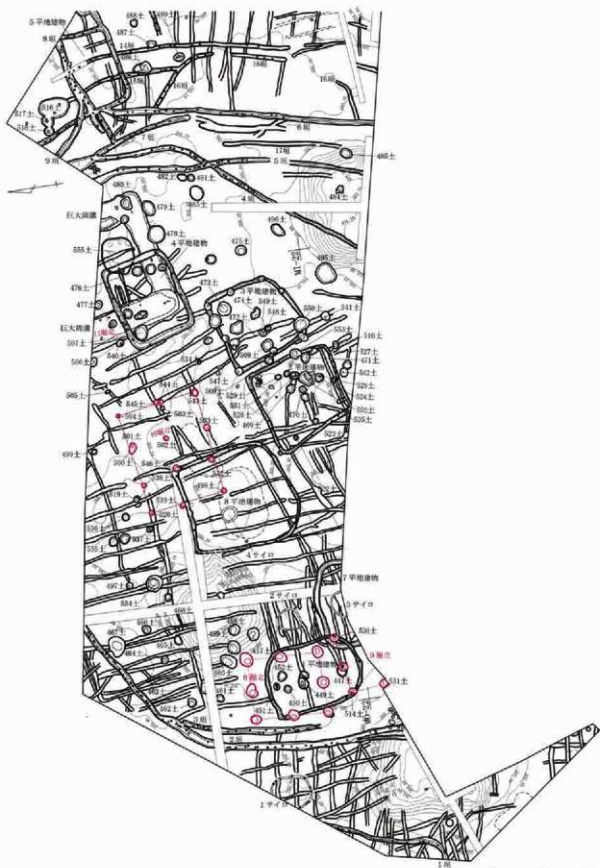


第91図 Ⅲ区3面Hr-FA上遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第92図 Ⅲ区3面Hr-FA上高・集落跡配置図東部分



第933図 III区3面Hr-FA上高・集落跡配置図西部分

III 検出された遺構と遺物

台座及び周辺より多量のモミ殻付炭化米が出土した。11号掘立柱建物跡と4号平地式建物跡に切られるものであり、それらよりも古いものであるが、埋め土にはF Aブロックが多く混じっており、人為的に埋め戻したことがわかる。

3号平地式建物跡と2号平地式建物跡は北辺を揃えて並んでおり、3号平地式建物跡には四隅とその間にφ30cm前後で深さ40～50cmの掘り方を持ち、φ10cm前後の柱痕を持つ柱穴が検出されたが、2号平地式建物跡周溝にはφ5～6cm前後の小ピットしか検出できなかった。規模的には一辺4.5m前後で両方ともほぼ同じであるが、まったく作りの違うタイプのものであった。6号平地式建物跡でも北東コーナーと北西コーナーに同様の柱穴が確認された。

平地式建物跡には他にIV区3号のように4本の柱穴が周溝よりも内側に立つものもあり、単に周溝で囲まれるというだけでなく、少なくともこれらの3種があることが確認された。

6号平地式建物跡は10号垣や11号垣で囲まれており、これらは西側に若干カーブしており、この集落は最大時ここまで広がったものと考えられる。垣の周溝の中にはIV区同様小ピットが関くものが多く、中に細い杭を立てて、横につないだ比較的簡単な構造のものであった可能性が高い。頻繁に作り替えられたものと推定される。

1号平地式建物跡

位置 MN-22・23, MO-22・23 主軸方向 N8°W

重複 7号平地→1号平地→8・9号掘立

規模 縦5.20m×横3.60m

形状 楕円形。北西コーナーはやや角張るが、他は全体的に丸い。

床面 周溝で確認したが、当時の床面が残っていたか否か不明。特に硬化している部分はなかった。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅10～20cm、深さ1～5cmで全周する。埋没土は、F Aブロック・粒子を含む黒褐～暗褐色土。底面には一部小ピットが関く部分もあった。

柱穴 無し。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。非常に浅く、周溝でかろうじてプランを確認した。畚の耕作で切られており、その確認は非常に困難であった。

2号平地式建物跡

位置 MJ-21・22, MK-21・22 主軸方向 N20°W

重複 2号平地→南北・東西のサク

規模 縦4.50m×横4.35m

形状 隅丸方形。南辺がやや狭く、北西コーナーが若干張り出す。

床面 南東部にφ30～50cm、深さ15～20cm前後の多くのピットが集中する。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅12～25cm、深さ2～5cmで全周する。埋没土はF Aブロック・粒子を多く含む暗褐色～黒褐色土。底面にφ5cm前後の小ピットが関く。

柱穴 無し。

遺物出土状態 北東コーナーに礫を中心とした遺物が集中する。

遺存状態 不良。周溝は浅く、かろうじてプランを確認した。畚の耕作で切られており、確認は困難であった。

3号平地式建物跡

位置 MI-22・23, MJ-22・23 主軸方向 N22°W

重複 3号平地→南北方向のサク

規模 縦4.30m×横4.25m

形状 隅丸方形。南辺がやや狭くゆがむ。

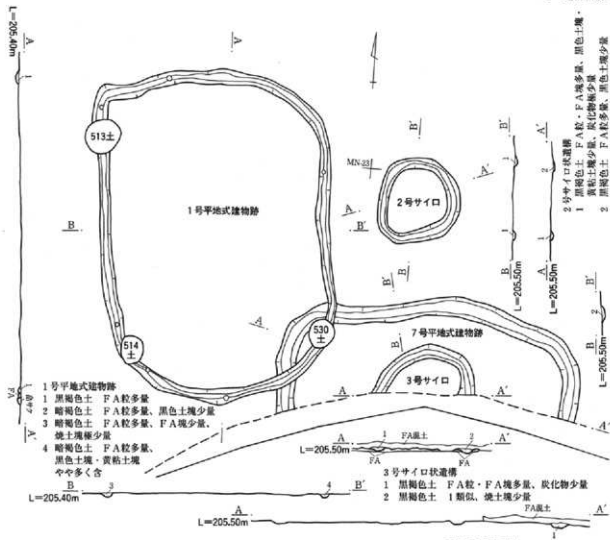
床面 南西部はやや盛り上がりを見せ、表面も他の場所に比べ硬化していた。入口の可能性が考えられる。

貯蔵穴 不明。北東コーナーに長径75cm×短径70cm×深さ19cmの土坑があったが、その可能性は否定できない。

周溝 幅15～25cm、深さ3～5cmで全周する。埋没土はF A粒子・ブロックを含む暗褐色土。

1 遺構調査

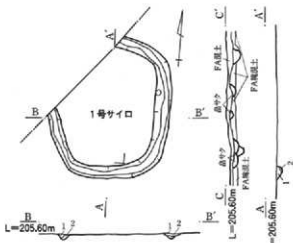
- 2号サイロ状遺構
 1 黒褐色土・FA粒・FA塊多量、黄色土塊・炭化物少量、FA塊少量
 2 黒褐色土・FA粒多量、黄色土塊少量



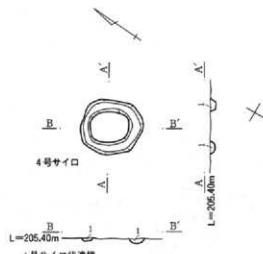
- 1号平地式建物跡
 1 黒褐色土 FA粒多量
 2 暗褐色土 FA粒多量、黒色土塊少量
 3 暗褐色土 FA粒多量、FA塊少量、焼土塊極少量
 4 暗褐色土 FA粒多量、黒色土塊・黄粘土塊やや多く含む

- 3号サイロ状遺構
 1 黒褐色土 FA粒・FA塊多量、炭化物少量
 2 黒褐色土 1類似、焼土塊少量

- 7号平地式建物跡
 1 黒色土 中粒FF多量、炭化物少量
 2 暗褐色土 FA粒・FA塊多量



- 1号サイロ状遺構
 1 暗褐色土 FA粒・FA塊多量
 2 黒色土 FA塊多量

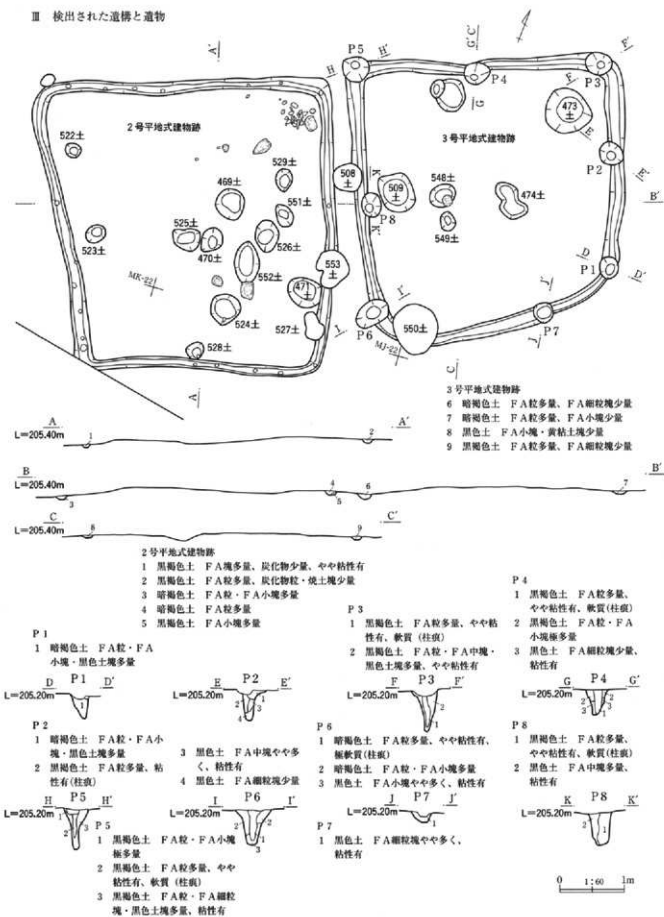


- 4号サイロ状遺構
 1 黒色土 FA粒・焼土塊・炭化物・黄褐色軽石粒少量

第94図 Ⅲ区3面Hr-FA上1・7号平地式建物跡・1～4号サイロ状遺構



Ⅲ 検出された遺構と遺物



第95図 Ⅲ区3面Hr-FA上2・3号平地式建物跡

柱穴 四隅とその中間に計8本の柱穴が開く。p1 長径35cm×短径30cm×深さ43cm。柱痕無し。p2 長径39cm×短径35cm×深さ55cm。柱痕φ10cm×深さ35cm。p3 長径52cm×短径37cm×深さ60cm。柱痕φ10cm×深さ50cm。p4 長径40cm×短径35cm×深さ40cm。柱痕φ12cm×深さ38cm。p5 長径40cm×短径38cm×深さ48cm。柱痕φ10cm×深さ45cm。p6 長径39cm×短径28cm×深さ53cm。柱痕φ10cm×深さ47cm。p7 長径57cm×短径37cm×深さ54cm。柱痕無し。p8 長径30cm×短径28cm×深さ22cm。柱痕φ12cm×深さ48cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。非常に周溝は浅く、かろうじてプランを確認した。畠の耕作で切られており、確認は困難であった。南側はかなりゆがんでいたが、中に柱穴が立つことからプランに間違いのないものと判断した。2・3号平地式建物跡は北辺を描いて並んでおり、構造は違いますが同時期のものと考えられる。

4号平地式建物跡

位置 MH-23・24, MI-23・24 主軸方向 N73°E

重複 巨大周溝→4号平地→南北方向のサク

規模 縦4.50m×横3.60m

形状 隅丸長方形。

床面 周溝で確認したが、当時の床面が残っていたか否か不明。特に硬化している部分はなかった。

貯蔵穴 不明。北西コーナーに長径72cm×短径63cm×深さ18cmの507号土坑が、東壁中央手前に長径55cm×短径46cm×深さ7cmの476号土坑がある。

周溝 幅15～30cm。深さ15～30cmで全周する。埋没土はFA粒・ブロックを多く含む黒褐色土。底面にφ5cm前後の小ピットが開く。

柱穴 無し。

遺物出土状態 中心よりやや北壁寄りで礫と土器破片が出土したが、必ずしも本遺構に伴うものとは言えるようなものではなかった。

遺存状態 良好。畠の耕作で切られていたものの、他の平地に比べて周溝は深く明瞭にプラン確認することができた。

5号平地式建物跡

位置 ME-24, MF-23・24, MG-24・00 主軸

方向 N19°W

重複 5号平地→6・8・9・12号垣。南北方向のサク

規模 縦(5.65)m×横(4.98)m

形状 隅丸長方形。

床面 周溝で確認したが、当時の床面が残っていたか否か不明。特に硬化している部分はなかった。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅20cm前後。深さ15～25cmで、東辺南半～南辺～西辺南半にかけて巡る。埋没土はFA粒子・ブロックを含む黒褐色土。底面にφ5cm前後の小ピットが開く。

柱穴 無し。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。垣と畠の耕作で切られており、垣跡と平地式建物跡の埋没土が非常に類似しており、プラン確認は困難を極めた。

6号平地式建物跡

位置 MD-20 主軸方向 N1°E

重複 6号平地→東西方向のサク→南北方向のサク

規模 縦(1.98)m×横2.80m

形状 隅丸長方形又は隅丸方形。

床面 周溝で確認したが、当時の床面が残っていたか否か不明。特に硬化している部分はなかった。

貯蔵穴 無し。

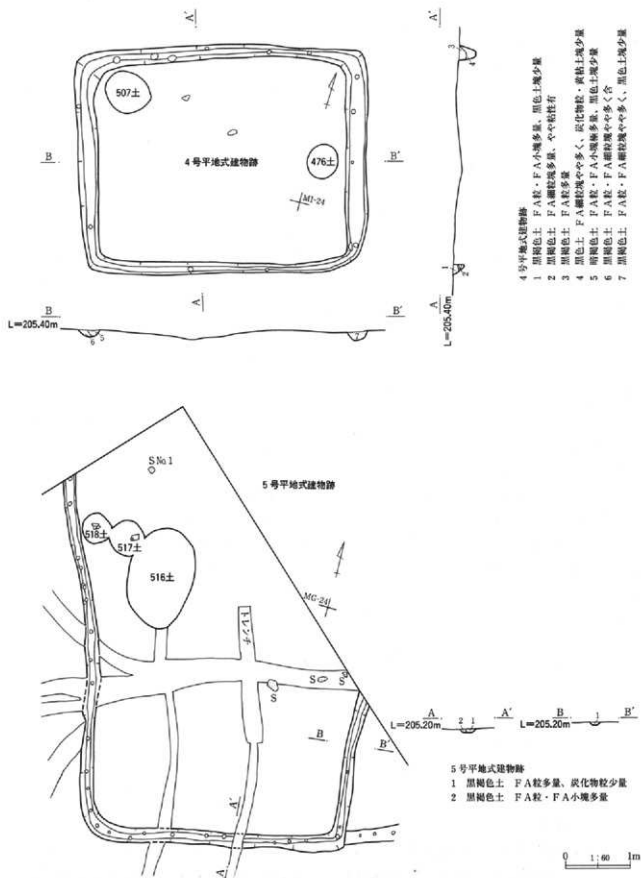
周溝 幅20～30cm。深さ4～8cmで全周する。埋没土はFAブロック・粒子を多く含む黒褐色土。底面にφ5cm前後の小ピットが開く部分もある。

柱穴 北東コーナー及び北西コーナーに有り。中間には柱無し。p1 長径37cm×短径25cm×深さ47cm。p2 長径28cm×短径27cm×深さ48cm

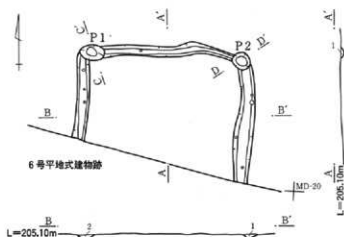
遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。比較的浅く、周溝でプランを確認したが、畠の耕作で切られておりその確認は困難であった。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

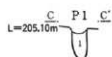


第96図 Ⅲ区3面Hr-FA上4・5号平地式建物跡

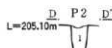


6号平地式建物跡

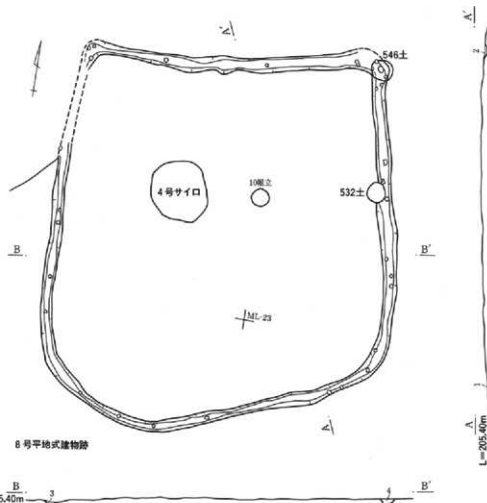
- 1 黒褐色土 FA粒・FA小塊多量、粘性有
2 黒褐色土 FA粒・FA小塊多量、炭化物粒少量、粘性有



- P1
1 黒色土 FA粒・FA小塊多量、焼土塊・炭化物少量、やや粘性有



- P2
1 黒褐色土 1類似、粘性有



8号平地式建物跡

- 8号平地式建物跡
1 暗褐色土 FA粒多量、焼土塊・炭化物少量
2 黒褐色土 FA粒やや多く、炭化物粒少量
3 黒色土 FA粒・焼土小塊・炭化物粒少量
4 黒褐色土 FA粒多量、焼土塊・炭化物少量

0 1:60 1m

第97図 Ⅲ区3面Hr-FA上6・8号平地式建物跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

7号平地式建物跡

位置 MM-22, MN-22 主軸方向 N1°W
重複 7号平地→1号平地, 3号サイロ状遺構との前後関係不明。

規模 縦(4.71)m×横(1.55)m

形状 楕円形もしくは隅丸長方形。

床面 周溝でプラン確認, 当時の床面は不明。特に硬化面無し。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅25~30cm, 深さ1~5cmで、西辺の一部~北辺~東辺の一部まで巡る。埋没土はFA粒子を多く含む暗褐色土。底面に小ピットは確認できなかった。

柱穴 無し。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。非常に浅く、周溝でかろうじてプランを確認した。畚の耕作で無数に切られており、プラン確認は非常に困難であった。

8号平地式建物跡

位置 MK-22・23・24, ML-22・23 主軸方向 N10°W

重複 8号平地→南北方向のサク, 4号サイロが内部に位置するが新旧関係不明。

規模 縦5.55m×横5.45m

形状 不整形の隅丸長方形。

床面 中心部に焼土及び炭化物が分布する部分があった。床面を湿気から防ぎ、床面を整えるために散布したものか。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅12~30cm, 深さ4~12cm, で西辺北端の一部を除き、ほぼ全周する。埋没土はFA粒子を多く、焼土粒子・炭化物粒子含む黒褐~暗褐色土。底面にφ5cm前後の小ピットが開く。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。特に北側は確認が困難であった。2・3号平地同様北辺は直線的であったが、南辺は丸く張り出していた。

巨大周溝

位置 MH-23・24, MI-23・24 主軸方向 N14°W
重複 巨大周溝→4号平地→南北方向のサク, 巨大周溝→11号掘立

規模 縦(5.80)m×横6.82m

形状 隅丸方形又は長方形。

周溝埋没土 FAブロック及び粒子を多量に含む黒色~暗褐色土。人為的に埋め戻したものと考えられる。

周溝掘り方 西側は深く、底面は比較的平坦, 南側は浅く凹凸有り。東側は西側よりも浅く凹凸有り。周溝床面 南側周溝よりも北側平坦面と南側を中心に炭化初数が多量に出土した。

周溝規模 幅1.00~1.5m, 深さ15~60cmで、西辺~南辺~東辺を巡る。

柱穴 無し。西側周溝内にくっつかのピットが開くが、必ずしも周溝に伴うものとは言えない。

遺物出土状態 周溝内部より数点の土器片と糠が出土したが、いずれも埋め土中であり、周溝のまわりの土の中のものが混入した可能性は否定できない。
遺存状態 北側1/2以上が未調査であるため、全体の形状不明。南辺は浅いのは入口があったためか。底面に凹凸がある部分が多く、施設完成前に埋め戻された可能性もある。

1号サイロ状遺構

位置 MO-22・23, MP-22・23 主軸方向 N4°W
重複 東西方向のサク→1号サイロ→南北方向のサク

規模 縦2.23m×横2.00m

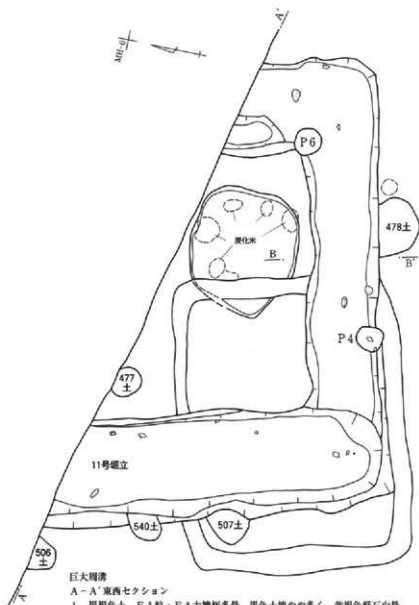
形状 楕円形もしくは隅丸長方形。

床面 周溝でプラン確認, 当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅15~25cm, 深さ10cm前後で巡る。埋没土はFA粒を多く含む暗褐色土。

遺物出土状態 無し。

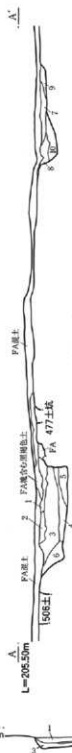
遺存状態 不良。畚と畚の狭間でつくられたもの。畚の耕作痕との切り合い関係が複雑で、プラン確認は困難を極めた。



巨大周溝

A-A' 東西セクション

- 1 黒褐色土 F A粒・F A大塊極多量、黒色土塊やや多く、黄褐色軽石少量
- 2 黒色土 F A粒・F A小塊やや多く、炭化物・黄褐色軽石少量
- 3 黒色土 F A粒・F A小塊多量、炭化物・黄褐色軽石少量
- 4 黒色土 F A粒・F A中塊極多量、黄褐色軽石少量
- 5 黒色土 F A小塊やや多く、炭化物・黄褐色軽石少量、粘性有、硬質
- 6 暗褐色土 F A粒・F A大塊極多量、黒色土塊・黄褐色軽石少量
- 7 暗褐色土 F A粒・F A小塊多量、炭化物粒・黒色土塊少量
- 8 暗褐色土 F A粒・F A中塊極多量、炭化物粒・黒色土塊少量
- 9 暗褐色土 F A粒・F A小塊多量、炭化物粒少量
- 10 黒色土 F A小塊やや多く、炭化物・黄褐色軽石少量、粘性有、硬質



B-B' 南北セクション

- 1 黒褐色土 F A粒・F A中塊・黒色土塊多量、炭化物少量、やや粘性有
- 2 黒色土 F A粒少量、粘性有、硬質
- 3 黒色土 F A中塊やや多く、炭化物粒少量、粘性有

Ⅲ 検出された遺構と遺物

2号サイロ状遺構

位置 MM-22・23 主軸方向 N11°W

規模 縦1.30m×横1.25m

形状 ゆがんだ楕円形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅15～23cm、深さ3～5cmで巡る。埋没土はFAブロック・粒子を多く含む暗褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。東西方向の畝耕作痕に切られており、プラン確認は困難であった。

3号サイロ状遺構

位置 MM-22 主軸方向 N30°E

重複 7号平地の中心に位置するが、新旧関係不明。

3号サイロ→東西方向のサク

規模 縦(1.15)m×横(1.30)m

形状 楕円形？

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅20cm前後、深さ1～4cmで巡る。埋没土はFAブロック・粒子を多く含む黒褐色土、西側には焼土粒子が含まれる。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。東西方向の畝耕作痕に切られており、プラン確認は困難であった。

4号サイロ状遺構

位置 ML-23 主軸方向 N30°W

重複 8号平地内部に位置するが、新旧関係不明。

4号サイロ→南北方向のサク

規模 縦1.00m×横0.83m

形状 楕円形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅15～20cm前後、深さ2～6cmで巡る。埋没土はFA粒子・焼土ブロック・炭化物粒子を少量含む。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。南北方向の畝耕作痕に切られており、プラン確認は困難であった。

8号掘立柱建物跡

位置 MN-22・23、MO-22・23 主軸方向 N3°E

重複 1号平地→8号掘立

規模 2間(3.90m)×2間(3.30m)

形状 南北に長い長方形。

埋没土 FAブロック・粒子を多く含む暗褐色土。

掘り方 底面は平坦もしくはやや丸味を持つ。平面形は楕円形もしくは円形。

柱穴 総柱、9本検出。中心のp9はかなり浅い。

p1長径80cm×短径65cm×深さ65cm、p2長径72cm×短径65cm×深さ64cm、p3長径53cm×短径45cm×深さ66cm、p4長径60cm×短径52cm×深さ80cm、p5長径54cm×短径50cm×深さ67cm、p6長径62cm×短径58cm×深さ80cm、p7長径63cm×短径52cm×深さ72cm、p8長径63cm×短径54cm×深さ68cm、p9長径40cm×短径36cm×深さ9cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好。p9以外はかなり深くしっかりした状態で検出された。

9号掘立柱建物跡

位置 MN-21・22 主軸方向 N10°W

重複 7号平地→1号平地→9号掘立

規模 1間(1.95m)以上×2間(3.10m)

形状 南北に長い長方形？

埋没土 FAブロック・粒子を多く含む黒褐色～暗褐色土。

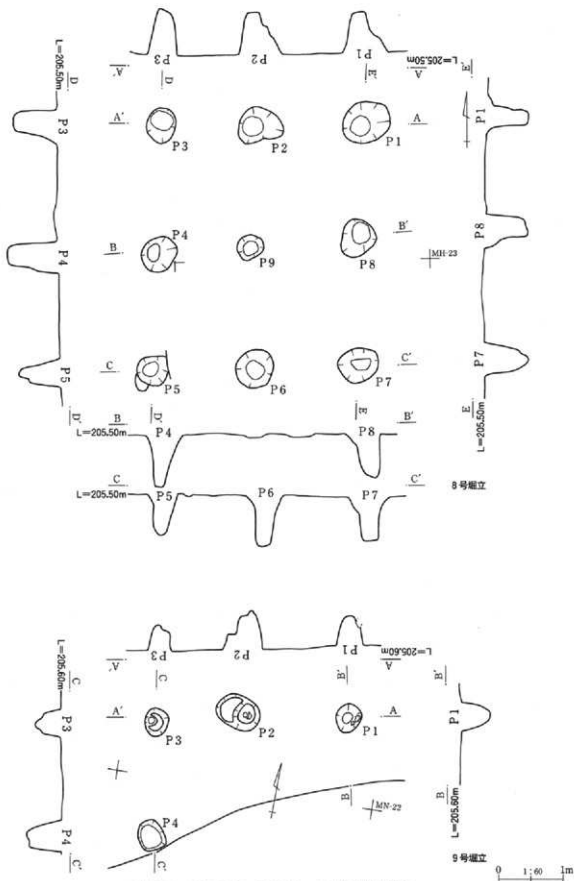
掘り方 底面は尖底のものが多く、平底もある。平面形は円形もしくは楕円形。

柱穴 8号掘立に類似するが、やや軸が西にずれる。

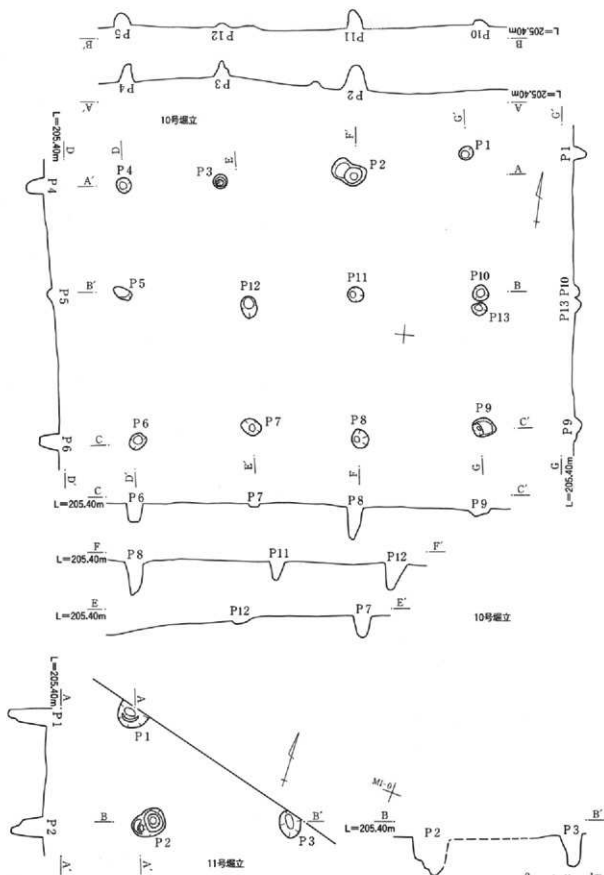
p1長径45cm×短径38cm×深さ48cm、p2長径50cm×短径43cm×深さ34cm、p3長径45cm×短径38cm×深さ45cm、p4長径(43)cm×短径40cm×深さ58cm

遺物出土状態 特に無し。

遺存状態 北列と西列北半検出。一つひとつの柱穴



III 検出された遺構と遺物



第100図 III区3面Hr-FA上10・11号掘立柱建物跡

は良好であったが、南側大半は調査区外で確認できなかった。

10号掘立柱建物跡

位置 MJ-23・24, MK-23・24, ML-23・24

主軸方向 N102°E

重複 東西方向のサク→南北方向のサク→10号掘立柱

規模 3間(5.40m)×2間(4.00m)

形状 東西に長い長方形。

埋没土 FAブロック・粒子を多く含む暗褐色土。

掘り方 底面は尖底のものが多い。平面形は小形円形又は楕円形。

柱穴 p1長径24cm×短径20cm×深さ21cm, p2長径(38)cm×短径(30)cm×深さ42cm, p3長径24cm×短径21cm×深さ23cm, p4長径25cm×短径23cm×深さ29cm, p5長径30cm×短径19cm×深さ22cm, p6長径27cm×短径23cm×深さ30cm, p7長径31cm×短径25cm×深さ35cm, p8長径30cm×短径26cm×深さ52cm, p9長径35cm×短径28cm×深さ12cm, p10長径25cm×短径25cm×深さ10cm, p11長径25cm×短径24cm×深さ31cm, p12長径33cm×短径25cm×深さ13cm, p13長径24cm×短径20cm×深さ4cm, p14長径34cm×短径(22)cm×深さ12cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。総柱建物であるが、一つひとつのピットの規模は小さく、浅いものも多い。p13・14については立て替えもしくは補助柱かと思われる。地形は下にある遺構のため北側に傾斜していた。

11号掘立柱建物跡

位置 MI-24, MJ-24 主軸方向 N22°E

重複 巨大周溝→11号掘立柱

規模 1間(1.8m)以上×1間(2.35m)

形状 方形もしくは長方形。

埋没土 FA粒子・ブロックを多く含む黒褐～暗褐色土。

掘り方 底面は尖底。平面形は楕円形。

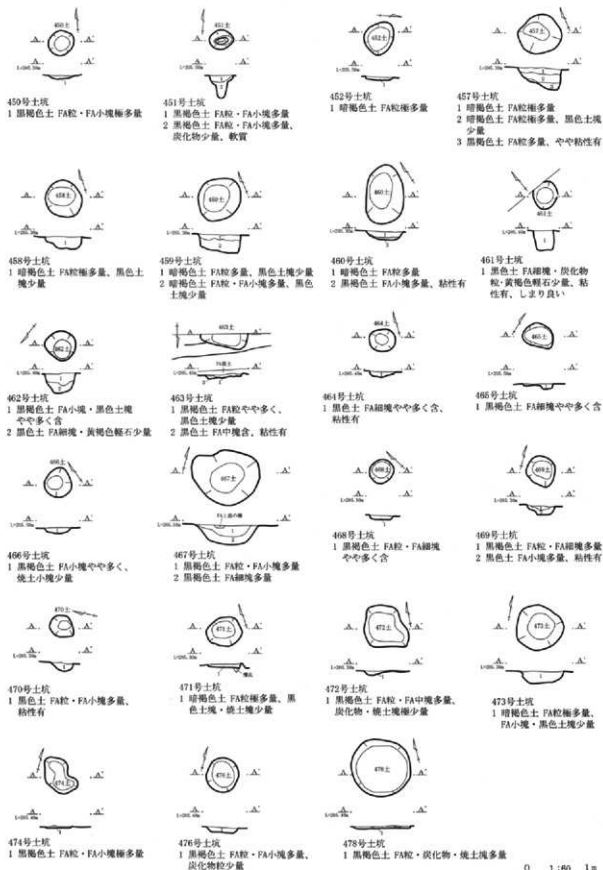
柱穴 p1長径(33)cm×短径49cm×深さ50cm, p2長

径54cm×短径35cm×深さ49cm, p3長径42cm×短径33cm×深さ51cm

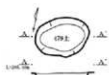
遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。p2は立て替えの可能性有り。南西コーナーを確認したのみ、他は調査区北壁以北不調査。

III 検出された遺構と遺物



第101図 III区3面Hr-FA上450~452・457~474・476・478号土坑



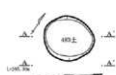
479号土坑
1 暗褐色土 FA粒・FA中塊・黒褐色土塊多量、炭化物少量



480号土坑
1 黒褐色土 FA粒・FA中塊多量、炭化物少量
2 黒褐色土 FA粒・炭化物多量、焼土塊少量



481号土坑
1 暗褐色土 FA粒極多量、炭化物・焼土塊少量
482号土坑
2 暗褐色土 FA粒多量、炭化物少量



483号土坑
1 暗褐色土 FA粒・FA細塊多量
2 黒褐色土 FA小塊多量
3 FA主体 暗褐色土塊含



484号土坑
1 黒色土 FA中塊少量、粘性有、しまり良い



485号土坑
1 黒褐色土 FA中塊多量、粘性有、しまり良い



486号土坑
1 黒褐色土 FA粒多量、炭化物・焼土塊少量
2 黒褐色土 FA粒多量、炭化物少量
3 暗褐色土 砂質、軟質
4 黒褐色土 FA粒・炭化物多量、軟質



487号土坑
1 暗褐色土 FA粒多量、炭化物・焼土塊少量、粘性有、しまり良い



488号土坑
1 487-1と同じ



489号土坑
1 暗褐色土 FA粒多量、炭化物少量、粘性有、しまり良い



490号土坑
1 黒褐色土 FA粒多量、炭化物少量、粘性有、軟質
2 黒褐色土 FA粒・黄粘土塊少量
3 黒褐色土 FA粒多量、黒褐色土塊、炭化物やや多く含、粘性有、軟質
4 黒褐色土 黄粘土塊少量、粘性有



491号土坑
1 黒褐色土 FA粒・炭粘土塊少量、粘性有



492号土坑
1 暗褐色土 FA粒・FA小塊多量



493号土坑
1 黒褐色土 FA粒・黄粘土塊多量、炭化物・焼土塊少量
2 黒褐色土 FA小塊・黄粘土塊・炭化物少量、粘性有、硬質



494号土坑
1 黒褐色土 FA粒・FA小塊多量、粘性有、硬質



495号土坑
1 黒褐色土 FA粒・FA中塊多量



496号土坑
1 黒褐色土 FA粒少量、粘性有、硬質



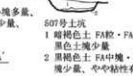
497号土坑
1 黒褐色土 FA細塊多量、粘性有、硬質



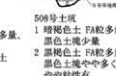
499号土坑
1 黒褐色土 FA粒多量、炭化物少量、粘性有



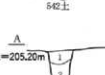
500号土坑
1 黒褐色土 FA粒・FA小塊多量、黄粘土塊・炭化物粒少量、やや粘性有、硬質



507号土坑
1 暗褐色土 FA粒・FA小塊多量、黒色土塊少量
2 黒褐色土 FA中塊・黒色土塊少量、やや粘性有



508号土坑
1 暗褐色土 FA粒多量、黒色土塊少量
2 黒褐色土 FA粒多量、黒色土塊やや多く含、やや粘性有



510号土坑
1 黒褐色土 FA粒・FA小塊多量、焼土塊・炭化物粒少量、粘性有
2 黒色土 FA細塊少量、粘性有



511号土坑
1 黒褐色土 FA粒多量、炭化物・焼土塊少量、粘性有、縮軟質(柱状)
2 黒褐色土 FA粒・FA中塊多量、炭化物・焼土塊極少量、粘性有、軟質
3 黒褐色土 FA細塊少量、粘性有



512号土坑
1 黒褐色土 FA粒・黄粘土塊・焼土塊・炭化物粒多く含、粘性有



513号土坑
1 暗褐色土 FA小塊多量、黒色土塊少量



514号土坑
1 暗褐色土 FA多量、やや粘性有
2 黒褐色土 FA粒・FA細塊多量、粘性有



第102図 Ⅲ区3面Hr-FA上479~497・499・503・507~511・514・542号土坑

0 1:60 1m

第4面FA下

竪穴式住居跡・垣跡・掘立柱建物跡・落ち込み等

Ⅲ区FA下では竪穴式住居跡3軒、そのうち16号住居跡は19号垣で囲まれていたが、17・18号住居跡を囲むような垣跡は検出できなかった。これら3軒の住居跡はいずれもFAの直下のものと考えられ、最初の泥雨部分は床面では検出されなかった。また、埋没土はFAブロックを多量に含む黒褐～暗褐色土であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。16号住居跡カマド内部にはFAの堆積は無く、その時既にカマドは使用されていなかったことがわかる。ところが、17号住居跡カマド内部には煙道部分までFAが堆積しており、降下時にはまだ使用可能であったと思われる。18号住居跡はカマドが検出されていないので不明。埋没土途中には黒色土上にFAが堆積していた。このFAには最初の泥雨部分も確認されたので、屋外であったことが分かる。これらのことから住居跡はいずれも屋根があった状態でFAが降下したことが伺える。17号住居跡では床面の北東側の堆積が厚く、標名山側から吹き込んだ様子が推定できる。

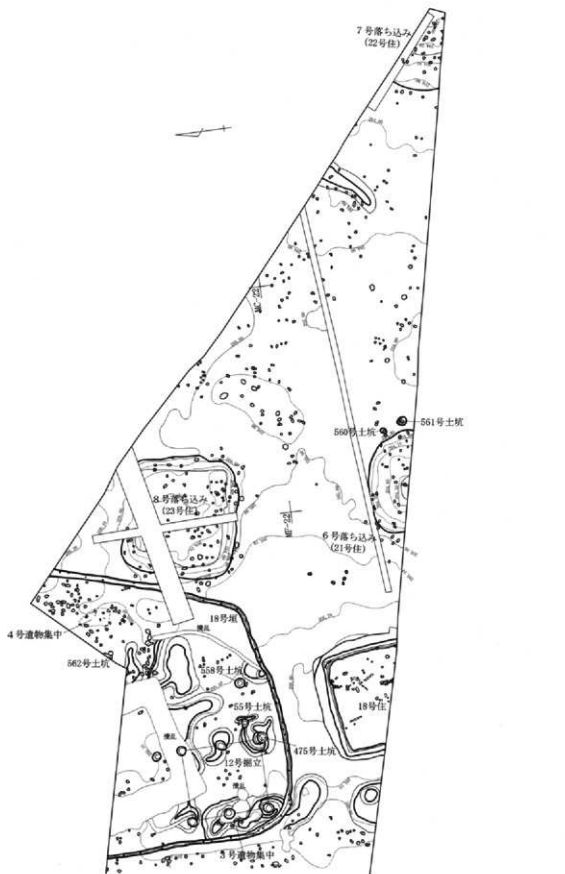
12号掘立柱建物跡は18号垣に囲まれた南西部に位置し、柱穴内には厚くFAが堆積していた。従ってFA降下時には屋根等の覆いはなかったことが伺える。その東側にもう1棟分の空間があったが、精査したものの同様の柱穴は確認できなかった。

その他に数基の地形が落ち込み場所が確認されたが、いずれも下から住居跡が確認された。これらの場所は地面が柔らかく、人や馬の足跡や、藁による耕作痕が確認された。FA下で明確に確認されたものであるが、FA上からの踏み込みである可能性も否定できない。

4ヶ所の遺物集中箇所が確認されたが、1～3号は土器・石器が両方とも出土し、まとまりを見せるが、4号は須恵器破片が分散して出土した。



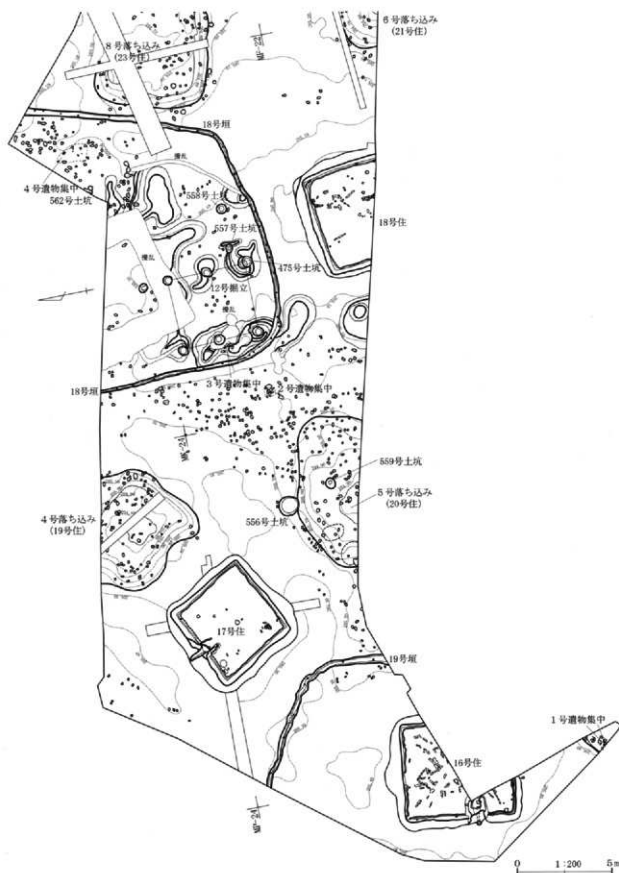
第103図 Ⅲ区4面Hr-FA下遺構配置図



第104図 III区4面Hir-FA下集落跡遺情配置図中央部分

0 1:200 5m

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第105図 Ⅲ区4面Hr-FA下集落跡遺構配置図西部分

16号住居跡

位置 MP-20・21・22, MO-21・22 主軸方向 N83°W

重複 16号住居→34号住居

規模 縦6.10m×横6.65m×深さ0.70m

形状 ほぼ方形。

埋没土 FA粒及びFAブロックを多量に含む黒褐色～黒色土。下層には炭化物が多く含まれる。床直上には部分的にFAの火砕流が残っていた。

掘り方 茶褐色粘性土ブロックを多く含む黒褐色～黒色土により硬く埋め戻されていた。住居中心部は高いが、周辺部は一段下がる。その中に多くの土坑ピットがある。三日月形の工具痕が多量に残っていた。

床面 ほぼ全面貼床がなされており、硬くしまっていた。床下土坑の部分もよくしまっていた。

貯蔵穴 南西コーナーに長径75cm×短径55cm×深さ71cmの楕円形のピットがある。大きさの割には、深さが深く柱穴状の掘り方を呈する。

周溝 幅12cm程、深さ1～6cmで、ほぼ全周廻るが、北壁中央と北西コーナー西壁の一部で途切れる。北壁から柱穴1・2にかけて幅12.3cm、深さ6cm程の仕切り溝がある。

柱穴 北東コーナーにp1φ40cm×深さ46cm、北西コーナーにp2φ40cm×深さ46cm、南西コーナーにpit3φ45cm×深さ42cmがあり、径12～14cmの柱痕が認められた。掘り方調査時にp2の南に長径55cm×短径45cm×深さ40cmのp4が確認された。

遺物出土状態 ほぼ全面的に炭化材が多く出土した。p1と2の間では天井の梁と考えられる炭化した材の木組みが出土した。南西コーナーから南壁下の周溝部分より、土師器破片及び棒状礫が出土した。

遺存状態 周堤帯の残りはあまり良くなかったが、痕跡程度に残っていた。北壁中央はやや掘り過ぎか。

カマド 位置 西壁中央よりやや南

規模 全長153cm 最大幅120cm 焚き口幅30cm

袖 両袖とも黄褐色粘性土により内側に張り出して構築されていたが、先端部には角礫又は円礫が用いられていた。

煙道 煙突部の15cm程が住居壁の外側に延びるのみで、ほとんど外には出ない。

埋没土 ほぼ焼土ブロックにより埋没していたが、煙道部分には一部黄褐色粘性土ブロックを含む褐色土及び黒褐色土が堆積していた。

遺物出土状態 ほとんど目立った遺物はなかった。

遺存状態 極めて良好で天井部分も落ちずに残っていた。燃焼部から煙道部分にかけては良く焼けていた。焚き口部分には厚さ3cm程の灰層があった。

17号住居跡

位置 MM-23・24, MN-23・24, ML-23・24 主軸方向 N29°W

重複 37号住居→17号住居, 30号住居→17号住居

規模 縦6.05m×横5.64m×深さ0.70m

形状 ほぼ方形。

埋没土 上層はFAブロック・粒子を多量に含む黒色～暗褐色土。人為的に埋め戻した土。下層は床直上にFAの火砕流、その上に黒色土（土屋根か？）、さらにその上にFAの自然堆積土。

掘り方 ロームブロックを多く含む黒色土により埋められていた。住居床周辺が窪む。ほぼ中央にも長径175cm×短径170cm×深さ25cmの床下土坑がある。床下調査時に東側柱穴部分にも仕切りが検出された。三日月形の鋤先痕が多数確認された。

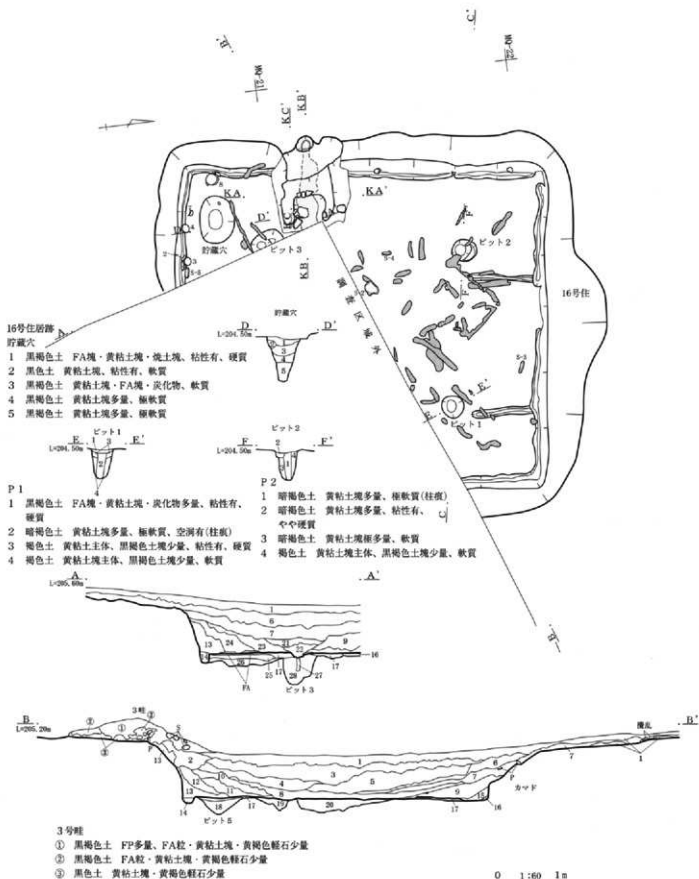
床面 ほぼ全面貼床がなされており、硬くしまっていたが、周辺部は軟質な部分もあった。

貯蔵穴 南東部に58cm×55cm×深さ72cmの方形で、その周辺に幅12cm、深さ2～4cm程の周溝が巡る。内部には火砕流の堆積はなく、FAブロック混じりの黒色土で埋められていたので、蓋があったものと考えられる。

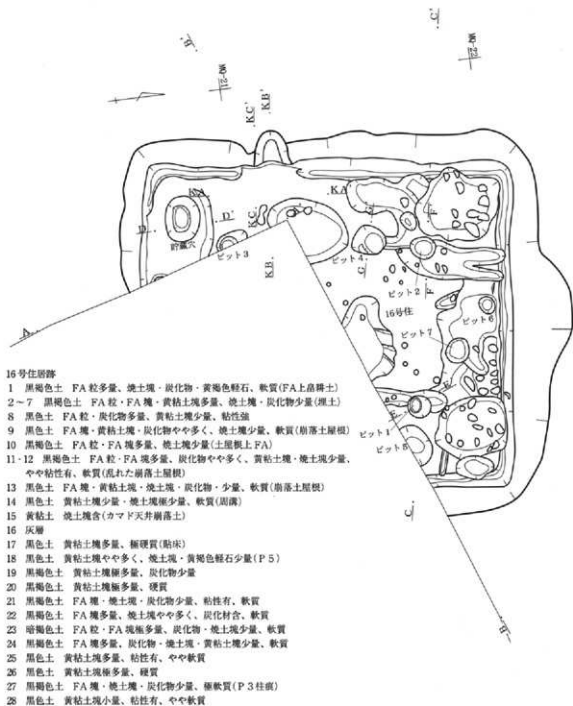
周溝 有り。幅10～20cm、深さ1～5cmで、カマド部分を除きほぼ全周する。また、周溝ではないが、幅15～25cm、深さ4～6cmで西側に3条、北側に1条、東側に2条、南側に1条の計7条の仕切りがあった。

柱穴 p1長径40cm×短径33cm×深さ54cm、柱痕10cm、p2長径45cm×短径40cm×深さ55cm、柱痕15cm、p3長

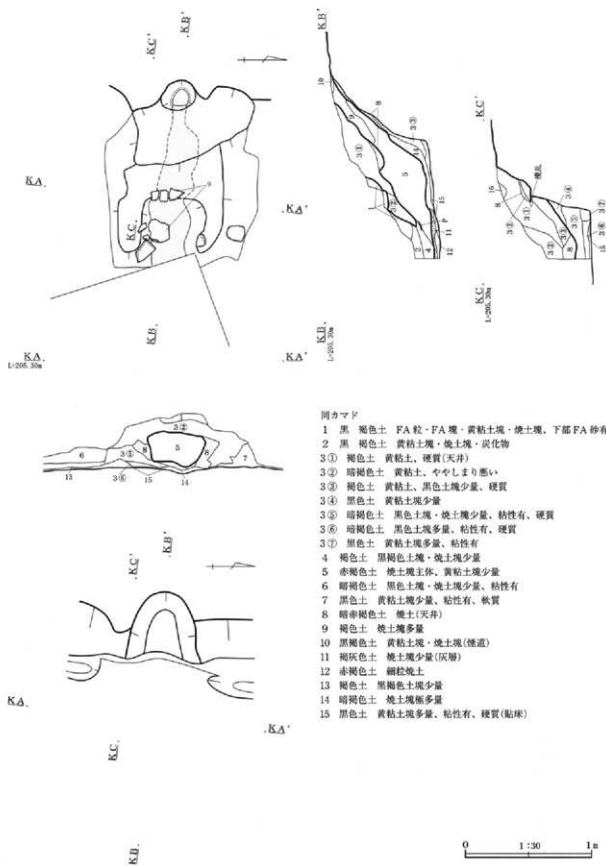
III 検出された遺構と遺物



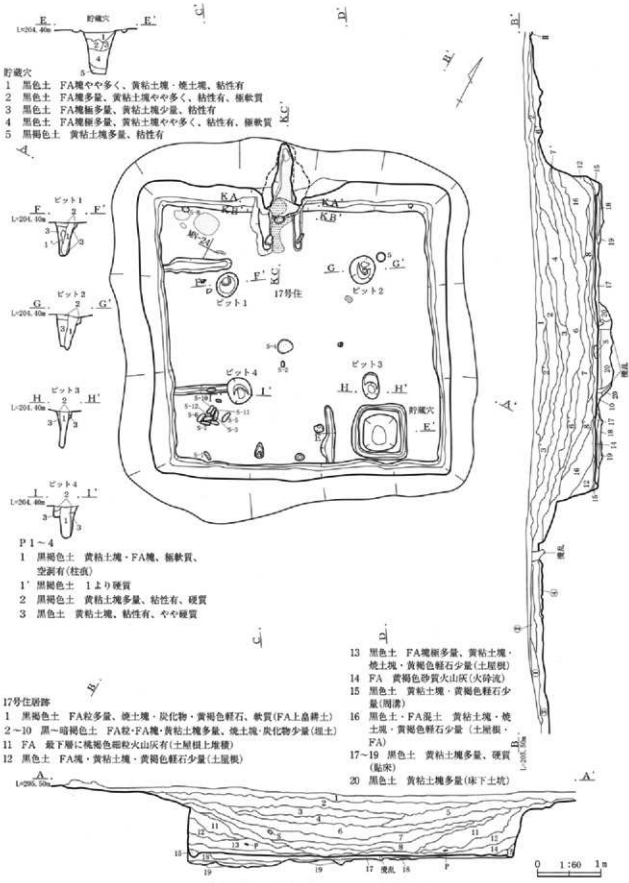
第106図 III区4面Hr-FA下16号住居跡



III 検出された遺構と遺物

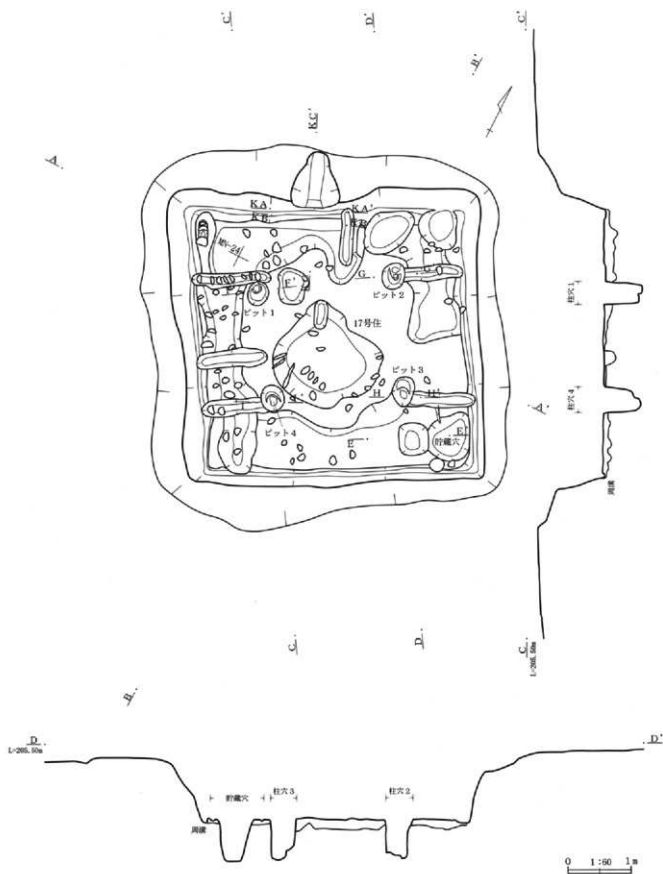


第108図 III区4面Hr-FA下16号住居跡カマド

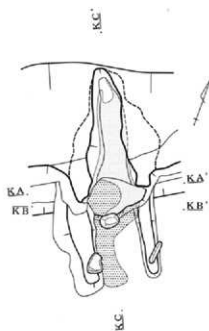


第109図 III区4面Hr-FAF17号住居跡

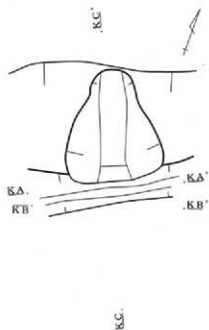
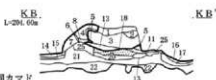
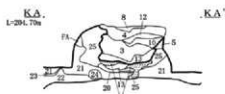
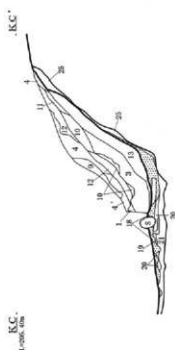
Ⅲ 検出された遺構と遺物



第110図 Ⅲ区4面Hr-FAF17号住居跡掘り方



40-24



40-24

同カマド

- 1 明黄褐色土 黄粘土・FA塊・暗褐色土、焼土少量
- 2 にふい黄褐色土 FA・焼土塊少量
- 3 FA火砕流
- 4 褐色粘土 やや軟質
- 5 赤色土 焼けた粘土
- 6 明灰褐色粘土
- 7 黒色土 粘性有、やや硬質
- 8 黒色土 黄粘土・灰褐色粘土混じり
- 9 灰褐色土 FA・黒色土多量、軟質
- 10 明黄褐色土 焼土・FA多量
- 11 明黄褐色土 焼土多量
- 12 にふい黄褐色土 焼土多量(天井崩落土)
- 13 暗赤色土 焼土多量、灰含
- 14 黒褐色土 黄粘土塊・焼土塊・FA塊
- 15 FA主体 黒色土粒少量
- 16 黒褐色土 FA塊・炭化物・焼土塊、粘性有、硬質
- 17 黒褐色土 FA塊・黄粘土塊、粘性有
- 18 青灰色灰層
- 19 暗灰色土 灰・炭化物混土(支脚埋土)
- 20 黄粘土塊・焼土塊混土
- 21 黒色土 黄粘土塊混じり、硬質
- 22 黄粘土塊、黒色土塊、にふい黄褐色土塊互層(粘床)
- 23 黒色粘性土
- 24 暗黄褐色土 軽石含
- 25 黄褐色粘性土

0 1:30 1a

第111图 Ⅲ区4面Hr-FA下17号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物

径42cm×短径26cm×深さ54cm、柱痕15cm、p4長径43cm×短径38cm×深さ50cm、柱痕14cm

遺物出土状態 北東部に堯上半部が床面に埋めて固定されていた。中央部に24cm×24cm×厚さ3cmの円礫があった。南西部に18cm×7cm×厚さ4～6cm程の棒状礫が10個まとまって出土した。北西部には焼土が、ほぼ全体から少量の炭化材が出土した。

遺存状態 特に良好であり、F Aの火砕流や炭化材、土層途中の炭化材の状況からすると、火砕流で蒸し焼きになった状態が良く確認できた。その後周りを削って埋め戻した状況も確認できた。

カマド 位置 北壁中央よりやや西寄り

規模 全長355cm 最大幅150cm 焚き口幅75cm

袖 左袖は黄褐色粘性土で構築され、先端に礫が使用されていたが、右袖は掘り過ぎのため、礫が露出してしまった。

煙道 住居壁を切り込んで、82cm程外へ延びる。

埋没土 使用面直上にF Aの火砕流が手前で15cm以上、煙道部分まで駆け上がっていた。

遺物出土状態 遺物はほとんど出土しなかった。

遺存状態 熱焼部から煙道部分にかけては良く焼けていた。手前に5cm程の灰が堆積していた。支脚と袖先には礫が使用されていた。

18号住居跡

位置 MH-20・21, MI-21, MG-20・21 **主軸方向** N92°W

重複 51号住居→18号住居

規模 縦6.43m×横(4.55)m×深さ0.75m

形状 方形。

埋没土 上層はF A及び同粒子を多量に含む黒色～黒褐色土。人為的に埋め戻された土。床直上には、F Aの火砕流が2～10cmほど堆積していた。

掘り方 黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色土により埋められていた。調査区寄り南側が一段窪む。仕切り溝の中には、径5～10cm程の小ピットが並ぶ。床面には三日月形の籬先痕が多数残っていた。

床面 ほぼ全面貼床がなされており、硬くしまっていたが、周辺部は軟質な部分もあった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅10～18cm、深さ1～5cm程で、調査範囲内は全周する。幅15～28cm、深さ2～5cm程で、北側から2条、東側から1条の仕切り溝が確認された。

柱穴 p1長径55cm×短径40cm×深さ48cmとp2長径48cm×短径40cm×深さ60cmが確認された。いずれも柱痕は径12～15cm程。南側の2本は調査区外。

遺物出土状態 住居全体から多くの炭化材が検出された。北東部の仕切り溝の東側から長さ18cm×幅7cm×厚さ6cm程の棒状礫が8個、南東部では同様の礫9個が、2列に並んで出土した。調査区南西部の高い位置から須恵器のが出土した。

遺存状態 良好。F Aの火砕流や炭化材の出土状況から、火砕流で蒸し焼きになった状況が確認できた。完全に炭化しないうちに潰れた材の痕跡も見つかった。その後、周堤帯周辺を削り埋め戻された状況が確認された。周堤帯はほとんど残っていなかった。

カマド 不明。西カマドまたは南カマド。

12号掘立柱建物跡

位置 MH-22・23, MI-22・23 **主軸方向** N4°W

重複 12号掘立→巨大周溝

規模 2間(4.15m)×1間(3.75m)

形状 南北に僅かに長い長方形。

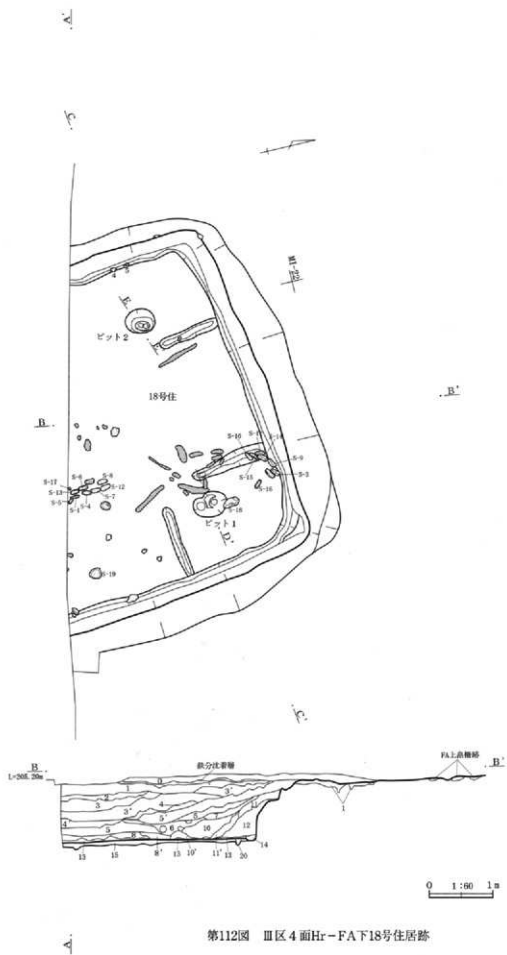
埋没土 ほぼ全てF A純層。F Aの正層堆積が見られた。

掘り方 四隅の柱穴は深く、中間のp2・5は浅かった。底面は平底、平面形は円形もしくは楕円形。

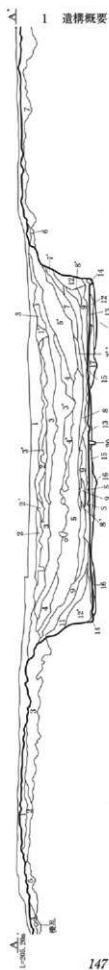
柱穴 p1長径48cm×短径47cm×深さ99cm, p2長径48cm×短径46cm×深さ33cm, p3長径51cm×短径48cm×深さ69cm, p4長径46cm×短径46cm×深さ91cm, p5長径48cm×短径46cm×深さ23cm, p6長径74cm×短径53cm×深さ84cm

遺物出土状態 無し。

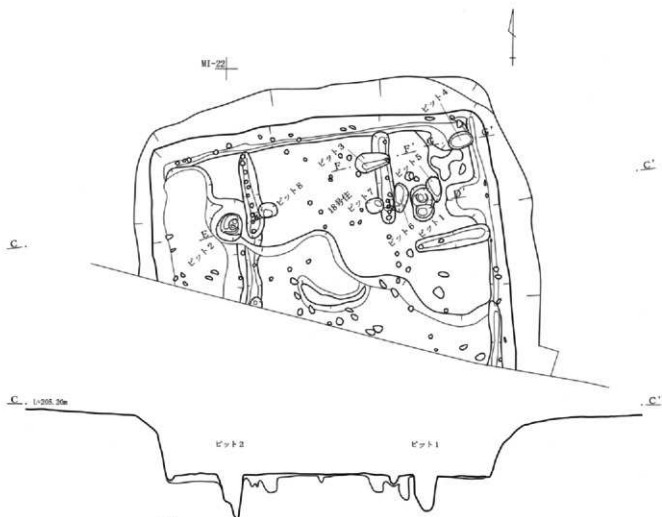
遺存状態 比較的良好。柱穴の周りには盛土の高まりが認められた。F A降下時には柱穴を掘った土が周りに掘り返された状態であり、厚くF Aの純層が堆積しており、穴は露出していたことが伺える。



第112図 Ⅲ区4面Hr-FA下18号住居跡



III 検出された遺構と遺物

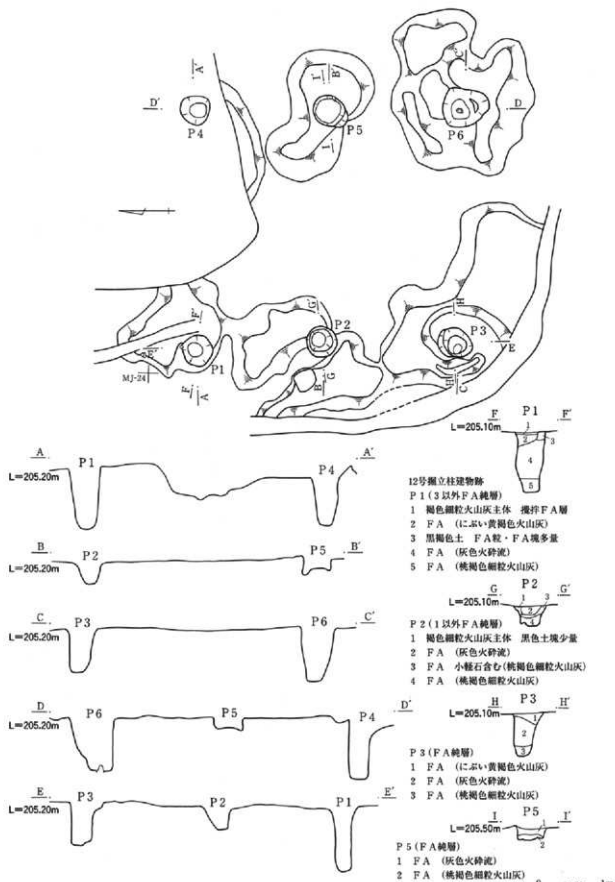


- P 1
 1 黒褐色土 FA塊・黄粘土塊やや多く、
 極軟質、空洞有(柱痕)
 2 黒色土 黄粘土塊少量、粘性有、硬質
 3 黒色土 黄粘土塊多量、軟質
- P 2
 1 黒褐色土 黄粘土塊多量、極軟質、空
 洞有(柱痕)
 2 黒色土 黄粘土塊極多量、粘性有、や
 や硬質
 3 黒色土 黄粘土塊少量、粘性有、軟質
- P 3
 1 黒褐色土 黄粘土塊多量
 2 黒色土 黄粘土塊少量、粘性有、硬質
 3 黒褐色土 黄粘土塊多量、粘性有、軟
 質(小ピット)
- P 4
 1 黒色土 黄粘土塊少量、粘性有
 2 黒褐色土 黄粘土塊少量、粘性有、硬
 質

- 18号住居跡
 0 黒褐色土 FA多量、焼土・炭化物少量、軟質(FF下高脚土)
 1 黒褐色土 FA多量、黄粘土塊・焼土・炭化物少量、軟質(FA上
 高脚土)
 1' 1類似、FA塊含
 2 黒褐色土 FA多量、黄粘土塊・黄褐色軽石少量、粘性有
 2' 2類似、FA塊・黄粘土塊多量
 3~10 黒~黒褐色土 FA多量、黄粘土塊・黒色土塊多量、所によ
 り割合に多少差有
 11 FA 最下層に桃褐色細粒火山灰有(土層極上堆積)
 12 黒色土 FA塊・黄粘土塊・黄褐色軽石少量(土層極)
 13 FA 黄褐色砂質火山灰(火砕流)
 14 黒色土 黄粘土塊・黄褐色軽石少量(周溝)
 15~17 黒色土 黄粘土塊多量、硬質(貼床)
 18 黒色土 黄粘土塊多量、軟質
 19 黒色土 黄粘土塊少量、軟質
 20 ぶい・黄褐色土 シルト質、極軟質(小ピット)

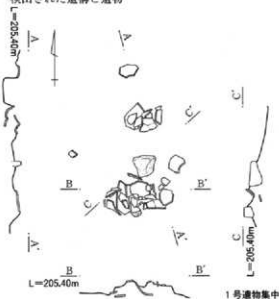
0 1:60 1m

第113図 III区 4面Hr-FA下18号住居跡掘り方

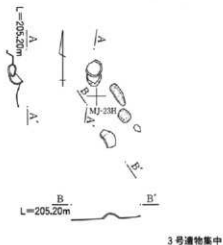


第114図 III区4面Hr-F A下12号掘立柱建物跡

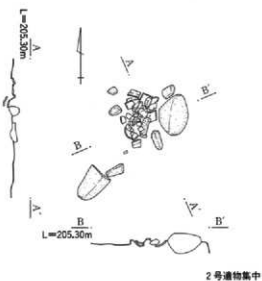
III 検出された遺構と遺物



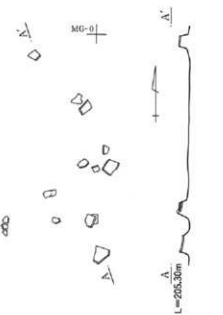
1号遺物集中



3号遺物集中



2号遺物集中



4号遺物集中



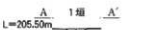
- 2・3号垣 A-A'
- 1 暗褐色土 F A粒多量、一部鉄分沈着
 - 2 黒色土 F A塊多量
 - 3 暗褐色土 F A粒多量、F A塊少量(3号垣)



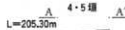
- 2・3号垣 B-B'
- 1 暗褐色土 F A粒多量(新垣)
 - 2 黒褐色土 F A粒多量(旧垣)
 - 3 暗褐色土 F A粒多量、F A塊・黒色土塊少量(3号垣)



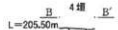
- 2・3号垣 C-C'
- 1 暗褐色土 F A粒多量、黒色土塊少量(2号垣)
 - 2 暗褐色土 F A粒・F A塊漸多量(3号垣)



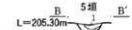
- 1号垣
- 1 黒色土 F A粒多量、黄粘土塊・黄褐色軽石少量 一部鉄分沈着
 - 2 黒色土 F A粒・黄粘土塊・黄褐色軽石少量



- 4・5号垣 A-A'
- 1 黒褐色土 F A粒・F A塊多量、炭化物少量(4号垣)
 - 2 黒褐色土 1類似、F A塊が小さい(5号垣)



- 4号垣 B-B'
- 1 黒褐色土 F A粒・F A塊多量、炭化物少量
 - 2 黒色土 F A塊多量



- 5号垣 C-C'
- 1 黒褐色土 F A粒・F A塊多量、炭化物少量
 - 2 黒褐色土 1類似、F A塊がやや大きい

第115図 III区4面Hr-F A中～下1～4号遺物集中、同下1～5号垣セクション

第5面F A下黒

住居跡・土坑

竪穴式住居跡は、古墳時代のものと弥生時代のものが検出された。古墳時代のものはカマドを持つものと持たないものがあった。カマドを持つものは、小形住居跡を除き、4面F A下では浅い落ち込みとして認識された。単独で検出されたものは少なく、

多くの重複関係が認められた。カマドの方向は四方向あり、若干北向きが多いが、一定した傾向は見受けられない。

弥生時代のものは長方形のプランを持つものと正方形のものがあり、配置では、調査区中央にまとまる傾向が見受けられた。

土坑は古墳時代～弥生時代のものが多かったが、縄



第116図 III区5面Hr-F A下黒色遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物

文時代の陥穴や貯蔵穴も検出された。23号住居跡の西側～南側、21号住居跡の東側にややまとまる傾向があった。しかし、縄文時代の住居跡はなかった。

MJ-22～MJ-24グリッドにかけて、礫を主体とし、若干の土器も混じる6号遺物集検出された。断面を切って確認したところ掘り込みは無く、FA下の黒色～黒褐色土中のものであり、住居群よりも上位に位置するものであることがわかった。畚の耕作の際に不用のものを集めたものと考えられる。

19号住居跡

位置 ML-24・00, MK-24・00 主軸方向 N39°W

重複 37号住居→19号住居, 49号住居→19号住居

規模 縦5.00m×横5.15m×深さ0.80m

形状 方形。

埋没土 上部に厚さ23cm程FAの純層が厚く堆積していた。その下はロームブロックを多量、炭化物(φ1cm以下)を少量含む黒色土により埋没していた。

掘り方 黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色土により埋められていた。北東部に集約される形で一周り小形のプラン(縦3.65m×横4.05m)が確認された。多くの鋤先痕が検出された。

床面 ほぼ全面貼床がなされており、硬くしまっていたが、南壁から西壁にかけてはほとんど貼られてはいなかった。南壁ほぼ中央よりやや西寄りには、180cm×105cm×高さ2～6cm程の入口状の高台があった。

貯蔵穴 南東部に長径75cm×短径65cm×深さ66cmのビット状。中央部底面付近から環が、底面との境から長さ30cm×幅20cm×厚さ17.5cmの大形礫が出土した。

周溝 幅8～20cm、深さ3～5cmでカマド左袖脇45cm西からはほぼ全周する。東側に105cm×90cm程の溝に囲まれた部分がある。西壁側には幅15cm、深さ2～5cmの2条の仕切り溝がある。掘り方調査時に東壁から西側に幅16～13cm、深さ4～7cm程の7条の仕切り溝が検出された。

柱穴 径30～40cm、深さ50～55cmで、10～12cm程の

柱痕を持つ主柱穴4本が確認されたが、西側の2本は2回建て替えが行われていた。

遺物出土状態 ほぼ全体から土器及び円礫が出土したが、北東部カマドに近い部分から多くの土器片が出土した。東壁の周溝で方形の囲まれた部分で、P1の北側より土師器口縁部も検出された。

遺存状態 比較的良好。大形の炭化材は検出されなかったが、土層中より炭化物(φ1cm以下)が多く検出されたので、火災住居の可能性はある。南側に入口の可能性のある高台では焼土範囲も検出され、東側にも周溝に囲まれた方形区画もあり、床面の状況がよく確認できた。北東コーナーのみ調査区外。

カマド 位置 北壁ほぼ中央

規模 全長118cm 最大幅106cm 焚き口幅57cm

袖 両袖とも黄褐色粘性土により構築されていたが、左袖先端には円礫及び角礫が使用されていた。

煙道 住居壁を切り込んで46cm程外へ延びる。

埋没土 上層は黄褐色粘性土ブロックを主体とする黒色～いぶい黄褐色土。下層は焼土ブロックを主体とする明黄褐色土により埋没していた。

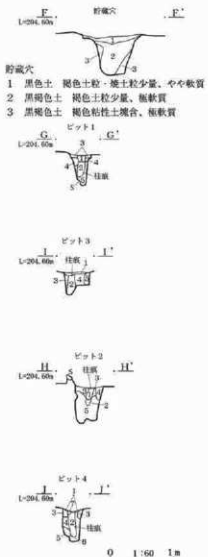
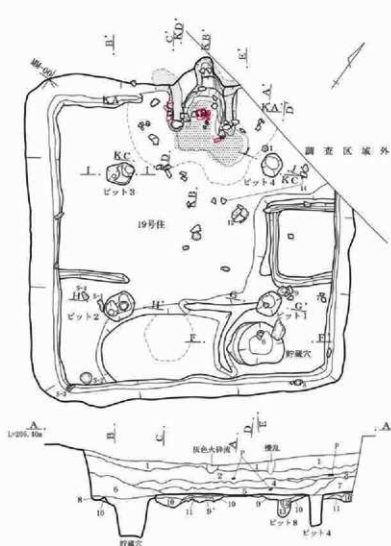
遺物出土状態 カマド手前から左右袖外側にまで土器破片は分布していたが、カマド袖及び煙道部分からは特に多くの遺物が出た。その多くは構築材として用いられたものと思われる。

遺存状態 燃焼部両壁は良く焼けていた。燃焼部底面とカマド右前には灰が多量にあった。それよりも一回り外側に広く灰・炭・焼土が分布していた。袖の下まで灰・炭化物・焼土が分布しており、東側に元々のカマドがあり作り替えた可能性がある。

同カマド

1 黒色土 黄粘土塊僅か	7 黒褐色土 黄粘土塊混
2a 黄褐色土 黄粘土塊主体	8 灰褐色粘性土 黄粘土粒含
2b 黄褐色土 黒色土含	9 黒褐色土 黄粘土塊多量、焼土粒含
3a 黒色土 黄粘土塊・焼土・炭化物粒含	10 焼土塊・黄粘土塊混土
3b 黒色土 焼土塊混	11 黒色土 黄粘土塊・焼土粒含
4a いぶい黄褐色土 黄粘土主体、黄白色粘土塊混	12 黒色土 黄粘土塊混
4b いぶい黄褐色土 焼土塊・燻灰色土塊混、軟質	13 暗褐色土 焼土粒・黄粘土粒・黒色土塊混
5a 明黄褐色粘性土 黄粘土塊主体	14 黄粘土塊・褐色土・いぶい黄褐色土混
5b 焼土化した明黄褐色粘性土	15 黄粘土塊
6a 青灰色灰層	16a 焼土化した明黄褐色粘性土
6b 白純色シルト質灰層	16b 明黄褐色粘性土 黄粘土塊主体

1 遺構概要



19号住居跡

- 1 FA純層 下層に焼褐色細粒火山灰
- 2 黒色土 FA・黄粘土塊・焼土・炭化物少量
- 3 黒色土 黄粘土塊やや多く、焼土・炭化物少量
- 4 黒色土 黄粘土塊・焼土・炭化物少量
- 5 黒色土 黄粘土塊・焼土やや多く、炭化物少量
- 6 黒色土 黄粘土塊・焼土・炭化物少量、軟質
- 7 黒色土 黄粘土塊・焼土・炭化物少量、やや粘性有
- 8 黒色土 黄粘土塊やや多く、黄褐色軽石粒少量
- 9 黒色土 黄粘土塊多量、硬質(貼床)
- 9' 9より黄粘土塊少量、硬質(貼床)
- 10 黒色土 黄粘土塊やや多く、やや粘性有、軟質
- 11 黒色土 黄粘土塊多量、硬質
- 12 黒色土 黄粘土塊多量、極軟質
- 13 黒色土 黄粘土塊多量、粘性有、軟質

P1・2

- 1 黒色土 褐色土粒・焼土粒少量(柱砥)
- 2 黒褐色土 褐色土少量、極軟質(柱砥)
- 3 黒褐色土 褐色土少量、硬質、やや硬質
- 4 暗褐色土 褐色土極多量、やや硬質
- 5 黒色土 褐色土多量、極軟質

P3

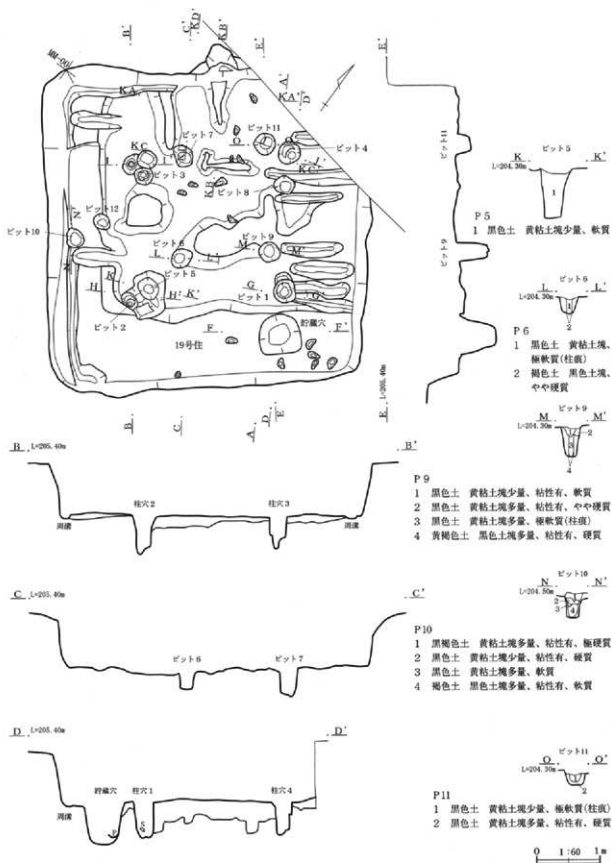
- 1 黒色土 褐色土粒・焼土粒微量、やや硬質
- 2 黒褐色土 褐色土少量、極軟質(柱砥)
- 3 黒褐色土 褐色土少量、やや硬質
- 4 暗褐色土 褐色土極多量、やや硬質
- 5 褐色土 黒褐色土僅か、硬質

P4

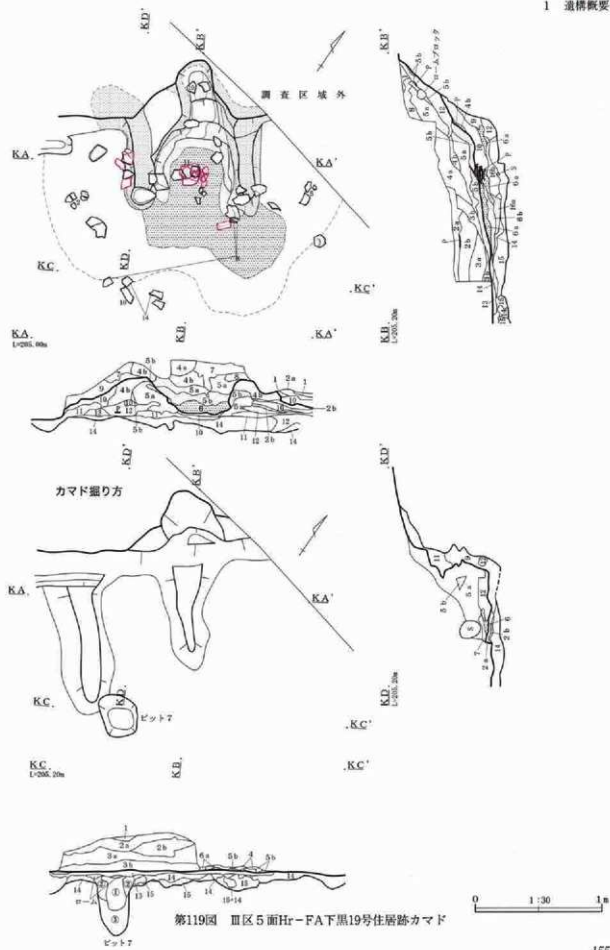
- 1 黒色土 褐色土少量、焼土粒多量、硬質
- 2 黒褐色土 褐色土多量、極軟質(柱砥)
- 3 黒褐色土 褐色土極多量、やや硬質
- 4 暗褐色土 褐色土少量、軟質
- 5 褐色土 黒褐色土僅か、硬質
- 6 暗褐色土 褐色土少量、極軟質
- 7 黒色土 単一の

第117図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒19号住居跡

III 検出された遺構と遺物



第118図 III区5面Hr-FA下黒19号住居跡掘り方



第119図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒19号住居跡カマド

Ⅲ 検出された遺構と遺物

20号住居跡

位置 ML-21・22, MK-21・22 主軸方向 N 8°W

重複 29号住居→20号住居

52号住居→48号住居→20号住居

規模 縦(3.55)m×横5.45m×深さ0.65m

形状 隅丸方形。

埋没土 上層には、25cm程のFAの純層が堆積していた。その下は炭化物を多く含む黒色～黒褐色土で、下層の壁近くでは焼土粒子を含む層が堆積していた。

掘り方 掘り方調査時に29号住居が検出された。三日月形の工具痕が多く検出された。床下土坑等はなかったが、幅25cm、深さ13～15cmの仕切り溝が、西壁から柱穴2にかけて2条、北壁カマド前から1条の計3条検出された。

床面 はほぼ全面貼床がなされていたが、29号住居部分には特によく貼られており、硬くしまっていた。壁周辺に近い部分はあまり良くしまっていないかった。

貯蔵穴 不明(南東コーナー?)

周溝 幅7～15cm、深さ2～5cmで、カマド部分を除き調査範囲内は全周巡る。

柱穴 北東部にp1長径43cm×短径35cm×深さ60cm、柱痕11cm、北西部にp2長径47cm×短径40cm×深さ73cm、柱痕12cm有り。

遺物出土状態 土器片は北半部を中心に、円礫はほぼ全体に分布する。炭化材は南壁中央から東壁間に分布する。カマド右袖脇から1列に灰類と甕が並んでいた。

遺存状態 良好。南壁は調査区外で、確認できなかった。多くの炭化材と焼土が土層中より検出されたことからすると、火災住居と考えられる。

カマド① 位置 北壁中央よりやや西寄り

規模 全長140cm 最大幅91cm 焚き口幅30cm

袖 灰黄褐色粘性土を用いて構築されていたが、先端部には円礫が用いられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、37cm程外へ延びる。

埋没土 上層は黄白色～灰白色粘性土ブロックを多量に含む灰褐色土(カマド構築材崩落土)により埋

没していた。下層は焼土粒子・炭化物粒子等を含む黒褐色土及び焼土化した黄白色粘質土により埋没していた。

遺物出土状態 燃焼部を中心に多くの土器片が出土したが、左右の袖部分からも土器片が出土したので、カマド構築材として使用されたものと思われる。

遺存状態 良好。両袖石の内側及び燃焼部壁は良く焼けていた。支脚石も良く焼けていた。両袖石も10～15cmほど掘り窪め設置し、天井石は角礫が用いられていたが、2つに割れていた。底面には、4cm程灰が堆積していた。

カマド② 位置 北壁中央(痕跡のみ)

規模 全長(35)cm 最大幅(46)cm 焚き口幅不明

袖 不明

煙道 住居壁を切り込んで、35cm程外へ延びる。

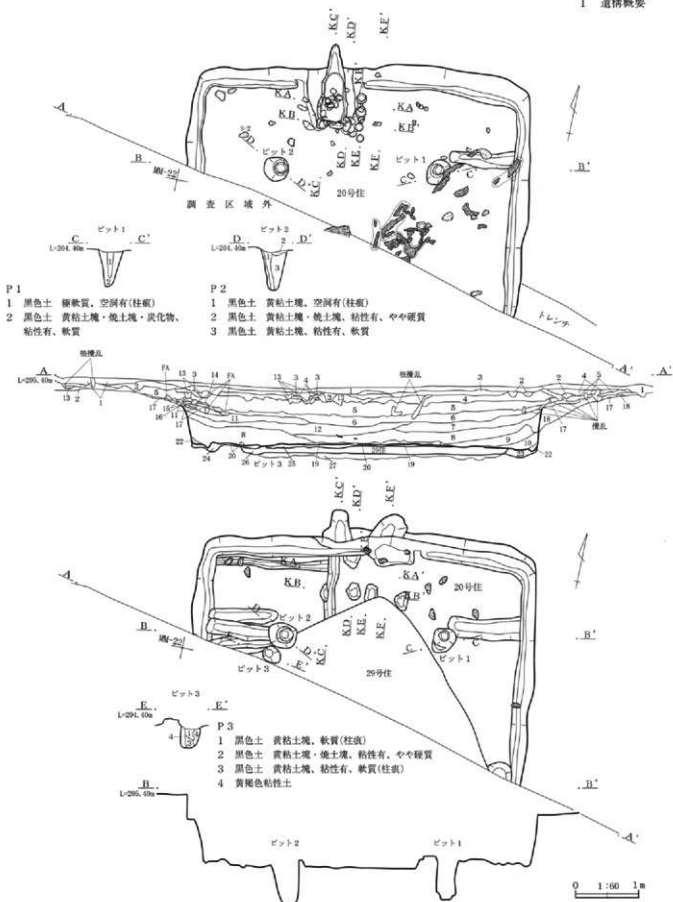
埋没土 焼土粒子・ローム粒子・黒色土粒子を含む暗褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。煙道部分のみ、痕跡程度に残っていた。最初カマドは北壁中央に付けた後に、西側に移動したものと思われる。

20号住居跡

- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物少量、軟質(PPF高)
- 2 褐灰色土 FA多量、軟質(PPF高)
- 3 褐灰色土 焼土・FA少量、鉄分、軟質(FA上品)
- 4 褐灰色土 3よりFA多量(FA上品)
- 5 FA純層 下層に焼褐色細粒火山灰
- 6 黒色土 炭化物やや多く、焼土微量
- 7 黒褐色土 褐色土少量
- 8 黒色土 炭化物多量、焼土粒やや多く、褐色土少量
- 9 黒色土 焼土粒多量、褐色土少量、やや硬質
- 10 黒色土 ほぼ単一的
- 11 黒色土 焼土粒・炭化物少量、褐色土微量
- 12 黒褐色土 褐色土多量、焼土粒・炭化物少量
- 13 黒褐色土 FA多量
- 14 褐色土 焼土粒少量、粘性有
- 15 褐灰色土 褐色土多量、焼土粒多量、極軟質
- 16 赤色土 褐色土多量、軟質
- 17 黒色土 FA粒少量
- 18 黒色土 8に類似、8よりやや硬質
- 19 黒色土 炭化材・焼土多量
- 20 黒色土 褐色土多量、硬質(貼床)
- 21 黒褐色土 暗褐色土多量、硬質(床下)
- 22 黒色土 暗褐色土少量、軟質(周溝)
- 23 黒褐色土 暗褐色土多量、21よりやや軟質
- 24 黒色土 暗褐色土粒と含まない
- 25 黒色土 褐色土混土
- 26 黒褐色土 褐色土やや多く、軟質
- 27 黄粘土主体 黒色土含、粘性有、極硬質(29住床)



P 1

- 1 黒色土 礫軟質、空洞有(柱痕)
2 黒色土 黄粘土塊・焼土塊・炭化物、粘性有、軟質

P 2

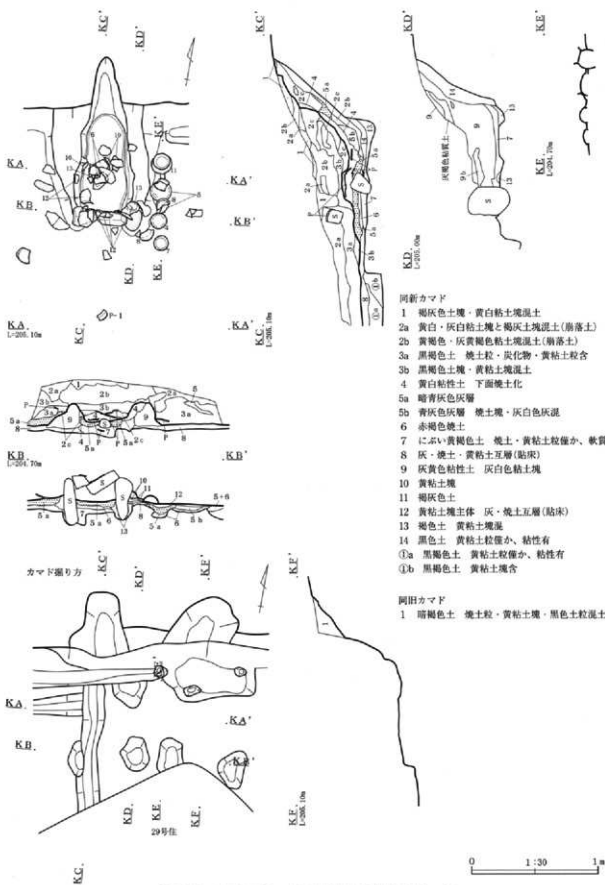
- 1 黒色土 黄粘土塊、空洞有(柱痕)
2 黒色土 黄粘土塊・焼土塊、粘性有、やや硬質
3 黒色土 黄粘土塊、粘性有、軟質

P 3

- 1 黒色土 黄粘土塊、軟質(柱痕)
2 黒色土 黄粘土塊・焼土塊、粘性有、やや硬質
3 黒色土 黄粘土塊、粘性有、軟質(柱痕)
4 黄褐色粘性土

第120図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒20号住居跡

III 検出された遺構と遺物



第121図 III区5面Hr-FA下黒色土20号住居跡カマド

21号住居跡

位置 ME-20・21, MF-20・21 主軸方向 N17°E

重複 無し。

規模 縦(2.65)m×横5.05m×深さ0.70m

形状 方形?

埋没土 上層では、住居中心部でF Aが約30cm程堆積していた。下層は炭化物を多量に含む黒色土により埋没していた。部分的に焼土も認められた。

掘り方 褐色ブロックを少量含む黒褐色土により掘られていた。中央部が10cm程一辺240cm程の方形に高まっていた。壁周溝部分及び西部に多くの工具痕が認められた。

床面 ほぼ全面厚さ4cm程の貼床がなされていたが、周辺部の方が掘り方も深く、やや軟質であった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅7～15cm, 深さ1～7cmでカマド部分を除きほぼ全周する。

柱穴 p1 長径62cm×短径47cm×深さ42cm, 柱痕15cm, p2 長径55cm×短径42cm×深さ44cm, 柱痕12cm

遺物出土状態 調査区内全体から多量の土器及び円礫、炭化材が出土した。特に北壁側のカマドの西側と東側から多くの土器が出土したが、北東部からは破片がより多く出土した。床直よりもやや浮いているものが多かった。

遺存状態 良好。西壁の一部では、周溝の上より壁を押さえるための板材が炭化した状態で検出された。

南側は調査区域外で確認できなかった。

カマド 位置 北壁ほぼ中央

規模 全長145cm 最大幅80cm 焚き口幅30cm

袖 両袖とも黄褐色粘性土により構築されており、両先端には円礫が用いられていた。

煙道 住居壁を切り込んで25cm程外へ延びる。

埋没土 下層は焼土粒子・焼土ブロックを多量に含む黒褐色土により埋没していた。上層の途中には炭化材が横になった状態で検出された。

遺物出土状態 燃焼部より多量の土器破片が出土したが、その一部は構築材として使用されていたものと思われる。臺がカマドにかかった状態で検出され

た。

遺存状態 極めて良好。燃焼部分の天井は崩落していたものの、焚き口部分の天井石は載ったまま検出された。両袖は壁よりも内側に85cm程張り出していた。燃焼部から煙道部分にかけて良く焼けていた。

同カマド

- 1 におい黄褐色土 褐色土塊多量、焼土少量、軟質
- 2 黒色土 灰多量、褐色土粒・炭化物少量、やや硬質
- 3 黒色土 褐色土やや多く、軟質
- 4 黒褐色土 褐色土粒少量、極軟質(木材痕)
- 5 黒色土 褐色土粒・焼土少量、軟質
- 6 暗褐色土 焼土少量、軟質
- 7 黒色土 焼土少量、軟質
- 8 暗赤褐色土 焼土粒多量、軟質
- 8' 8類似、よりやや硬質
- 9 黄褐色土 粘性有、硬質
- 10 黒色土 焼土塊・炭化物含、やや硬質
- 11 黒色土 炭化物・灰含、軟質
- 12 暗褐色土 褐色土多量、軟質
- 13 暗褐色土 焼土塊、硬質
- 14 黒褐色土 褐色土やや多く、焼土粒少量、やや硬質
- 15 黒褐色土 焼土粒やや多く、褐色土少量、軟質
- 16 黒色土 褐色土塊僅か
- 17 黒褐色土 焼土・褐色土多量、軟質(天井崩落土)
- 18 褐色土 粘性土
- 19 黒色土 単一的、軟質
- 20 赤色土 単土(壁)
- 21 明赤褐色土 焼土(底面)
- 22 黒色土 黒褐色土塊少量、硬質
- 23 黒色土 暗褐色土塊少量、硬質(貼床)
- 24 黒色土 暗褐色土塊多量、硬質(貼床)
- 25 褐灰色土 粘性有、硬質
- 26 黒褐色土 黄粘土塊少量、粘性有、硬質
- 27 黄灰褐色土 灰層 極軟質
- 28 黄粘土塊・褐色土混土 粘性有

22号住居跡

位置 LX-19, LY-19 主軸方向 N22°W

重複 無し。

規模 不明。

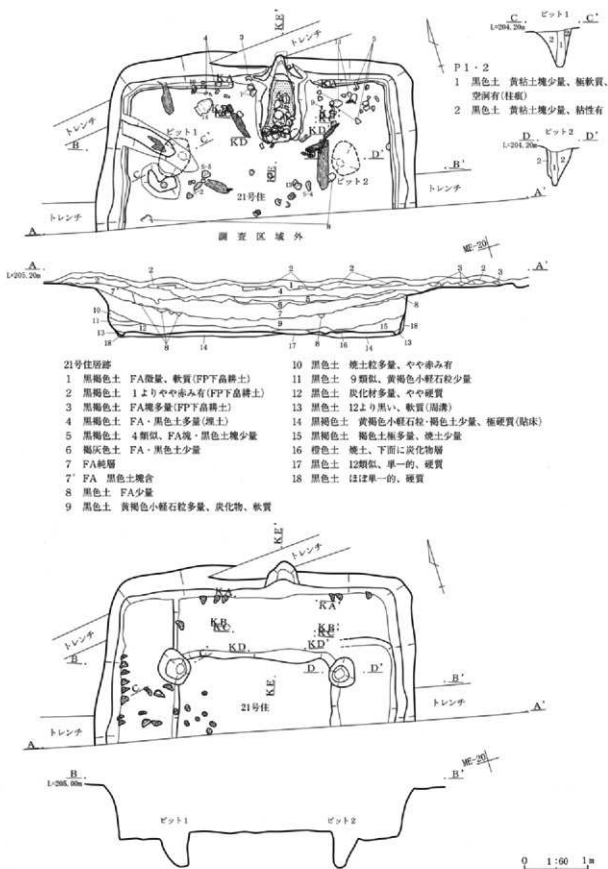
形状 不明。

埋没土 埋没土の上に27cm程のF Aが堆積していた。上半には黄褐色小軽石粒子を多量に含む黒色土、下半は焼土粒子を多く含む黒褐色土により埋没していた。

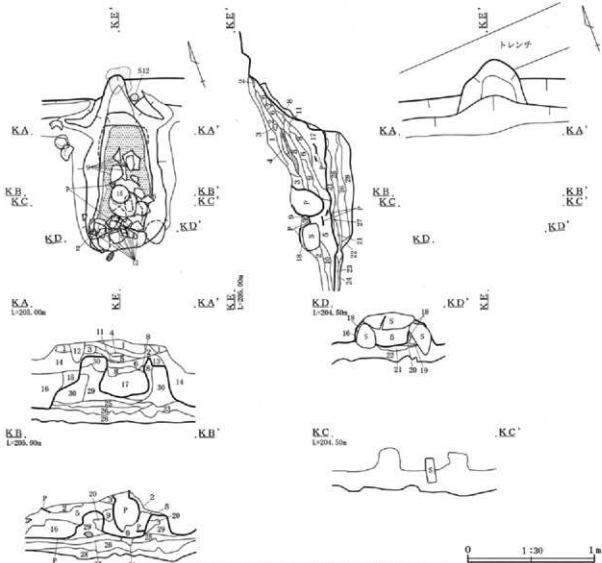
掘り方 周溝内に三日月形の工具痕が整然と並んで検出された。褐色ブロック・粒子を多量に含む黒褐色土により7～15cm程掘られていた。

床面 調査範囲内は貼床がなされていたが、さほど

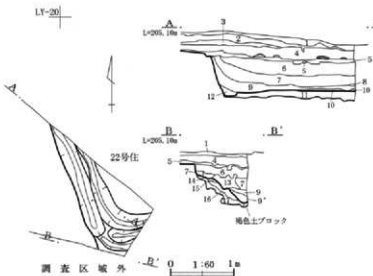
III 検出された遺構と遺物



第122図 III区5面Hr-FA下黒色土21号住居跡



第123図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土21号住居跡カマド



第124図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土22号住居跡

22号住居跡

- 1 褐灰色土 FA少量、鉄分多量(PPF高)
- 2 褐灰色土 FA少量、鉄分多量(PPF高)
- 3 灰黄褐色土 FA多量(FA上品)
- 4 FA純層(火砕層)
- 5 FA純層(桃灰褐色火山灰)
- 6 黒色土 黄褐色小礫石粒多量
- 7 黒色土 焼土粒やや多く、褐色土少量
- 8 におい黄褐色土 炭化物・灰倉
- 9 黒色土 7より暗い
- 9' 9類似、やや明るい
- 10 黒褐色土 焼土粒・炭化物多量
- 11 黒褐色土 褐色土多量、硬質(床下埋土)
- 12 黒褐色土 11類似、やや軟質
- 13 橙色粘性土 黒褐色土少量
- 14 黒褐色土 13塊多量、焼土粒やや多く含
- 15 赤色土 焼土
- 16 橙色土 焼土・黒褐色土多量
- 17 黒褐色土 焼土やや多く、褐色土少量

Ⅲ 検出された遺構と遺物

硬くしまつてはいなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅20cm、深さ10cmで、西壁下を巡る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 ほとんど目立った遺物は出土しなかった。

遺存状態 西壁側の一部を調査したのみで、全体の状況は不明。

カマド 位置 南西コーナー

規模 不明。

袖 不明。

煙道 不明。

埋没土 焼土粒子を含む黒色土により埋没していた。

遺物出土状態 ほとんどなし。

遺存状態 カマドの端の一部を調査したのみで、詳細は不明。

23号住居跡

位置 ME-22・23・24、MF-22・23・24 主軸方向 N103°E

重複 50号住居→42号住居→23号住居、46号住居→44号住居→23号住居

規模 縦7.00m×横6.40m×深さ0.82m

形状 方形。

埋没土 上部に30cm程のFAが堆積していた。その下はFAブロック及び黄褐色粘性土ブロックを多量に含む黒色～黒褐色土により人為的に埋め戻されていた。

掘り方 黄褐色粘性土ブロックを多量に含む黒色土により埋められていた。北壁西半～南壁西半にかけて不定形に窪んでいた。西側では、掘り方調査時に2条ずつ、2ヵ所4条の仕切り溝が新たに確認された。

床面 南周溝や西半を中心に多くの三日月形の工具痕が検出された。ほぼ全面2～5cm程の貼床がなされていたが、比較的硬くしまつていた。柱穴の周りでは、高まりが確認された。

貯蔵穴 南東コーナーに長径62cm×短径57cm×深さ

64cmのピット有り。黄褐色砂質土ブロックを多量に含む黒褐色土により埋め戻されていた。

周溝 幅13～23cm、深さ1～2cmで、南東コーナーを除きほぼ全周する。

柱穴 p1長径45cm×短径42cm×深さ56cm、p2長径45cm×短径30cm×深さ61cm、p3長径52cm×短径30cm×深さ58cm、p4長径45cm×短径30cm×深さ63cm、柱痕10cm

遺物出土状態 埋め土中から多くの土器片及び石器等が出土したが、床面よりかなり高い位置で検出されたものが多かった。カマド左袖脇から北側に一列に坏、甕類の完形品や大形破片が出土した。

遺存状態 非常に良好。周堤帯も低い状態ではあったが、残っていた。住居の立ち上がりも良く残っており、50～80cmで14cm位の緩い傾斜で外側に一周り大きく段状に残っていた。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長150cm 最大幅90cm 焚き口幅30cm

袖 両袖とも黄褐色粘性土により構築されていたが、先端には円礫が用いられていた。

煙道 住居壁を切り込んで、64cm程外へ延びる。

埋没土 焼土粒子を少量、ロームブロックを極多量に含む黄褐色土により埋没していた。(天井の崩落土か?)

遺物出土状態 燃焼部から多くの土器破片が出土した。カマド袖の一部に使用されていたものもあった。

左袖から北側に周溝上に甕・坏類が一列に出土した。

遺存状態 比較的良好。天井は残っていなかったが、焚き口上の天井石は残っていた。支脚には、中形甕が逆位で使用されていた。

24号住居跡

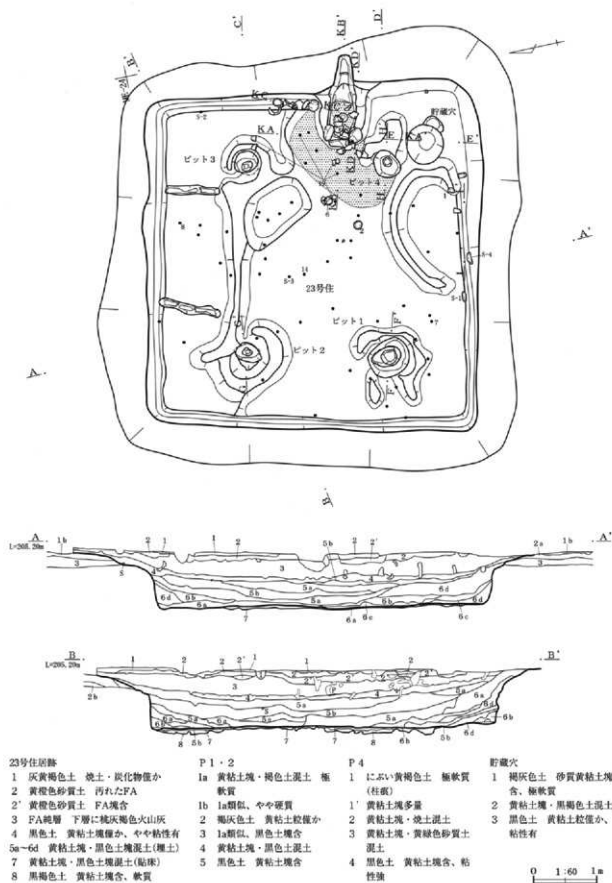
位置 MD-20、MC-19・20 主軸方向 N85°W

重複 無し。

規模 縦(3.10)m×横(1.50)m×深さ0.75m

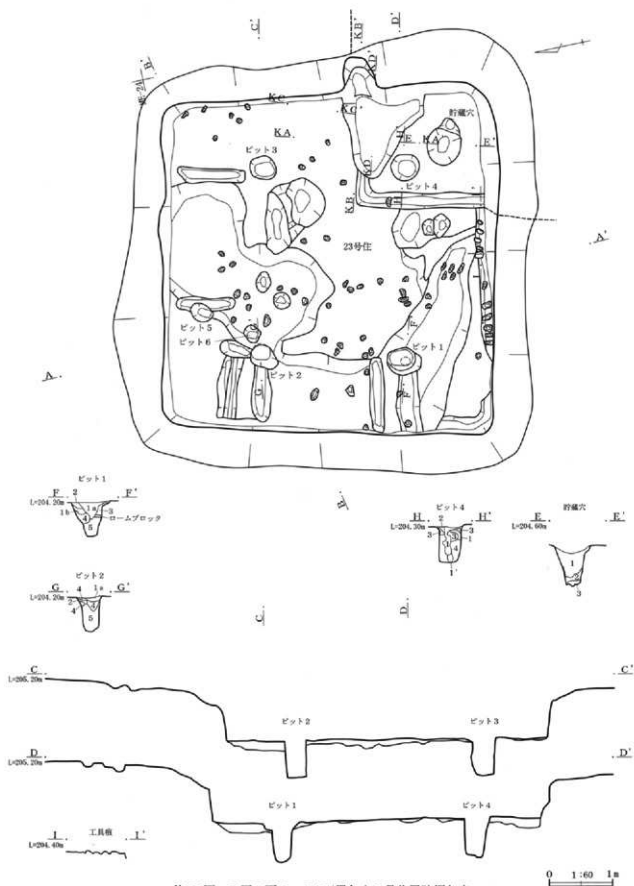
形状 方形又は長方形。

埋没土 上部には15～20cm程のFAが堆積していた。住居上層は、焼土粒子・炭化物粒子をやや多く含む

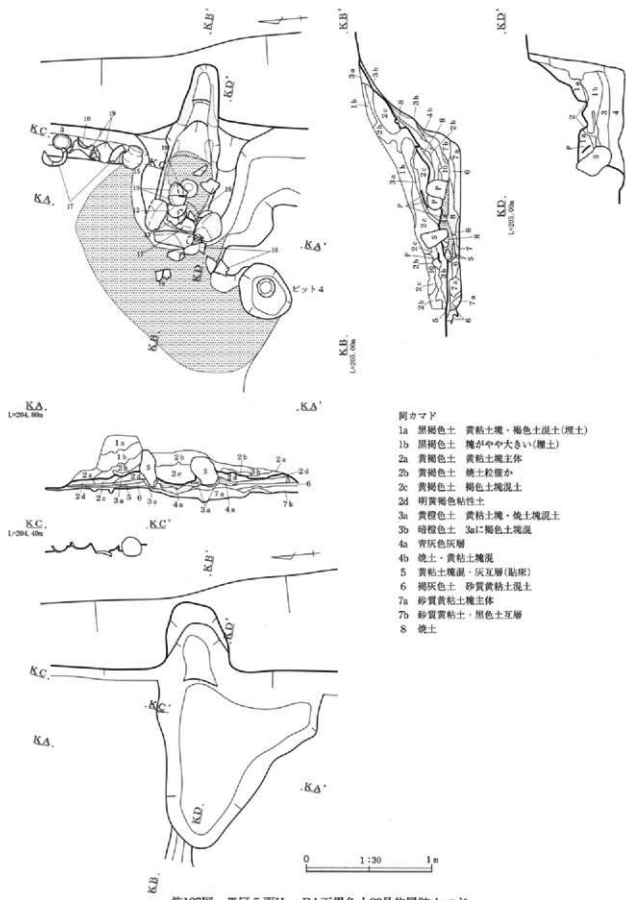


第125図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土23号住居跡

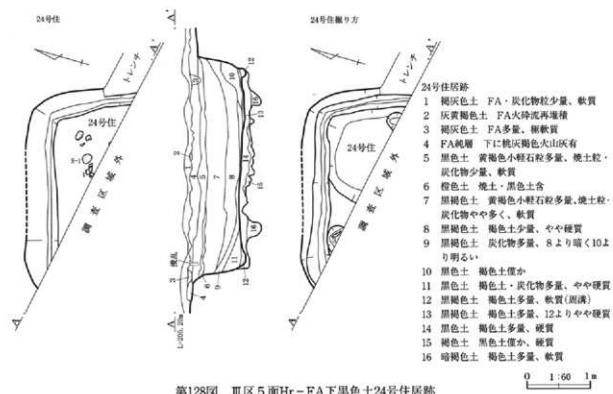
Ⅲ 検出された遺構と遺物



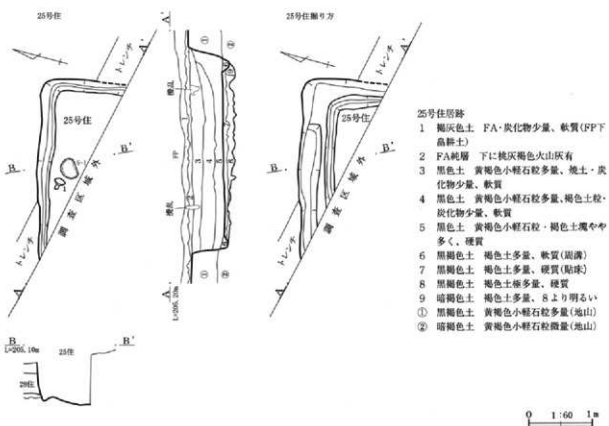
第126図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土23号住居跡掘り方



III 検出された遺構と遺物



第128図 III区5面Hr-FA下黒色土24号住居跡



第129図 III区5面Hr-FA下黒色土25号住居跡

黒褐色土、下層は褐色土ブロック・粒子を含む黒褐色土により埋没していた。

掘り方 北東コーナーは、10cm程窪む。掘り方調査時に、西側壁際にφ30cm、深さ25cm程のピットが、東側壁際にφ28cm、深さ15cm程のピットが検出された。

床面 調査範囲内は全体が貼床がなされていたが、掘り方が10~20cm程の深さがあったので、さほど硬くはしまっていなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅15~20cm、深さ4~8cmで、調査区域内は巡る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 床直上から円礫が2点、他に高坏破片や円礫破片が床土5~10cm程の位置から出土した。

遺存状態 北東部のみ一部調査したのみ。主となる部分は調査区南側。

カマド 不明。

25号住居跡

位置 MA-19, MB-19 主軸方向 N99°W

重複 26号住居→28号住居→25号住居

規模 縦(2.70)m×横(1.35)m×深さ0.50m

形状 方形?

埋没土 埋没土の上に5~10cm程FAが堆積していた。上層は黄褐色小軽石粒子多量に含む黒色土(自然堆積土)、下層は褐色土ブロックをやや多く含む黒色土(人為的埋め土)により埋没していた。

掘り方 5~20cm程褐色土ブロックを多量に含む黒褐色土~暗褐色土に埋められていた。掘り方調査時に幅15cm、深さ2~10cmの周溝が一回り内側で確認された。

床面 調査区内は全体が貼床がなされていたが、さほど硬くはしまっていなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅8~15cm、深さ4~7.5cmで調査区内は全周する。

柱穴 不明。

遺物出土状態 北壁近くで床直上より、長さ33cm×幅25cm×厚さ9cm程の大形偏平礫と高坏が出土した。それ以外は、ほとんど目立った遺物は出土しなかった。

遺存状態 南側はトレンチで切られていたが、状態は良かった。ほとんどが調査区区域外。

カマド 不明。

26号住居跡

位置 MB-19・20・21, MA-19・20 主軸方向 N10°W

重複 26号住居→28号住居

規模 縦6.35m×横6.10m×深さ0.60m

形状 方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子を多量に含む黒色~黒褐色土により埋没していた。下層には炭化物が多く含まれる。中間層に焼土を多く含む部分有り。

掘り方 周辺部は中心に比べて、5~6cm程低くなっていた。幅15~30cm、深さ2~6cmで、西壁側に3条、南壁側に4条、東壁側に1条の計8条の仕切り溝が検出された。柱穴の建て替えと思われる多くのピットが検出された。多数の三日月形の鋤痕が検出された。

床面 ほほ全面貼床がなされていたが、北西部はあまり硬くはしまっていなかった。28号住居と重複している南側は硬くはまっていた。

貯蔵穴 南西部には長径85cm×短径73cm×深さ47cmの土坑があり、中からガラス小玉が1点出土した。

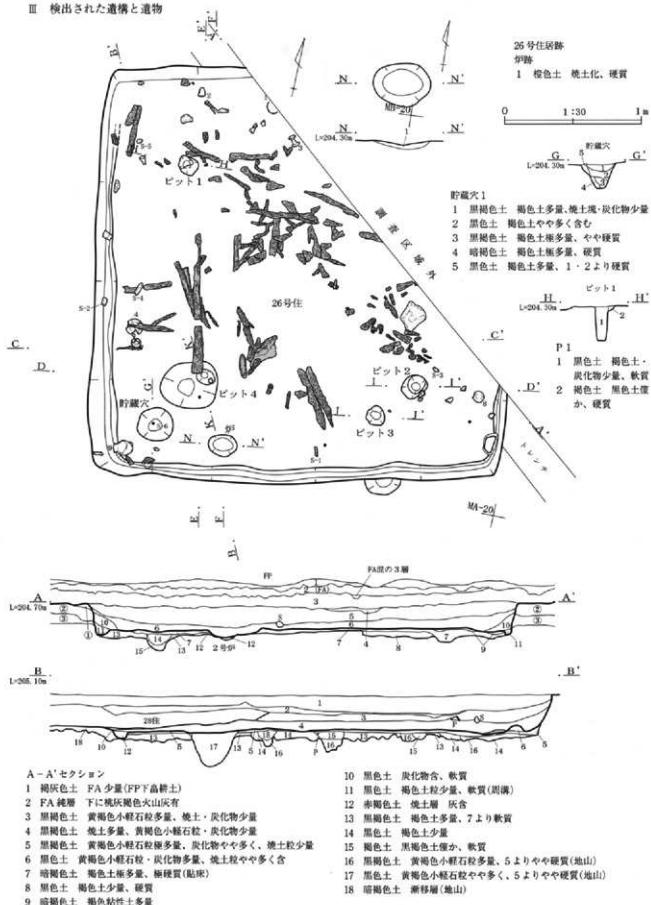
掘り方 調査時に南東コーナーに長径108cm×短径62cm×深さ55cmの土坑が検出され、小形土器及び円礫が出土した。

周溝 幅8~18cm、深さ2~9cmでやや掘り過ぎた感のある北壁部分を除き全周する。

柱穴 p1長径30cm×短径26cm×深さ53cm、柱痕18cm、p2長径38cm×短径32cm×深さ46cm、柱痕16cm、p3長径30cm×短径28cm×深さ28cm、柱痕無し、p4長径28cm×短径22cm×深さ56cm、柱痕不明

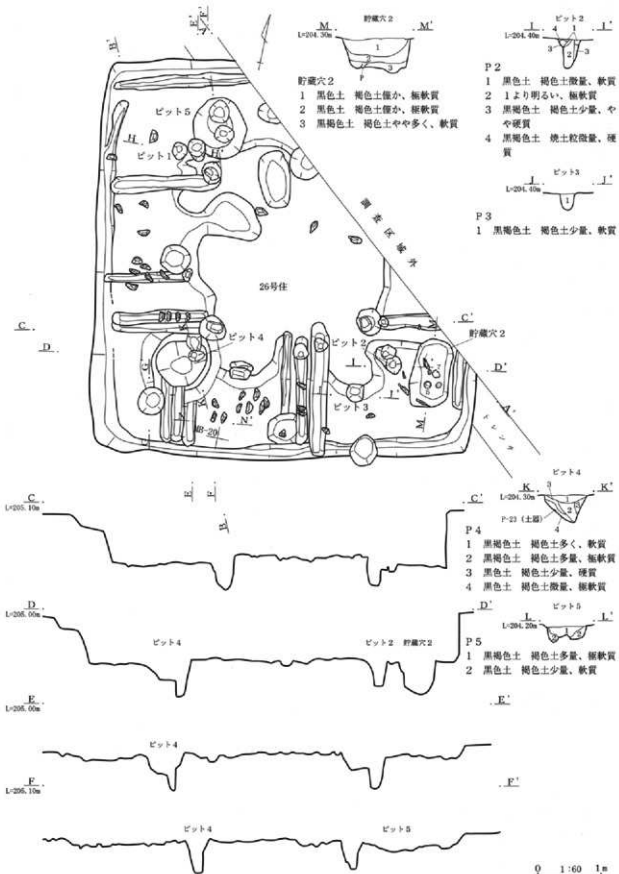
遺物出土状態 ほほ全体から多量の炭化材が出土し

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第130図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土26号住居跡

1 遺構概要



第131図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土26号住居跡掘り方

Ⅲ 検出された遺構と遺物

た。西壁や南寄りの部分から材に押し潰された高坏が出土した。北側調査区東寄りの部分から長径38cm×短径35cm×厚さ13.5cmの大形礫が出土したが、その下からベンガラが出土した。南西コーナーから甕の完形品が出土した。

遺存状態 比較的良好。南東コーナーで35cm×20cmの長方形の範囲内に粘土が検出された。炭化材の検出状況から天井が焼け落ちた状況が良く確認できた。

炉 位置 南西部壁寄り

規模 長径42cm×短径33cm×深さ4cm

形状 楕円形

埋没土 焼土粒子を多く含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 火災住居であり、床面より焼土や炭化物が多く出土したため、床面清掃時に埋没土部分まで無くなってしまった。

27号住居跡

位置 MO-18・19、MP-19 主軸方向 N35°W
重複 無し。

規模 縦4.80m×横(1.70)m×深さ0.72m

形状 方形?

埋没土 南半部上部には18cm程のFAが堆積していた。黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色～黒褐色土(人為的に埋め戻した土)。下層には、焼土ブロックや炭化物が多く含まれる。

掘り方 φ10～30cm、深さ7～43cmまでの不定形の土坑・ピット類が多数検出された。その他に三日月形の跡も多数確認された。

床面 はほぼ全面5～15cm程貼床がなされていたが非常に硬くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅15cm、深さ4～9cmで、北壁と南壁に巡る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 床面より10～40cm位浮いた状態で、住居中央部から多量の焼礫とその下から炭化材が数点出土した。土器破片は床面より10cm以上浮いた状態で数点出土したが、あまり目立ったものはなかった。

遺存状態 幅狭くトレンチ状に調査したのみで、全体の形状は不明。16号住居の周溝帯の痕跡も若干残っていた。

カマド 不明。

27号住居跡

- 1 黒褐色土 黄粘土塊・焼土塊・炭化物・黄褐色小粒石粒少量
- 2 黒色土 黄粘土塊多量、黄褐色小粒石粒少量(16号周溝)
- 3 黒色土 黄粘土塊・焼土塊・黄褐色小粒石粒少量
- 4 黒色土 黄粘土塊・焼土塊・炭化物・黄褐色小粒石粒少量
- 5 黒色土 焼土塊・炭化物多量、黄褐色小粒石粒少量、軟質
- 6 黒色土 黄粘土塊・焼土塊・炭化物・黄褐色小粒石粒少量、粘性有、硬質
- 7 黒色土 黄粘土塊・黄褐色小粒石粒少量、粘性有、軟質
- 8 黒色土 黄粘土塊やや多く、粘性有、軟質
- 9 黒色土 黄粘土塊多量、粘性有、極硬質(貼床)

28号住居跡

位置 MB-19・20、MA-19・20 主軸方向 N93°W
重複 26号住居→28号住居→25号住居

規模 縦3.70m×横3.50m×深さ0.50m

形状 隅丸方形。

埋没土 褐色土小ブロック及び粒子を多く含む黒色～黒褐色土。26号住居寄りでは、焼土粒子を少量含む。人為的に埋め戻した土。

掘り方 北側の26号住居と重複する部分では、ほとんど確認できなかった。

床面 26号住居の床面が硬くしっかりと貼床がなされていたので、28号住居の床面はやや起伏もあり、明確に確認できなかった。

貯蔵穴 カマド左脇住居の南西コーナー。長径60cm×短径52cm×深さ13cm。内部より坏と甕が出土した。
周溝 無し。

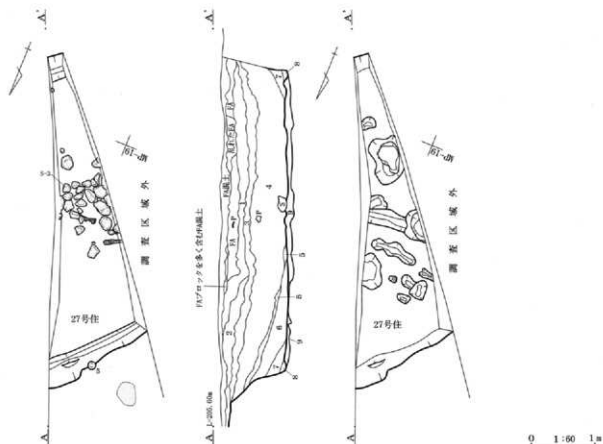
柱穴 不明。掘り方調査時にカマド手前1m程のところ長径38cm×短径35cm×深さ4cmのピットが検出された。

遺物出土状態 カマド周辺及び北西部より土器片が出土した。東壁手前の26号住居と境界ライン上から長さ45cm×幅22cm×厚さ13.6cmの大形礫が出土した。

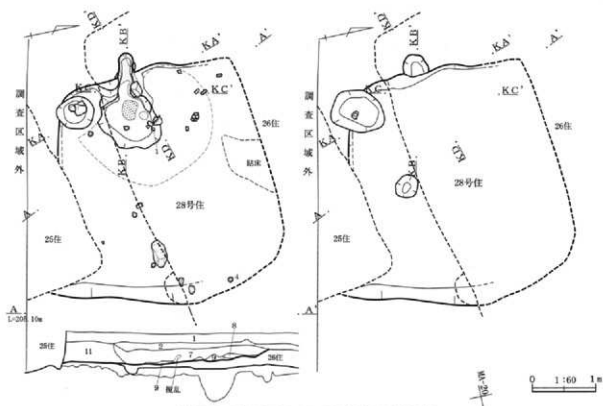
遺存状態 不良。南側は25号住居に切られ、北側は26号住居と重複しており、明確に確認できなかった。

カマド 位置 西壁中央やや南寄り

規模 全長182cm 最大幅155cm 焚き口幅60cm

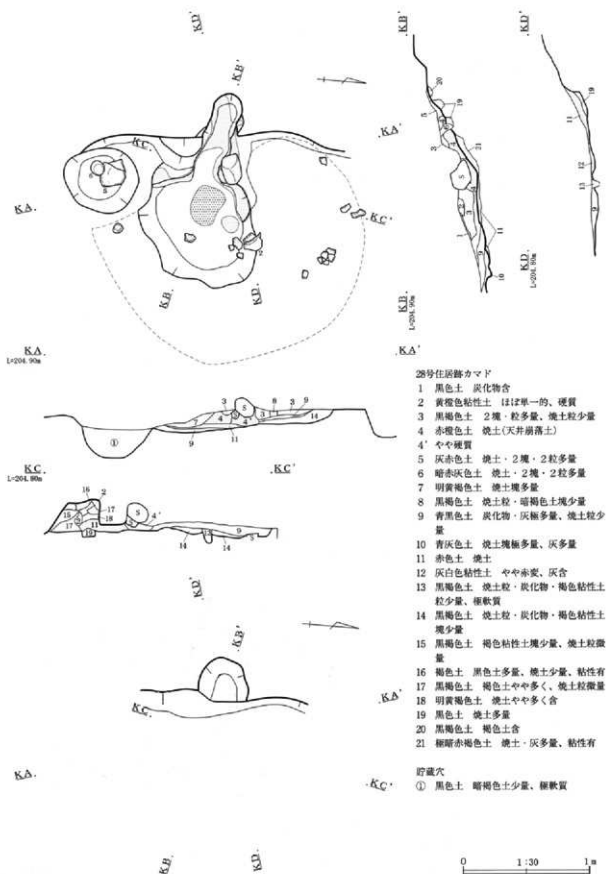


第132図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土27号住居跡

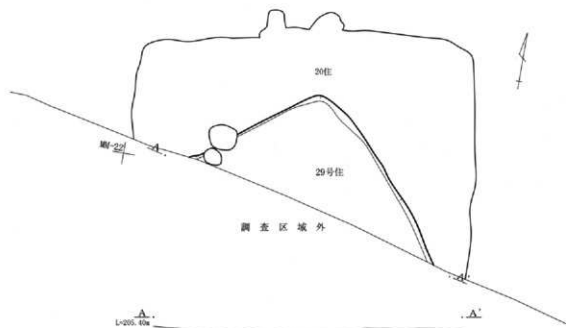


第133図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土28号住居跡

III 検出された遺構と遺物



第134図 III区5面Hr-FA下黒色土28号住居跡カマド

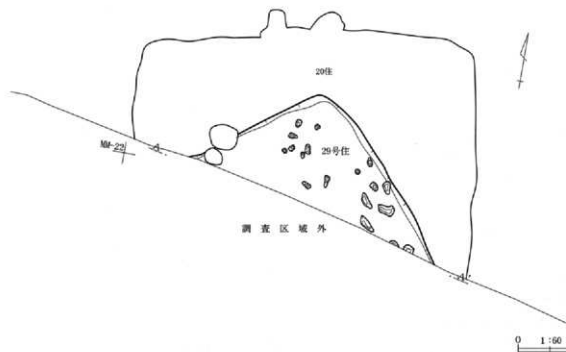


20住



29号住居跡

- 21 黒褐色土 暗褐色土多量、硬質(20住床下)
- 23 黒褐色土 暗褐色土多量、21よりやや軟質
- 24 黒色土 暗褐色土殆ど含まない
- 25 黒色土・褐色土混土
- 26 黒褐色土 褐色土やや多く、軟質
- 27 黄粘土主体 黒色土含、粘性有、極硬質(29住床)



第135図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土29号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

袖 両袖とも黄褐色粘性土により構築されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、56cm程外へ延びる。

埋没土 黄褐色粘性土ブロックを多量に含む黒褐色土と赤褐色粘性土により埋没していた。いずれも天井の崩落土と考えられる。

遺物出土状態 右袖先から土師器破片が、右袖から50cm程北側に離れた範囲から破片等が出土した。いずれもほぼ床直上からの出土であった。

遺存状態 カマド焼き口から手前はわずかに窪み、灰を多く含む粘性土が32cm×25cmの楕円形の範囲に分布していた。カマド周辺1mの範囲に焼土・灰・灰が薄く分布していた。

28号住居跡

- 1 黒色土 黄褐色小粒石較多量、褐色土較少量
- 2 黒褐色砂質土 褐色土やや多く、暗褐色砂含
- 7 黒色土 褐色土・焼土較少量
- 8 黒褐色土 焼土較やや多く、軟質
- 9 赤色土 黒褐色土多量、褐色粘性土含、軟質
- 11 黒褐色土 褐色土多量

29号住居跡

位置 ML-21・22, MK-21・22 主軸方向 N43°W

重複 29号住居→20号住居

規模 縦(3.25)m×横(2.30)m×深さ0.19m

形状 方形?

埋没土 暗褐色土ブロックをほとんど含まない黒色土により埋没していたが、上層はすべて20号住居により切られていたので、残っていなかった。

掘り方 黄褐色粘性土ブロック主体で若干の黒色土を含む褐色土により埋められていた。床面より5cm程下がるが、土坑・ピット類はなかった。三日月形の鋤先痕が多数検出された。

床面 ほぼ平坦であり、全体に貼床がなされておらず非常に硬くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 土器小破片が少量出土したのみで、目立った遺物はなかった。

遺存状態 北東コーナーを検出したのみ。上部はほ

んど20号住居に切られていた。

カマド 不明。

30号住居跡

位置 MN-23・24, MO-23・24 主軸方向 N27°W

重複 30号住居→17号住居

規模 縦5.40m×横5.40m×深さ0.25m

形状 方形。

埋没土 暗褐色土ブロックを多く含む黒色土により埋没していた。人為的に埋め戻した土。下層には多量の炭化材と焼土ブロックを含む。

掘り方 暗褐色土ブロックを50%程度含む黒褐色土により埋められていたが、ほぼ全体が比較的良くしまっていた。中心部が6~13cm程高く、周辺部は一段下がる。多数の鋤先痕が検出された。

床面 全面が5~25cm程貼床がなされておらず、比較的硬くしまっていた。

貯蔵穴 南西コーナー。長径76cm×短径65cm×深さ45cm、長方形の土坑。

周溝 幅10~20cm、深さ4~9cmで、ほぼ全周するものと思われる。

柱穴 p1長径35cm×短径32cm×深さ35cm, p2長径35cm×短径33cm×深さ37cm, 柱痕10cm, p3長径32cm×短径32cm×深さ55cm, 柱痕8cm, p4長径37cm×短径28cm×深さ30cm, p5長径40cm×短径30cm×深さ52cm, 柱痕10cm

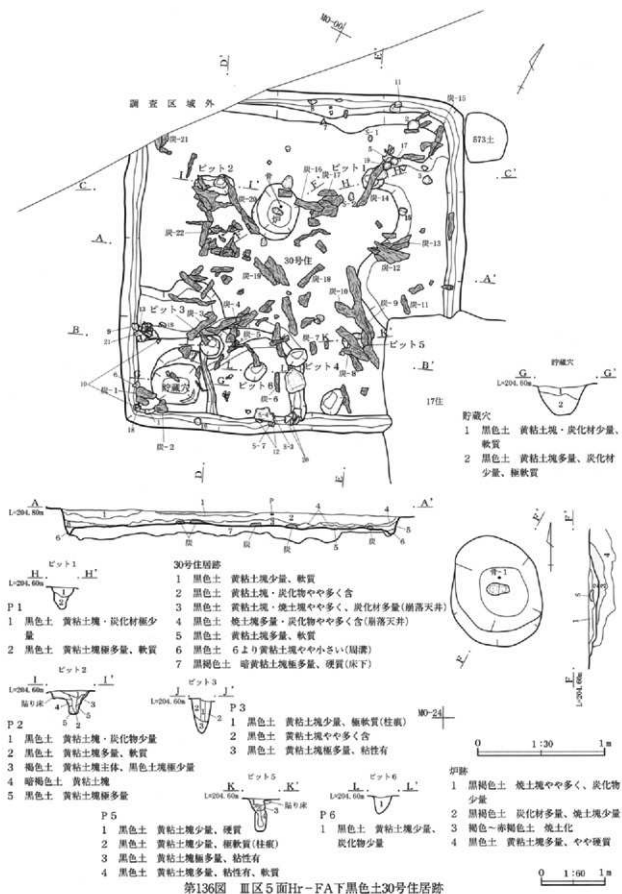
遺物出土状態 床より多量の炭化材が出土したが、材は中心を向いて検出された。遺物は北東部では、高坏や甕・鉢などがまとまって、南西部西壁周溝上、南壁周溝上から甕・高坏などが多く出土した。南壁中央に長さ33cm×幅22cm×厚さ12cmの垂角礫があり、表面が磨滅しており入口の踏み台と考えられる。

遺存状態 比較的良好。北西コーナーは調査区外、南東コーナーは17号住居に切られていた。火災住居。天井が焼けて崩れ落ちた状態で検出された。

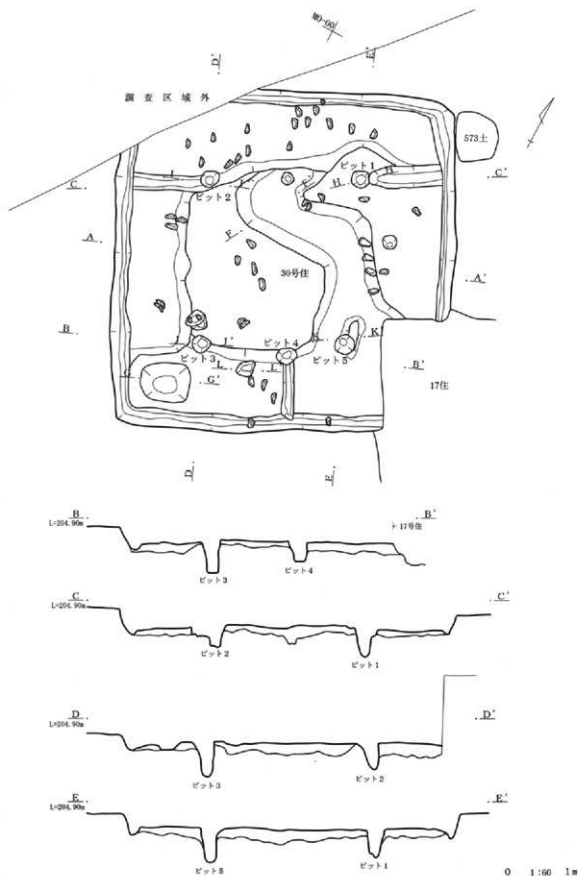
炉 位置 住居中心よりやや北西

規模 長径80cm×短径65cm×深さ8cm

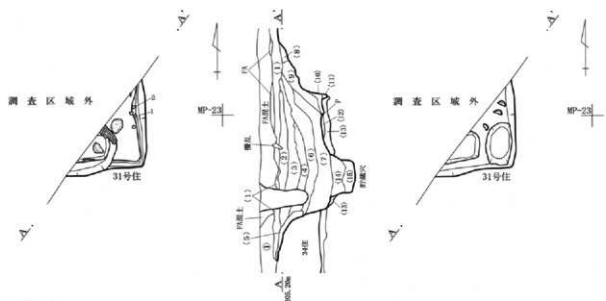
形状 楕円形。



Ⅲ 検出された遺構と遺物



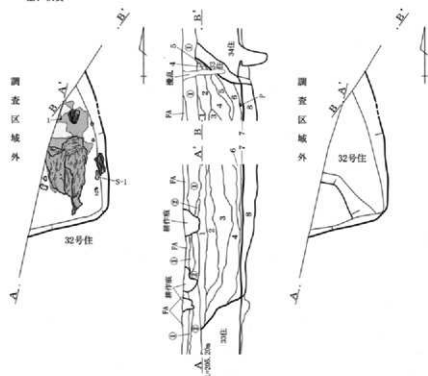
第137図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土30号住居跡掘り方



31号住居跡

- ① 黒色土 褐色土塊多量、焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量(16住周壁)
- (1) 黒褐色土 褐色土塊・FA塊・焼土塊・炭化物・やや多く含
- (2) 黒褐色土 褐色土塊多量、焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- (3) 黒褐色土 褐色土塊・焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- (4) 黒色土 褐色土塊やや多く、炭化物・黄褐色小軽石少量
- (5) 黒色土 焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- (6) 黒色土 褐色土塊・焼土塊・炭化物やや多く、黄褐色小軽石少量、軟質
- (7) 黒色土 褐色土塊・炭化物やや多く、焼土塊・黄褐色小軽石少量、軟質

- (8) 黒褐色土 褐色土塊・焼土塊多量
- (9) 黒色土 褐色土塊・焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- 00 黒色土 褐色土塊・焼土塊多量、炭化物・黄粘土塊少量、極軟質
- 01 黒色土 褐色土塊多量、軟質(厨溝)
- 02 褐色土 黒色土塊少量、極硬質(貼床)
- 03 黒色土 褐色土塊多量、硬質(床下埋土)
- 04 黒色土 褐色土塊少量、炭化物・黄褐色小軽石少量、軟質(貯蔵穴)
- 05 黒色土 褐色土塊多量、炭化物・黄褐色小軽石少量、粘性有、軟質(貯蔵穴)



32号住居跡

- ① 黒色土 褐色土塊多量、焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量(16住周壁)
- ② 黒色土 褐色土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- 1 黒褐色土 褐色土塊・焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石やや多く含
- 2 黒褐色土 褐色土塊・炭化物・黄褐色小軽石やや多く含
- 3 黒色土 褐色土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- 4 黒色土 褐色土塊多量、炭化物・黄褐色小軽石少量
- 5 黒色土 3より褐色土塊小さい
- 6 黒色土 褐色土塊・炭化物多量、炭化物・黄褐色小軽石少量
- 7 黒色土 焼土塊・炭化材多量、褐色土塊・黄褐色小軽石少量、一部灰
- 8 黒色土 褐色土塊多量、極硬質(床下埋土)

0 1:60 1m

第138図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土31・32号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

埋没土 上層は、焼土ブロックをやや多く、炭化物を少量含む黒色土。下層は、焼土ブロックを少量、炭化物を多く含む黒色土。

遺物出土状態 底面に、長さ18cm×幅10cm×厚さ4cm程の円環があった。覆土中より骨片が出土した。

遺存状態 良好。底面は7～8cm程良く焼けていた。

31号住居跡

位置 MP-22・23 主軸方向 N2°W

重複 34号住居→31号住居

規模 縦(1.38)m×横(1.20)m×深さ0.55m

形状 方形。

埋没土 地山褐色土ブロックを多く含む黒色～黒褐色土。下層には焼土ブロック及び炭化物がやや多く含まれる。

掘り方 地山褐色土ブロックを多く含む黒色土により埋められていた。人為的に埋め戻した土。南東コーナーには長径68cm×短径42cm×深さ10cm程窪みあり。三日月形の鋤先痕が多く検出された。

床面 5～15cm程貼床がなされていたが、比較的硬くしまっていた。

貯蔵穴 南東コーナー。長径60cm×短径68cm×深さ44cm、長方形を呈する。内部より長径20cm×短径12cm×厚さ10.2cmの礫出土。

周溝 幅4～11cm、深さ4～8cmで巡る。

柱穴 不明。

遺物出土状態 貯蔵穴上から炭化材が出土した。東壁周溝上から土器破片が出土した。

遺存状態 南東部の一部を調査したのみで、ほとんどが調査区外。

32号住居

位置 MQ-21・22, MP-21・22 主軸方向 N9°W

重複 34号住居→33号住居→32号住居

規模 縦(2.30)m×横(1.30)m×深さ0.56m

形状 方形。

埋没土 褐色土ブロックを多く含む黒色土。炭化物は上層の方がやや多く含まれる。人為的に埋め戻し

た土と考えられる。

掘り方 褐色土ブロックを非常に多く含む黒色土により埋められていた。南壁側はやや高く、それ以外は9cm程窪む。床下土坑等は確認できなかった。

床面 5～25cm程貼床がなされており、非常に硬くしまっていた。ほぼ平坦であり、土坑・ピット類は検出されなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 不明。

遺物出土状態 坏・変破片等が若干出土した。カヤまたは籐製の炭化材が、床上よりまとまって出土した。天井材または壁材の可能性有り。

遺存状態 南東コーナーのみ調査。それ以外は調査区外。北側調査区壁との境の床直より焼土部分検出。大形の炭化材はほとんど確認されなかったが、炭化材の分布状況や焼土の検出状況からすると火災住居の可能性が高い。

カマド 不明。

33号住居跡

位置 MQ-20・21・22, MP-21・22 主軸方向 N6°W

重複 34号住居→33号住居→32号住居

規模 縦(4.90)m×横(2.00)m×深さ0.70m

形状 方形。

埋没土 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。下層には焼土ブロック及び炭化物が多く含まれる。

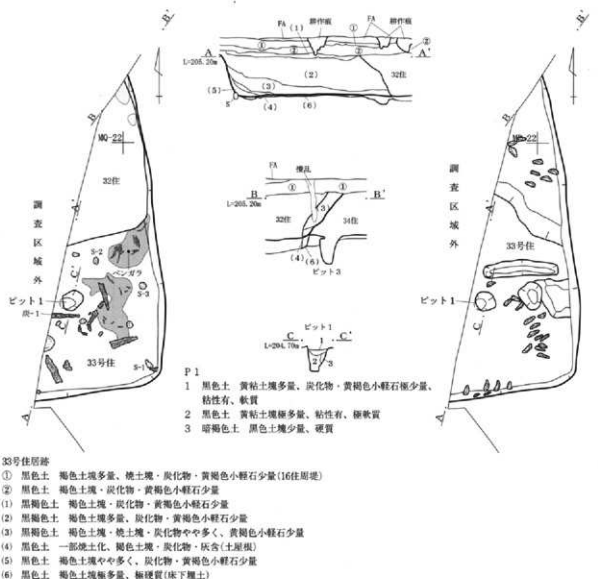
掘り方 褐色土ブロックを非常に多く含む黒色土により埋められていた。東壁中央よりやや南から西に幅25cm、深さ5cm、長さ117cmの仕切り溝が検出された。三日月形の鋤先痕が多く確認された。

床面 2～13cm程貼床がなされており、非常に硬くしまっていた。ほぼ平坦であり、北側は32号住居により切られていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 南東部、長径35cm×短径30cm×深さ38cm。掘



33号住居跡

- ① 黒色土 褐色土塊多量、焼土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量(16住居跡)
- ② 黒色土 褐色土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- (1) 黒褐色土 褐色土塊・炭化物・黄褐色小軽石少量
- (2) 黒褐色土 褐色土塊多量、炭化物・黄褐色小軽石少量
- (3) 黒褐色土 褐色土塊・焼土塊・炭化物やや多く、黄褐色小軽石少量
- (4) 黒色土 一部焼土化、褐色土塊・炭化物・灰含(土層根)
- (5) 黒色土 褐色土塊やや多く、炭化物・黄褐色小軽石少量
- (6) 黒色土 褐色土塊多量、極硬質(床下層土)

第139図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土33号住居跡

0 1:60 1m

り方調査時にその東で、長径45cm×短径37cm×深さ7cmのピットが検出された。

遺物出土状態 南東部の炭分布状況を囲むように円礫が出土した。その北側では、籐製の炭化材及びベンガラ散布状況が確認された。調査区西壁部分からは、φ30cm程の大形円礫が床上9cmから出土した。

遺存状態 北側は32号住居で切られており、西側は調査区外。火災後埋め戻されたものと考えられる。
カマド 不明。

34号住居跡

位置 MP-21・22, MO-22 主軸方向 N17°W

重複 34号住居→33号住居→32号住居, 34号住居→16号住居

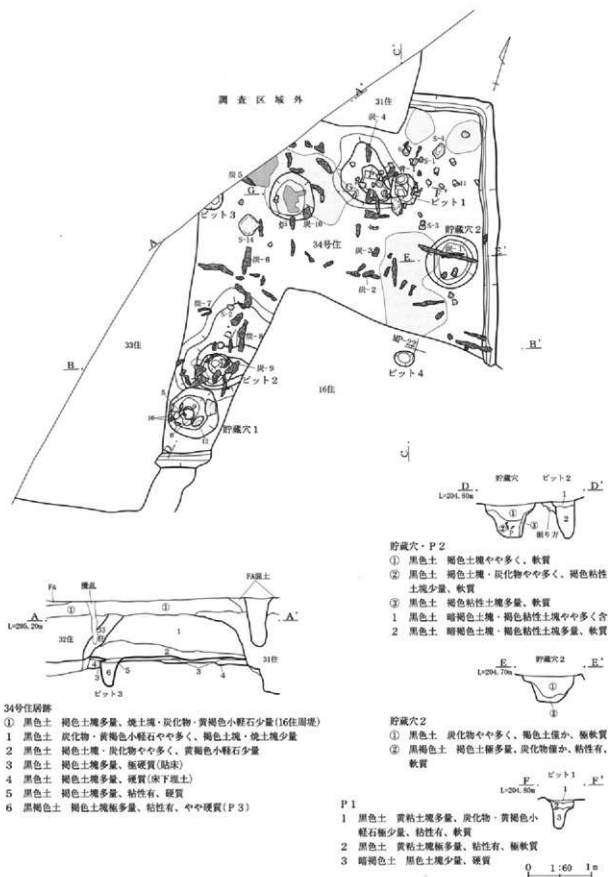
規模 縦6.16m×横4.80m×深さ0.73m

形状 方形。

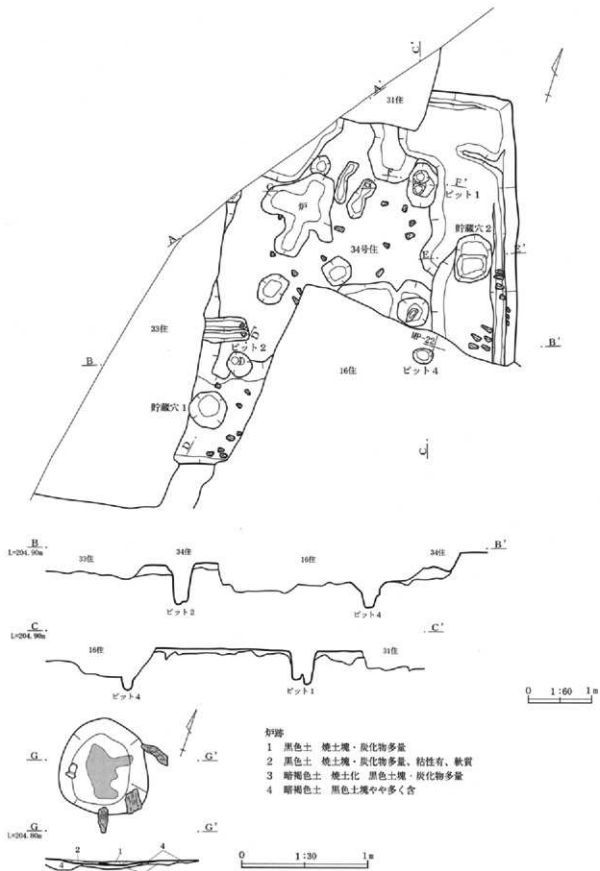
埋没土 褐色土ブロックを含む黒色土。人為的埋め土と考えられる。上層の方が同ブロックが大きく、下層の方が小さく量も多い。また、下層の方が炭化物をやや多く含む。

掘り方 褐色土ブロックを多く含む黒色土により埋められていた。周辺部は1m位の幅で11~13cm程下がっていた。中央部で楕円形や不定形の床下土坑・ピット類が10数基検出された。数多くの三日月形の

III 検出された遺構と遺物



第140図 III区5面Hr-FA下黒色土34号住居跡



第141図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土34号住居跡掘り方・炉跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

動先直が検出された。

床面 5～12cm程貼床がなされており、全体的に硬くしまっていた。特に貼床の浅い中心部は非常に硬くしまっていた。

貯蔵穴 北西部。長径82cm×短径78cm×深さ50cm、高坏・甕などの完形や大形破片など中心的遺物が出土した。東壁中央手前10cm。長径45cm×短径43cm×深さ44cm、棒状炭化物出土。

周溝 幅7～15cm、深さ3～8cmで、東壁～西壁まで巡るものと思われる。掘り方調査時に西壁側から東に平行する2条の幅20cm、深さ10cm程の仕切り溝検出。

柱穴 p1長径55cm×短径45cm×深さ50cm、立て替え有り。p2長径48cm×短径42cm×深さ50cm、p3長径(38)cm×短径(15)cm×深さ45cm、p4長径30cm×短径20cm×深さ65cm、16号住居の掘り方調査時に確認。

遺物出土状態 北東部からは、多量の土器片及び重角礫が出土した。そのまわりで焼土が集中する部分が4ヶ所程検出された。西壁中央手前から長さ30cm×幅30cm、厚さ15cm程の偏平礫が出土したが、その近くの底面からベンガラが検出された。

遺存状態 多くの住居に周辺から切られていたが、調査した部分では床上で焼土部分と多量の炭化材が検出され、火災で焼失した状況がよく確認できた。

炉位置 p1とp3の間で、やや西のp3寄り

規模 長径77cm×短径70cm×深さ6cm

形状 楕円形。

埋没土 焼土ブロック及び炭化物片を多く含む黒色土。しまりは弱い。

遺物出土状態 遺物は何も出土しなかったが、炭化材は検出された。

遺存状態 底面から東床面は良く焼けており、中心部底面から1cm程上から炭化物を多く含む灰のまわりが出土した。

35号住居跡

位置 MN-21・22、MM-22 主軸方向 N32°W

重複 574号土坑・575号土坑→35号住居

規模 縦5.15m×横3.87m×深さ0.22m

形状 隅丸方形。

埋没土 上層は黄褐色粘性土ブロックを少量、炭化物を少量、焼土ブロック少量含む黒色土、しまりは弱い。下層の方が黄褐色粘性土ブロックを多く含む。

掘り方 ロームブロックをやや多く含む粘性を有する黒色土で埋められていた。周辺部は幅80～120cm、深さ5～8cm程下がる。

床面 1～20cm程全面貼床がなされており、全体的に硬くしまっていた。特に中心部は非常に硬くしまっていた。

貯蔵穴 北東コーナー。円形。長径70cm×短径68cm×深さ33cm。黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色土により埋没していたが、内部から多量の高坏破片等が出土した。東壁中央、壁より25cm西手前。円形。長径70cm×短径66cm×深さ25cm。黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色～黒褐色土により埋没していたが、中心から(塔?)が出土した。

周溝 幅15～25cm、深さ5～15cm程で、西壁～東壁まで巡るが、南壁は調査区外のため不明。

柱穴 p1長径51cm×短径43cm×深さ50cm、柱痕12cm、楕円形。p2長径54cm×短径49cm×深さ52cm、柱痕10cm、楕円形。

遺物出土状態 壁より50cm程内側に多量の土器が出土した。北西コーナーより高坏と長さ14cm×幅12cm×厚さ7.5cmの円礫が出土した。

遺存状態 比較的良好。床面より大きな炭化材は検出できなかったが、埋没土中より炭化物や焼土ブロックが検出され、床面もかなり黒味が強い部分が多いので焼失住居の可能性はある。

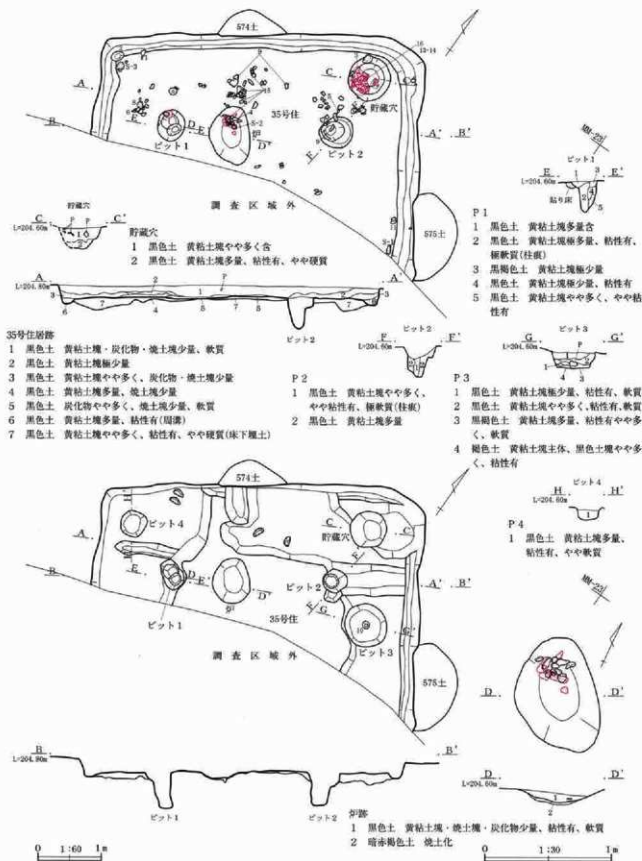
炉位置 p1とp2の間でややp1寄り。

規模 長径94cm×短径63cm×深さ10cm

形状 やや不整形の楕円形。

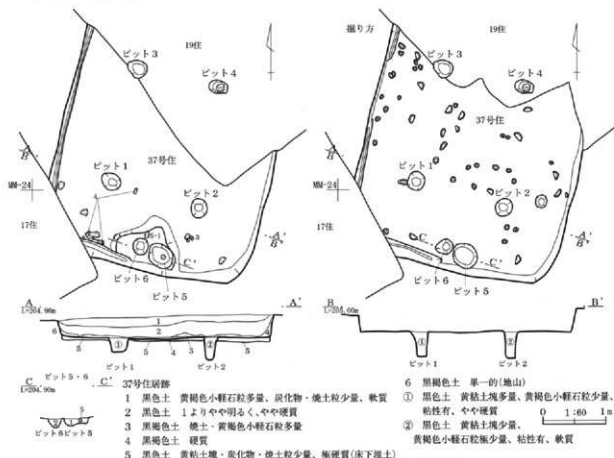
埋没土 黄褐色粘性土ブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む黒色土、粘性があり、軟質。

遺物出土状態 底面より長さ15cm×幅5cm×厚さ5cm程の棒状礫が出土した。そのまわりから高坏破片等が出土した。



第142図 III区5面Hr-FA下黒色土35号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第143図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土37号住居跡

遺存状態 比較的良好。底面は2cm程赤く焼けていた。

37号住居跡

位置 ML-23・24 主軸方向 N14°E

重複 37号住居→19号住居, 37号住居→17号住居

規模 縦3.60m×横3.45m×深さ0.35m

形状 隅丸長方形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子多量、炭化物及び焼土ブロック・粒子少量含む黒色土。上層はしまりは弱く、やや暗い。

掘り方 黄褐色粘性土ブロックを少量含む黒色土により埋められていた。特に目立った床下土坑やピットは検出されなかった。三日月形の鋤痕が多数確認された。

床面 1~7cm程床下部分があったが、意識的に貼ったものではないと思われる。全面的に非常に硬く

しまっていた。南壁の中央部は、長さ100cm×幅76cmで2~3cm程高くなっており、非常に硬くしまっていた。入口と考えられる。

貯蔵穴 南壁中央。楕円形、長径45cm×短径34cm×深さ17cm。黄褐色粘性土ブロック及び炭化物を少量含む黒色土により埋没していた。粘性有り。

周溝 幅5~11cm、深さ2~5cmで、南壁西半~西壁まで巡る。

柱穴 p1長径32cm×短径27cm×深さ42cm, p2長径30cm×短径25cm×深さ44cm, p3長径32cm×短径27cm×深さ40cm, p4長径30cm×短径21cm×深さ46cm。黄褐色粘性土ブロックを含む黒色土により埋没していた。

遺物出土状態 南半からほとんどの遺物は出土した。南壁の西寄りと貯蔵穴の東側で破片等が出土した。礫は床面よりやや浮いた状態で確認された。

遺存状態 17号住居と19号住居に切られており、

号住居内でp3とp4が検出された。
炉 不明。

38号住居跡

位置 MJ-23-24, MI-23-24 主軸方向 N67°E

重複 47号住居→53号住居→38号住居

規模 縦4.33m×横4.75m×深さ0.25m

形状 方形。

埋没土 上層は黄褐色軽石粒子多量、炭化物少量含む黒色土。下層は同軽石粒子少量。

掘り方 カマド部分が多少変化はあったが、床下土坑等特別な遺構は無かった。

床面 南側では低い周堤帯を持つp5が検出されたが、その周辺は他に比べやや硬くしまっていた。

貯蔵穴 南東コーナーに長径72cm×短径55cm×深さ47cmの楕円形土坑有り。

周溝 幅5～15cm、深さ3～7cmで、カマド両脇を除きほぼ全周する。

柱穴 p1長径38cm×短径35cm×深さ27cm、p2長径33cm×短径29cm×深さ40cm、p3長径37cm×短径67cm×深さ21cm、p4長径46cm×短径39cm×深さ45cm、p5長径44cm×短径33cm×深さ17cm、p6長径36cm×短径30cm×深さ35cm

遺物出土状態 ほぼ全体から分散して出土したが、カマド周辺部を除き床面より浮いているものが多く、床直のものはほとんどなかった。

遺存状態 不良。掘り方は浅く、周溝で確認した。

カマド 位置 東壁中央よりやや東寄り。

規模 全長(135)cm 最大幅80cm 焚き口幅33cm

袖 黄褐色粘性土により構築されており、窯は使用されていなかった。

煙道 住居外にはほとんど延びない。

埋没土 焼けた黄褐色粘性土ブロックを含む土で埋没しており、天井の崩落土と考えられる。

遺物出土状態 カマド燃焼部より一部欠損した坏2点が、右袖脇からほぼ完形の坏3点が出土した。支脚手前から焼けた骨片が検出された。

遺存状態 浅かったが、底面の被熱状態は良く残っ

ていた。カマド手前部分は後の小ピットにより壊されていた。支脚には榿状礫が用いられていた。

39号住居跡

位置 MJ-21-22, MK-21-22 主軸方向 N18°W

重複 48号住居→39号住居

規模 縦4.85m×横4.64m×深さ0.31m

形状 方形。

埋没土 黄褐色軽石粒子多量、炭化物片・焼土粒子少量含む黒色土。中心部には黄褐色土ブロックを少量含む部分有り。

掘り方 東側は凹凸を持ちながら凹み部分があったが、三日月状の鑿痕が多数検出された。48号住居と重複する西側では、検出が困難であった。

床面 住居中心が4～5cm程度220cm×140cmの範囲でやや軟質で窪んだが、下の48号住居の影響と考えられる。その他は比較的平坦であった。

貯蔵穴 不明。調査範囲内には貯蔵穴に相当するものはなかった。

周溝 幅15cm前後、深さ5～8cmで、ほぼ全周する。北西コーナー付近で一部壁よりも内側に入る部分有り。

柱穴 p1長径38cm×短径36cm×深さ40cm、p2長径31cm×短径31cm×深さ47cm、p3長径33cm×短径32cm×深さ40cm、p4長径36cm×短径28cm×深さ50cm

遺物出土状態 かなり多量に全面から出土したが、大形の変頸を除き床直から出土したものは少なかった。焼礫も多く出土したが、やはり床面より浮いているものが多かった。炭化材も多く出土した。南西部より骨片が出土した。

遺存状態 比較的良好。南西コーナーを除きほぼ全面検出した。遺物量が多く、炭化材等も少量ではあるが出土しているので火災住居の可能性が考えられる。

炉 不明。中央の窪み部分に若干焼土粒子・炭化物片が散在する部分があったが、明確に焼けている部分はなかった。

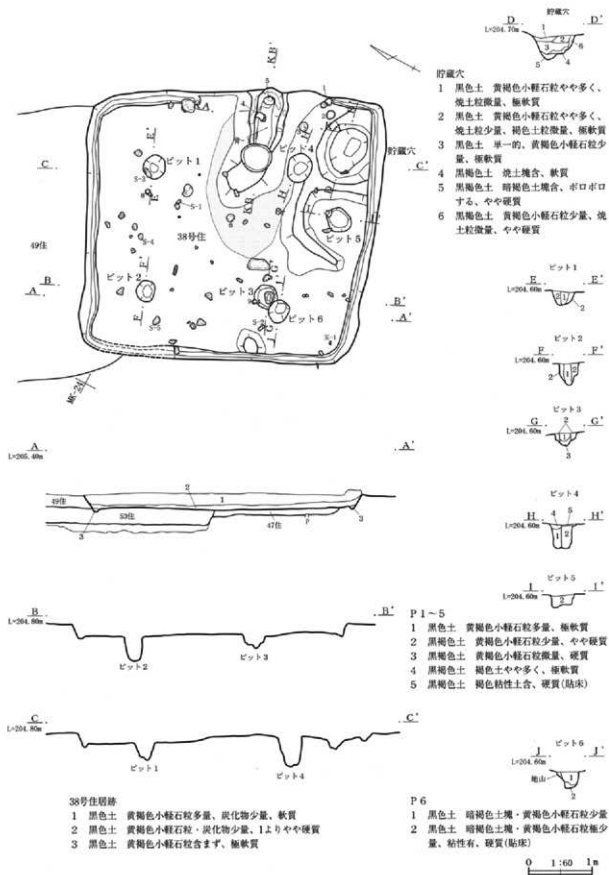
39号住居跡

1 黒色土 黄褐色小軽石粒多量、炭化物やや多く、焼土少量

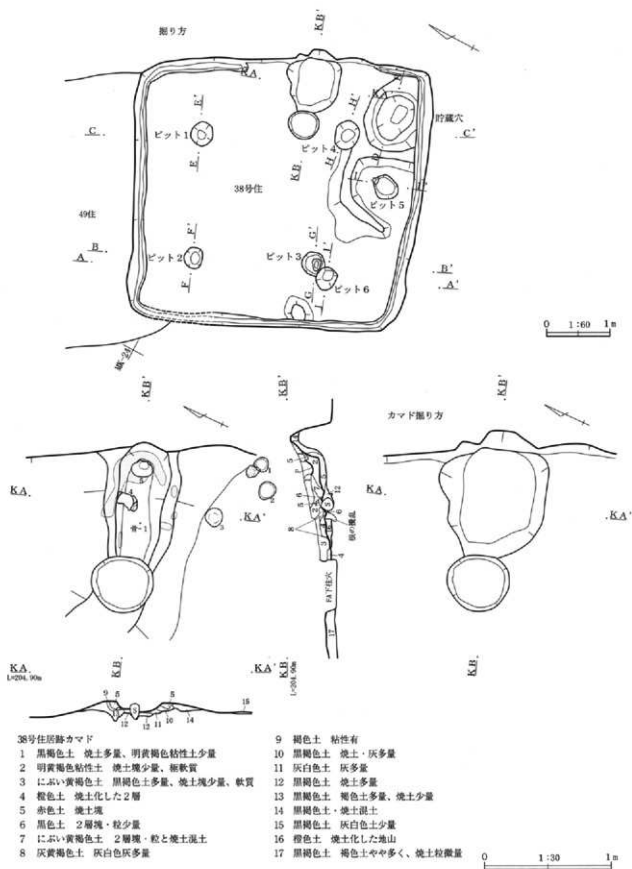
2 黒色土 黄褐色小軽石粒・炭化物多量、褐色土塊少量

3 黒色土 黄褐色小軽石粒多量、炭化物・焼土・褐色土少量

III 検出された遺構と遺物

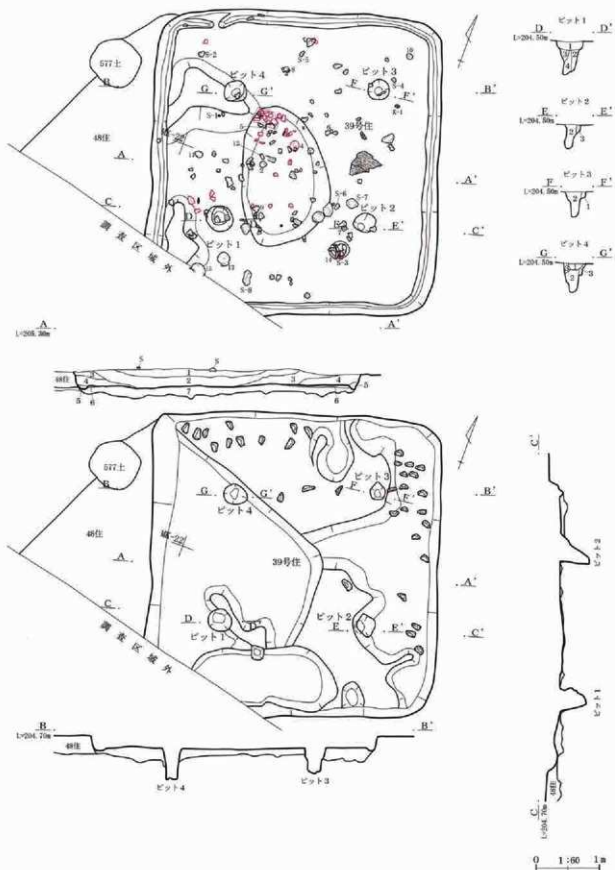


第144図 III区5面Hr-FA下黒色土38号住居跡



第145図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒38号住居跡掘り方・カマド

III 検出された遺構と遺物



第146図 III区5面Hr-FA下黒色土39号住居跡

- 4 黒色土 3よりやや暗い
 5 黒褐色土 褐色土塊多量
 6 黒褐色土 黄褐色小軽石粒少量(貼床)
 7 黒色土 暗褐色土塊多量、炭化物・黄褐色小軽石粒少量、硬質(雑土)

P1-4

- 1 黒褐色土 黄褐色小軽石粒多量
 2 黒色土 黄褐色小軽石粒多量、軟質
 3 黒褐色土 褐色土塊多量、やや硬質
 4 黒褐色土 褐色土塊多量、極軟質

40号住居跡

位置 MJ-24-00, MK-24-00 主軸方向 N18°W

重複 49号住居→53号住居→40号住居

規模 縦(4.20)m×横3.50m×深さ0.55m

形状 方形?

埋没土 黄褐色小軽石粒子多量を含む黒色土。

掘り方 周辺部は若干窪むが、床下土坑等はなかった。

床面 中心は1~5cm程度貼床がなされており、比較的良くしまっていたが、周辺部はややしまりは悪く、若干さがっていた。

貯蔵穴 南東コーナー手前に長径85cm×短径58cm×深さ42cmの土坑有り。周りには低い周堤帯状の高まりがあった。

周溝 幅10~20cm、深さ5cm前後で、西壁南半~南壁~東壁南半まで巡る。

柱穴 p1長径37cm×短径29cm×深さ41cm, p2長径27cm×短径19cm×深さ30cm, p3長径(26)cm×短径28cm×深さ19cm, 3本検出したが、主柱穴はφ10cm前後の柱痕のあったp1・p2の2本と思われる。

遺物出土状態 南壁南西コーナー寄りで棒状礎、南壁中央で大形偏平角礫が出土した。後者は入口施設に係わりのあるものか。南東部カマド右袖脇から土師器の大形甕・坏出土。

遺存状態 不良。全体の1/2以上が調査区外。重複が激しく、確認は困難であった。カマドの右袖や貯蔵穴の状況などから38号住居と同様な構造と推定される。

カマド 位置 東壁南寄り。

規模 不明。

袖 右袖は黄褐色粘性土により構築されていた。

煙道 不明。外に延びないタイプ?

埋没土 不明。

遺物出土状態 右袖脇から被熱器面風化土師器甕及び坏出土。

遺存状態 不明。調査区北側にカマド本体があるものと思われる。

41号住居跡

位置 MI-24, MH-24 主軸方向 N39°E

重複 53号住居→41号住居

規模 縦(3.20)m×横(3.35)m×深さ0.37m

形状 方形?

埋没土 上層は炭化物粒をやや多く含む黒色土。下層は黄褐色粘性土ブロックを多量を含む黒褐色土。人為的埋め土と考えられる。

掘り方 中央部がやや高く、周辺部は若干凹む。三日月形の跡痕が多数検出された。

床面 南側は浅く床面はほとんど残っていないかった。中心は比較的しまっていた。

貯蔵穴 南東部東壁寄り。長径75cm×短径73cm×深さ45cm。隅丸方形を呈する。黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色~黒褐色土により埋没していた。

周溝 無し。

柱穴 p1長径53cm×短径41cm×深さ24cm, p2長径48cm×短径45cm×深さ29cm, p3長径40cm×短径37cm×深さ43cm, p4長径36cm×短径30cm×深さ39cm

遺物出土状態 埋没土中より坏類が出土した。

遺存状態 不良。南側は削平されており、掘り方であらうじてプランを確認した。

カマド 不明。

炉 不明。

42号住居跡

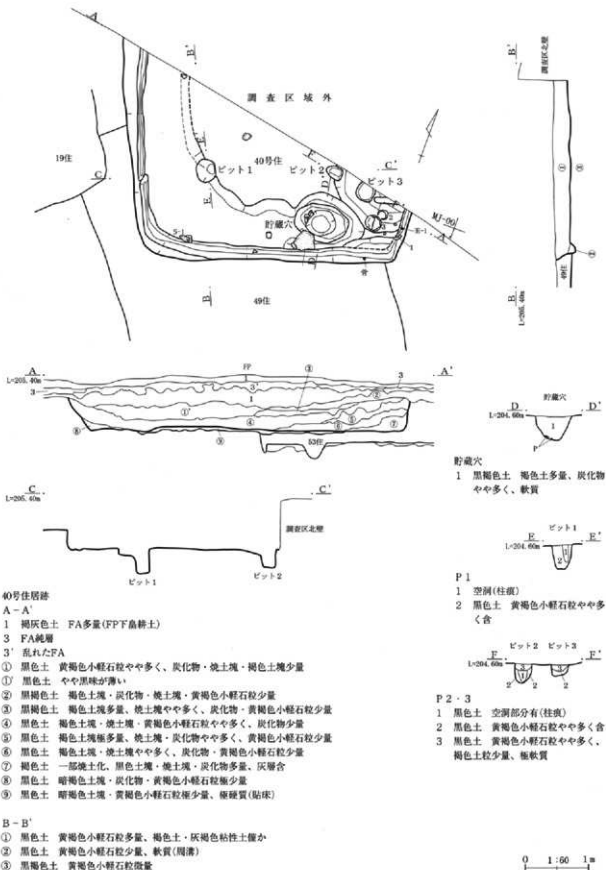
位置 MF-23・24, MG-24, ME-24 主軸方向 N24°W

重複 50号住居→42号住居→23号住居

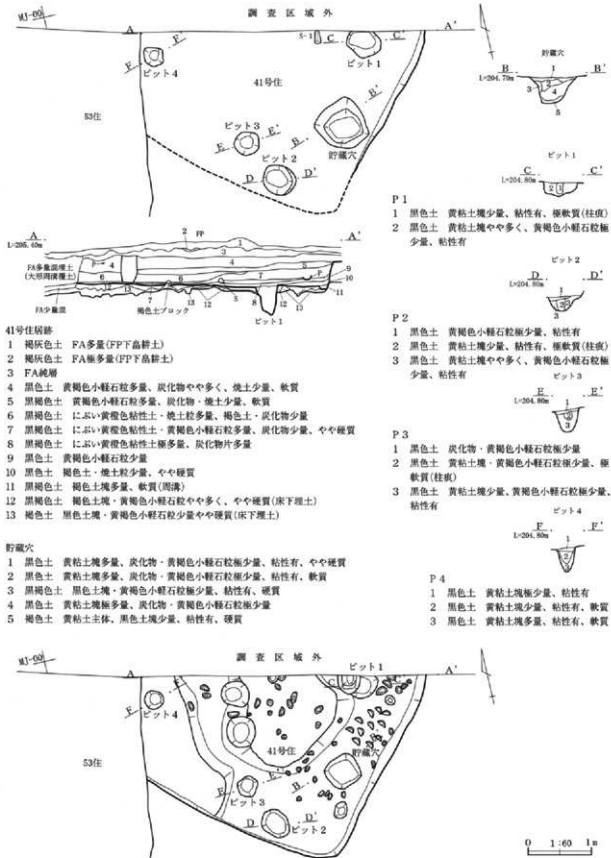
規模 縦5.60m×横5.91m×深さ0.35m

形状 方形。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

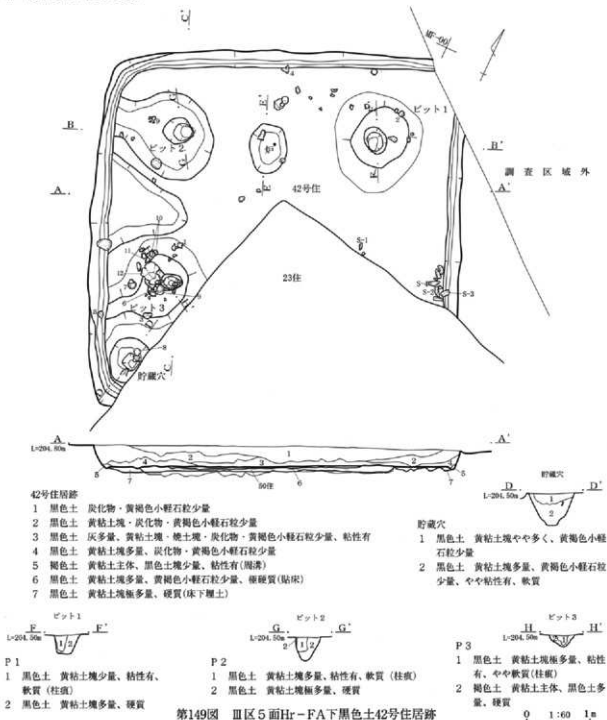


第147図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土40号住居跡



第148図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土41号住居跡

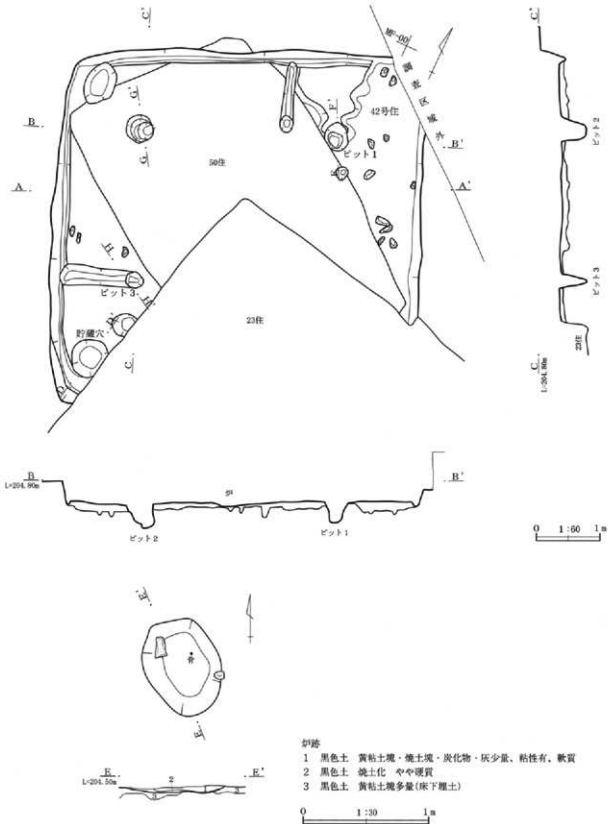
Ⅲ 検出された遺構と遺物



第149図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土42号住居跡

埋没土 上層は炭化物粒・黄褐色小軽石粒子少量含む黒色土。下層は黄褐色土ブロックを含む黒色土。
掘り方 北壁からp1西側にかけて幅16cm、深さ2～4cmの間仕切り溝が、西壁からp3北側にかけて幅30cm、深さ8～14cmの間仕切り溝が検出された。
床面 柱穴の周りには低い高まりが残っていた。西壁寄りのp2とp3の間は僅かに凹んでいた。
貯蔵穴 南西コーナー。23号住居に切られていた。

長径72cm×短径(50)cm×深さ51cm、平面形は楕円形、底面正方形の土坑有り。
周溝 幅10cm前後、深さ4cm前後で、調査した部分に巡る。
柱穴 3本検出。p1長径44cm×短径33cm×深さ33cm、p2長径43cm×短径42cm×深さ37cm、p3長径35cm×短径25cm×深さ45cm
遺物出土状態 東壁南寄りで棒状鏝がまとまって、



第150図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土42号住居跡掘り方

Ⅲ 検出された遺構と遺物

p3の周りに土師器発見が、p1とp2の周辺から高坏などがやや分散して出土した。貯蔵穴内から埴類が出土した。床直のものが多かった。

遺存状態 不良。北東コーナーの一部が調査区外。南側は23号住居に壊されていた。

炉 位置 中央よりやや北壁寄り。p1とp2の間。

規模 長径76cm×短径57cm×深さ5cm

形状 楕円形。浅い皿状。

埋没土 黄褐色粘性土ブロック・焼土ブロック・炭化物・灰を少量含む黒色土。

遺物出土状態 炉内中央より骨片出土。

遺存状態 地床炉。炉内北側に棒状礫有り。浅くはあったが、底面は焼けていた。

43号住居跡

位置 MG-22・23, MH-22・23, MF-22 主軸方向 N44°W

重複 51号住居→43号住居

規模 縦4.92m×横3.05m×深さ0.50m

形状 隅丸長方形。

埋没土 黄褐色ブロックを多く含む黒色土。人為的埋め土と考えられる。

掘り方 p2の西隣に若干凹む部分有り。鋤痕多数検出。

床面 柱穴や貯蔵穴周辺を除き、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 北東コーナーに長径30cm×短径27cm×深さ16cm。隅丸方形のピット有り。黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒褐色土により埋没、周りに低い周堤帯有り。

周溝 無し。

柱穴 住居内西壁中央及び東壁中央、住居外西側と東側の60cm離れた部分に各1つずつ有り。p1長径31cm×短径29cm×深さ36cm、p2長径32cm×短径28cm×深さ35cm、p3(貯蔵穴?)、p4長径40cm×短径29cm×深さ20cm、p5長径33cm×短径18cm×深さ37cm、p6長径40cm×短径39cm×深さ53cm、p7長径44cm×短径44cm×深さ40cm

遺物出土状態 東→南寄りの壁近くで出土したが、床面よりも浮いているものが多かった。

遺存状態 良好。柱穴並びは一列であり、プランも細長く、他の弥生時代の住居跡と違う構造であった。

炉 位置 西壁中央寄りp1の東側隣接。

規模 長径65cm×短径53cm×深さ5cm

形状 楕円形。浅い皿状。

埋没土 炭化物片をやや多く、黄褐色粘性土ブロックを含む黒色土。

遺物出土状態 炉内東寄りに棒状礫出土。

遺存状態 良好。底面は赤く焼けていた。

44号住居跡

位置 ME-21・22・23, MD-21・22・23

主軸方向 N170°W

重複 46号住居→44号住居→23号住居

規模 縦5.40m×横5.91m×深さ0.52m

形状 方形、貯蔵穴付近突出。

埋没土 黄褐色粘性土ブロックを多く含む黒色土。人為的埋め土。

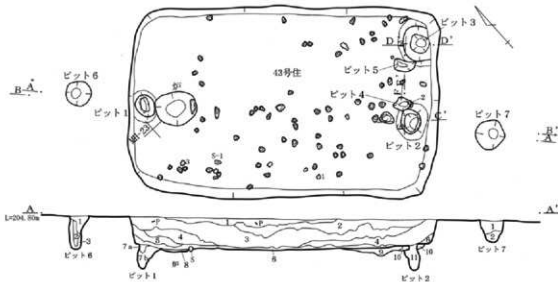
掘り方 北東部を除き、周辺部は凹凸を持って凹む。床面 厚さ5cm前後貼床がなされており、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 南東部。長径75cm×短径57cm×深さ47cmで周堤帯を持つ長方形を呈する。

周溝 幅10-15cm、深さ2-7cmで、カマド部分を除きほぼ全周する。

柱穴 5本検出。主柱穴4本の他にカマドと貯蔵穴の間に1本検出。p1長径51cm×短径41cm×深さ71cm、底部隅丸方形。p2長径40cm×短径40cm×深さ68cm、隅丸方形。p3長径40cm×短径35cm×深さ69cm、底部隅丸方形。p4長径34cm×短径32cm×深さ73cm、やや隅丸方形気味。p5長径35cm×短径30cm×深さ40cm、隅丸方形。

遺物出土状態 多量の炭化材出土。東側では東西方向に長く検出。カマド東側で貯蔵穴西側の南壁周溝上から埴類出土。北東部より長さ28cm、幅7cm程の骨片出土。焼失家屋の可能性大。



43号住居跡

- 1 黒色土 黄粘土塊・炭化物・黄褐色小軽石粒少量
- 2 黒色土 黄粘土塊やや多く、黄褐色小軽石粒少量
- 3 黒色土 黄粘土塊多量、炭化物・黄褐色小軽石粒少量
- 4 黒色土 黄粘土塊多量、黄褐色小軽石粒少量
- 5 黄褐色土 黄粘土塊・炭化物・黄褐色小軽石粒少量、やや粘性有
- 6 黒色土 黄粘土塊・炭化物・黄褐色小軽石粒少量、粘性有、硬質
- 7a 黒色土 黄粘土塊多量、極軟質(P1)
- 7b 褐色土 黒色土塊少量、硬質(P1)
- 8 黒色土 黄粘土塊・炭化物やや多く、一部焼土化(伊跡)
- 9 褐色土 黒色土塊やや多く、極硬質(粘沫)
- 10 褐色土 黒色土塊極少量、極硬質(床下埋土)
- 11 褐色土 黒色土塊極少量、硬質(P2)



P4・5

- 1 黒褐色土 黄粘土塊やや多く、黄褐色小軽石粒少量
- 2 褐色土 極硬質

P6

- 1 黒色土 黄粘土塊多量、炭化物極少量
- 2 黒色土 黄粘土塊やや多く含(柱状)
- 3 褐色土 黄粘土主体、黒色土塊やや多く、硬質

P7

- 1 黒褐色土 黄粘土塊多量
- 2 黒色土 黄粘土塊少量、硬質

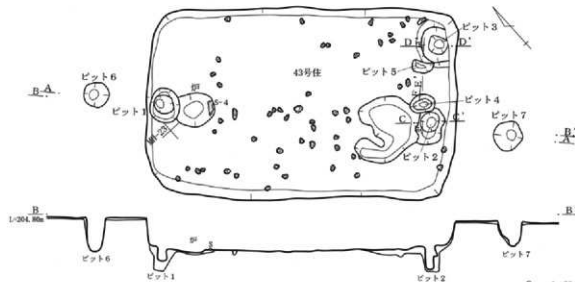


P2

- 1 黒褐色土 黄粘土塊やや多く、炭化物・黄褐色小軽石粒少量
- 2 褐色土 黒色土塊少量
- 3 褐色土 極硬質

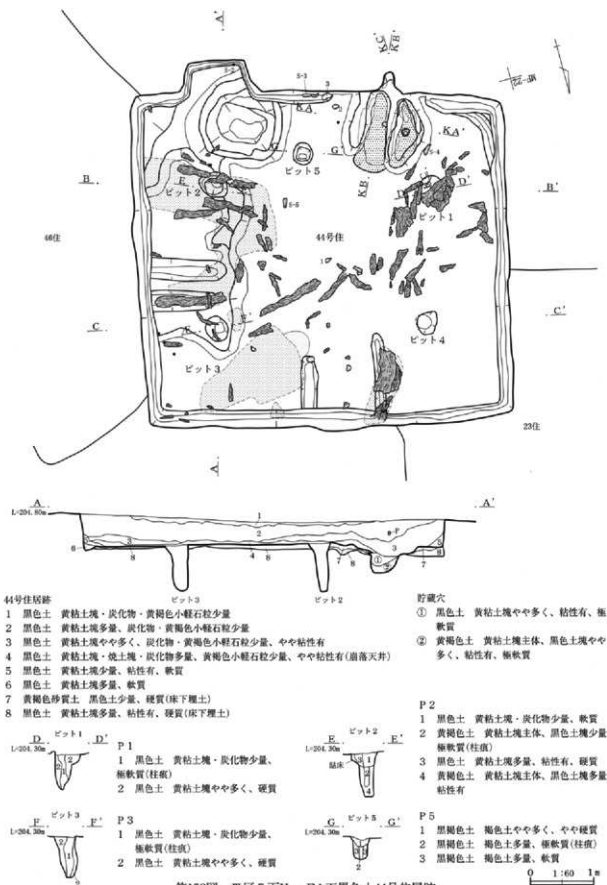
P3

- 1 黒褐色土 黄粘土塊・黄褐色小軽石粒少量
- 2 黒褐色土 黄粘土塊多量、粘性有、やや硬質
- 3 黒褐色土 黄粘土塊多量、粘性有、やや硬質
- 4 褐色土 極硬質

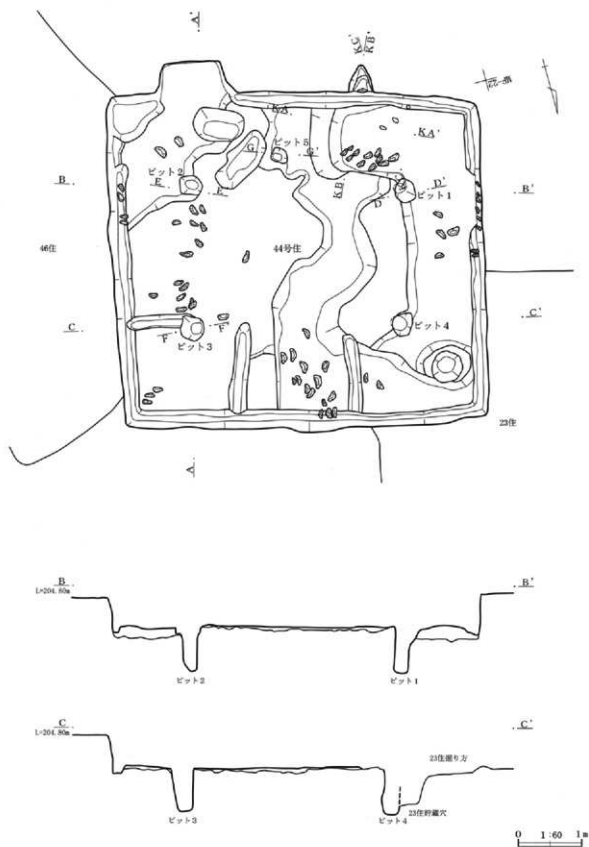


第151図 III区5面Hr-FA下黒色土43号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

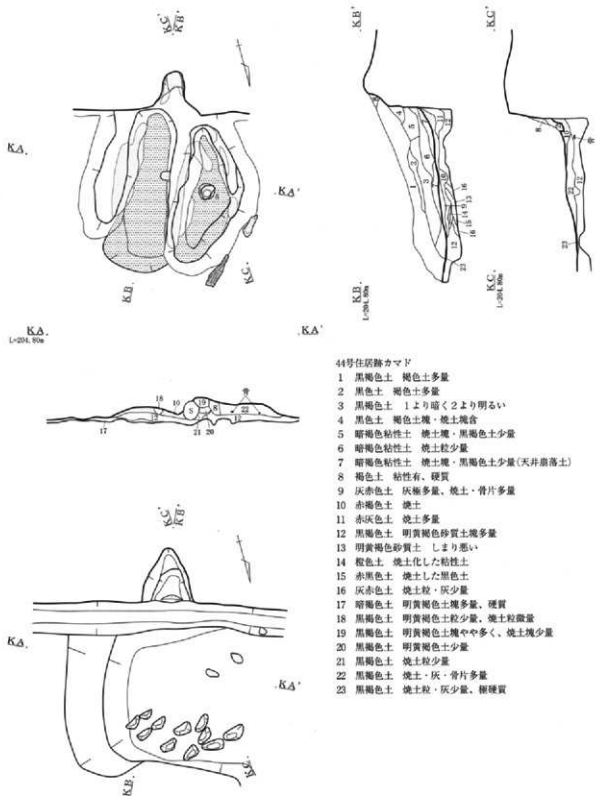


第152図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土44号住居跡



第153図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土44号住居跡掘り方

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第154図 Ⅲ区5面Hr-F下黒色土44号住居跡カマド

遺存状態 良好。南壁東寄りに方形の張り出しを持つ。

カマド 位置 南壁西寄り。

規模 全長160cm 最大幅121cm 焚き口幅45cm

袖 明黄褐色砂質土ブロックを多量に含む黒色土により構築されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、30cm程外へ延びる。

埋没土 使用面直上には焼土ブロックを多量に含む暗褐色粘性土（天井崩落土）有り。その上には褐色土ブロックを多く含む黒褐～黒色土があり、人為的に埋め戻された可能性有り。

遺物出土状態 右袖中央に土師器甕口縁部破片が逆位出土。

遺存状態 良好。右袖西側は若干窪むが、多くの灰が検出され、東側に付け替えられた可能性が考えられる。底面には5～10cmほどの焼土層が確認された。

45号住居跡

位置 MC-21・22, MB-21 主軸方向 N14°W

重複 46号住居→45号住居

規模 縦3.60m×横2.42m×深さ0.30m

形状 長方形、東側がやや長く、不整形。

埋没土 黄褐色粘性土ブロックを含む黒色土、周辺部の三角堆積部分には同ブロックの含有量は少ない。

掘り方 床面より2～12cm程下がり、かなり凹凸がある。三日月形跡痕を多数残す。

床面 ほほ全面貼床がなされており、比較的良くしまっていたが、東側の方がややしまりは弱かった。

貯蔵穴 不明。カマド右袖下に長径39cm×短径35cm×深さ8cm、北東コーナーに長径105cm×短径41cm×深さ15cmの穴有り。

周溝 無し。

柱穴 カマド手前及び住居外南北に各1、計3本検出。p1長径26cm×短径26cm×深さ11cm、p2長径12cm×短径12cm×深さ14cm、p3長径26cm×短径22cm×深さ32cm

遺物出土状態 カマド右袖東側で床直から土師器甕類が、南壁中央寄り床直から口縁を欠損した甕が出

土した。その他に多くの炭化材が出土した。焼失家屋の可能性大。

遺存状態 比較的良好。北東部はトレンチにより切られており、壁の立ち上がりは確認できなかった。

カマド 位置 北壁西寄り。

規模 全長140cm 最大幅57cm 焚き口幅45cm

袖 粘性土により構築されており、礫は用いられていなかった。

煙道 住居壁を切り込んで、51cm程外へ延びる。

埋没土 上層は褐色土ブロック多く含む黒色～黒褐色土。使用面直上には8cm程焼土ブロック堆積層があった。天井の崩落土と考えられる。

遺物出土状態 カマド左袖西脇と焚き口手前から土器破片が出土した。

遺存状態 比較的良好。燃焼部奥には自然礫の支脚が立てられていた。袖西脇には多量の灰が集積されていた。燃焼部壁及び煙道は赤く焼けていた。

45号住居跡

- 1 黒色土 黄粘土塊やや多く、炭化物・黄褐色小軽石粒少量(埋土)
- 2 黒色土 黄粘土塊多量、炭化物やや多く、黄褐色小軽石粒少量(崩落天井)
- 3 黒色土 黄粘土塊・黄褐色小軽石粒少量
- 4 黒色土 焼土塊・黄褐色小軽石粒少量、粘性有、硬質(貼床)
- 5 黒色土 黄粘土塊多量、黄褐色小軽石粒少量、硬質(床下埋土)

45号住居跡カマド

- 1 黒色土 褐色土やや多く含(埋土)
- 2 黒褐色土 褐色土多量、焼土少量
- 3 褐色土 焼土多量
- 4 赤色土 焼土塊(崩落天井)
- 5 黒色土 焼土粒少量
- 6 黒褐色土 焼土多量、炭化物片含
- 7 赤色土 はは焼土塊、褐色土・黒色土塊混(崩落天井)
- 8 赤褐色土 焼土粒少量、粘性有
- 9 暗褐色土 焼土粒少量、粘性有
- 10 黒褐色土 焼土少量、硬質
- 11 黒色土 単一的
- 12 赤褐色土 焼土化した褐色土
- 13 褐色土 灰層
- 14 暗赤褐色土 焼土多量、褐色土粒やや多く含
- 15 黒褐色土 褐色土塊多量
- 16 っぽい褐色土 焼土 黄褐色小軽石粒少量
- 17 黒褐色土 焼土・灰多量
- 18 褐色土 粘性有
- 19 明赤褐色土 緑灰色灰・焼土多量
- 20 明赤褐色土 緑灰色灰多量、焼土多量

P1

- 1 黒色土 黄粘土塊多量、炭化物・焼土塊少量

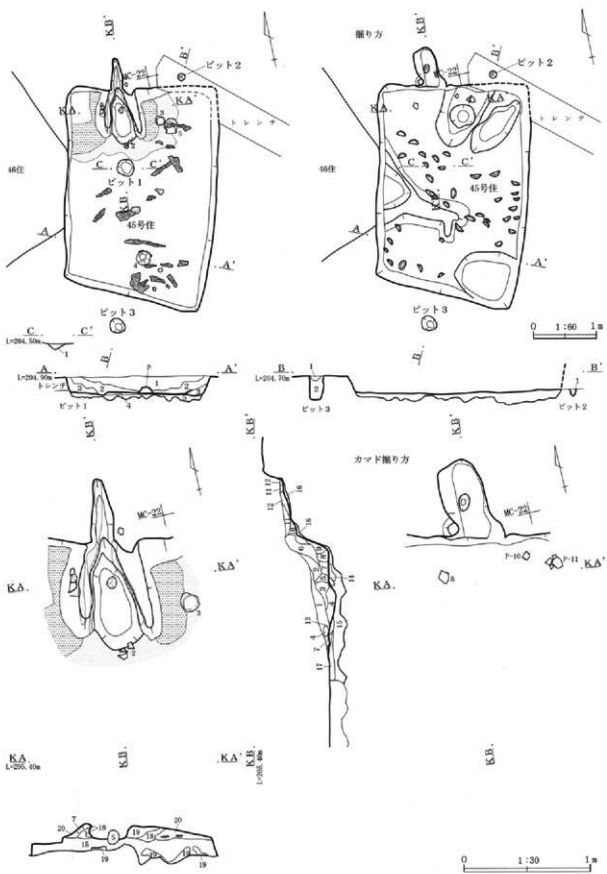
P2

- 1 黒色土 黄粘土塊多量、粘性有、軟質

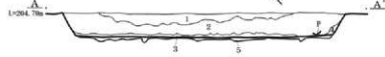
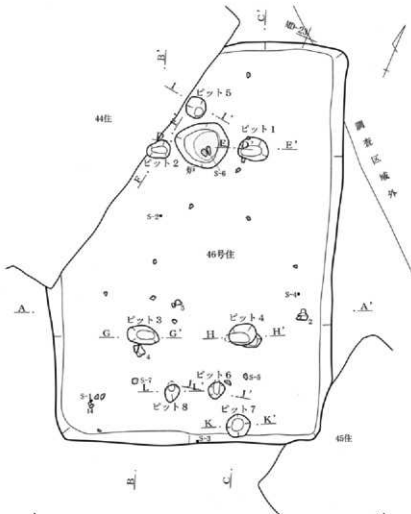
P3

- 1 黒色土 黄粘土塊多量、硬質
- 2 黒色土 黄粘土塊少量

III 検出された遺構と遺物

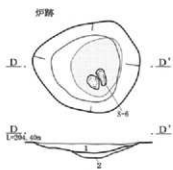


第155図 III区5面Hr-FA下黒色土45号住居跡・カマド



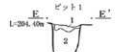
46号住居跡

- 1 黒色土 黄粘土塊・炭化物やや多く、黄褐色小粒石粒少量
- 2 黒色土 黄粘土塊多量、炭化物・黄褐色小粒石粒少量、やや硬質
- 3 黒色土 黄粘土塊・炭化物・黄褐色小粒石粒極少量、粘性有、硬質
- 4 黒褐色土 黄粘土塊多量、軟質
- 5 褐色土 黄粘土塊主体、黒色土塊多量、硬質(粘床)



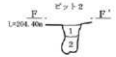
伊路

- 1 黒色土 焼土粒・褐色土少量、軟質
- 2 明赤褐色土 やや焼土化



P 1

- 1 黒褐色土 褐色土塊少量、やや軟質
- 2 褐色砂質土 暗褐色土・黒褐色土僅か、やや硬質



P 2 - 3

- 1 黒褐色土 褐色土やや多く、軟質
- 2 褐色土 黒褐色土多量、軟質



P 4 - 6

- 1 黒褐色土 褐色土塊少量、炭化物含、軟質
- 2 黒褐色土 褐色土塊多量、炭化物含、軟質



P 7

- 1 黒色土 単一的、軟質



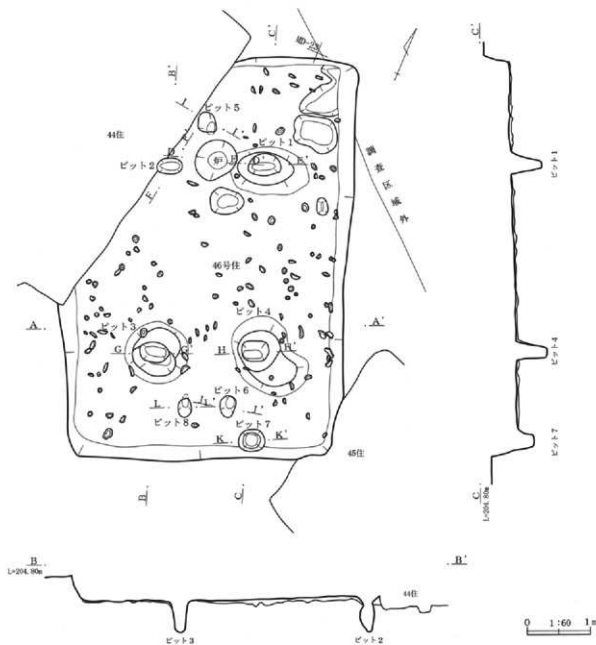
P 8

- 1 黒色土 褐色土微量
- 2 褐色土 黒色土僅か



第156図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土46号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第157図 Ⅲ区5画Hr-FA下黒色土46号住居跡掘り方

46号住居跡

位置 MD-21・22, MC-21・22 主軸方向 N20°W

重複 46号住居→44号住居, 46号住居→45号住居

規模 縦6.36m×横4.55m×深さ0.37m

形状 長方形

埋没土 黄褐色粘性土ブロック及び炭化物片を多く含む黒色土。床直上は粘性があり、硬くしまった黒色土。

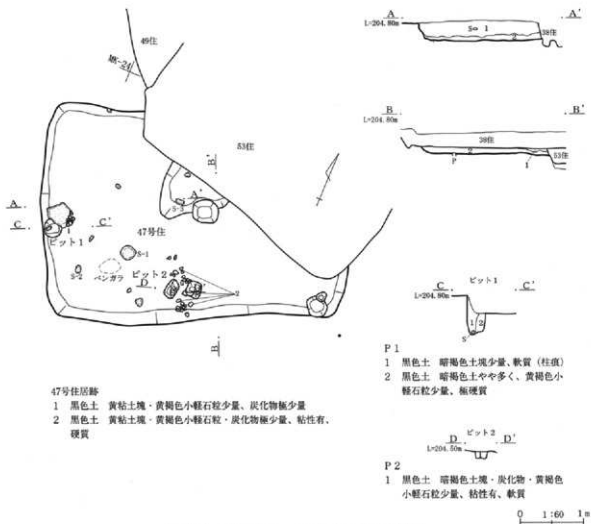
掘り方 床面より5cm前後下がりが、かなり凹凸を持

つ。底面には三日月形の鑿痕が 無数に検出された。床面 全体的に比較的良くしまっていたが、周辺部はややしまりが弱かった。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 主柱穴4本, 入口施設2本及び補助柱2本検出。p1長径49cm×短径36cm×深さ49cm, 東西に長い隅丸長方形, p2長径36cm×短径28cm×深さ34cm, 東西に長い隅丸長方形, p3長径52cm×短径30cm×深さ



第158図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土47号住居跡

50cm。東西に長い隅丸長方形。p4長径43cm×短径33cm×深さ50cm。東西に長い隅丸長方形、やや東側に傾斜する。p5長径23cm×短径22cm×深さ46cm。隅丸長方形。p6長径29cm×短径26cm×深さ45cm。南北に長い隅丸長方形。南側に傾斜する。p7長径38cm×短径35cm×深さ26cm。隅丸長方形。p8長径29cm×短径23cm×深さ44cm。南北に長い隅丸長方形。南側に傾斜する。

遺物出土状態 p4の東の壁寄りで弥生土器妻破片が、p3の南側で同妻破片が出土した。その他の土器類は分散して出土した。種類はp6の東側の2点を除き床面からやや浮いた状態のものが多かった。

遺存状態 比較的良好。北西部は44号住居に壊されていた。

炉 位置 北部p1とp2の中間。

規模 長径85cm×短径70cm×深さ7cm

形状 楕円形、浅い皿状。

埋没土 焼土粒子・炭化物片含む黒色土。

遺物出土状態 炉内南寄りで円礫2点出土。その他の土器片等の出土はなかった。

遺存状態 比較的良好。底面は赤く焼けていた。

47号住居跡

位置 MJ-23, MK-23, MI-23 主軸方向 N69°E

重複 47号住居→53号住居→38号住居

規模 縦4.82m×横3.45m×深さ0.30m

形状 長方形。

埋没土 黄褐色粘性土ブロック・黄褐色軽石粒子・炭化物片を少量含む黒色土。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

掘り方 53号住居との重複部分西側が若干凹む部分があるが、床下土坑等の遺構はない。

床面 明瞭な掘り方がない分床面は比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 西壁中央よりやや南寄りにp1、南壁中央にp2・3、南東コーナーにp4の4本検出。p1長径29cm×短径28cm×深さ36cm、底面隅丸長方形。p2長径38cm×短径18cm×深さ18cm、長方形。p3長径24cm×短径23cm×深さ7cm、正方形。p4長径35cm×短径30cm×深さ5cm、底面隅丸長方形。

遺物出土状態 p1の上には大形偏平角礫が置かれており、その東側で土器片が砕けた状態で出土した。南壁寄りのp2・3付近の床直上から多くの土器片が出土した。

遺存状態 不良。北東部を53号住居に壊されていた。それ以外の部分も地山の黒褐色土と判別が付きにくく、しまりの違いでプランを確認した。

炉 不明。住居中央部に長径40cm×短径35cm×深さ6cmの浅い皿状ピット有り。明確に焼けている部分はなかったが、可能性は完全には否定できない。

48号住居跡

位置 MK-21・22, MJ-21・22 **主軸方向** N21°E

重複 52号住居→48号住居→39号住居

規模 縦(3.24)m×横4.05m×深さ0.34m

形状 隅丸長方形?

埋没土 炭化物片及び黄褐色小軽石粒子を多量に含む黒色土。

掘り方 黄褐色粘性土ブロックを含む黒色土により埋められていた。全体から三日月形の歯痕が確認されたが、床下土坑等の遺構はなかった。

床面 39号住居と重複する部分は床面は残存していなかったが、残っていた西側部分は3~7cm程度の貼床があり硬くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 掘り方調査時に2本検出。p1長径29cm×短径27cm×深さ79cm、p2長径27cm×短径26cm×深さ48cm、黄褐色粘性土ブロックを極多量に含む黒色土により埋没。

遺物出土状態 床面よりやや浮いているものがあった。主要な遺物は39号住居の床下調査時に検出された。炭化材もやや浮いたものが多い。

遺存状態 不良。北東半は39号住居に壊され、南側は調査区外であり、全体のプランは確認できなかった。炭化材の出土が多く、火災住居と考えられる。

炉 不明。

48号住居跡

① 黒色土 黄褐色小軽石粒多量、炭化物少量、褐色土僅小

② 黒色土 黄褐色小軽石粒・炭化物多量、焼土塊

③ 黒色土 黄褐色小軽石粒・炭化物少量

④ 黒褐色土 炭化物少量、焼土塊

⑤ 黒色土 黄粘土塊・黄褐色小軽石粒・炭化物少量、硬質(貼床)

P1

1 褐色土 黄粘土塊・黒色土塊・炭化物少量、粘性有、硬質(39号住居床)

2 黒色土 黄粘土塊多量、炭化物少量

49号住居跡

位置 MK-24, MJ-24 **主軸方向** N37°W

重複 53号住居→49号住居→40号住居, 49号住居→38号住居・19号住居

規模 縦(4.65)m×横4.24m×深さ0.24m

形状 長方形?

埋没土 黄褐色小軽石粒子をやや多く含む黒色土。

掘り方 特に床下土坑等特別な遺構無し。

床面 比較的良くしまっていたが、貼床のような特別に硬化している部分はなかった。

貯蔵穴 不明。

周溝 幅10~15cm、深さ1~3cmで、東・北・西壁に巡る。西壁中央部にずれる部分有り。

柱穴 不明。

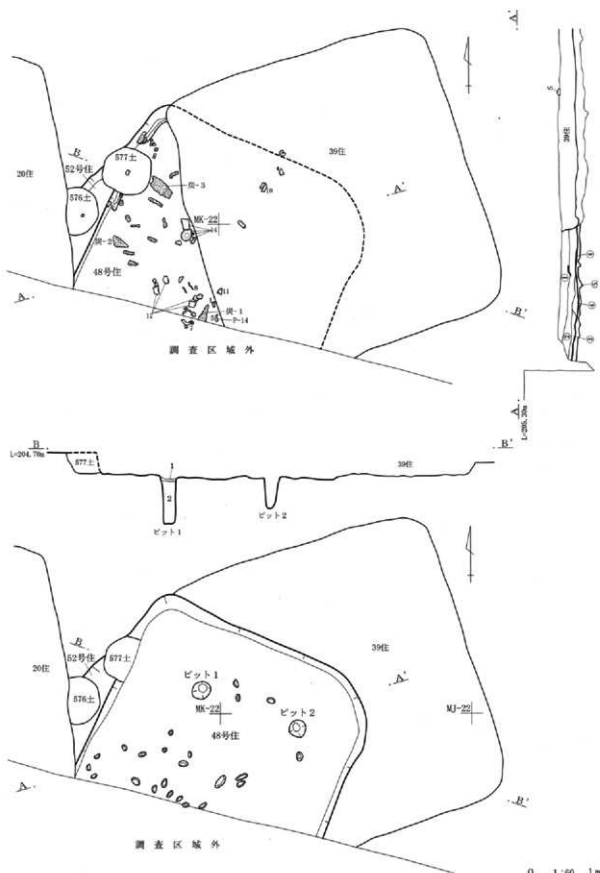
遺物出土状態 床面よりやや浮いた状態で、中央部分より出土した。

遺存状態 極めて不良。ほとんど他の住居跡に壊されていて、確認が非常に困難であった。

炉 不明。

49号住居跡

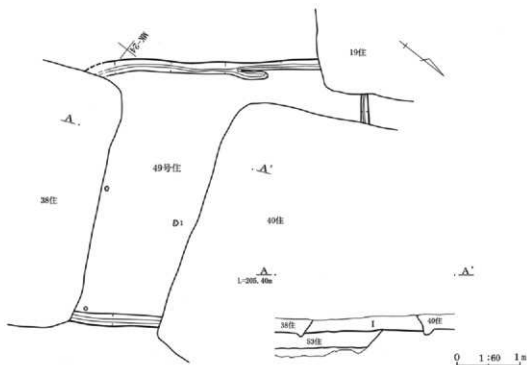
1 黒色土 黄褐色小軽石粒やや多く、やや硬質



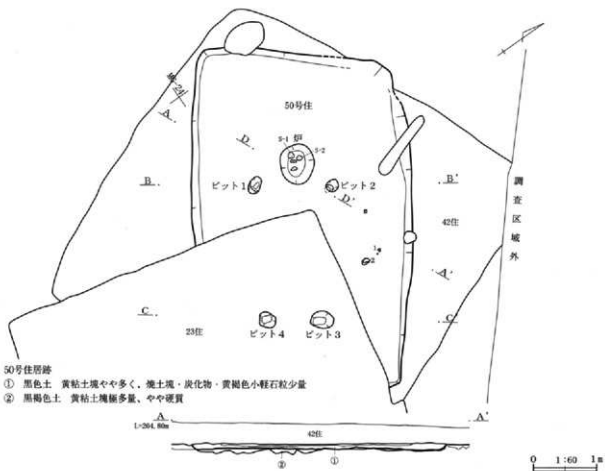
第159図 III区5面Hr-FA下黒色土48・52号住居跡

0 1:60 1m

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第160図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土49号住居跡



第161図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土50号住居跡

50号住居跡

位置 ME-24, MF-23・24, MG-24 主軸方向 N57°W

重複 50号住居→42号住居→23号住居

規模 縦(5.45)m×横3.51m×深さ0.10m

形状 長方形。

埋没土 黄褐色粘性土ブロックをやや多く含む黒色土。

掘り方 2～5cm程度床面よりも下がったが、特に床下土坑等はなかった。全体に三日月状形鋤痕無数検出。

床面 黄褐色粘性土ブロックを極多量に含む黒褐色土により貼床がなされており、硬くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 4本検出。23号住居掘り方で検出されたp3・p4も主柱穴と考えられる。いずれも深く、角張った掘り方を持つものが多かった。p1長径21cm×短径15cm×深さ82cm, 隅丸長方形。p2長径20cm×短径17cm×深さ80cm, 隅丸方形。p3長径35cm×短径28cm×深さ56cm, 隅丸長方形。p4長径26cm×短径24cm×深さ57cm, 隅丸方形。

遺物出土状態 東壁中央寄り、数点床直上から出土。全体的に遺物の出土は少なかった。

遺存状態 不良。上層に42号住居があり、立ち上がりは僅かに確認しただけであった。

炉 位置 中央よりやや北寄り。

規模 長径120cm×短径108cm×深さ4cm

形状 南北に長い楕円形。

埋没土 黄褐色粘性土ブロック及び焼土ブロックを多く含む黒褐色土。

遺物出土状態 北側に礫2点。その南から土器片2点が出土した。

遺存状態 比較的良好。非常に浅かったが、底面は焼けており、僅かに赤変していた。

51号住居跡

位置 MG-21・22, MH-21・22 主軸方向 N6°W

重複 51号住居→43号住居, 51号住居→18号住居

規模 縦(6.14)m×横(5.40)m×深さ0.25m

形状 長方形。

埋没土 上層は黄褐色粘性土ブロック・黄褐色小粒石粒子少量含む黒色土。直上には黄褐色粘性土ブロックを多量に含む黒色土有り。

掘り方 黄褐色粘性土ブロックと黒色土ブロックの混合土により埋められていた。床面より3～5cm程度下がったが、床下土坑等の遺構は無し。

床面 炉やp1, p2の周辺は2～3cm程高くなっていて、北西コーナー付近に粘性土有り。炉跡北側に低い周溝帯を有する長径93cm×短径82cm×深さ7cmの浅い凹み有り、比較的良くしまっていた。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

柱穴 主柱穴4本, 南側18号住居内に入口施設有り。p1長径73cm×短径53cm×深さ57cm, 隅丸長方形。p2長径81cm×短径68cm×深さ51cm, 隅丸長方形。p3長径65cm×短径43cm×深さ53cm, 隅丸長方形。p4長径38cm×短径27cm×深さ54cm, 隅丸長方形。p5長径43cm×短径24cm×深さ16cm, 隅丸長方形。p6長径43cm×短径28cm×深さ31cm, 隅丸長方形。

遺物出土状態 p1と炉跡の北側から大形甕が、西壁寄りから小形甕が、その他散在的に出土したが、いずれも床面直上のものが多かった。

遺存状態 北東部に43号住居に、南壁を18号住居に切られていた。しかし、18号住居内で主柱穴2本、入口施設柱穴2本が検出され、ほぼ全体を確認することができた。

炉 位置 中心よりやや北寄り、p1とp2の中間。

規模 長径58cm×短径47cm×深さ8cm

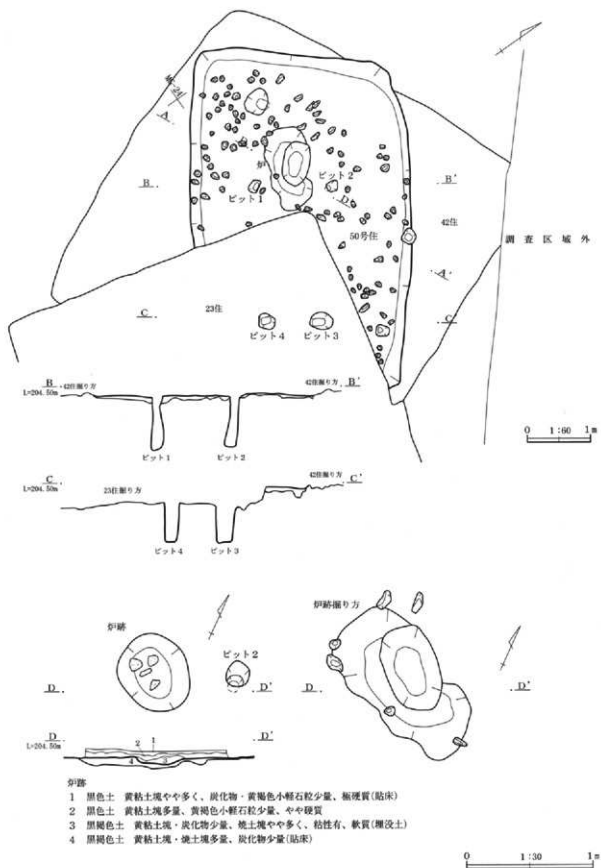
形状 楕円形。

埋没土 焼土粒子・炭化物片を多く含む黒褐色土。

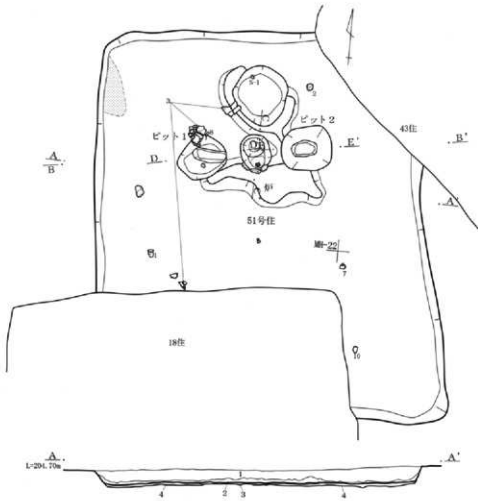
遺物出土状態 南側には礫3点、その手前に炭化物片有り。

遺存状態 比較的良好。南側の礫寄り部分は底面が

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第162図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土50号住居跡・炉跡



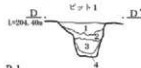
51号住居跡

- 1 黒色土 黄粘土塊・黄褐色小軽石粒少量
- 2 黒色土 黄粘土塊やや多く、黄褐色小軽石粒極少量、粘性有、硬質
- 3 褐色土 黄粘土塊主体、黒色土多量、極硬質(粘床)
- 4 黒色土 黄褐色小軽石粒少量、粘性有、硬質(床下埋土)



炉跡

- 1 黒褐色土 焼土粒少量、硬質
- 2 暗赤褐色土 焼土粒やや多く、炭化物片含、軟質
- 3 暗赤褐色土 焼土粒・炭化物多量、軟質
- 4 赤褐色土 焼土 地山 YP含暗褐色土

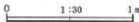


- P 1
- 1 黒色土 黄粘土塊少量、軟質
 - 2 黒褐色土 黄粘土塊多量、黒色土塊少量、粘性有
 - 3 褐色土 黄粘土塊主体、黒褐色土塊やや多く、粘性有、軟質
 - 4 黒褐色土 黄粘土塊少量、粘性有、極硬質



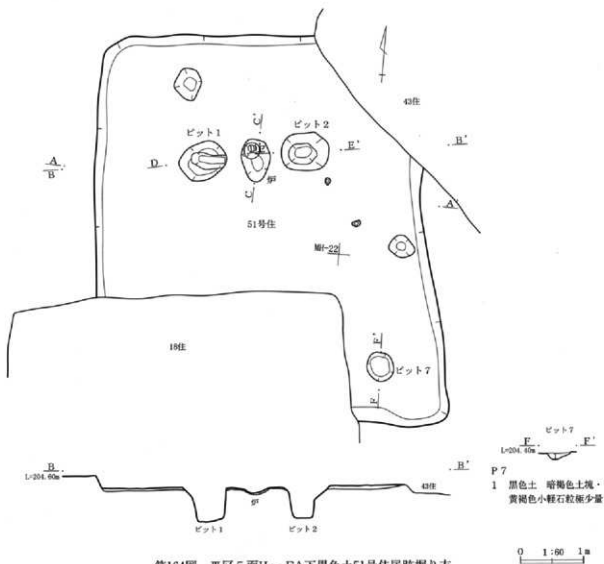
P 2

- 1 黒色土 黄粘土塊少量
- 2 黒色土 黄粘土塊多量、粘性有
- 3 褐色土 黄粘土塊主体、黒色土塊少量、粘性有、軟質
- 4 褐色土 黄粘土塊主体、黒色土塊少量、粘性有、極硬質



第163図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土51号住居跡・炉跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第164図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土51号住居跡掘り方

特に良く焼けていた。

53号住居跡

位置 MI-23・24, MJ-23・24・00 主軸方向 N10°E

重複 49号住居→53号住居→40号住居, 47号住居→
53号住居→38号住居

規模 縦(5.50)m×横4.45m×深さ0.20m

形状 長方形。

埋没土 上層に炭化物片を少量, 下層には炭化物片
を多く含む黒色土。上層はしまりは弱く, 下層はや
やしまりは良く粘性がある。

掘り方 床面より10~15cm程下がる部分もあった。
東側にはあまり下らない部分もあった。底面には

無数の鏽跡が残っていた。

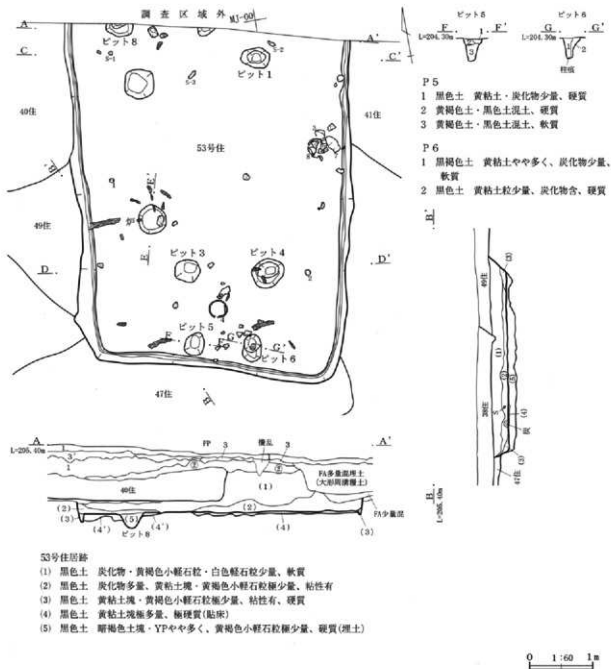
床面 ほぼ全面貼床がなされており, 非常に硬くし
まっていた。

貯蔵穴 不明。調査区外か。

周溝 幅5~10cm, 深さ2~5cmで, ほぼ全周する
ものと考えられる。

柱穴 主柱穴4本と入口施設2本, その他2本検出。

p1長径44cm×短径33cm×深さ60cm, 東西に長い隅丸
長方形。p2長径60cm×短径35cm×深さ46cm, 東西に
長い隅丸長方形。p3長径40cm×短径35cm×深さ48cm,
隅丸方形。p4長径51cm×短径45cm×深さ48cm, 東西
に長い隅丸長方形。p5長径35cm×短径31cm×深さ35
cm, 南北に長い隅丸長方形。p6長径43cm×短径28cm



第165図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土53号住居跡

×深さ33cm, 南北に長い隅丸長方形。p7長径47cm×短径45cm×深さ16cm, 隅丸方形。p8長径43cm×短径(21)cm×深さ(23)cm, 東西に長い隅丸長方形。

遺物出土状態 全体から炭化材出土。東壁中央よりやや北寄りて無文の甕頸がまともって、南中央で甕体部及び破片多数出土。床面直上からの出土品が多い。

遺存状態 比較的良好。北壁は調査区外、未検出。

炉位置 中央よりやや西壁寄り。

規模 長径47cm×短径44cm×深さ5cm

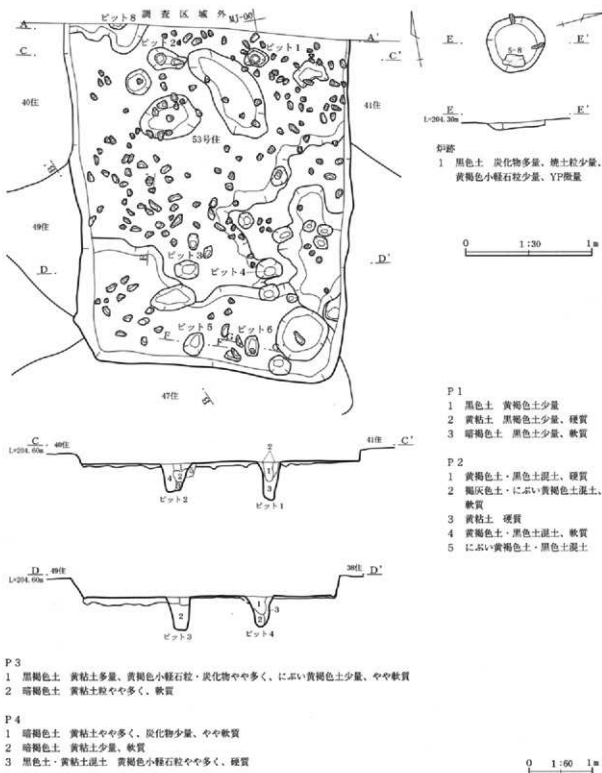
形状 ほぼ円形。浅い皿状。

埋没土 炭化物片多量。焼土粒子少量含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。底面は赤く焼けてはいなかった。

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第166図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土53号住居跡掘り方・炉跡

1号炉跡

位置 MK-23 主軸方向 N55°W

重複 無し。

規模 長径198cm×短径142cm×深さ6cm

形状 楕円形。際固い部分はほぼ円形。

埋没土 焼土粒・ブロックを多く含む黒褐色土。下層には約5cm程灰が堆積していた。

掘り方 礫をはずした下が約5cm程度凹む。鋤痕有り。

底面 緩やかに凹み、よく焼けている。

遺物出土状態 石組みの手前の南東部前に多量の遺物が分布していた。ほぼ完形の坏類と燧石片が出土した。

遺存状態 良好。石組みの状態や焼け具合、灰の堆積状況などから屋外のカマドと考えられる。石組みの北西側にも焼土・灰が分布し、下も凹むので、北西側にあったものを南東側に移動したのと考えられる。

564号土坑

位置 MK-22・23, ML-22・23 主軸方向 N87°E

重複 無し。

規模 長径4.50m×短径3.50m×深さ0.30m

形状 南辺が長い台形に近い隅丸方形。

埋没土 焼土粒子・ブロックを含む黒褐色～褐色土。

底面 浅い皿状。グラグラと凹み凹凸を持つ。

遺物出土状態 大形品や完形品はなく、破片が全体に多量に分布していた。

遺存状態 不良。灰や焼土とともに廃棄又は散布したのと考えられるような状況であった。

565号土坑

位置 ML-22, MM-22 主軸方向 N55°E

重複 無し。

規模 長径76cm×短径62cm×深さ10cm

形状 楕円形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子を多く含む黒色土。

底面 浅い皿状に凹む。凹凸はなく、比較的平坦。遺物出土状態 甕2個体以上がまとまって潰れた状態で出土。底面より5cm前後浮いているものが多かった。掘り方の南西側にずれている破片が3点ほどあったが、後で動いたものと思われる。

遺存状態 掘り方は浅かったが、比較的良好。坑の規模、遺物の出土状況などから墓坑と考えられる。

566号土坑

位置 MJ-24 主軸方向 N9°W

重複 49号住居→40号住居→566号土坑

規模 長径115cm×短径70cm×深さ10cm

形状 楕円形。

埋没土 黄褐色小軽石粒子・焼土ブロック及び粒子を多く含む黒色～黒褐色土。

底面 全体に浅いが、中央よりもやや西側が凹む。

遺物出土状態 土器小破片が全体から出土。完形品や、まとまりはない。

遺存状態 不良。下の住居群に後出するもの。底面は赤く焼けていなかったもので、焼土・灰を坑を掘って埋めたものではないかと考えられる。

618号土坑

位置 MD-23, ME-23 主軸方向 N18°E

重複 618号土坑→23号住居

規模 長径105cm×短径101cm×深さ22cm

形状 楕円形。

埋没土 黄褐色軽石粒を含む黒色土、しまりは良い。

底面 浅い鍋底状、底面は平坦。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 西端が僅かに23号住居にかかるが、比較的良好。

620号土坑

位置 MG-23, MH-23 主軸方向 N60°E

重複 無し。

規模 長径92cm×短径81cm×深さ18cm

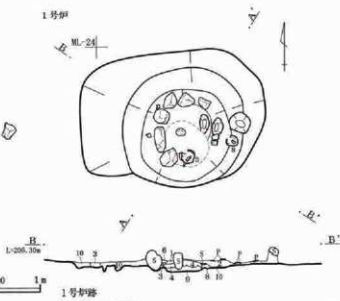
形状 楕円形。

Ⅲ 検出された遺情と遺物

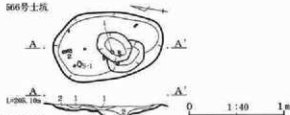
1号炉遺物分布状況



1号炉



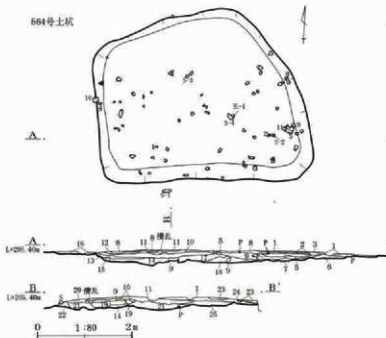
566号土坑



565号土坑

- 1 黒色土 黄褐色小軽石粒少量、焼土少量、軟質
- 2 黒褐色土 黄褐色小軽石粒・焼土多量、黄粘土混含、やや軟質
- 3 黒褐色土 黄褐色小軽石粒・焼土少量、やや硬質

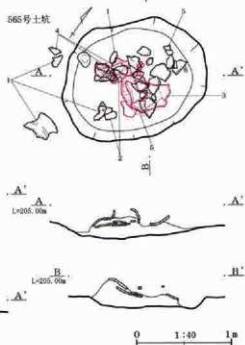
564号土坑



1号炉跡

- 1 黒色土 軟質
- 2 黒褐色土 焼土粒少量、黒色土粒少量、軟質
- 3 明赤褐色土 焼土塊
- 4 明褐色土 灰層 焼土粒やや多く、やや軟質
- 5 黒褐色土 灰白色粘土粒・焼土粒少量
- 6 灰白色粘土 構築材
- 7 赤褐色土・黒褐色土混土 灰多量、やや軟質
- 8 明赤褐色土 焼土化(底面)
- 9 橙色土 焼土 径10mm-15mm
- 10 黒褐色土 灰多量、焼土やや多く、炭化物少量、やや軟質
- 11 黒褐色土 焼土粒少量、やや硬質
- 12 黒色土 単一の、軟質

565号土坑



第167图 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土1号炉跡・564~566号土坑

埋没土 褐色土ブロックをやや多く含む黒褐色土。

底面 やや凹凸有り。西側が深い。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 やや良好。

621号土坑

位置 MF-22 主軸方向 N1°E

重複 無し。

規模 長径88cm×短径84cm×深さ16cm

形状 ほぼ円形。

埋没土 褐色土ブロックを多く含む黒褐色土。

底面 浅い皿状、中心が最も凹む。

遺物出土状態 埋没土中より縄文前期土器片出土。

遺存状態 不良。比較的浅い。

622号土坑

位置 MF-21 主軸方向 N12°W

重複 無し。

規模 長径93cm×短径90cm×深さ28cm

形状 ほぼ円形。

埋没土 褐色土ブロックを少量含む黒色土、底部近くは褐色土ブロックをやや多く含む、粘性がある。

底面 比較的平坦。浅い鍋底状。

遺物出土状態 上層より縄文前期土器片出土。

遺存状態 やや良好。

623号土坑

位置 MG-24 主軸方向 N1°E

重複 623号土坑→42号住居

規模 長径133cm×短径130cm×深さ46cm

形状 ほぼ円形。断面袋状。

埋没土 中心は黄褐色軽石粒を含む黒色土。周辺部は暗褐色土ブロック・黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色土。

底面 比較的平坦。上場より外側に張り出す。

遺物出土状態 底面から5cm程度のところから縄文前期土器片出土。

遺存状態 不良。東側は42号住居に壊され、底面の

み確認。

624号土坑

位置 MC・MD-20 主軸方向 N82°E

重複 無し。

規模 長径222cm×短径114cm×深さ66cm

形状 東西に長い楕円形。底面に3基小ピット。

埋没土 黄褐色軽石粒を少量含む黒色土、底面上層は黄褐色砂質土粒を少量含む。内部小ピットは褐色土ブロックを少量含む黒褐色土。

底面 比較的平坦。φ20cm×深さ20～30cmの小ピット3基有り。

遺物出土状態 埋没土中より縄文前期土器片出土。

遺存状態 良好。底面に3基の小ピットも検出され、陥穴と考えられる。

625号土坑

位置 MF-22 主軸方向 N10°E

重複 無し。

規模 長径127cm×短径123cm×深さ57cm

形状 ほぼ円形。断面袋状。

埋没土 黄褐色軽石粒少量含む黒色土。周辺部は黄褐色砂質土ブロック含む。

底面 平坦。上場よりも外側に張り出す部分がほとんどである。

遺物出土状態 底面より10cm程のところから縄文前期土器片出土。

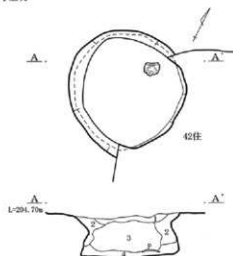
遺存状態 重複もなく良好。

Ⅲ 検出された遺構と遺物

564号土坑

- 1 黒色土 炭化物多量、焼土粒少量
- 2 黒色土 焼土・灰・炭化物片多量
- 3 にぶい黄褐色土 FA多量、軟質
- 4 黒褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 5 黒褐色土 焼土粒・炭化物・褐色土少量
- 6 黒褐色土 4よりやや暗い
- 7 黒褐色土 焼土粒やや多く、褐色土含
- 8 黒褐色土 焼土粒・炭化物多量、鉄分含
- 9 黒褐色土 焼土粒極多量、褐色土多量
- 10 褐色土 焼土・黒褐色土混土、極軟質
- 11 黒褐色土 焼土多量、硬質
- 12 黒色土 炭化物・焼土粒・褐色土粒少量
- 13 黒褐色土 褐色土多量、焼土粒少量
- 14 黒褐色土 褐色土やや多く、焼土粒少量
- 15 黒褐色土 14より暗い
- 16 黒褐色土 褐色土多量、焼土粒微量
- 17 黒褐色土 黄褐色小軽石粒多量、焼土粒・褐色土少量
- 18 黒色土 黄褐色小軽石粒やや多く、褐色土少量
- 19 黒褐色土 褐色土多量、焼土・炭化物少量
- 20 黒色土 褐色土少量、焼土粒微量
- 21 黒色土 黄褐色小軽石粒多量
- 22 黒色土 褐色土・焼土粒含まず単一の
- 23 黒色土 単一の
- 24 黒褐色土 鉄分多量
- 25 黒褐色土 褐色土粒やや多く、焼土粒・炭化物少量

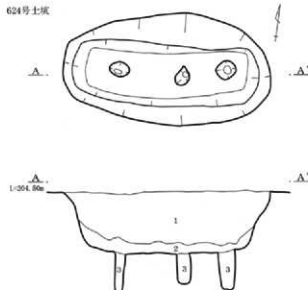
623号土坑



623号土坑

- 1 黒色土 暗褐色土・炭化物・黄褐色小軽石粒少量、硬質
- 2 暗褐色土 黒色土やや多く、炭化物・黄褐色小軽石粒極少量、硬質
- 3 黒色土 YP・炭化物少量、硬質
- 4 黒褐色土 暗褐色土・黄褐色砂質土塊やや多く、やや粘性有、硬質

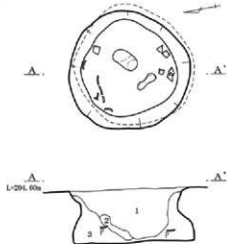
624号土坑



624号土坑

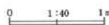
- 1 黒色土 YP・炭化物少量、硬質
- 2 黒色土 黄褐色砂質土粒少量
- 3 黒褐色土 褐色土少量、粘性有

625号土坑



625号土坑

- 1 黒色土 YP・炭化物少量、硬質
- 2 黒色土 褐色土少量
- 3 黒色土 黄褐色砂質土塊少量



第168図 Ⅲ区5面Hr-FA下黒色土:623~625号土坑

IV区で検出された遺構

IV区は本遺跡の本調査区の中でも最も広く確認が果たされた調査区である。I～III区は、路線幅に伴い線状の調査区となったが、IV区は村道1号線との交差箇所のため路線幅が広く、そのため遺構の確認も巨視的な視点で把握することができた。

また、北側に付設する村道部分は幅状で遺構の全容は把握できなかった例が多いが、例えば、FP上面においても、土坑が群在する傾向を示しており、IV区東側とは遺構の密度が濃くなる様相を示す。IV区北側の平坦地形にあるいは、FP上面における集落跡や施設群の存在が予想されよう。

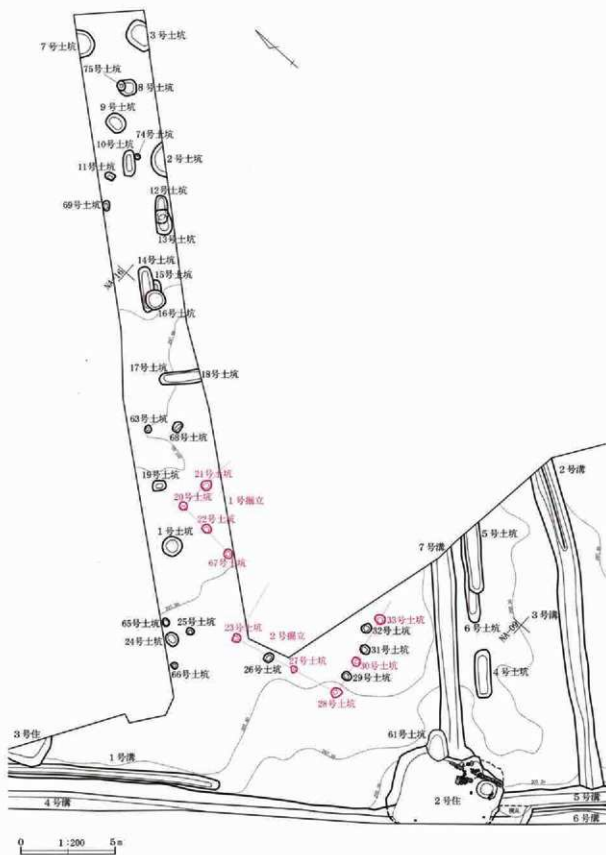
本調査区の南西には、平成13年度に調査が終了した吹屋靴屋遺跡I区が村道1号線を挟んで位置する。吹屋靴屋遺跡の調査でも、FP上面・下面、FA下面、FA下黒色土中において遺構が検出されており、本遺跡IV区で調査された各遺構の延長と見ることができよう。特にFP下水田跡や大溝の存在は、本調査区西側で得られた水田跡や9号溝の延長として捉えられよう。

尚、吹屋靴屋遺跡におけるFP上面の遺構は、4軒の竪穴住居跡以外に極めて遺構密度が希薄である。IV区FP上面の遺構数も少ないが、北西部にやや集中する傾向もあり、9世紀においては小規模な集落単位が予想されよう。



第169図 IV区1面Hr-FP上遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第170图 IV区1面Hr-FP上遺構配置図村道部分

第1面F P上

1号住居跡

位置 MT-5・6, MU-5・6 主軸方向 N102°E

重複 無し。

規模 縦3.14m×横4.55m×深さ0.25m

形状 隅丸長方形。

埋没土 F Pを多量に含む黒色土。

掘り方 無し。

床面 明確な貼床無し。中央部はやや汚れた感じのF P。南東コーナーに焼土・炭化物が長径130cm×短径120cmの範囲に分布。

貯蔵穴 無し。

周溝 幅10～15cm, 深さ1～5cmで、南東コーナーを除きほぼ全周する。

柱穴 不明。中央部より東壁寄りに長径29cm×短径25cm×深さ15cmのp1有り。

遺物出土状態 南東コーナー焼土・炭化物分布範囲内で羽釜破片出土。

遺存状態 不良。比較的浅く、耕作のサクにより削平されていた。

カマド 不明。南東コーナーの可能性はあるが、住居外に延びる煙道や袖は確認できなかった。

2号住居跡

位置 NB-7・8, NC-7・8, ND-8 主軸方向 N73°E

重複 2号住居→19号土坑, 4・5・6号溝

規模 縦4.25m×横5.80m×深さ0.24m

形状 隅丸長方形。

埋没土 F Pを多量に含む黒色～黒褐色土。下層はF P量が特に多い。

掘り方 5～10cm程床面より下がる。南半は炭化物を少量含む若干粘性の有る黒褐色土により埋められていた。

床面 南半は貼床がなされており、硬化していた。

貯蔵穴 南東部。長径105cm×短径92cm×深さ5cm, 非常に浅い凹み。

周溝 無し。

柱穴 2本検出。p1長径42cm×短径40cm×深さ63cm, 底面隅丸長方形。p2長径34cm×短径25cm×深さ44cm, 隅丸長方形。

遺物出土状態 カマド右前貯蔵穴周辺より土師器甕破片出土。

遺存状態 不良。多くの溝に切られており、確認が困難であった。

カマド 位置 東壁中央よりやや南寄り。

規模 全長100cm 最大幅91cm 焚き口幅50cm

袖 礎が使用されていたものと思われるが、崩されていた。

煙道 住居壁を切り込んで、約40cm程外へ延びる。

埋没土 F Pを多く、焼土ブロックをやや多く含む暗褐色土。

遺物出土状態 カマド構築材の礎や切石が多数出土したが、土器片は小破片が出土したのみであり、その量も少なかった。

遺存状態 カマド両脇の壁は礎と粘土により崩落防止が計られていた。カマドにも多くのF P礎や凝灰岩の切石が使用されていた。掘り方には赤変した粘性土が貼られていた。

3号住居跡

位置 NF-12・13 主軸方向 N83°E

重複 無し。

規模 縦(1.75)m×横(2.15)m×深さ0.70m

形状 方形?

埋没土 F Pを極めて多量に含む黒色土。

掘り方 平面とほとんど変わらない。東側は5cm程床面より下がる部分有り。

床面 比較的平坦。東側で一部貼床検出。

貯蔵穴 不明。

周溝 無し。

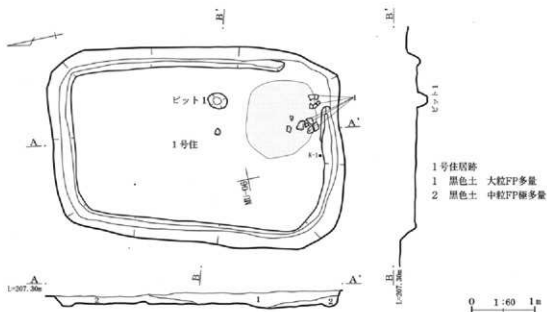
柱穴 不明。

遺物出土状態 無し。

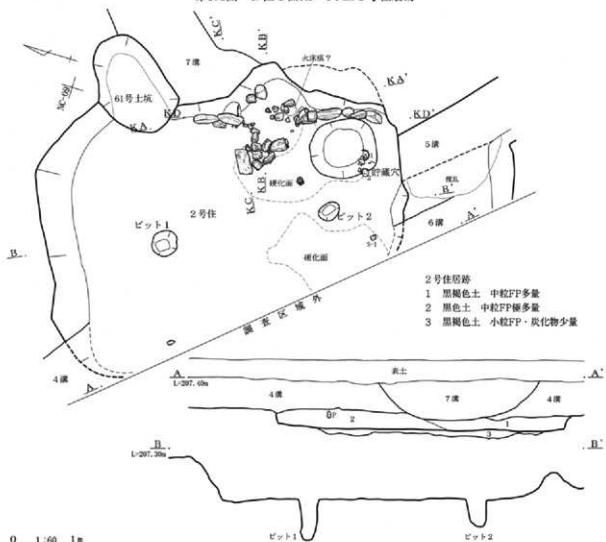
遺存状態 不良。南西コーナーのみ検出、ほとんどが調査区外。

カマド 不明。

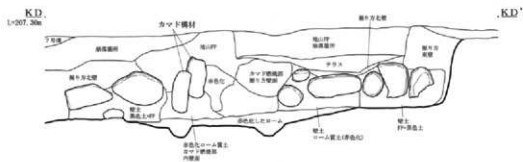
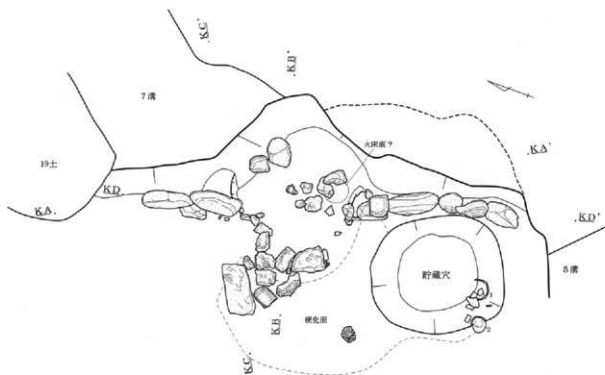
III 検出された遺構と遺物



第171図 IV区1面Hr-FP上1号住居跡



第172図 IV区1面Hr-FP上2号住居跡



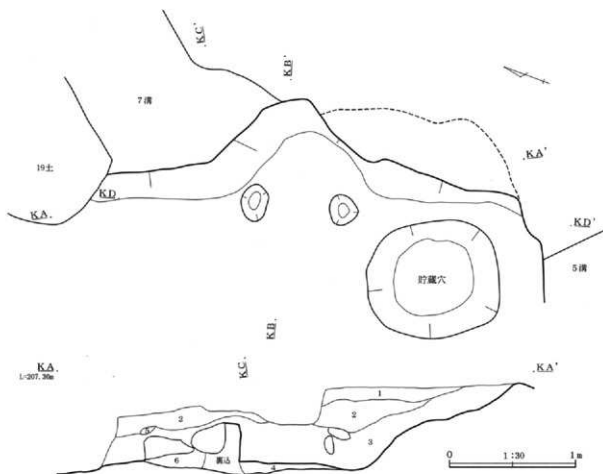
2号住居跡カマド

- 1 黒褐色土 中粒FP多量
- 2 暗褐色土 中粒FP多量、焼土塊少量
- 3 暗褐色土 中粒FP・焼土塊やや多く含
- 4 暗褐色土 焼土塊多量、中粒FPやや多く含
- 5 褐色土 やや粘性有、軟質
- 6 黒色土 中粒FP多量

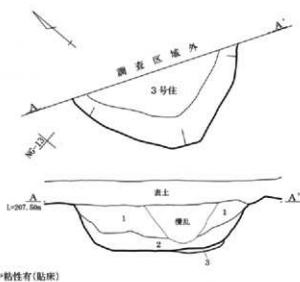
0 1:30 1m

第173図 IV区1面Hr-FP上2号住居跡カマド

III 検出された遺構と遺物



第174図 IV区1面Hr-FP上2号住居跡カマド振り方



3号住居跡

- 1 大粒FP主体 黒褐色土粒含
- 2 黒色土 中粒FP極多量
- 3 暗褐色土 小粒FP多量、やや粘性有(粘床)

第175図 IV区1面Hr-FP上3号住居跡

1号掘立柱建物跡

位置 NB-12・13 主軸方向 N5°E

重複 無し。

規模 2間(3.40m)以上×2間(2.70m)以上

形状 方形もしくは長方形。

柱穴埋没土 FPを多く含む黒褐～暗褐色土。

柱穴掘り方 底部がやや丸味を持つ楕円形。一部底面隅丸方形のもの有り。

柱穴 p1長径53cm×短径40cm×深さ40cm, 楕円形。p2長径43cm×短径33cm×深さ43cm, 楕円形。p3長径43cm×短径37cm×深さ47cm, 楕円形。p4長径37cm×短径36cm×深さ43cm, 隅丸方形。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。南西部検出, ほとんどが調査区外。

2号掘立柱建物跡

位置 NB-10, NC-10・11 主軸方向 N11°W

重複 無し。

規模 3間(6.00m)×3間(4.50m)

形状 南北に長い長方形。

柱穴埋没土 FPを多量に含む黒褐～暗褐色土。

柱穴掘り方 方形もしくは隅丸長方形, 底面は丸底。

柱穴 p1長径45cm×短径43cm×深さ36cm, 隅丸方形。p2長径50cm×短径44cm×深さ32cm, 隅丸長方形。p3長径31cm×短径28cm×深さ15cm, 隅丸方形。p4長径60cm×短径35cm×深さ39cm, 隅丸長方形。p5長径43cm×短径39cm×深さ41cm, 隅丸方形。p6長径46cm×短径39cm×深さ36cm, 隅丸方形。p7長径48cm×短径48cm×深さ45cm, 隅丸方形。p8長径53cm×短径45cm×深さ48cm, 隅丸方形。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。西列と南列を検出, 北列・東列は調査区外。南列は間隔が非常に狭く, 中間の3本は多少時期差があるものかもしれない。西列p3は浅い。

3号掘立柱建物跡

位置 MQ-0・1, MR-0・1 主軸方向 N75°E

重複 無し。

規模 2間(4.00m)×2間(3.20m), 南側のみ3間
形状 東西に長い長方形, 西列中央が張り出す。

柱穴埋没土 FPを多量に含む黒褐～暗褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形のものが多い。p6は隅丸方形。

柱穴 p1長径50cm×短径46cm×深さ49cm, 円形。p2長径43cm×短径42cm×深さ47cm, 円形。p3長径51cm×短径48cm×深さ48cm, 円形。p4長径56cm×短径46cm×深さ48cm, 楕円形。p5長径73cm×短径58cm×深さ47cm, 楕円形。p6長径58cm×短径57cm×深さ37cm, 隅丸方形。p7長径77cm×短径67cm×深さ45cm, 楕円形。p8長径47cm×短径43cm×深さ36cm, 円形。p9長径47cm×短径40cm×深さ49cm, 楕円形。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好。全体検出。南列中央が入口と考えられる。

41号土坑

位置 MW-2・3 主軸方向 N2°W

重複 41号土坑→40号土坑

規模 長径(120)cm×短径110cm×深さ48cm

形状 楕円形, 底面隅丸長方形。

埋没土 FPを多量に含む黒褐～暗褐色土。

掘り方 横断面丸底。

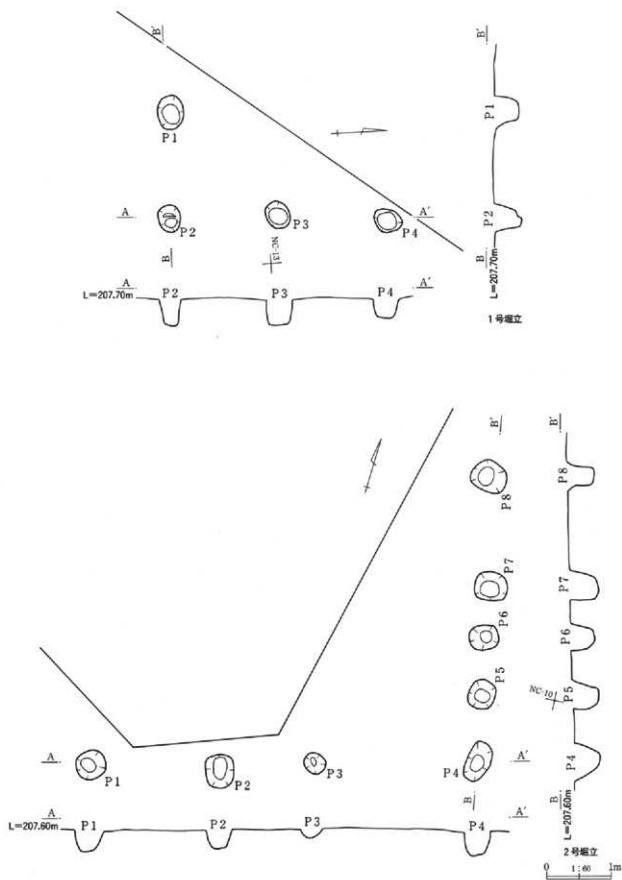
遺物出土状態 底面近くから銅を再利用した刀子及び多くの角釘出土。「九」の墨書のある須恵器坏出土。

遺存状態 南側を40号土坑に切られており, およそ1/2残存。人骨の出土はなかったが, 土坑の形態や遺物の出土状況から墓坑と考えられる。

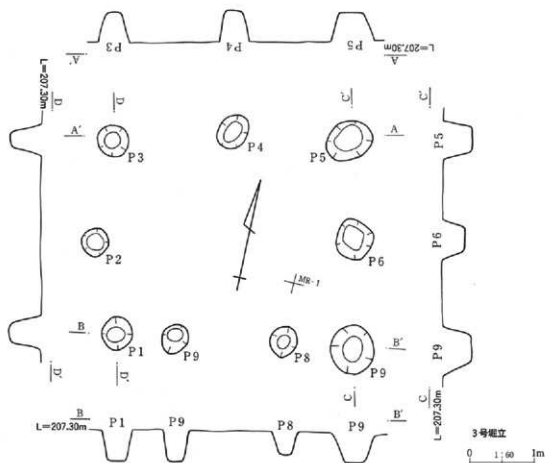
その他土坑群及び溝等

北西の村道部分にその他の円形, 長方形土坑が多く検出された。7号溝よりも東側では長方形の土坑が多かった。特に南西側の現道脇に集中する傾向が見受けられた。平安時代の墓坑と考えられる41号土坑を除き北東→南西走向を示すものが多い。溝も同様に北東→南西走向を示すものが多く, 南西側の現道に沿うように走向するものと, それに直交するも

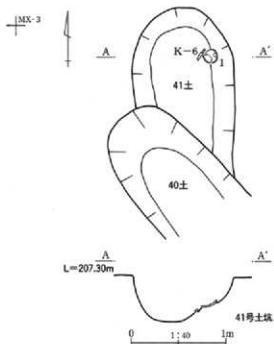
Ⅲ 検出された遺構と遺物



第176図 N区1面FP上1・2号掘立柱建物跡



のがあり、何らかの区画をするものと考えられる。平安時代の遺構を切っているものもあり、時代的にはそれ以降、現代以前と考えられる。



第177図 IV区1面Hr-FP上3号据立柱建物跡、40・41号土坑

Ⅲ 検出された遺構と遺物

第2面F P下

水田・落ち込み・道路等

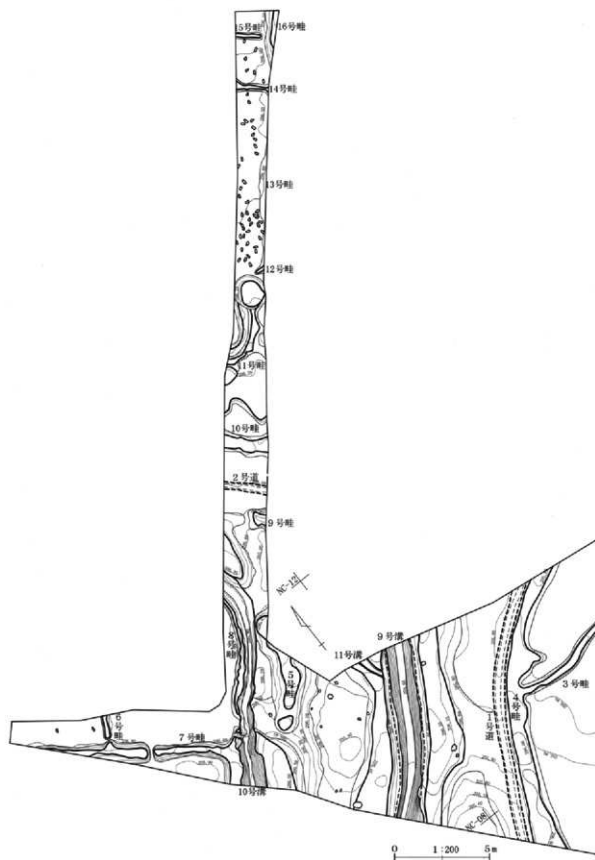
F P下水田 IV区北西側の平坦地部分、吹屋籠屋遺跡寄りて検出された。9号溝が吹屋籠屋遺跡に続くF P下水田の東限と考えられる。IV区は基本的には大区画水田であり、I区・II区で検出されたものどかなり違った様相を呈する。大きな区画では、最低でも7.3m×6.3m以上、12と19号畦の間に10mもの間に区切りの畦が1つもない部分もあった。地形の傾斜の関係か、明瞭な小区画は検出できなかったが、唯一村道部最北部15・16・19号畦に区画される部分だけは小区画になる可能性がある。

畦畔は縦畦・横畦からなる。南北東西の畦とともに、10号溝以西の7号畦は幅50cm以上、高さも30cm以上、5号畦のように幅1m、高さ50cm以上もあるものもあった。特に10号溝部分は底をさらった土を返しているの、高く盛り上がっていた。畦脇はいずれも凹凸を有するもの、I区・II区ほど明確ではなかった。また、水田面にはやや大形のF Pが1/2～1/3程度喰い込んでいるものもあった。南北の走向方向を持つ、6号畦は7号畦と8号畦で区画される大区画内部を区画する畦であり、南側に水口が設定されていた。東西に走向する7号畦では、中央よりやや西寄りに水口があった。また、大畦の8号畦では南側に開いている部分があり、10号溝に排水できるようになっていた。北端の小畦の15号畦では東側16号畦に水口があり、11号畦・12号畦部分でも同様に東側が開いている。足跡は北部11・12号畦と15号畦の間で多く検出された。

畦の工具痕の状況、水口が開いていること、足跡



第178図 IV区2面Hr-FP下遺構配置図



第179图 IV区2面Hr-PP下遺構配置図村道部分

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第180図 IV区2面Hr-FP下1号道路状遺構・9号溝



第181图 IV区2面Hr-FP下遺構配置図東部分

Ⅲ 検出された遺構と遺物

の明瞭さ、F Pの田面への喰い込みなどを総合すると、水田には水が掛けられていたことが推定される。その方向は基本的に北→南、西→東と考えられる。

注目すべきものとして、9号畦北脇から小形甕と馬の歯列が検出された。甕は転がってきたようにあったものであるが、歯はやや脇に喰い込み形で検出された。比較的若い個体であり、2個体以上あるものと考えられる。水田の祭祀と何らかの関係がある可能性も否定できない。

溝 9号溝は掘削時は「V」字状であったと思われるが、水が流れたため両脇が鉄れオーバーハングしていた。中にはF Pが厚く堆積していた。溝の両脇は溝を掘った土で盛り上がっていた。F Pを取り除いた底面は比較的平坦であった。掘り方はF P下よりも若干下がったが、砂混じりの粘性土中より多くの土器片が出土した。この溝までで水田は終了し、その東側には水田は連続しない。掘り方も深くしっかりしており、この場所の土地を区画するような大規模なものと考えられる。それに対し、10号溝は水田脇に沿うように配置されており、8号畦の切れ目から排水するための排水溝の機能を持つものと考えられる。

落ち込み 1号落ち込みは同区東寄りで見出された。馬蹄形を呈するものであり、その下では2号平地式建物跡が確認された。2号落ち込みは西側に張り出す柄杓形を呈し、窪みの周りには細い踏み跡が検出された。周りの道の内脇では、軟質の耕起した土塊群が確認された。東側には3号道路状遺構が続く。3号畦と2号落ち込みの間では細かい凹凸が多数検出された部分があり、土を起した土塊群と考えられる。2号落ち込みの下では4号住居跡が確認された。南側では3号落ち込みが検出されたが、下からは5号住居跡が確認された。その北側の4号落ち込みの下から6号住居跡が、5号落ち込みの下から7号住居跡が検出された。いずれの落ち込みもその周りに比べると軟質であり、足跡等も検出できた。3号落ち込みの東側には2号畦があったが、その手前で足跡はなくなっていた。

道路状遺構 4ヶ所で見出された。それ以外にも2

号落ち込みの周りに踏み跡が検出された部分もあった。1号道路状遺構は4号畦の西側で幅約1mで北東→南西方向でやや西側にはらみながら走向する。底面は茶褐色を呈し、周りに比べるとかなり硬質になっていた。断面は極く浅い皿状を呈する。比較的長い間使用された可能性があるものであった。2号道路状遺構は9号畦と10号畦の間で見出されたものであり、浅い溝状を呈し、底面は茶褐色で硬化していた。10号畦に平行するものであった。水道の可能性も否定できないが、1号道路状遺構に直交する可能性もある。3号道路状遺構は2号落ち込みの東側に僅かに認められたものであり、4号道路状遺構も5号落ち込みの南西コーナーから僅かに検出されたものであった。

1号高まり 南北約3m×東西約2mの範囲で5号落ち込みの南側、4号掘立柱建物跡の東側で見出されたが、礫や土器等が出土しており、祭祀跡の可能性もあるが、耕作の際周りをものを集めた可能性も否定できない。

1号焼土遺構 IV区東端に近い部分で南北約5m×東西約3.5mの範囲で見出されたが、焼土粒子及び炭化物粒が分布していた。その下からは3号平地式建物跡が確認された。

掘立柱建物跡 4・5・6の3棟の掘立柱建物跡の柱痕のみが見出された。6号掘立柱建物跡を南壁で確認したところ、黒く変色している部分はなく、上屋はなかったことが伺える。柱痕の中にはF Pが落ち込んでおり、F P降下時にはまだ柱の一部が残っていた可能性がある。その後柱がなくなった空間に落ち込んだものと考えられた。掘り込みは3面F A上からのものであり、詳細については、再度解説したい。

以上のようにIV区F P下では西側で水田の東限が、中央部分では落ち込みと畦に囲まれた耕起部分が、東側では畦で囲まれた掘立柱建物跡を中心とする集落部分が検出された。Ⅲ区に比べやや複雑な様相を呈するものであった。

第3面FA上

畠・垣跡・平地式建物跡・サイロ状遺構・掘立柱建物跡

3面FA上では、畠・垣跡・平地式建物跡・サイロ状遺構・掘立柱建物跡が検出された。畠はいずれも長サク状のものであったが、ほとんどが南北方向の走向を持つものであった。多少軸のぶれるものがあり、重複も認められたが、Ⅲ区とは違い東西方向のものはない。サクとサクの中心までの間隔は西半では1mで比較的整然と平行し、東半では約50cmと間隔が狭く、重複する部分も多かった。2号落ち込みのような凹地にも認められた。元々はこれほど凹んでいなかったが、下層が柔らかい土層なので、上層の重みで長年の間に凹んだものと考えられる。

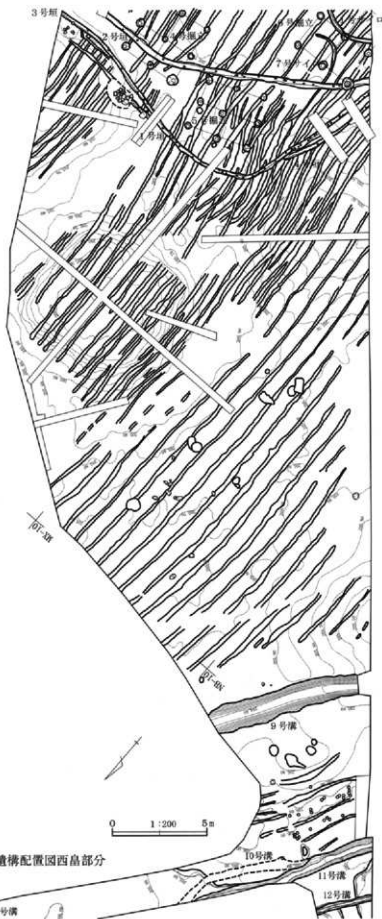
平地式建物跡は垣跡に囲まれた東半部で検出された。サイロ状遺構もほとんどのものが東半部に集中していた。2号垣跡は2号平地式建物跡に平行していたが、1号垣跡は4・5・6号掘立柱建物跡を囲むように配されていた。1号垣跡は、F P下では低い高まりとして痕跡が残っており、2号垣跡は溝状の凹みのみ確認されたものであった。7号サイロ状遺構は6号掘立柱建物跡の柱穴に切られており、また2号垣跡は6号掘立柱建物跡の柱穴に切られている。これらのことから、Ⅲ区の場合とは逆に3種の掘立柱建物跡を建てた際に拡張したことが伺える。1号平地式建物跡は5号垣跡によって3号平地式建物跡とつながっており、主軸の方向性も一致しており、同時期のものと考えられる。

Ⅳ区では周溝内に支柱穴が立つタイプの平地式建物跡は検出されなかったが、3号平地式建物跡のよ



第182図 Ⅳ区3面Hr-FA上遺構配置図

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第183図 IV区3面Hr-FA上遺構配置図西高部分

うに通常の竪穴式建物跡と同じように主柱穴が4本のもも確認された。Ⅲ・Ⅳ区合わせて平地式建物跡では3タイプのもも確認されたことになる。1つは周溝の中に ϕ 3~5cm前後の小ピットが一定間隔であくものである。この小ピットは垣跡の底面にあくものと同じものであった。もう一つはⅢ区で検出されたような周溝の4隅とその中間に主柱穴があくものであり、上屋は柱によって支えられるつくりのももであった。3つ目はⅣ区3号平地式建物跡のように内側の床面に4本の主柱穴が立つももであり、通常の竪穴式建物跡とほとんど構造は変わらないももと考えられる。一般的には周溝で囲まれたももが平地式建物跡と呼ばれ、それは柱がないももであったが、このように柱を持つももが検出されたもも注目すべき点である。

畠と集落跡の前後関係は、Ⅳ区では畠のサクを平地式建物跡が切っており、平地式建物跡の時期の集落は畠の耕作を放棄後営まれていることがわかった。Ⅲ区の場合は平地式建物跡は畠のサクで切られており、集落を放棄後畠にしていることがわかった。総

合的に考えるとⅢ区とⅣ区との集落が営まれていた時にⅣ区は畠で、Ⅳ区との集落が営まれていた時にはⅢ区は畠であり、集落と畠のセットで移動していた可能性が考えられる。

1号平地式建物跡

位置 MS-24・00, MT-24・00 主軸方向 N90°E

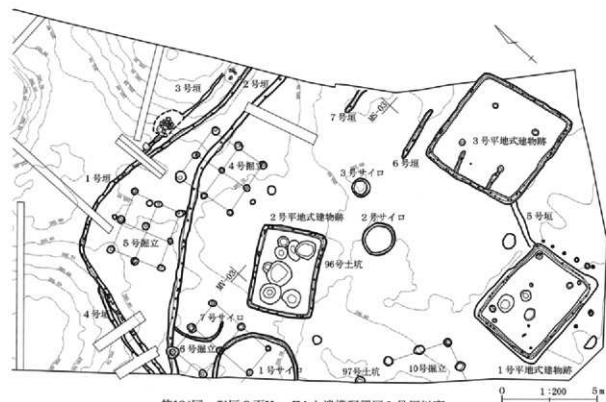
重複 南北方向の畠サク→1号平地

規模 縦5.50m×横4.30m

形状 東西に長い長方形。

床面 周溝で確認したが、当時の床面が残っていたか否か不明。周りに比べて下がっているわけではなく、特に硬化している部分もなかった。中心よりやや北西部に土坑・ピットがあくが、本遺構に伴うものか否か不明。

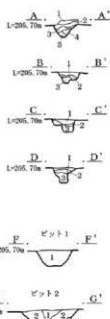
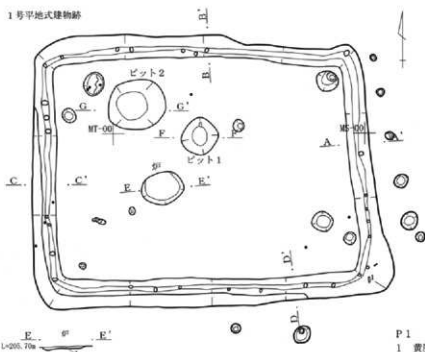
貯蔵穴 不明。北西部に長径90cm×短径76cm×深さ34cmの土坑があくが、その可能性は否定できない。周溝 幅15~25cm、深さ20~30cmで全周する。埋没土はFAブロック・粒子を含む黒褐~暗褐色土。底面には ϕ 3~5cm前後の小ピットが一定間隔であく。



第184図 Ⅳ区3面Hr-FA上遺構配置図1号垣以東

Ⅲ 検出された遺構と遺物

1号平地式建物跡



0 1
L=205.70m

印跡

1 におい赤褐色土 暗褐色土主体、
焼土塊・炭化物住居跡確認時広
く分布、掘り込みは浅い

1号平地式建物跡周溝

1 褐色土 FA粒多量、軟質
2 褐色土 茶色味を帯びる
3 暗褐色土 FA粒含

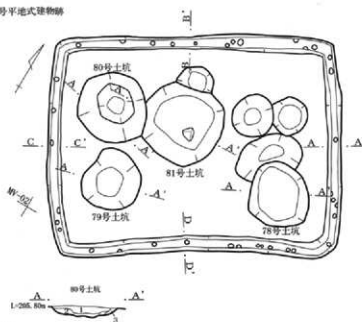
P 1

1 黄灰色土 FA塊主体、黒色土塊少量

P 2

1 暗褐色土 焼土塊・炭化物少量、FA塊微量
2 褐色土 FA塊主体、炭化物含
3 黒褐色土 FA塊少量(1~3いづれも埋土)

2号平地式建物跡

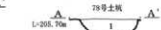


80号土坑

1 黒褐色土 FA塊・黒色土塊多量、焼土塊少量、やや粘性有、
硬質
2 黒褐色土 1より黒色土塊多い、やや粘性有、軟質
3 暗褐色土 FA塊多量、やや粘性有、軟質

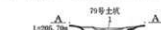
2号平地式建物跡

1 黒褐色土 黒色土塊・FA塊含、炭化物少量



78号土坑

1 黒褐色土 FA塊・黒色土塊多量、やや粘性有



79号土坑

1 黒褐色土 FA塊・黒色土塊含
2 黒褐色土 FA塊多量、粘性有



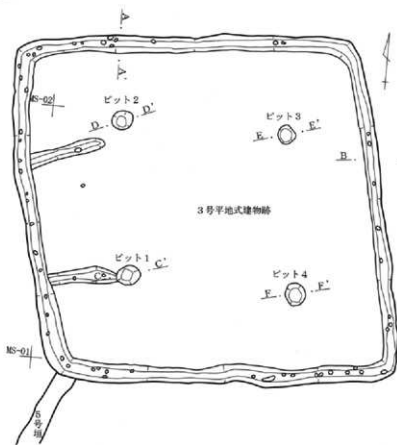
81号土坑

1 黒褐色土 FA塊・黒色土塊多量、焼土塊少量、やや粘性有、
硬質
2 黒褐色土 1よりFA塊多い、やや粘性有、硬質

0 1:60 1m

第185図 N区3面Hr-FA上1・2号平地式建物跡

1 遺構概要



0 1:60 1m



3号平地式建物跡

図溝 A-A'

- 1 黒褐色土 FA粒・炭化物含
- 2 暗褐色土 FA塊・黒色土塊少量



図溝 B-B'

- 1 暗褐色土 FA塊・黒色土塊少量
- 2 黒色土 FA塊含



P1-4

- 1 黒褐色土 FA粒含、空洞有、極軟質(柱状)
- 2 黒色土 FA塊含、やや粘性有(團方壤土)

第186図 IV区3面Hr-FA上3号平地式建物跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

柱穴 無し。南西部を除く3コーナーに ϕ 30cm程の小ピットがあくが、差程深さはなく、柱穴と考えるには掘り方がしっかりとしたものではなかった。

遺物出土状態 周溝埋没土中より土師器環や須恵器瓦破片などが出土したが、FA下の黒色土を切り込んで掘られており、必ずしも本遺構に伴うものではなかった。

遺存状態 比較的良好。周溝は深くプラン確認はⅢ区に比べ容易であった。

2号平地式建物跡

位置 MT-2, MU-2・3, MV-2 主軸方向 N59°E

重複 南北方向の島サケ→2号平地

規模 縦4.66m×横3.50m

形状 東西に長い長方形。

床面 周溝で確認したが、当時の床面が残っていたか否か不明。特に硬化している部分はなかった。FP下では南側に開く馬蹄形を呈する浅い凹み(1号落ち込み)として、認識された。内部には大小 ϕ 1m超～60cm程の土坑・ピットがあく。本遺構に伴うものか否か不明であるが、周りの状況からすると床下土坑に相当する可能性が高い。

貯蔵穴 不明。床下にある土坑・ピット類のものが貯蔵穴に相当する可能性は否定できない。

周溝 幅20～25cm、深さ20～30cmで全周する。埋没土はFAブロック・粒子を含む黒褐～暗褐色土。底面には ϕ 3～5cm前後の小ピットがあく。

柱穴 無し。

遺物出土状態 周溝埋没土より若干の土師器小破片が出土したが、FA下の黒色土を切り込んで掘られており、必ずしも本遺構に伴うものではない。

遺存状態 比較的良好。周溝は深く、プラン確認はⅢ区に比べて比較的容易であった。

3号平地式建物跡

位置 MQ-1・2, MR-0・1・2, MS-1・2 主軸方向 N84°E

重複 南北方向の島サケ→3号平地

規模 縦5.70m×横5.55m

形状 若干東西に長い正方形。北西コーナーと南東コーナーが僅か飛び出す。

床面 FP下では焼土・炭化物が分布する1号焼土遺構として認識された部分と多くが重なる。上面での焼土は本遺構の床面に散布したものの可能性が考えられる。プランは周溝で確認したが、この段階で当時の床面が残っていたか否か不明。特に硬化している部分もなかった。

貯蔵穴 無し。内部には可能性のある土坑・ピット類は一切検出できなかった。

周溝 幅20～30cm、深さ10～20cmで全周する。周溝内にはほぼ一定間隔で ϕ 3～5cm程の小ピットがあく。西壁から東側のp1, p2にかけて間仕切り溝が延びる。

柱穴 周溝より1.1～1.2m内側に4本検出。p1 ϕ 36cm×深さ21cm, p2 ϕ 35cm×深さ20cm, p3 ϕ 30cm×深さ25cm, p4 ϕ 25cm×深さ24cm

遺物出土状態 周溝内より須恵器瓦破片類等が出土したが、周溝はFA下の黒色土を掘り込んでおり、必ずしも遺構に伴うとは言えない。

遺存状態 比較的良好。1・2号平地式建物跡に比べると周溝は浅かったが、それでもⅢ区に比べると残りは良くプラン確認も比較的容易であった。

4号掘立柱建物跡

位置 MT-3・4, MU-3・4 主軸方向 N8°W

重複 2号垣と重複する位置にある。柱穴との切り合いはなかったが、2号垣に後出するものと思われる。

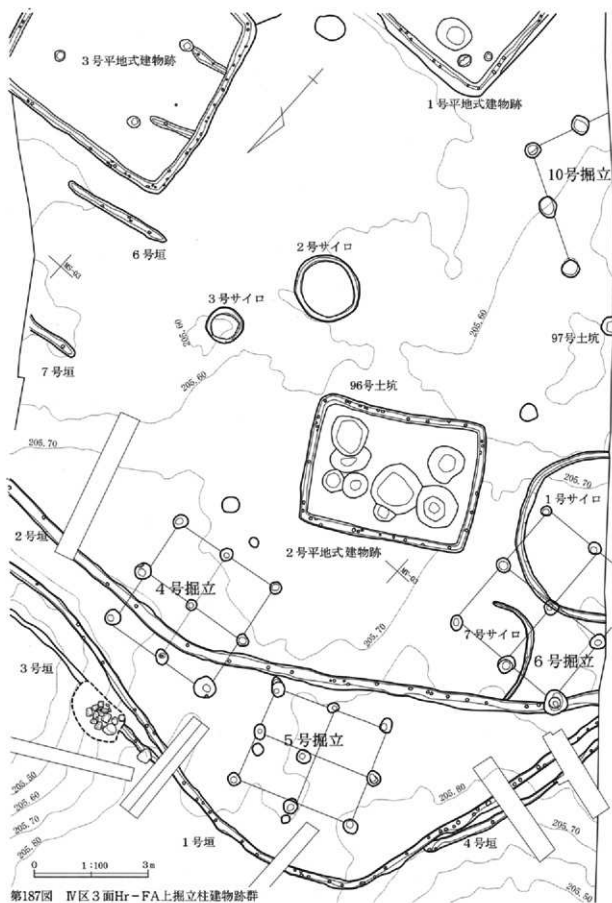
規模 2間(3.30m)×2間(3.10m)

形状 僅かに南北に長い長方形。総柱。

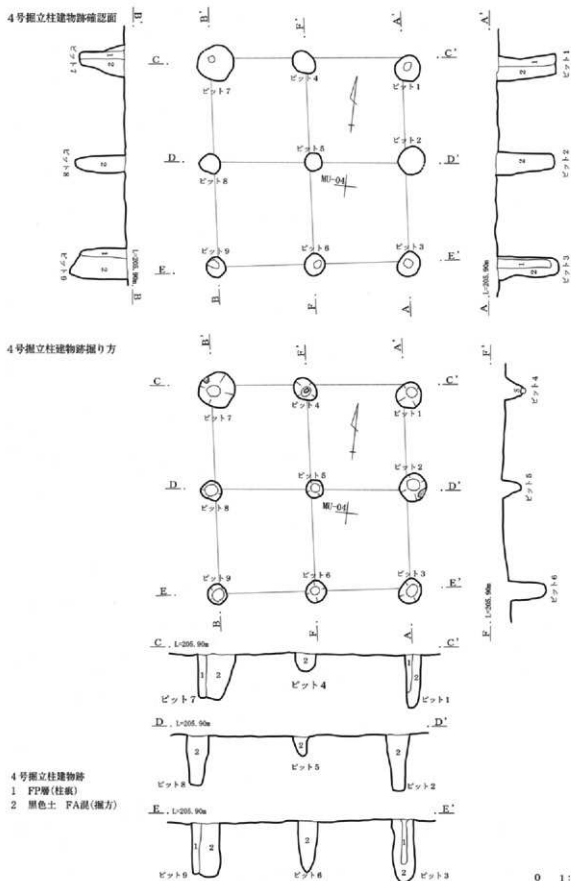
柱穴埋没土 FAブロックを含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。底面は平底もしくは丸底。

柱穴 9本検出。総柱。中間の5本は四隅に比べてやや浅い。p1長径40cm×短径40cm×深さ92cm, p2長径45cm×短径43cm×深さ90cm, p3長径40cm×短径



Ⅲ 検出された遺構と遺物

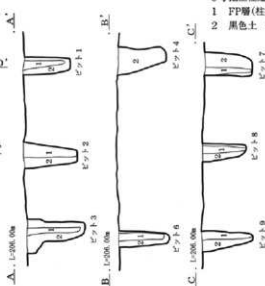
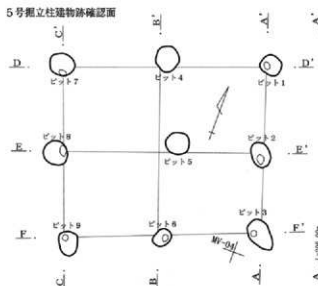


1 遺構概要

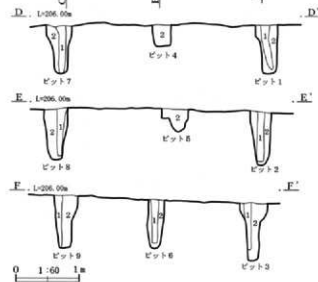
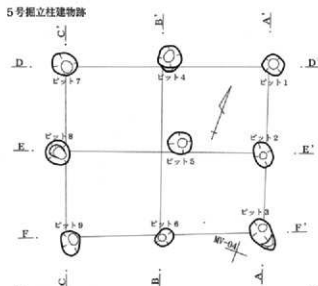
5号掘立柱建物跡

- 1 FP層(柱穴)
- 2 黒色土 FA混(掘方)

5号掘立柱建物跡確認面



5号掘立柱建物跡



32cm×深さ97cm, p4長径40cm×短径33cm×深さ25cm,
p5長径29cm×短径26cm×深さ32cm, p6長径35cm×
短径30cm×深さ60cm, p7長径57cm×短径54cm×深さ
75cm, p8長径32cm×短径31cm×深さ78cm, p9長径
31cm×短径30cm×深さ85cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 良好。全体検出。柱痕は四隅のp1・3・
7・9のみ検出。柱痕の内部にはFPが堆積してい
た。FP降下時にはまだ柱が残っており、その後柱
が腐って空洞化した部分にFPが入り込んだものと
考えられる。中間の5本には柱痕は検出できず、そ
の時既に埋まっていたことがわかる。柱痕は、必ず
しも柱穴の中心には位置していなかった。

5号掘立柱建物跡

位置 MV-4, MW-3・4 主軸方向 N68°E

重複 南北方向のサク→5号掘立

規模 2間(3.25m)×2間(2.75m)

形状 東西に長い長方形。総柱。

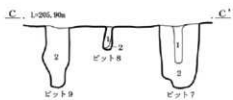
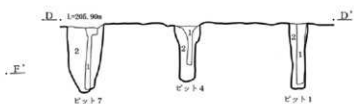
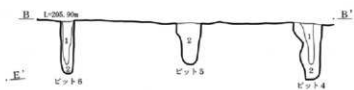
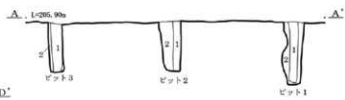
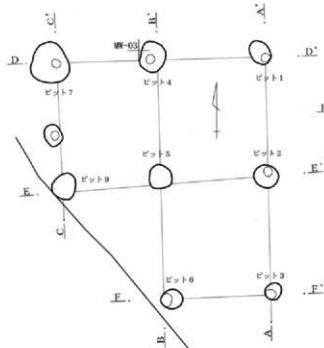
柱穴埋没土 FAブロック含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。底面は平底もし
くは丸底。

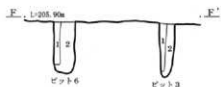
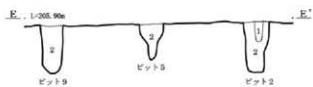
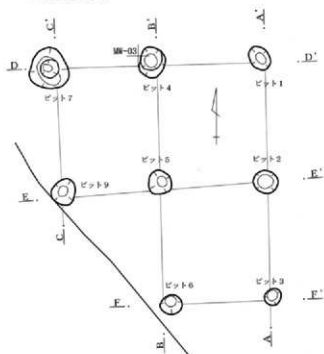
柱穴 9本検出。総柱。柱痕未検出の2本は他のも
のに比べて浅い。p1長径32cm×短径29cm×深さ77cm,
p2長径38cm×短径27cm×深さ86cm, p3長径52cm×

Ⅲ 検出された遺構と遺物

6号掘立柱建物跡確認図



6号掘立柱建物跡



- 6号掘立柱建物跡
 1 FP層(柱状)
 2 黒色土 FA層(掘方)

0 1:60 1m

第190図 N区3面Hr-FA上6号掘立柱建物跡

短径35cm×深さ92cm, p4 長径38cm×短径35cm×深さ33cm, p5 長径38cm×短径35cm×深さ35cm, p6 長径30cm×短径23cm×深さ80cm, p7 長径42cm×短径37cm×深さ78cm, p8 長径40cm×短径38cm×深さ84cm, p9 長径40cm×短径30cm×深さ83cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 良好。全体検出。柱痕は中間のp4・5を除き検出。柱痕の内部にはF Pが堆積していた。F P降下時には、まだ柱が残っており、その後柱が腐って空洞化した部分にF Pが入り込んだものと考えられる。中間のp4・5には柱痕は検出できず、その時に埋まっていたことがわかる。柱痕は必ずしも柱穴の中心に位置しているものばかりではなかった。

6号掘立柱建物跡

位置 MV-2, MW-2 主軸方向 N2°W

重複 南北方向のサク→1号サイロ状遺構・2号垣→6号掘立

規模 2間(3.80m)×2間(3.35m)

形状 南北に長い長方形。

柱穴埋没土 FAブロックを含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。底面は平底もしくは丸底。

柱穴 8本検出。総柱。中央の5本はやや浅いものもあった。p1 長径40cm×短径30cm×深さ90cm, p2 長径40cm×短径36cm×深さ81cm, p3 長径28cm×短径25cm×深さ84cm, p4 長径49cm×短径40cm×深さ95cm, p5 長径40cm×短径39cm×深さ68cm, p6 長径34cm×短径31cm×深さ85cm, p7 長径64cm×短径60cm×深さ110cm, p8 長径33cm×短径26cm×深さ37cm, p9 長径42cm×短径37cm×深さ75cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 南西コーナー未検出。比較的良好。柱痕はp5・9以外で検出。柱痕内部にはF Pが堆積していた。F P降下時にはまだ柱が残っており、その後柱が腐って空洞化した部分にF Pが入り込んだものと考えられる。中間p5・9には柱痕はなく、その時に埋まっていたことがわかる。柱痕は必ずし

も柱穴の中心には位置していなかった。

10号掘立柱建物跡

位置 MT-0, MU-0 主軸方向 N28°E

重複 南北方向のサク→10号掘立

規模 2間(3.30m)×2間(2.20m)以上

形状 南北に長い長方形。

柱穴埋没土 FAブロックを多量に含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。底面は平底もしくは丸底。

柱穴 4本検出。中間のp2とp4はやや浅く柱痕も浅い。p1 長径45cm×短径45cm×深さ65cm, p2 長径56cm×短径45cm×深さ59cm, p3 長径40cm×短径38cm×深さ62cm, p4 長径50cm×短径45cm×深さ32cm

遺物出土状態 無し。

遺存状態 北列と東列の一部検出。柱痕の内部にはFAブロックを含む軟質土が堆積していた。4～6号掘立柱建物跡のようにF Pは堆積しておらず、その時に埋没していたことがわかる。柱痕は必ずしも柱穴の中心には位置していなかった。

1号サイロ状遺構

位置 MV-1・2, MW-2 主軸方向 N2°W

重複 南北方向のサク→1号サイロ状遺構→6号掘立

規模 長径455cm×短径(240)cm

形状 ほぼ円形。大形。

床面 周溝でプラン確認。当時の床面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅16～25cm, 深さ13～18cmで巡る。埋没土はFAブロック・粒子を含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

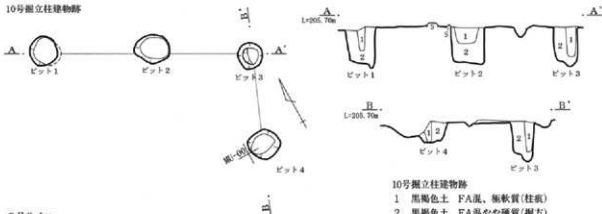
遺存状態 比較的良好。南北方向の畝の耕作痕を切って作られており、周溝もⅢ区よりも深く、プラン確認は比較的容易であった。

2号サイロ状遺構

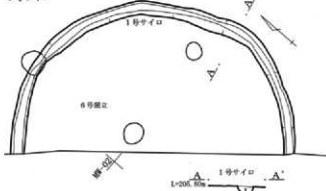
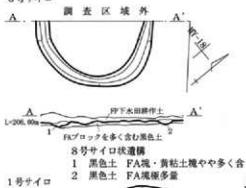
位置 MT-1・2 主軸方向 N62°W

Ⅲ 検出された遺構と遺物

10号掘立柱建物跡



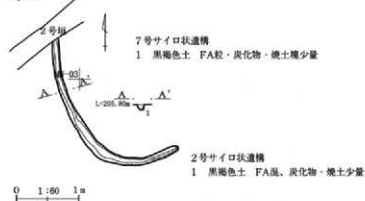
8号サイロ



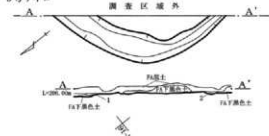
1号サイロ状遺構

- 1 黒褐色土 FA混、炭化物・焼土少量

7号サイロ



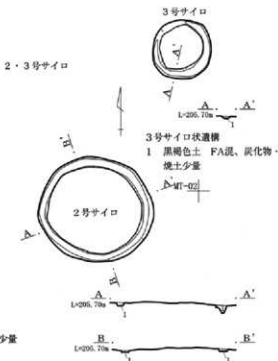
9号サイロ



9号サイロ状遺構

- 1 黒色土 FA塊・黄粘土塊やや多く含
 2 黒色土 FA粒少量、やや硬質

2・3号サイロ



第191図 IV区3面Hr-FA上10号掘立柱建物跡、1・2・3・7・8・9号サイロ状遺構

重複 南北方向のサク→2号サイロ状遺構

規模 長径180cm×短径168cm

形状 ほほ円形。中形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅15~18cm、深さ3~6cmで巡る。埋没土はF Aブロック・粒子を含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好。南北方向の畝の耕作痕を切って作られており、周溝もⅢ区よりはやや深くプラン確認は比較的容易であった。

3号サイロ状遺構

位置 MS-2, MT-2 主軸方向 N35°W

重複 南北方向のサク→3号サイロ状遺構

規模 長径96cm×短径95cm

形状 円形。小形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅10~18cm、深さ1~10cmで巡るが、北西側が浅い。埋没土はF Aブロック・粒子を含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好。南北方向の畝の耕作痕を切って作られており、Ⅲ区よりもプラン確認は比較的容易であった。

7号サイロ状遺構

位置 MV-2, MW-2・3 主軸方向 N15°W

重複 南北方向のサク→7号サイロ→2号垣

規模 長径(240)cm×短径(125)cm

形状 楕円形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅10~16cm、深さ1~3cmで半周する。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。北側は2号垣で切られ、東側は浅く既に削平されていたため、確認できなかった。

8号サイロ状遺構

位置 MX-17 主軸方向 N39°E

重複 無し。

規模 長径(168)cm×短径(101)cm

形状 ほほ円形。中形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅12~28cm、深さ2~5cmで巡る。埋没土はF Aブロック・粒子含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。東半検出。浅く確認は比較的困難であった。

9号サイロ状遺構

位置 MY-15 主軸方向 N47°W

重複 無し。

規模 長径(262)cm×短径(72)cm

形状 円形？

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面不明。特に硬化面無し。

周溝 幅10~40cm、深さ約2cmで巡る。埋没土はF A粒子含む黒褐色土。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。西辺の一部検出。浅く確認も困難であった。

III 検出された遺構と遺物

第4面FA下

畠・垣跡・道路状遺構・サイロ状遺構・土坑・掘立柱建物跡・遺物集中・落ち込み

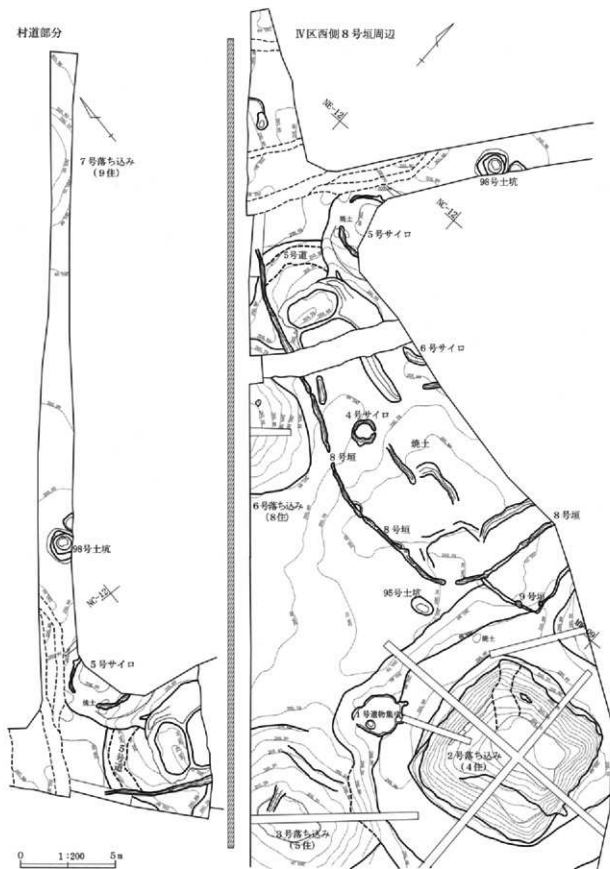
4面FA下では、畠・垣跡・道路状遺構・サイロ状遺構・土坑・掘立柱建物跡・遺物集中・落ち込み等が検出された。畠は8号垣跡の北で9溝の西列で検出された。長サク状ではなく、短サク状のもの2基であった。一単位が小さいものと思われ、長く連続しない。

垣跡は調査区東側の掘立柱建物跡群を囲む10号垣と、西側で畠とサイロ状遺構を囲む8号垣跡とがあった。7・8・9号掘立柱建物跡は柱痕にFAの純層が厚く堆積するものであり、いずれも榛名山と反対の東側に傾いていた。10号垣跡の西側には6号道路状遺構が連続していた。その西側には上面でも確認できた落ち込みが4ヶ所ある。サイロ状遺構は8号垣跡の内側でのみ検出された。8号垣跡の南側には6号落ち込み(8号住居)があった。8号垣跡は南東部と南辺の中央付近で途切れる部分があり、入口の可能性もある。しかし、特に硬化している面は検出できなかった。また、どこかで北側に曲がるものと考えられるが、西辺は検出できなかった。

IV区北村道部分に7号落ち込み(9号住居)があった。98号土坑は村道部分の南側で検出されたが、8号垣跡の内側に位置するものと考えられる。85号土坑は9号掘立柱建物跡の北東側の調査区壁手前で検出されたが、10号垣跡の内側に位置するものと考えられる。2号落ち込みの西側では1号遺物集中が検出されたが、FA下黒に連続するものであり、改めて解説する。2号遺物集中は10号垣跡の東、9号掘立柱建物跡の西側で検出されたが、多量の土器と滑

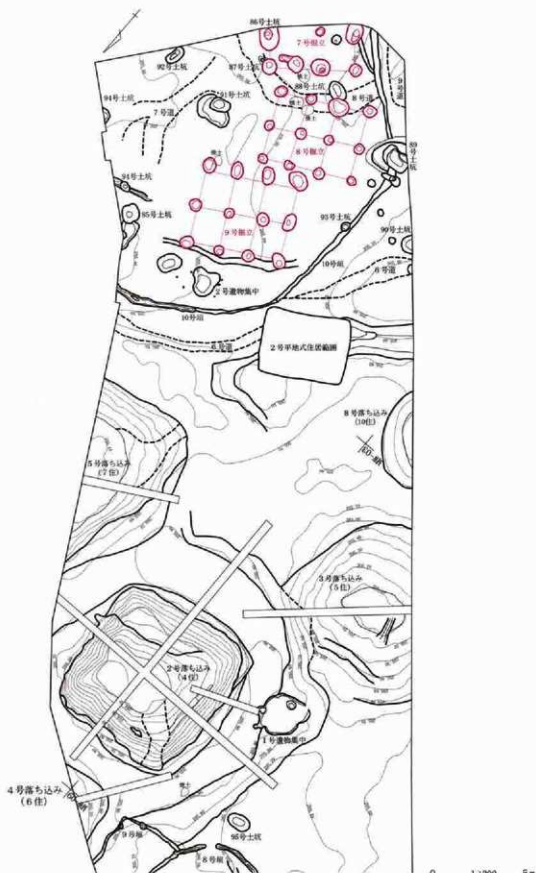


第192図 IV区4面Hr-FA下遺構配置図



第193図 IV区4面Hr-FAT遺構配置図西8号垣周辺

III 検出された遺構と遺物



第194図 IV区4面Hr-FA下遺構配置図東部分

石製の白玉を出土しており、祭祀跡と考えられるものであった。F A直下においては、平地式建物跡や竪穴式住居跡は1棟も検出されなかった。

垣跡に囲まれた掘立柱建物跡などはⅢ区の様相と良く似ていたが、Ⅳ区では柱痕が傾いており、その中にF Aが厚く堆積していた。Ⅲ区の12号掘立柱建物跡は柱穴の掘り方の中全てにF Aが堆積していたが、Ⅳ区の場合は柱痕のみであった。しかも掘立柱建物跡内部には最初に降った泥雨の痕跡が認められなかった。ということは上屋があり、噴火の際の暴風で屋根ごと吹き飛ばされたのではないかと考えられる。同じ直下の掘立柱建物跡でもⅢ区の上屋がなく、外に剥き出しになっていたことと大きな違いである。

土坑はF A直下でまとまった遺物を出土したものに85号土坑と98号土坑がある。いずれも土器下に泥雨の細粒火山灰が、上に火砕流が堆積していた。坑を掘った時に雨が降り、土器を置いた後に火砕流に潰されたことが推定できる。

4号サイロ口状遺構

位置 NA-8・9, NB-8・9 主軸方向 N46°E

重複 無し。

規模 長径130cm×短径124cm

形状 北東部に開く馬蹄形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面に近い状態で検出したはずであるが、特に硬化している面はなかった。

周溝 幅18~30cm、深さ2~7cmで、北東の一カ所を除きほぼ全周する。埋没土はF A純層、下層に泥雨の細粒火山灰有り。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 比較的良好。周溝が切れる部分は囲いが切れるわけであり、入口の可能性も考えられる。

5号サイロ口状遺構

位置 NC-10・11, ND-10・11 主軸方向 N77°E

重複 無し。

規模 長径(154)cm×短径342cm

形状 西側に開く馬蹄形。

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面に近い状態で検出したはずであるが、特に硬化している面はなかった。外側には泥雨の細粒火山灰が厚さ3cm程あったが、内側にはまったくなかったため、上屋があった可能性が考えられる。

周溝 幅10~28cm、深さ4~9cmで、西側を除き全周するものと類推される。埋没土はほぼF Aの純層であるが、場所によっては若干の黒褐色土含む。F A下で検出したが、F A上の可能性もある。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 東側1/2未検出。西側で周溝が切れるが、その部分で椀土が確認された。人為的に散布したものの可能性があり、入口になるものと推量される。5号サイロ口状遺構の西~南側に付けて底面の硬化した5号道路状遺構があった。

6号サイロ口状遺構

位置 NB-10 主軸方向 N52°E

重複 6号サイロ→9号溝

規模 不明。

形状 西側に開く馬蹄形？

床面 周溝でプラン確認、当時の使用面に近い状態で検出したはずであるが、特に硬化している面はなかった。

周溝 幅44cm、深さ9cmで巡るものと推定される。埋没土は、上層はほぼF Aの純層で若干の黒褐色土含むが、下層は泥雨の細粒火山灰の堆積。

遺物出土状態 無し。

遺存状態 不良。9号溝の東側で検出したが、西側~北側が未確認で、全体の形状も厳密には不明である。

85号土坑

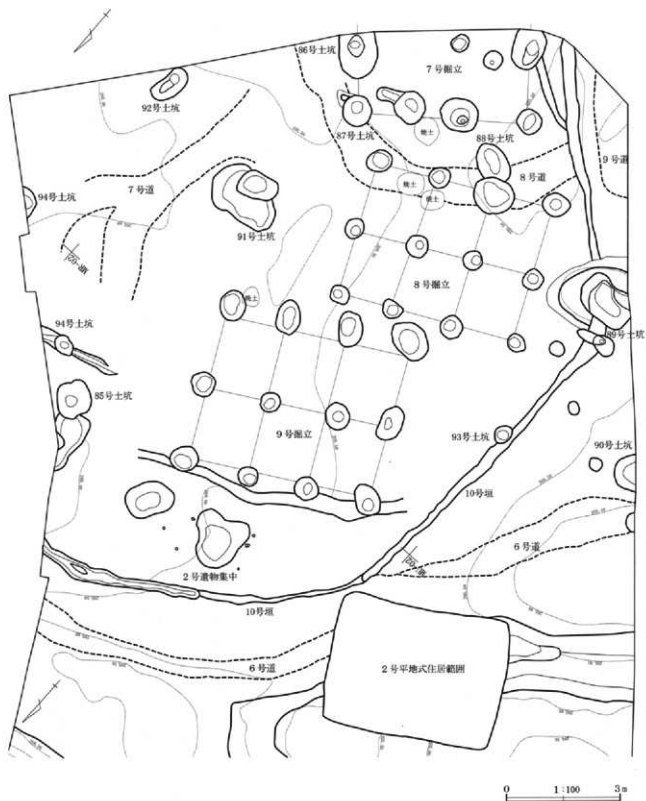
位置 MR-2 主軸方向 N57°W

重複 無し。

規模 長径94cm×短径90cm

形状 隅丸方形。

Ⅲ 検出された遺構と遺物



第195図 IV区4面Hr-FA下掘立建物跡群

1 遺構概要

4号サイロ状遺構

- 4号サイロ状遺構
 1 FA純層 桃褐色細粒火山灰
 2 FA純層 黄褐色砂質火山灰



6号サイロ状遺構

- 6号サイロ状遺構
 1 FA主体 黒褐色土粒含
 2 FA純層 桃褐色細粒火山灰



5号サイロ状遺構



- 5号サイロ状遺構
 1 黒褐色土 FA粒多量
 2 黒色土 やや多く含
 3 黒色土 FA塊・灰化物少量

0 1:60 1m

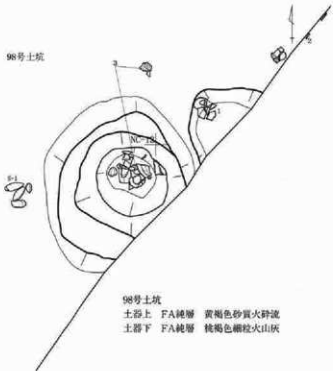
85号土坑

MS-03



- 85号土坑
 土器上 FA純層 黄褐色砂質火山灰
 土器下 FA純層 桃褐色細粒火山灰

98号土坑

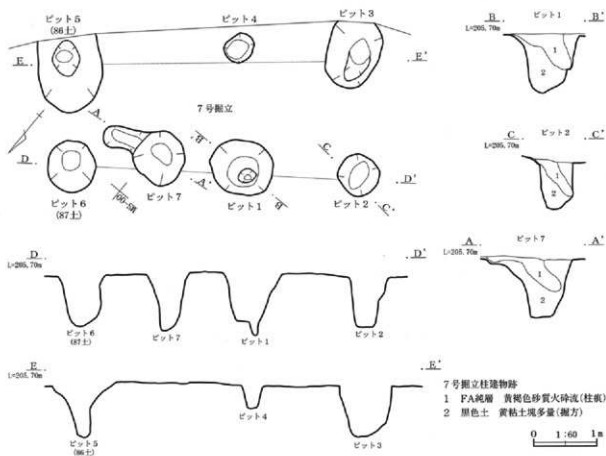


- 98号土坑
 土器上 FA純層 黄褐色砂質火山灰
 土器下 FA純層 桃褐色細粒火山灰

0 1:40 1m

第196図 IV区4面Hr-FA4~6号サイロ状遺構、85・98号土坑

III 検出された遺構と遺物



第197図 IV区4面Hr-FA下7号掘立柱建物跡

埋没土 FAの純層。土器の下層は桃褐色細粒火山灰、上層は黄褐色火砕流堆積。

掘り方 浅い鍋底状。底面は円形、丸底。

遺物出土状態 甕の大形破片は下位に、その上に多くの破片が乗っていた。逆位の底部破片は最上部から出土した。破片の中には坏もあり、他に小礫も出土した。

遺存状態 良好。土器の下に泥雨の細粒火山灰が堆積、上には厚く火砕流が堆積していた。坑を掘った時に雨が降り、雨が上がったので土器を置いたが、火砕流の被害にあったことが考えられる。

98号土坑

位置 NB-12・13, NC-12・13 主軸方向 N25°E

重複 無し。

規模 長径183cm×短径(140)cm

形状 楕円形。中段は隅丸方形。

埋没土 FAの純層。土器の下層は桃褐色細粒火山灰、上層は黄褐色火砕流堆積。

掘り方 浅い鍋底状。底面は円形、丸底。

遺物出土状態 甕の大形破片は下位に、その上に多くの破片が乗っていた。逆位の底部破片は最上部から出土した。破片の中に坏はなかったが、他に小礫も出土した。

遺存状態 良好。土器の下に泥雨の細粒火山灰が堆積、上には厚く火砕流が堆積していた。坑を掘った時に雨が降り、雨が上がったので土器を置いたが、火砕流の被害にあったことが考えられる。

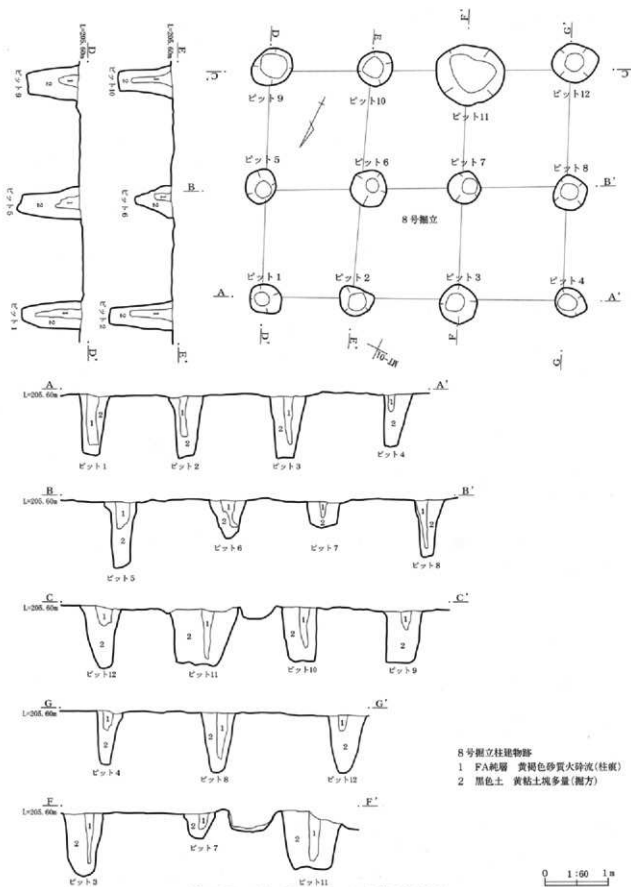
7号掘立柱建物跡

位置 MR-24, MS-24 主軸方向 N50°E

重複 無し。

規模 3間(4.65m)×2間(2.00m)以上

形状 東西に長い長方形。



第198図 IV区4面Hr-FA下8号掘立柱建物跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

柱穴埋没土 柱痕内部はF火砕流純層、掘り方埋没土は黄褐色粘性土ブロック含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。底面は平底もしくは丸底。

柱穴 7本検出。中間のp4は小さく浅い。柱痕もなし。p1長径100cm×短径92cm×深さ94cm, p2長径63cm×短径65cm×深さ78cm, p3長径(110)cm×短径84cm×深さ81cm, p4長径48cm×短径42cm×深さ34cm, p5長径(120)cm×短径103cm×深さ98cm, p6長径82cm×短径75cm×深さ83cm, p7長径79cm×短径78cm×深さ92cm

遺物出土状態 柱穴掘り方調査中に若干の土器小破片は出土したが、必ずしも本遺構に伴うものとは言えない。

遺存状態 西半検出。東半は現道の下で確認できなかった。柱痕はいずれも標名山と反対の東側に大きく傾いており、火砕流の暴風で傾斜した状況が伺える好資料と言えよう。p5の柱は完全に倒れた可能性も考えられる。エリア内には最初に降下したと言われる泥雨の細粒火山灰が無かったことから上層があった可能性が高いと思われる。

8号掘立柱建物跡

位置 MS-24・0・1, MT-24・0 主軸方向 N63°E

重複 無し。

規模 3間(4.90m)×2間(3.70m)

形状 東西に長い長方形。

柱穴埋没土 柱痕内部はF火砕流純層、掘り方埋没土は黄褐色粘性土ブロック含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。

柱穴 12本検出。総柱。中心のp6・7は浅い。p1長径49cm×短径47cm×深さ96cm, p2長径55cm×短径45cm×深さ100cm, p3長径60cm×短径56cm×深さ100cm, p4長径49cm×短径45cm×深さ82cm, p5長径55cm×短径50cm×深さ105cm, p6長径60cm×短径58cm×深さ60cm, p7長径52cm×短径50cm×深さ42cm, p8長径54cm×短径51cm×深さ91cm, p9長径70

cm×短径56cm×深さ82cm, p10長径58cm×短径54cm×深さ85cm, p11長径105cm×短径100cm×深さ93cm, p12長径76cm×短径62cm×深さ90cm

遺物出土状態 柱穴掘り方調査中に若干の土器小破片は出土したが、必ずしも本遺構に伴うものとは言えない。

遺存状態 良好。全体検出。柱痕はいずれも標名山と反対の東側にやや傾いており、7号掘立柱建物跡ほどではないが、火砕流の暴風で建物が傾斜した状況が伺える。エリア内には最初に降下したと言われる泥雨の細粒火山灰が無かったことから上層があった可能性が高いと思われる。

9号掘立柱建物跡

位置 MS-1・2, MT-1・2 主軸方向 N31°W
重複 無し。

規模 3間(5.10m)×2間(4.50m)

形状 東西に長い長方形。

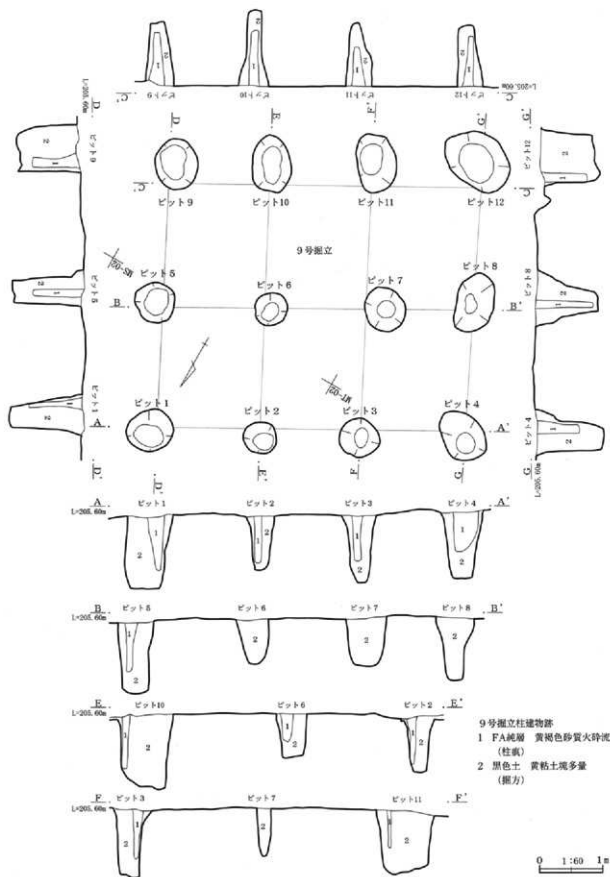
柱穴埋没土 柱痕内部はF火砕流純層、掘り方は黄褐色粘性土ブロック含む黒褐色土。

柱穴掘り方 円形もしくは楕円形。

柱穴 12本検出。総柱。中心のp6・p7は浅い。p1長径74cm×短径65cm×深さ116cm, p2長径55cm×短径50cm×深さ86cm, p3長径65cm×短径60cm×深さ110cm, p4長径97cm×短径65cm×深さ106cm, p5長径66cm×短径62cm×深さ114cm, p6長径55cm×短径53cm×深さ55cm, p7長径72cm×短径65cm×深さ82cm, p8長径95cm×短径67cm×深さ100cm, p9長径130cm×短径70cm×深さ98cm, p10長径91cm×短径62cm×深さ122cm, p11長径94cm×短径64cm×深さ102cm, p12長径116cm×短径84cm×深さ107cm

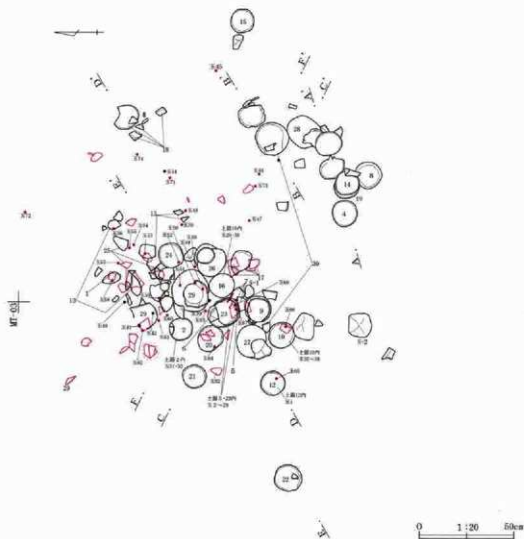
遺物出土状態 柱穴掘り方調査中に若干の土器小破片は出土したが、必ずしも本遺構に伴うものとは言えない。

遺存状態 良好。全体検出。柱痕はいずれも標名山と反対の東側にやや傾いており、7号掘立柱建物跡ほどではないが、火砕流の暴風で建物が傾斜した状況が伺える。エリア内には最初に降下したと言われる



第199図 IV区4面Hr-FA下9号掘立柱建物跡

III 検出された遺構と遺物



第200図 IV区4面Hr-FA下2号遺物集中

る泥雨の細粒火山灰が無かったことから上屋があった可能性が高いと思われる。

2号遺物集中

位置 MS-2・3, MT-2・3 主軸方向 N31°E
重複 無し。

規模 長径230cm×短径150cm

形状 東列と西列に分かれ、間に空白部分有り。

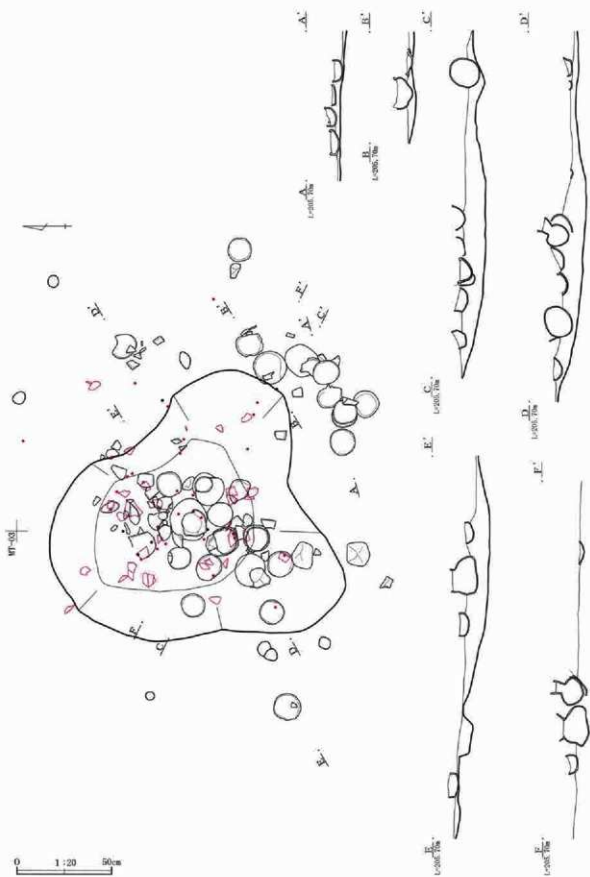
埋没土 環の内にはほぼ底面までFAの純層により埋没していたが、甕等の大型品は地中に1/3程度埋まっていたものもあった。

掘り方 不整形の楕円形。底面は浅い皿状。

遺物出土状態 東列と西列に分かれて検出されたが、

東列からは須恵器環及び土師器環・甕が、西列からは須恵器及び土師器環・甕・やや大形亜角礫が出土した。下面ではほぼ全体から散布したように多量の滑石製白玉と大形の剣形が出土した。

遺存状態 良好。何点かはまとも部分から離れたところから検出されたが、暴風か何かの影響で現位置から動いたものと思われる。内部にも泥雨の痕跡は認められたので、上屋はなかったか、あったとしても雨が洩れる程度の簡易なものであった可能性が高い。



第201図 IV区4面Hr-FAT2号遺物集中

III 検出された遺構と遺物

第5面FA下黒

住居跡・掘立柱建物跡・土坑群

IV区5面FA下黒では弥生～古墳時代の住居跡・掘立柱建物跡・土坑及び縄文時代の土坑等が検出された。住居跡と掘立柱建物跡は地山の方が少ないくらいにすき間なく確認された。

住居跡は坪を持つものとカマドを持つものがあつた。カマドは東向きのもが多いが、北・南・西向きのもあつた。29号住居のように一辺11mを超えるようなものもあつた。また、F P下から既に落ち込みとして認識されたものも多く存在し、周堤帯が残存しているものもあり、凹地にはFAが厚く堆積していた。ほとんどのものが火災住居であり、黄褐色粘性土ブロックの入り方などから焼けた後にそのまま埋戻していることもわかつた。その後畠や水田、平地式建物跡など土地利用が目まぐるしく変化する状況も伺えた。

土坑は住居群の間ですき間なく検出されたが、木の根など自然のものも含まれるものと思われる。一部のみ個別に取り上げた。

4号住居跡

位置 MU-6・7, MV-6・7・8, MW-6・7

主軸方向 N87°E

重複 5・7・22・29号住居→4号住居

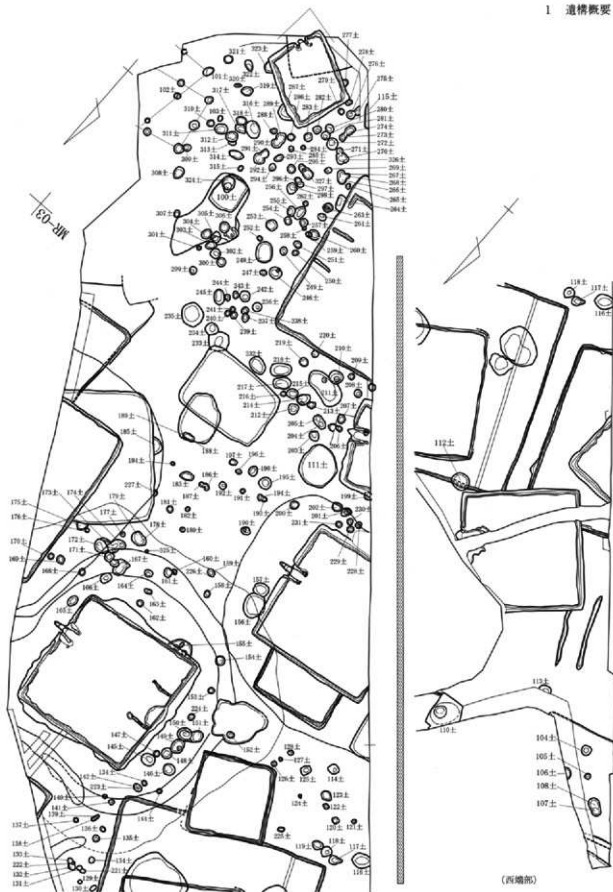
規模 縦7.10m×横7.10m×深さ0.90m

形状 方形。

埋没土 底上10～15cmまでFAの純層により埋没、床上及び周辺部には暗褐色・褐色粘性土ブロックを含む黒色土堆積。



第202図 IV区5面Hr-FA下黒色土遺構配置図



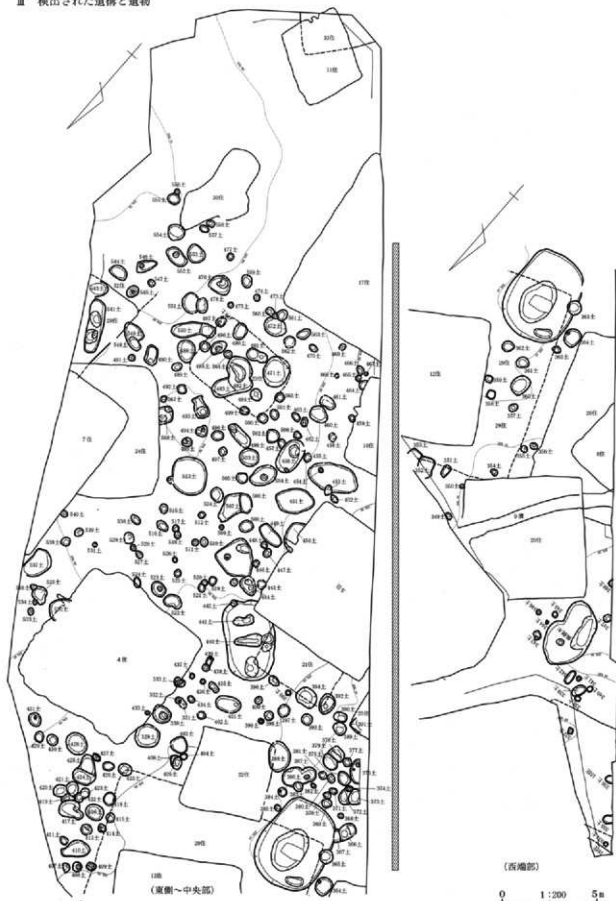
(東側~中央部)

第203図 IV区5面Hr-FA下黒色土遺構配置図(土坑)

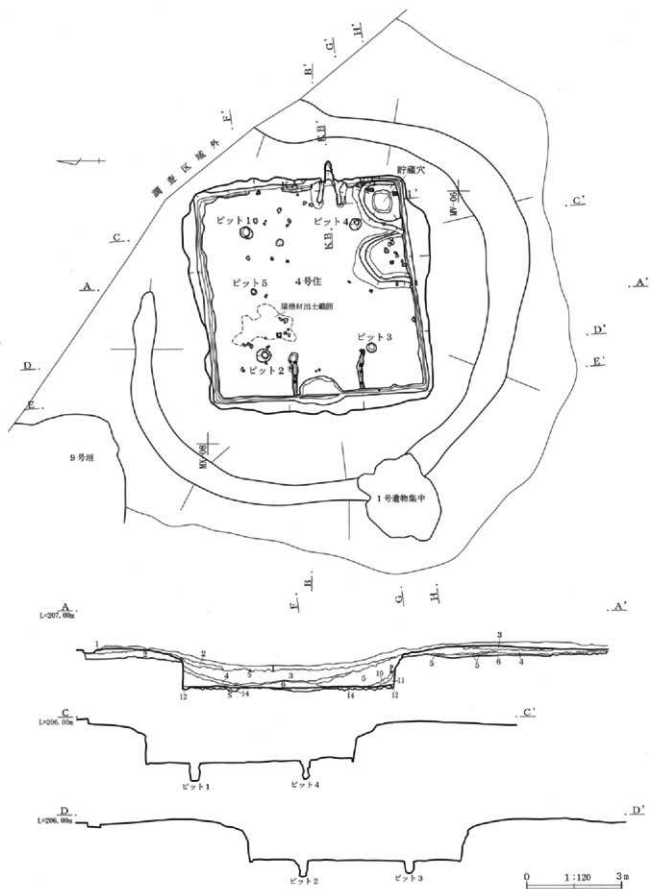
(西端部)

0 1:200 5m

Ⅲ 検出された遺構と遺物

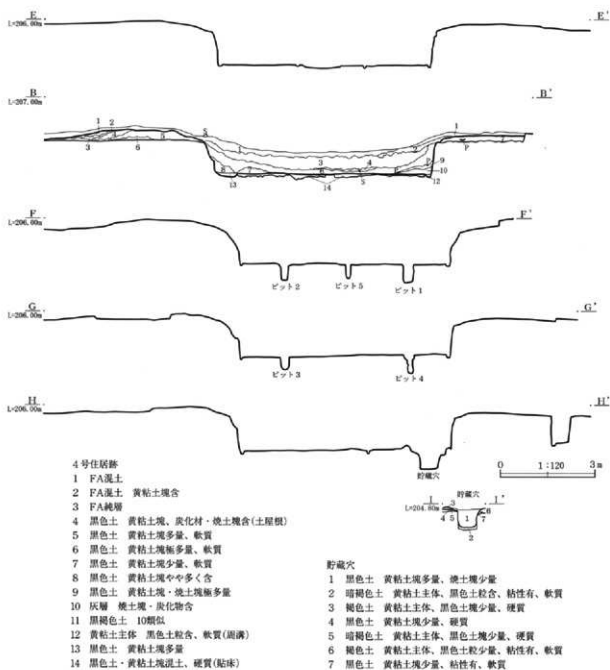


第204図 IV区5面Hr-FA下黒色土遺構配置図(土坑2)



第205図 IV区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡周堤

III 検出された遺構と遺物



第206図 IV区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡セクション・エレベーション

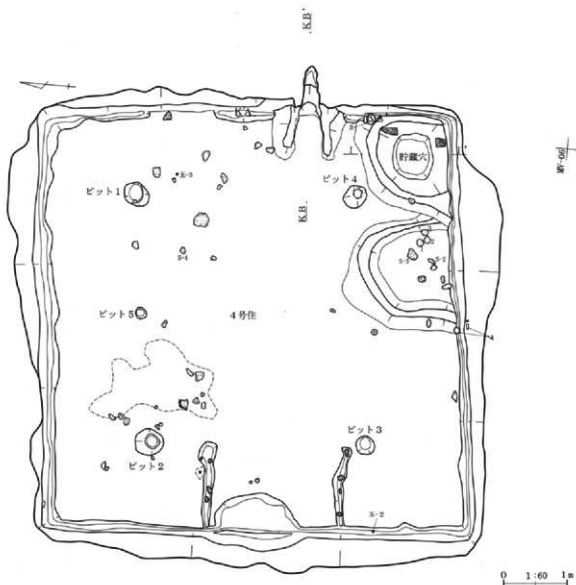
掘り方 床面より、四隅及び中央部は5～25cm程下がる。黒色土と黄褐色粘性土ブロックの混合土により埋められていた。

床面 周辺部を除きほぼ全面硬くしまっていた。p2とp5の間では屋根材と考えられる炭化物を含む土が検出された。確も何点か確認されたので、屋根にのっていた可能性もある。

貯蔵穴 南東コーナー。長径116cm×短径112cm×深さ62cm。底面隅丸長方形。比較的明瞭な周堤帯が巡る。内部から土器は出土しなかったが、上から炭化材が検出された。

周溝 幅5～20cm、深さ10cm前後でカマド部分を除き、ほぼ全周する。西側のp2とp3の間には仕切り溝2本有り。

柱穴 5本検出。柱衷は10～15cmでp2・5は空洞、それ以外も非常にしまりの悪い黄褐色粘性土ブロックを多量に含む暗褐色土で埋まっていた。掘り方は黄褐色粘性土ブロック含む黒褐色土により埋められていた。p1長径44cm×短径36cm×深さ50cm。p2長径46cm×短径43cm×深さ42cm。p3長径32cm×短径32cm×深さ40cm。p4長径37cm×短径33cm×深さ50cm。p5長径68cm×短径53cm×深さ42cm



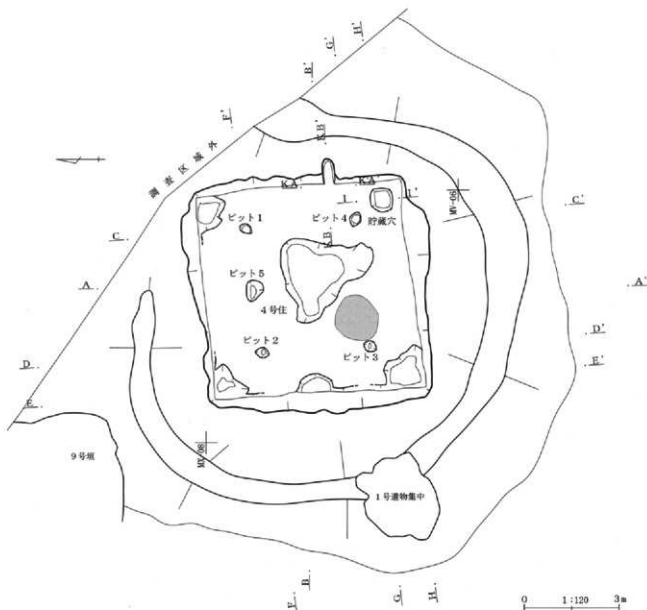
第207図 IV区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡

Ⅲ 検出された遺構と遺物

遺物出土状態 ほぼ全体から炭化物及び礫・土器等が出土した。p1の周辺では直角礫が多く、南側貯蔵穴西からは磨石と土師器坏・棒状礫などが床面からまとまって出土した。大形礫の下の床上からは植物繊維状の灰が出土した。北側の仕切り溝脇からはベンガラが検出された。

遺存状態 比較的良好。FP下で2号落ち込みとして確認された。南壁貯蔵穴西側には周堤帯で囲まれた120cm×110cmの範囲があり、その南側上場はなだらかになっていた。西側にも130cm×56cmで凹みを有す

る部分があり、その西側の上場もなだらかになっていた。そのいずれかが入口になるものと考えられる。壁には上下方向に幅10～20cm程の鋤状工具による削り痕が明確に残っていた。土屋根に相当する土の上には泥雨の桃褐色細粒火山灰も整層位に堆積していた。カマドの状況などからもFAで潰されたというよりも少なくともその直前には放棄されて崩れ、凹地となっていたものと推量される。若干ではあるが、炭化材や灰も出土しているので放棄された原因としては火災の可能性が考えられる。また、Ⅳ区の中で



第208図 Ⅳ区5面Hr-FA下黒色土4号住居跡掘り方周堤